

刈谷市高齢者等実態調査報告書

【前編】

令和5年3月

刈 谷 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	3
(1)	調査方法	3
(2)	回収結果	4
(3)	主な調査内容	5
3	調査結果報告書の見方	7
II	総括	9
III	一般高齢者調査結果	27
1	あなたのご家族や生活状況について	28
2	体を動かすことについて	37
3	食えることについて	45
4	毎日の生活について	50
5	地域での活動について	56
6	助け合いについて	74
7	健康について	78
8	介護保険について	90
9	認知症の支援について	93
10	災害時の対策について	97
11	高齢期の課題について	101
12	希望する医療等について	106
13	その他近年の生活状況について	107
14	調査結果からみる調査対象者の評価	113
(1)	運動器	113
(2)	転倒	115
(3)	閉じこもりリスク	117
(4)	栄養	119
(5)	口腔	121
(6)	認知機能	123
(7)	うつ傾向	125
(8)	I A D L（手段的日常生活動作）	127
(9)	知的能動性	129
(10)	社会的役割	131

IV 第2号被保険者調査結果	135
1 あなたのご家族や生活状況について	136
2 介護についての考え方について	139
3 社会参加について	145
4 介護保険について	151
5 認知症の支援について	155
6 高齢期の課題について	159
7 希望する医療等について	163
8 その他近年の生活状況について	164

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画」の見直しを行うにあたり、策定の基礎資料とするために実施したものです。

それぞれの調査の目的は以下のとおりです。

調査種別	目的
一般高齢者	市内にお住まいの、介護認定を受けていない 65 歳以上の方及び要支援認定を受けている方及び事業対象者 ¹ の一部を対象に、介護予防をはじめとした健康に関するニーズや生きがいづくりに関する実態等を把握することを目的としています。
第2号被保険者	市内にお住まいの、55～64 歳の第 2 号被保険者を対象に、介護についての考え方や社会参加に対する意向を把握するとともに、健康に関するニーズや生きがいづくりに関する実態等を把握することを目的としています。
居宅要支援・要介護認定者	市内にお住まいの、介護認定を受けられた方を対象に、介護保険サービスの利用状況、満足度、利用希望等を把握するとともに、ケアプランや介護保険制度に対する意向等を把握し、介護保険サービスの充実と、公平・公正な介護保険制度の運営に向けた基礎資料づくりを目的としています。
事業所	介護サービス事業所等を対象に、事業所の人材確保に関する状況や意見、介護職員の勤務実態等を把握し、問題点を洗い出すことを目的としています。
訪問介護員	訪問介護員を対象に、資格や研修の取得・修了状況や勤務実態等を把握し、問題点を洗い出すことを目的としています。
介護支援専門員	介護支援専門員を対象に、医療関係者との連携や介護サービスの供給状況や意見を把握し、問題点を洗い出すことを目的としています。

¹ 事業対象者

基本チェックリストにより、生活機能の低下がみられた人。

2 調査の実施概要

(1) 調査方法

調査種別		内容
一般高齢者	調査対象	要支援・要介護認定を受けていない 65 歳以上の人・要支援認定を受けている人及び事業対象者から無作為抽出
	配布・回収方法	郵送配布、郵送回収またはWEB 回答
	調査基準日	令和 4 年 12 月 1 日
	調査期間	令和 4 年 12 月 7 日～令和 5 年 1 月 10 日
第 2 号被保険者	調査対象	要支援・要介護認定を受けていない 55～64 歳の人から無作為抽出
	配布・回収方法	郵送配布、郵送回収またはWEB 回答
	調査基準日	令和 4 年 12 月 1 日
	調査期間	令和 4 年 12 月 7 日～令和 5 年 1 月 10 日
居宅要支援・ 要介護認定者	調査対象	要支援・要介護認定を受けて居宅で生活している人から無作為抽出
	配布・回収方法	郵送配布、郵送回収
	調査基準日	令和 4 年 12 月 1 日
	調査期間	令和 4 年 12 月 7 日～令和 5 年 1 月 10 日
事業所	調査対象	市内介護サービス事業所及び住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム、養護老人ホーム
	配布・回収方法	郵送及びメール配布・回収
	調査基準日	令和 4 年 11 月 1 日
	調査期間	令和 4 年 11 月 1 日～令和 4 年 11 月 17 日
訪問介護員	調査対象	市内の訪問介護、訪問入浴介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護に従事している訪問介護員
	配布・回収方法	郵送及びメール配布・回収
	調査基準日	令和 4 年 11 月 1 日
	調査期間	令和 4 年 11 月 1 日～令和 4 年 11 月 17 日
介護支援専門員	調査対象	市内の居宅介護支援事業所及び介護予防支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所に所属している介護支援専門員
	配布・回収方法	郵送及びメール配布・回収
	調査基準日	令和 4 年 11 月 1 日
	調査期間	令和 4 年 11 月 1 日～令和 4 年 11 月 17 日

(2)回収結果

①市民向け調査

区分		一般高齢者	第2号被保険者	居宅要支援・ 要介護認定者
配布数（A）		2,200 件	2,000 件	2,000 件
回収数（B）	郵送	1,587 件	997 件	1,344 件
	WEB	47 件	206 件	(実施なし)
	合計	1,634 件	1,203 件	1,344 件
回収率（B／A）		74.3%	60.2%	67.2%
無効回答件数	入院中	2 件	0 件	0 件
	転居	0 件	0 件	0 件
	死亡	1 件	0 件	0 件
	その他	0 件	0 件	0 件
	不明・無回答	1 件	0 件	0 件
	合計	4 件	0 件	0 件
有効回答件数（C）		1,630 件	1,203 件	1,296 件
有効回収率（C／A）		74.1%	60.2%	64.8%

※参考：令和元年度調査の有効回収率

一般高齢者（74.6%）、第2号被保険者（58.8%）、居宅要支援・要介護認定者（64.1%）

②事業所向け調査

区分	事業所	訪問介護員	介護支援専門員
配布数（A）	177 件	528 件	119 件
回収数（B）	150 件	396 件	102 件
回収率（B／A）	84.7%	75.0%	85.7%
有効回答件数（C）	150 件	396 件	102 件
有効回収率（C／A）	84.7%	75.0%	85.7%

※参考：令和元年度調査の有効回収率

介護支援専門員（95.1%）事業所調査（78.9%）

事業所調査については、今回調査と内容が異なる。訪問介護員は前回調査は実施なし。

(3) 主な調査内容

第8期の計画策定のため令和元年度に実施した同調査を基本とし、第9期計画策定のため国から示された項目・ないように従い、刈谷市の施策を検討するため必要と思われる項目を追加しています。

①一般高齢者調査

- ・介護保険制度、認知症高齢者に対する支援策の認知度
- ・介護が必要となった場合の介護サービスの利用意向
- ・介護サービス水準と保険料のバランス
- ・インフォーマルサービス²へのニーズ
- ・高齢福祉サービスの利用状況、利用意向
- ・健康、生きがい、社会参加についての考え方
- ・災害対策、地域の課題
- ・終末期の意向
- ・国が示す介護予防・日常生活圏域ニーズ調査³項目

②第2号被保険者調査

- ・介護保険制度、認知症高齢者に対する支援策の認知度
- ・本人、家族に介護が必要となった場合の介護サービスの利用意向
- ・介護サービス水準と保険料のバランス
- ・インフォーマルサービスへのニーズ
- ・仕事と介護の両立や社会参加への考え方
- ・地域の課題
- ・終末期の意向

③居宅要支援・要介護認定者調査

- ・介護保険サービスの利用状況、満足度
- ・介護サービス水準と保険料のバランス
- ・充実させる必要があるサービス
- ・高齢福祉サービスの利用状況、利用意向
- ・災害対策、地域の課題
- ・介護者の状況、仕事への影響
- ・終末期の意向

² インフォーマルサービス

公的なサービス以外のもので、家族や友人、町内会や民生委員、地域住民、ボランティア等が行う援助活動の他、企業の有料サービスに付随したサービス等。

³ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握し、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定するとともに、介護予防・日常生活圏域総合事業の評価に活用するための調査。調査項目は国が定めている。

④事業所調査

- ・事業所の概要について
- ・事業所の人材確保の状況について
- ・介護職員の資格の習得状況、勤務形態、勤務時間等について

⑤訪問介護員調査

- ・資格の取得、研修の修了状況について
- ・介護職の経験の状況等について
- ・介護給付及び介護予防給付・総合事業の具体的な勤務時間について

⑥介護支援専門員調査

- ・介護サービス計画作成業務の状況について
- ・医療関係者との連携について
- ・介護サービスの供給について
- ・虐待や権利擁護について
- ・在宅生活の継続や介護人材について

3 調査結果報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数の合計と全体の回答者総数は合致しません。

●「単数回答」「複数回答」について

図表のタイトルにある「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶもの、「複数回答」は選択肢の中から2つ以上を選ぶものを表します。

●「n」について

グラフ中の「n」とは、number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。したがって、各選択肢の％に「n」を乗じることで、その選択肢の回答者が計算できます。

●「％」について

グラフ中の「％」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100.0％にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま、選択肢の順に記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

●読取文について

グラフや表についての読取文は、原則として割合等が高い順に記述しています。なお、回答者(n)が10未満の場合は、読取文の対象外としています。

●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

●表について

表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、**最も割合の高い項目**と**二番目に割合の高い項目**を表しています。なお、回答者(n)が10未満の場合は、順位の表記を省略しています。さらに、クロス集計において性別、年齢別、要介護度別等の回答者(n)が回答者なし(0)の場合は、掲載を省略しています。

Ⅱ 総括

1 回答者の属性について（一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者）

（1）年齢・性別について

- 一般高齢者については、前期高齢者（65 歳から 74 歳まで）が 51.1%、後期高齢者（75 歳以上）が 46.5%となっています。居宅要支援・要介護認定者では前期高齢者が 13.1%、後期高齢者が 78.1%となっています。
- 一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者のいずれの調査でも男性より女性の回答者の割合が高くなっています。

（2）家族構成・経済状況について

- 家族構成については、「1人暮らし（単身世帯）」の割合が一般高齢者で 15.8%、第2号被保険者で 11.1%、居宅要支援・要介護認定者で 21.6%となっています。経年でみると、令和元年と比較して、居宅要支援・要介護認定者で「1人暮らし（単身世帯）」の割合が増加しています。
- 一般高齢者における現在の経済状態への実感については、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合が 29.3%、「ふつう」が 56.7%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた割合が 9.5%となっています。令和元年と比較して経済的に苦しいと感じている割合が増加しています。

2 高齢者の身体や生活の状況について

（1）体を動かすことについて

- 一般高齢者において、転倒に対し、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた割合が 46.5%と、約半数が転倒に対して不安を持っています。また、転倒に不安を持っている人や過去1年間に転んだ経験がある人においてはともに女性の割合が高く、一般高齢者の介護・介助が必要になった主な原因としても女性で「高齢による衰弱」に次いで「骨折・転倒」が多くなっています。
- 一般高齢者において外出を控えている割合は 26.8%となっており、令和元年の 14.5%より増加しています。その理由については「その他」が 44.4%と高く、令和元年（10.4%）に比べて大幅に増加しており、その他の記述内容では「新型コロナウイルス感染症」を理由とする割合が多くなっています。

（2）食えることについて

- 一般高齢者の身長、体重から算出した BMI では、「適正」が 60.7%、「やせ型」が 7.9%、「肥満」が 23.1%となっています。約3割が BMI 値から見て課題があるといえます。
- 歯の数と入れ歯の利用状況についてみると、入れ歯を利用している割合は一般高齢者で 46.7%、居宅要支援・要介護認定者で 54.2%となっています。一般高齢者では年齢が上がるにつれて入れ歯を利用する割合が高く、自分の歯が 19 本以下の割合も増加しています。

○定期的な歯科受診は一般高齢者の 30.2%が「受けていない」としています。経年でみると平成 28 年以降、定期的に歯科受診している人の割合は増加しています。

○誰かと食事をともにする頻度では、一般高齢者の 55.8%が「毎日ある」としています。「ほとんどない」割合は 7.7%であり、世帯構成別でみると一人暮らしで 19.1%と約 2 割を占め、孤食の傾向がみられます。

(3) 毎日の生活について

○一般高齢者において、物忘れが多いと感じる人の割合が 42.8%、今日が何月何日かわからない時がある人の割合が 27.4%となっており、認知症につながるリスクを有している人がいることがうかがえます。

○一般高齢者において、自分で食事の用意をしている人の割合において「できるし、している」人は 69.8%ですが、「できない」人は 6.6%みられ、これらの人は配食や家事援助等の支援を必要としている可能性があります。

○一般高齢者において、趣味がある人は 65.3%、生きがいがある人は 51.5%であり、経年でみても大きな増減はありません。

(4) 各リスク該当者等の状況について

○一般高齢者調査結果をもとに、「運動器」、「転倒」、「閉じこもりリスク」、「栄養」、「口腔」、「認知機能」、「うつ傾向」、「IADL」、「知的能動性」、「社会的役割」の 10 項目について機能判定の評価を行い、それぞれのリスク該当者を抽出したところ、「運動器」、「転倒」、「閉じこもりリスク」、「認知機能」、「IADL」については、いずれにおいても年齢が上がるにつれてリスク該当者または各機能が「低い」に該当する割合が高くなっています。

○経年でみると、令和元年に比べて「運動器」「転倒」のリスク該当者が減少しています。また、「知的能動性」「社会的役割」で「低い」に該当する割合が高くなっています。

- 女性高齢者では骨折・転倒に対する不安がみられます。外出に関しては新型コロナウイルス感染症により外出を控えた人が一定数みられ、高齢者の社会活動等に影響を与えていたことがわかります。
- 定期的に歯科受診している人の割合が経年でみて増加し、高齢者の歯のケアに対する意識が高まり、改善しています。
- 「運動器」、「転倒」、「閉じこもりリスク」、「認知機能」、「IADL」のリスクを持つ人は年齢が上がるにつれて増加しているため、必要な介護予防の取組につなげていく必要があります。

3 地域での活動や社会参加について

(1) 社会参加の状況について

○一般高齢者の社会参加の状況では、9つの項目のうち、趣味関係のグループに参加している割合が26.8%と最も高くなっています。また、それぞれの活動の参加状況を年齢別でみると、収入のある仕事をしている割合が65～69歳で39.2%と最も高くなっています。スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループに参加している割合はともに70～74歳が最も高くなっており、仕事を辞めた後に参加する人が多いことがうかがえます。また、町内会・自治会や祭り・行事などの地域コミュニティにおける活動に参加する人の割合は65～69歳、70～74歳の前期高齢者で高く、年齢が上がるにつれて減少しています。なお、いきいきクラブ（老人クラブ）は年齢が上がるにつれて参加している割合が増加しています。経年でみると、ほとんどの項目で参加している割合が減少していますが、「健康づくり・介護予防のための通いの場」は令和元年の3.9%から11.1%へと7.2ポイント増加しています。

○第2号被保険者の社会参加の状況では、何らかの会・グループに参加している割合が48.8%となっており、参加している活動では「町内会・自治会」が24.4%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が14.5%、「趣味関係のグループ」が13.8%となっています。経年でみると令和元年と比べて「町内会・自治会」に参加している割合が増加しており、一般高齢者（23.5%）よりも高くなっています。

(2) 高齢期の希望について

○第2号被保険者が定年後や高齢期にどのような活動をしたいかでは、「仕事がしたい」が31.8%と最も高く、次いで「趣味の活動やサークル活動にかかわりたい」が27.3%、「特に何もしないで、家でゆっくりしたい」が19.0%となっています。令和元年と比べて「これまでの知識や技術を生かせる事業や活動を行いたい」、「特に何もしないで、家でゆっくりしたい」が減少し、「仕事がしたい（令和元年：新たな職場に勤めたい）」が大きく増加しており、就労の意欲が高まっていることがわかります。性別でみると、女性に比べて男性で「仕事がしたい」が、男性に比べて女性で「趣味の活動やサークル活動にかかわりたい」がそれぞれ高くなっています。

○一般高齢者における地域づくり活動への参加者としての参加意向は、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加意向がある』割合は49.0%と約半数を占めています。一方、企画・運営としての参加について『参加意向がある』割合は27.5%にとどまっており、参加に消極的な傾向がみられます。

(3) 必要な高齢者支援について

○地域で必要だと思う高齢者支援では、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者、介護支援専門員いずれも「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が高くなっています。

○一般高齢者、第2号被保険者において、自分でできる支援活動は、いずれも「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が最も高くなっています。また、「必要だと感じる活動」よりもすべての項目において「自分でできる支援活動」が低くなっており、需要に比べて供給が不足していると言えます。

- 地域での活動において、経年でみて「健康づくり・介護予防のための通いの場」に参加する割合が増加しており、高齢者に浸透しつつあることがうかがえます。
- 第2号被保険者が希望する高齢期の活動では「仕事がしたい」が最も高く、また経年でみても増加していることから、引き続き就労促進支援についてニーズがあると考えられます。
- 地域づくり活動に対し、半数の高齢者が参加意欲を持っているため、参加を促進していくことが重要です。また、地域における相互支援活動において、需要・供給ともに「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が高くなっていますが、すべての項目において「必要だと感じる活動」よりも「自分のできる支援活動」が低く、需要に比べて供給が不足しているため、意識啓発や地域活動の活性化が求められます。

4 健康について

(1) 健康状態について

- 一般高齢者の健康状態では、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が 80.0%となっており、健康状態が良好な人が大部分となっています。一方で、現在治療中、または後遺症のある病気では、「高血圧」が 42.1%と高くなっています。
- 健康について知りたいことでは、「認知症の予防」が一般高齢者で 32.9%、第2号被保険者で 51.9%と、それぞれ最も高くなっており、認知症について関心が高まっていることがうかがえます。一方で「特にない」は一般高齢者で 29.8%と2番目に高くなっています。

(2) 健康づくり・介護予防について

- 健康づくり・介護予防の取組状況では、何らかの健康づくり・介護予防活動に取り組んでいる人の割合（「意識して取り組んでいる」と「意識していないが、健康に良いと思うことは行っている」を合わせたもの）が一般高齢者で 66.1%、第2号被保険者で 68.2%となっています。健康づくり・介護予防活動に取り組んでいない人の割合は一般高齢者で 24.3%、第2号被保険者で 30.3%となっており、第2号被保険者で取り組んでいない人が多くなっています。
- 健康づくり・介護予防活動に取り組んでいない理由をたずねたところ、一般高齢者では「きっかけがない」が 28.8%、第2号被保険者では「具体的な取り組み方がわからない」が 42.0%とそれぞれ最も高くなっており、情報の取得や動機付けの機会が不足していることがうかがえます。
- 介護予防に関して必要なことについて、一般高齢者では「軽運動（筋力向上など）の推進」が 69.8%と最も高く、次いで「食生活（栄養など）の改善」が 49.3%となっています。介護支援専門員が介護予防に関して特に強化したほうがいいと感じる取り組みは、「閉じこもり予防」が 67.6%と最も高く、次いで「認知症予防」が 52.9%、「転倒・骨折予防」が 47.1%となっています。

- 認定を受けていない高齢者でも「高血圧」である人の割合が約4割と高くなっています。居宅要支援・要介護認定者の介護・介助が必要になった主原因としても「脳血管疾患（脳卒中）」が高い割合を占めていることから、生活習慣の改善等に取り組む必要があります。
- 一般高齢者、第2号被保険者ともに認知症の予防に関する情報のニーズが高くなっています。また、介護支援専門員の視点では必要な介護予防として「閉じこもり予防」も高い割合を占めており、認知症予防、閉じこもり予防等の取組が求められます。

5 認知症の支援について

(1) 認知症に関する相談機関・支援制度の認知度について

- 認知症に関する相談窓口を知っている割合は一般高齢者が 23.7%、第2号被保険者が 18.1%と、ともに2割程度となっています。
- 成年後見制度を知っている割合は「言葉も内容も知っている」で一般高齢者が 36.3%、第2号被保険者が 35.9%、居宅要支援・要介護認定者で 37.1%であり、3つの調査で大きな差はありません。
- 日常生活自立支援事業を知っている割合は「言葉も内容も知っている」で一般高齢者が 14.4%、第2号被保険者が 10.8%と、ともに1割程度となっています。経年でみると、「言葉も内容も知っている」割合が増加しています。
- 認知症サポーターを知っている割合は一般高齢者で 18.3%、第2号被保険者で 16.2%、居宅要支援・要介護認定者で 17.7%となっています。

(2) 必要な支援について

- 認知症になっても安心して暮らしていくための必要な事項としては、「気軽に相談できる窓口」、「受診、治療ができる病院や診療所」、「入所できる施設」、「自宅で生活続けるために利用できるサービス」がいずれの調査においても高くなっています。

- 成年後見制度、日常生活自立支援事業、認知症サポーター等の権利を守る制度や支援人材等の認知度についてもまだ十分ではなく、周知が必要です。
- 認知症になっても安心して生活できるようにしていくため、認知症の人とその家族の直接的な支援となる認知症に関する相談窓口や病院等の充実、施設やサービスの拡充が求められています。

6 災害時の対策について

(1) 防災の取組について

○災害時の避難のためにとっている対策では、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「避難場所や順路の確認」が最も高くなっていますが、一般高齢者が62.8%であるのに対し、居宅要支援・要介護認定者では41.7%と低くなっています。一方、避難の対策を「何もしていない」割合は一般高齢者で22.9%、居宅要支援・要介護認定者で33.5%となっています。

○避難方法や安否確認の家族間での話し合いについて、何も対応していない割合（「必要と思うができていない」と「決めていないし、考えてもいない」を合わせたもの）が一般高齢者で68.0%、居宅要支援・要介護認定者で69.4%となっています。

○避難行動要支援者名簿を知っている割合は、「言葉も内容も知っている」で一般高齢者が15.3%、居宅要支援・要介護認定者が21.6%となっています。要支援・要介護度別でみると、避難行動要支援者の対象となる要介護3以上では、要介護3、4で「言葉も内容も知っている」が約3割、要介護5では45.5%と高くなっています。

- 避難の対策を「何もしていない」高齢者の割合が2～3割みられ、防災等に関する家族間での話し合いも約7割の一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者でなされていないため、さらなる啓発や情報提供が必要です。

7 高齢期の課題について

(1) 地域における課題について

○地域における高齢者に関する課題について、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者いずれも「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」、「ご近所づきあいが薄くなってきている」が高くなっています。また、「買い物ができる店が少ない」、「交通が不便である」は居宅要支援・要介護認定者調査において2割を超えて高くなっています。

(2) 高齢期の不安について

○高齢期の不安について、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者いずれも「自分や配偶者の健康や病気のこと」が最も高くなっています。次いで一般高齢者では「車の運転ができなくなること」が、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者では「老後の生活費のこと」が高くなっています。

(3) 外出について

○一般高齢者の外出の際の移動手段では「自動車（自分で運転）」が65.5%と最も高くなっています。

「自動車（自分で運転）」は男性が、「自動車（人に乗せてもらう）」は女性がそれぞれ高くなっています。令和元年調査と比較して大きな変化はありません。

- 地域の課題として一人暮らし高齢者の増加や近隣関係の希薄化があげられており、地域における見守りや交流活動が引き続き求められます。
- 高齢者の不安として「自分や配偶者の健康や病気のこと」といった健康面の不安が存在している他「車の運転ができなくなること」や「老後の生活費のこと」といった生活面の不安も大きくなっています。様々な制度の情報発信等を行い、利用できる支援について周知していくことが求められます。
- 高齢者の移動手段については経年でみて変化がなく、「自動車」中心となっており、公共交通機関等の利用は低調となっています。運転等により高齢者が交通事故の被害者・加害者となる事例も増加していることから、高齢者の移動手段についての検討をさらに進めていく必要があります。

8 近年の生活状況について

(1) コロナ禍について

○新型コロナウイルス感染症が流行して以降の生活の変化では、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者いずれも「旅行や買い物などで外出することが減った」、「友人・知人や近所付き合いが減った」と回答する割合が高くなっています。居宅要支援・要介護認定者において「医療を受ける回数（通院回数など）が減った」は8.4%、「福祉・介護保険サービスを受ける回数が増えた」は5.3%みられています。

(2) 情報通信機器の利用や情報の取得について

○一般高齢者のパソコンやスマホなどの情報機器の使用状況については、「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる（携帯電話のメールを含む）」が65.2%と最も高くなっています。「いずれもしていない」は21.9%となっており、多くの高齢者が情報機器を使用しています。

○市の高齢者福祉や介護に関する情報の入手先については、一般高齢者、第2号被保険者では「市民だより」が、居宅要支援・要介護認定者では「かかりつけの医師や看護師、サービス事業所、ケアマネジャーなど」がそれぞれ最も高くなっています。介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」については「言葉も内容も知っている」が一般高齢者で11.2%、第2号被保険者で14.2%、居宅要支援・要介護認定者で38.1%となっており、介護サービス等を利用している居宅要支援・要介護認定者で認知されています。

- コロナ禍においては、高齢者等の生活において人との交流や外出等の機会に大きな影響を及ぼしました。居宅要支援・要介護認定者の医療・介護・福祉サービス等の利用にも一部で影響があったことから、平時からリスクを減らすための知見を蓄積しておく必要があります。
- 高齢者においてもパソコン、スマートフォン等の情報機器が広く利用されており、情報発信手段についても活用していくことが重要です。

9 介護保険サービスについて

(1) 介護保険制度や保険料について

○第2号被保険者における介護保険制度の認知度について、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた割合は38.8%、「あまり（内容までは）知らない」と「知らない」を合わせた割合は60.6%となっています。経年でみると、令和元年と比べて介護保険制度を知っている割合がやや減少しています。

○介護サービスの水準と保険料についての考えでは、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者のいずれにおいても「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が最も高くなっています。（一般高齢者：70.2%、第2号被保険者：76.0%、居宅要支援・要介護認定者：59.8%）

(2) 自分に介護が必要になった場合の暮らしについて

○介護が必要になった場合の今後の暮らしの意向では、「自宅で訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が一般高齢者で41.0%、第2号被保険者で48.4%と、ともに最も高くなっています。

「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」を含めた、在宅での暮らしを継続したいとする割合は一般高齢者で57.9%、第2号被保険者で54.6%となっています。「老人ホームなどに入所したい」は一般高齢者で17.9%、第2号被保険者で26.4%となっています。

(3) 家族に介護が必要になった場合の希望について

○第2号被保険者に対し、家族に介護が必要になった場合の希望についてたずねたところ、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら介護したい」が53.5%と最も高く、次いで「老人ホームなどに入所させたい」が25.2%となっています。

○第2号被保険者において自身が介護する可能性のある家族等がいる人は59.6%であり、刈谷市内にいる人が25.4%、刈谷市外にいる人が36.4%となっています。家族等に実際に介護が必要になった場合の意向では、市外に家族等がいる人で「自宅に呼んで介護したい」とする割合が7.4%となっています。また、同様に市外に家族等がいる人で「刈谷市内の老人ホームなどを利用したい」とする割合は9.3%となっています。

○第2号被保険者が家族等を介護する際の不安については、「家族介護者の負担」「経済的な負担」などが多くあげられています。

(4) 要介護認定について

- 居宅要支援・要介護認定者調査の回答者の要介護度は、要支援者（要支援1、2）が34.3%、要介護者（要介護1～5）が60.4%となっています。要介護認定結果への不満では、「要介護度が軽すぎる」が要支援1で22.4%と高くなっています。
- 介護・介助が必要になった主原因は「認知症」が21.4%と最も高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」、「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」が続いています。要介護度別でみると、要支援1・2では「骨折・転倒」が、要介護1～4では「認知症」が、要介護5では「脳血管疾患（脳卒中）」がそれぞれ最も高くなっています。
- 居宅要支援・要介護認定者調査の回答者が現在抱えている病気では「認知症」が19.4%、「糖尿病」が14.7%、「心疾患（心臓病）」が10.7%となっています。要介護度別でみると、要介護1以上では「認知症」が高くなっています。
- 訪問診療の利用状況では、要介護度が上がるにつれて、「利用している」が増加しており、要介護5では54.5%と、半数以上で利用がみられます。何らかの医療的ケアを受けている割合は21.4%となっています。

(5) 介護保険サービスについて

- 地域包括支援センターを知っている割合は「言葉も内容も知っている」で一般高齢者が27.1%、第2号被保険者が31.3%、居宅要支援・要介護認定者が58.6%となっています。一般高齢者では認知度が3割に届いていませんが、居宅要支援・要介護認定者では半数を超えており、比較的周知が進んでいます。経年でみると、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者（本人・介護者）いずれも知っている割合が増加し、周知が進んでいます。
- 居宅要支援・要介護認定者の令和4年11月のサービス利用（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の状況では、全体で63.7%が利用しており、令和元年の49.8%から増加しています。要介護1以上では7～8割がサービスを利用しています。利用しているサービスは「通所介護（デイサービス）」が最も高く、次いで「通所リハビリテーション（デイケア）」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」、「訪問看護」が続いています。
- 居宅要支援・要介護認定者が今後利用したいサービスは「通所介護（デイサービス）」が突出して高くなっており、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」、「短期入所生活介護・短期入所療養介護（ショートステイ）」、「訪問看護」で2～3割のニーズがみられます。経年でみると、令和元年と比べて「通所介護（デイサービス）」が10.9ポイント高くなっています。
- 居宅要支援・要介護認定者の介護サービスの満足度では、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた割合が69.9%と、多くが満足している状況であり、必要なサービスを必要なだけ選べたかでは、「選べた」が74.2%と、質・量の両面で評価が高くなっています。

○必要なサービスを選べなかった人（17.7%）にその理由をたずねたところ、「サービスの利用回数を制限された」、「サービスの種類・内容がよく分からなかった」で2割強の回答がみられています。

○サービス利用を通じた心身の変化については、「良くなった」が49.3%と、約半数が改善を実感しています。介護支援専門員の対応に59.9%が満足しています。

○介護サービスを利用していない人（30.4%）にその理由をたずねたところ、要支援1、2の人で「今のところ自分で何とかできるから」が、要介護1～3の人で「家族等に介護してもらっているから」が高くなっています。

(6) 居宅要支援・要介護認定者の暮らしの希望について

○居宅要支援・要介護認定者の今後の暮らしの意向では、「自宅で訪問介護や通所介護などを利用しながら暮らしたい」が51.2%、「自宅で家族以外の世話にならないで暮らしたい」が22.6%と、合わせて約7割が在宅での暮らしの継続を希望しています。「何らかの入所施設に入りたい」は11.3%であり、要介護3、4の人や単身世帯の人で施設サービスを希望する割合が高くなる傾向にあります。

○居宅要支援・要介護認定者において施設への「入所・入居を検討している」が11.5%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が8.1%となっています。施設入所・入居希望者は要介護3以上で多く、約3割を占めています。また、認知症症状が「ある（重い）」人では40.9%が施設への入所・入居を希望しています。希望する施設の種類では「特別養護老人ホーム」、「介護付有料老人ホーム」でニーズが高くなっています。

○今後充実していく必要があると思うサービスでは、「通所サービス」、「訪問サービス」が多くあげられています。要介護1～4では「短期入所」、要介護3以上では「特別養護老人ホーム」がそれぞれ2割を超えて高くなっています。

- 介護が必要になった場合に在宅での生活を希望する割合は引き続きすべての調査において高くなっており、在宅生活を継続させるためのサービスや支援の充実が望まれます。
- 居宅要支援・要介護認定者において、サービス利用が増加しています。今後利用を希望するサービスとして「通所介護（デイサービス）」、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」、「短期入所生活介護・短期入所療養介護（ショートステイ）」、「訪問看護」などが高く、需要予測を踏まえて適切なサービスの充実を図っていく必要があります。
- 施設入所・入居希望者は要介護度が高い人で多く、希望する施設の種類では「特別養護老人ホーム」、「介護付有料老人ホーム」でニーズが高くなっています。

10 介護者について

(1) 介護者自身について

- 居宅要支援・要介護認定者の介護者（介護をする人）は「配偶者」、「子」がともに約4割となっており、介護者の性別は女性が62.5%と、男性よりも多くなっています。
- 介護者の年齢は60代が27.1%と最も高く、次いで「70代」が24.7%、「50代」が22.4%となっています。約7割を60代以上が占めています。経年でみても、高齢者が高齢者を介護する、いわゆる老々介護の割合が増加しています。
- 介護者の介護頻度については、「ほぼ毎日」が51.5%と約半数を占めています。要介護度が上がるにつれてその割合が増加し、要介護2以上では「ほぼ毎日」の割合が6～7割となっています。行っている介護の内容は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）」、「食事の準備」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」といった生活援助のほか、「外出の付き添い、送迎など」も高くなっています。

(2) 介護者の仕事について

- 介護を理由として過去1年間に仕事を辞めた家族の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が64.8%と最も高くなっています。「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は7.9%となっています。
- 介護者の仕事の状況では、「フルタイムで働いている」が20.5%、「パートタイムで働いている」が19.8%となっており、合わせて40.3%が仕事をしながら介護を担っています。そのうち、働き方の調整を行っている割合は59.1%であり、その内容は「労働時間の調整」が最も高くなっています。
- 仕事と介護の両立のために必要だと思う職場の支援では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」がいずれも約3割となっています。
- 介護者の今後の仕事の継続については「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた割合が80.1%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は9.7%となっています。

(3) 介護者の健康状態や不安について

- 介護者の健康状態について、「悪い」は17.7%となっています。介護者自身の要介護認定の状況は「受けている」が16.2%で、そのうちの要介護度は要支援が1、2合わせて40.8%となっています。また、介護を手伝ってくれる家族が「いない」割合は18.2%となっています。介護者の15～20%程度が、健康状態が悪化していたり、要介護認定を受けたり、介護を手伝ってくれる人がいない状態で介護を行っています。

○不安に感じる介護は「認知症状への対応」、「夜間の排せつ」、「外出の付き添い、送迎など」、「日中の排せつ」、「入浴・洗身」がいずれも2～3割となっています。また、介護するうえで困っていることでは、「心身の疲労が大きい」が44.1%と最も高く、次いで「旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない」が33.3%となっています。

○介護を受けている人の認知症症状の有無では、「ある（軽い）」が38.5%、「ある（重い）」が12.6%となっており、認知症症状がある人の割合は合わせて51.1%と、約半数を占めています。

- 介護者の約7割を60代以上が占めており、老々介護の割合が増加しています。介護者の1～2割程度が、健康状態が悪化していたり、要介護認定を受けたり、介護を手伝ってくれる人がいない状態で介護を行っていることから、さらなるサービスの充実や介護者支援の取組が求められます。
- 介護を受けている人の約半数に認知症の症状があり、介護の不安としても「認知症状への対応」が高い割合を占めています。介護者に対する認知症のケア等に関する知識の普及や認知症の人へのサービスの拡充を図っていく必要があります。

11 希望する医療等について

(1) 医療・療養・介護等の方針について

○自分の死期が近づいた場合の治療方針等の話し合いの状況については、一般高齢者、第2号被保険者、居宅要支援・要介護認定者のいずれにおいても「話し合ったことはない」が最も高くなっています。「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた割合は一般高齢者で35.3%、第2号被保険者で26.3%、居宅要支援・要介護認定者で42.6%となっています。令和元年と比較すると、話し合っている人の割合はやや減少しています。

○希望する、または希望しない医療・療養・介護についての書面作成については、「良いことだと思う」と「どちらかと言えば良いことだと思う」を合わせた割合が一般高齢者で78.0%、第2号被保険者で84.8%、居宅要支援・要介護認定者で68.7%となっており、多くの人が書面作成に賛同しています。

(2) 医療・介護連携の評価について

○居宅要支援・要介護認定者の刈谷市における医療・介護連携の評価で「そう思う」（体制が整っていると思う）と回答した割合が『入退院における切れ目ない医療・介護のサービス提供』で48.9%、『在宅生活の継続のための適切な医療・介護サービス』で34.6%、『かかりつけ医と介護サービス事業者間の情報交換』で32.6%、『望んだ場所で人生の最終を迎えられる医療と介護の連携体制』で18.1%となっています。令和元年と比較すると、すべての項目で「そう思う」割合が増加しています。

- 自分の死期が近づいた場合の治療方針等の話し合いを行っている人の割合が半数に届いておらず、経年でみても話し合っている人の割合が増加していないことから、人生の最終段階をどこでどう迎えるかについて考える機会の必要性について周知していく必要があります。
- 経年でみて、市民が安心できる医療・介護連携体制を評価する意見が増加しており、引き続き情報の発信と市民に対する啓発を進めていく必要があります。

12 事業所調査について

(1) 回答事業所について

- 事業所のサービス種別は「施設・居住系サービス」が 26.0%と最も高く、次いで「訪問系サービス」が 24.7%、「通所系サービス」が 22.0%となっています。
- 回答事業所に所属する介護職員は「5～10 人未満」が 28.7%と最も高く、次いで「10～20 人未満」が 23.3%、「1～5 人未満」が 20.0%となっています。すべての介護職員のうち正規職員の割合は 60.9%、非正規職員の割合は 39.1%と、正規職員の割合が高くなっています。

(2) 人材確保の状況について

- 回答した事業所の過去 1 年間の介護職員等の採用者数は 695 人、離職者数は 406 人となっています。採用者の年齢は正規職員・非正規職員ともに「40～49 歳」が最も高く、次いで「50～59 歳」となっています。離職者の年齢は正規職員で「40～49 歳」、「50～59 歳」が高く、非正規職員では「60～69 歳」が高くなっています。平均勤続年数は「1 年～3 年未満」が 32.0%、「5 年以上」が 19.3%となっています。
- この 1 年間、事業所における介護人材の確保の状況について、『確保できている』が 53.3%、『確保できていない』が 44.0%となっています。『確保できていない』と回答した事業所にその理由をたずねたところ、「募集しても応募がない」が 74.2%と突出して高くなっています。
- 事業所で人材を定着させるために取り組んでいることについて、「従業員の資格取得やスキル向上のための研修参加の推奨」、「賃金・労働時間等の労働条件の改善」、「資格・能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇への反映」がいずれも 5～6 割となっています。
- 外国人従業員の雇用について「すでに雇用している」事業所が 18.0%となっています。「予定がある」と「予定はないが、検討している」を合わせた、今後雇用の可能性がある事業所は 28.0%と約 3 割となっています。

(3) ICTやAI、ロボットなどの活用について

- ICTやAI、ロボットなどを導入する予定について「すでに導入している」事業所が 31.3%となっています。「予定がある」と「予定はないが、検討している」を合わせた、導入に前向きな事業所

は 35.4%となっています。経年でみると「すでに導入している」事業所、導入に前向きな事業所が増加しています。

○すでに導入している、もしくは導入したいと思っている I C TやA I、ロボットについて、「記録業務、請求業務等への I C T導入」が 80.0%と最も高く、次いで「見守り・コミュニケーション（見守りセンサー等）」が 31.0%となっています。

○I C TやA I、ロボットを導入するにあたって、特に問題となった点もしくは懸念している点は「費用面（コストがかかる）」が 76.0%と突出して高くなっています。

(4) 専門人材について

○事業所で不足している専門職種は「介護福祉士」が 44.7%と最も高く、次いで「看護師・准看護師」が 34.0%となっています。

○介護人材の不足を解消するための取組として必要なことは「賃金の増加」が 80.7%と最も高く、次いで「介護職へのイメージアップ、社会的地位の向上」が 64.7%となっています。

○介護職の魅力発信等に関する取組への協力意向については、「前向きに協力したい」と「内容によっては、協力したい」合わせて 80.6%が協力に前向きとなっています。

(5) 施設職員について

○事業所調査において、所属している介護職員の一人ひとりの状況についてたずねたところ、1,052 人の介護職員について回答がありました。職員の取得資格では「介護福祉士（認定介護福祉士含む）」が 47.7%と最も高く、雇用形態では「正規職員」が 63.4%となっています。

○年齢では「40代」が 25.9%と最も高く、次いで「50代」が 21.9%、「30代」が 19.7%と続いています。

○現在の施設での勤務年数が「1年未満」の割合は 24.5%であり、その職場の移動の状況をみると、「現在の職場が初めての勤務先」と「介護以外の職場」から来た人を合わせて 40.7%となっています。

- 介護ニーズが増加することが見込まれるなか、介護人材の確保は重要な課題です。事業所の 44.0% が介護人材を『確保できていない』と回答しており、また「募集しても応募がない」といった課題が存在していることから、安定したサービス提供のためにも人材確保に関する支援が求められます。
- 介護現場において I C TやA I、ロボットなどを導入する動きが今後加速していくことが想定されます。約 3 割の事業所において導入予定がないと回答されているため、導入にあたっての支援や情報提供等を進め、業務の効率化や負担軽減を図っていく必要があります。

13 訪問介護員調査について

(1) 回答者の属性について

○回答のあった訪問介護員 396 人の性別は「女性」が 84.1%、「男性」が 15.4%となっています。年齢は 50 代以上が 56.9%を占め、70 代以上も 9.4%と 1 割程度みられます。

○取得資格等は、「介護福祉士（認定介護福祉士含む）」が 48.7%と最も高くなっています。雇用形態は「非正規職員」が 51.8%、「正規職員」が 46.2%となっており、性別でみると「正規職員」の割合で男女差が大きくなっています。

(2) 勤務状況について

○訪問介護員 1 人あたりの過去 1 週間の勤務時間について、全体では平均 23.1 時間となっています。正規職員では 31.1 時間、非正規職員では 15.6 時間と、雇用形態で勤務時間に大きな差があります。

○現在の事業所での勤務年数が「1 年未満」の割合は 23.2%であり、現在の事業所に勤務する直前の職場について、「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」が 31.5%と最も高くなっています。「現在の職場が初めての勤務先」と「介護以外の職場」から来た人は合わせて 17.4%となっています。

○過去 1 週間の勤務時間において身体介護・生活援助を提供した時間では、身体介護、生活援助ともに月～金までの平日に比べて土日で提供時間が短くなっています。

- 訪問介護員は正規職員よりも非正規職員の割合がやや高く、女性の高齢職員もみられます。今後、高齢化の進行に伴いサービスの増加が想定され、介護を担う職員の確保は重要な課題であり、対策が必要です。
- 身体介護・生活援助の時間では、介護給付における身体介護の時間が長くなっており、今後中・重度の要介護認定者が増えることでさらにニーズが高まることが想定されます。一方で、生活支援については、民間サービスの活用なども考えられます。

14 介護支援専門員調査について

(1) 介護支援専門員について

○介護支援専門員の勤務形態は「専従（常勤）」が 66.7%となっています。「専従（非常勤）」も合わせると 77.5%が専従の介護支援専門員となっています。

○介護支援専門員の経験年数は「5 年以上」が 60.8%となっています。令和元年と比べて経験年数「5 年以上」が減少しています。所有資格では「介護福祉士」が 51.0%と最も高く、次いで「社会福祉士」が 28.4%、「看護師、准看護師」が 22.5%と続いています。

(2) 介護サービス計画について

- サービス提供事業者からのサービス提供拒否の経験が「ある」割合は72.5%となっており、令和元年と比較して増加しています。その理由は「定員超過により受入れが困難だったため」が77.0%と突出しています。また、「人材不足によりサービス提供が困難だったため」も44.6%と高くなっており、介護人材の不足が課題となっていることがわかります。特に受入れ困難なサービスとしては「訪問介護」が多くなっています。
- 介護保険以外のサービスの取り入れの経験については、90.2%が「ある」と回答しており、大部分の介護支援専門員が取り入れています。取り入れたサービスでは「配食サービス」が最も多くなっていますが、その他、自費サービス、高齢者福祉サービス、医療機関や地域活動など多岐に渡っています。
- ほとんどの介護支援専門員が自立支援を促す視点に立って介護サービス計画を作成しており、約6割の介護支援専門員が利用者の状態改善につなげることができた経験を持っています。状態が改善した場合の利用者負担軽減の対応では、利用しているサービスを見直した割合が87.3%、介護認定の更新を待たずに区分変更を申請した割合が15.9%となっています。
- 介護支援専門員の業務として難しいことでは、「家族間調整」が64.7%、「困難なケース（主に認知症）への対応」が53.9%で高くなっています。

(3) 医療関係者との連携について

- 連携がとれている医療関係者では「看護師」が77.5%と最も高く、次いで「医師」が61.8%、「理学療法士」が59.8%となっています。
- 医療行為が必要な利用者がいる介護支援専門員の割合は26.5%となっています。このうち、医療行為が必要なためにケアマネジメントに困難を持っている介護支援専門員は25.9%となっています。

(4) 介護サービスの供給について

- 刈谷市の介護サービスの中で、供給が不足していると感じている介護サービスについて、「訪問介護」、「居宅介護支援」、「認知症対応型通所介護」などがあげられています。また、今後需要が増加すると思う介護サービスとしては「訪問介護」、「居宅介護支援」、「短期入所生活介護」などがあげられています。不足している、かつ今後需要が増加すると見込まれるサービスは「訪問介護」、「居宅介護支援」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「通所介護」「短期入所生活介護」、「認知症対応型通所介護」、「認知症対応型共同生活介護」等となっています。
- 地域包括支援センターに期待することでは、「処遇困難ケースへの個別指導・相談」が39.2%と最も高くなっています。

(5) 虐待や権利擁護について

- 過去3年間における虐待等のケースへの関わりは、64.7%の介護支援専門員が「ある」と回答しています。そのケースの内容は「身体的虐待」が75.8%、「心理的虐待」が43.9%、「経済的虐待」が42.4%

となっています。また、令和元年と比べて虐待等のケースに関わったことがある介護支援専門員の割合がやや増加しています。ケースの内容は令和元年が「介護・世話の放棄・放任」が最も高かったのに対し、今回調査では「身体的虐待」が最も高くなっています。

○関わったケースにおける虐待被害者の認知症の状況では 74.2%が「認知症あり」と回答しています。虐待の加害者は「息子・娘」が 74.2%、「配偶者」が 31.8%となっています。

○虐待を知った経緯としては「サービス事業者からの連絡」が 50.0%、「介護支援専門員としての業務の中で気づいた」が 42.4%となっており、令和元年と比較して「サービス事業者からの連絡」の割合が高くなっています。

(6)在宅生活の継続や介護人材について

○担当している利用者のうち施設の入所・入居の緊急度が高いと思われる人が「いる」割合は 32.3%となっています。入所・入居できていない理由について、「申込済みだが、空きがない」が 42.9%と最も高くなっています。

○刈谷市の介護人材については「とても不足している」と「どちらかと言えば不足している」を合わせた割合が 65.7%となっており、令和元年調査 (51.5%) と比較して大きく増加しています。不足している人材は、職種では「介護支援専門員」が 79.1%、「介護職員」が 65.7%、「訪問介護員」が 53.7%となっており、有資格者でも「介護支援専門員」が 68.7%、「介護福祉士」が 52.2%となっています。

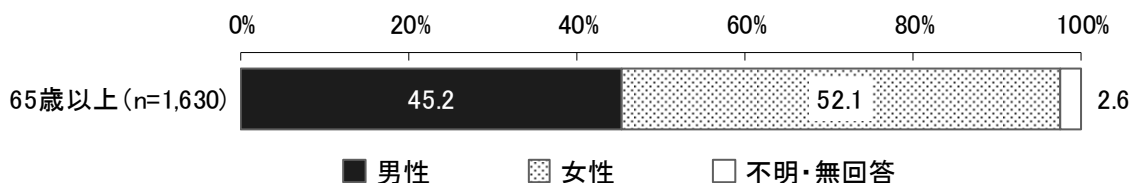
- サービス提供拒否の経験が「ある」割合は約7割で、経年でみて増加しています。「定員超過により受入れが困難だったため」の他「人材不足によりサービス提供が困難だったため」、も高く、特に訪問介護でその傾向が強くなっています。さらに介護人材の不足に関する実感が、経年でみて高まっていることから、介護人材の確保が求められます。
- 介護支援専門員の視点からみた、不足している、かつ今後需要が増加するサービスは「訪問介護」、「訪問介護」、「居宅介護支援」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「通所介護」「短期入所生活介護」、「認知症対応型通所介護」、「認知症対応型共同生活介護」などとなっており、これらについて充実を図っていく必要があります。
- 虐待等のケースに関わったことがある介護支援専門員の割合が増加しており、特に身体的虐待の割合が高いため、早期発見・早期対応を強化していく必要があります。

Ⅲ 一般高齡者調查結果

1 あなたのご家族や生活状況について

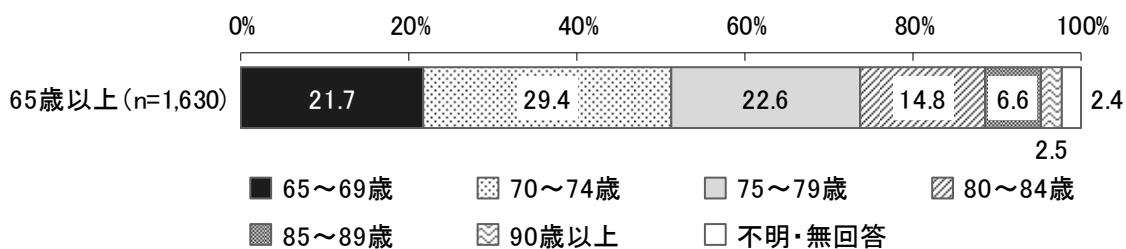
問1 あなたの性別はどちらですか。(単数回答)

性別について、「女性」が52.1%、「男性」が45.2%となっています。



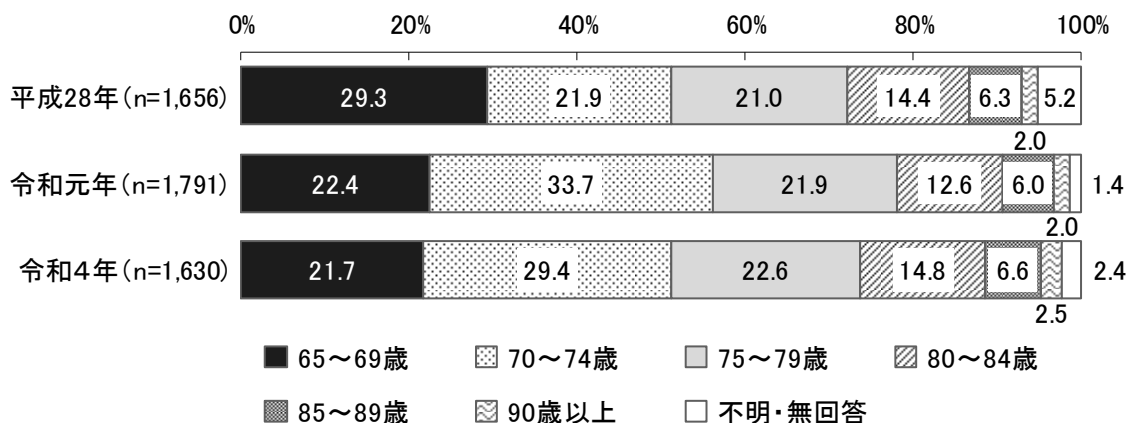
問2 あなたの年齢は、おいくつですか。(単数回答)

年齢について、「70～74 歳」が29.4%と最も高く、次いで「75～79 歳」が22.6%、「65～69 歳」が21.7%となっています。



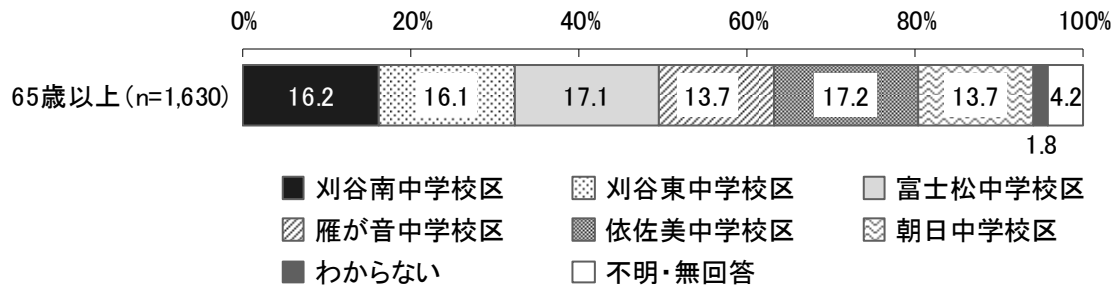
■ 経年変化

経年でみると、令和元年と比較して「70～74 歳」が低く、「80～84 歳」が高くなっています。



問3 あなたの居住地（中学校区別）は次のどれですか。（単数回答）

居住地（中学校区）について「依佐美中学校区」が17.2%と最も高く、次いで「富士松中学校区」が17.1%、「刈谷南中学校区」が16.2%となっています。

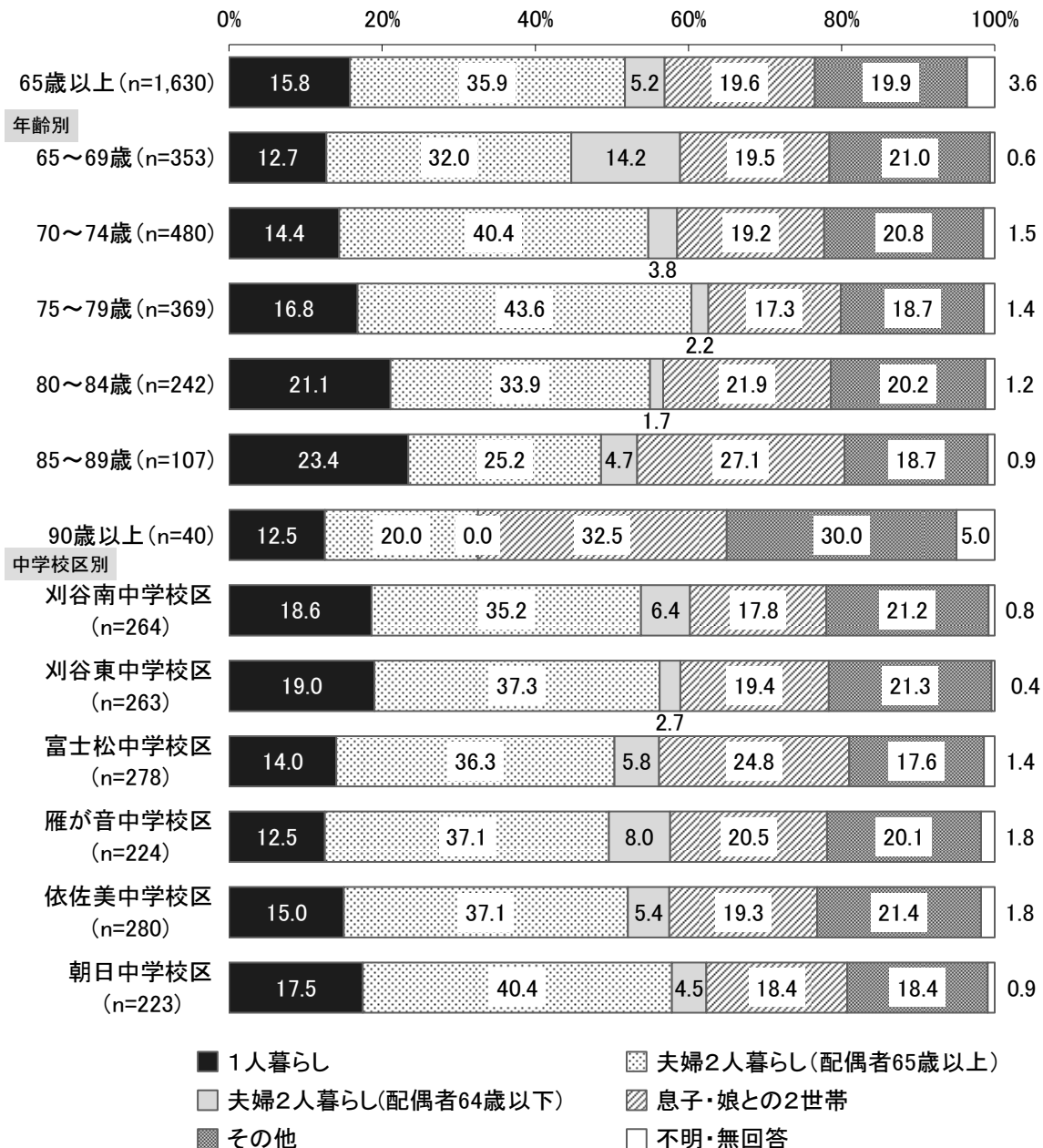


問4 家族構成をお教えてください。(単数回答)

家族構成について、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が35.9%と最も高く、次いで「その他」が19.9%、「息子・娘との2世帯」が19.6%となっています。

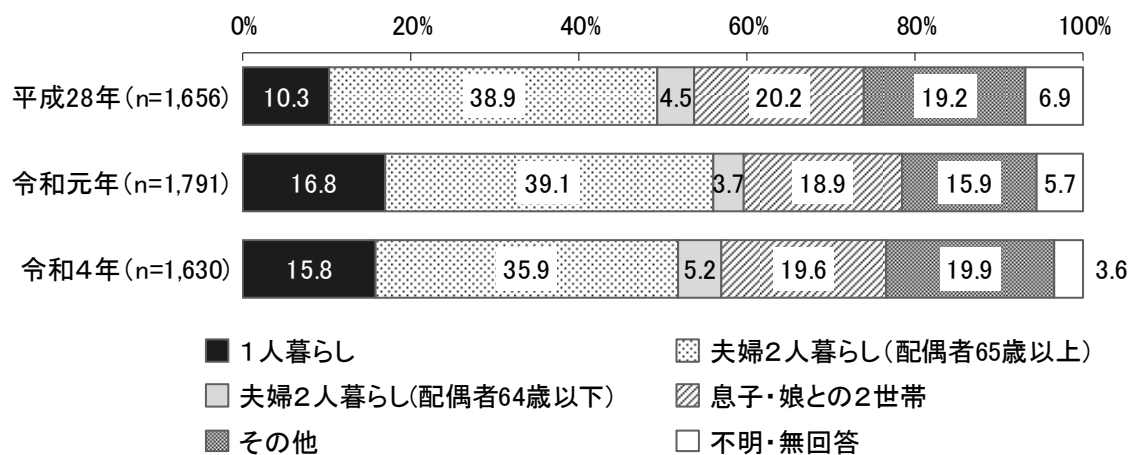
年齢別でみると、89歳までは年齢が上がるにつれて「1人暮らし」の割合が高くなっています。

中学校区別でみると、「1人暮らし」が刈谷東中学校区で19.0%、刈谷南中学校区で18.6%、朝日中学校区で17.5%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



■ 経年変化

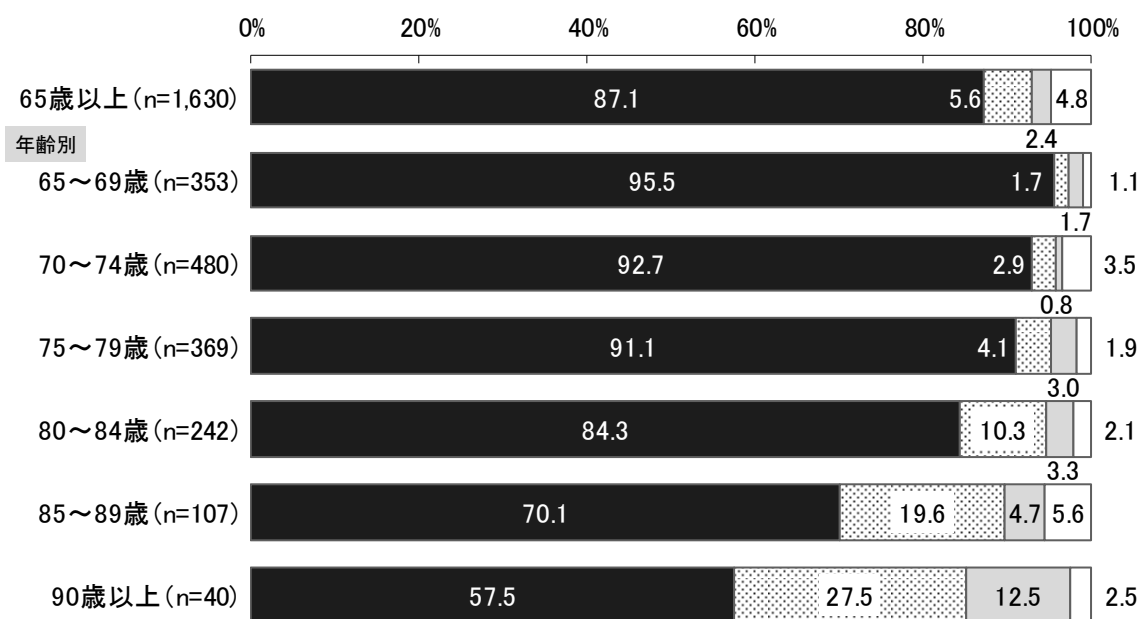
経年でみると、令和元年と比較して「1人暮らし」「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」がそれぞれ低くなっている一方で、「息子・娘との2世帯」「その他」はそれぞれ高くなっています。



問5 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要です。(単数回答)

介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が87.1%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.6%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が2.4%となっています。

年齢別でみると、年代が上がるにつれて「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が高くなっています。



■ 介護・介助は必要ない

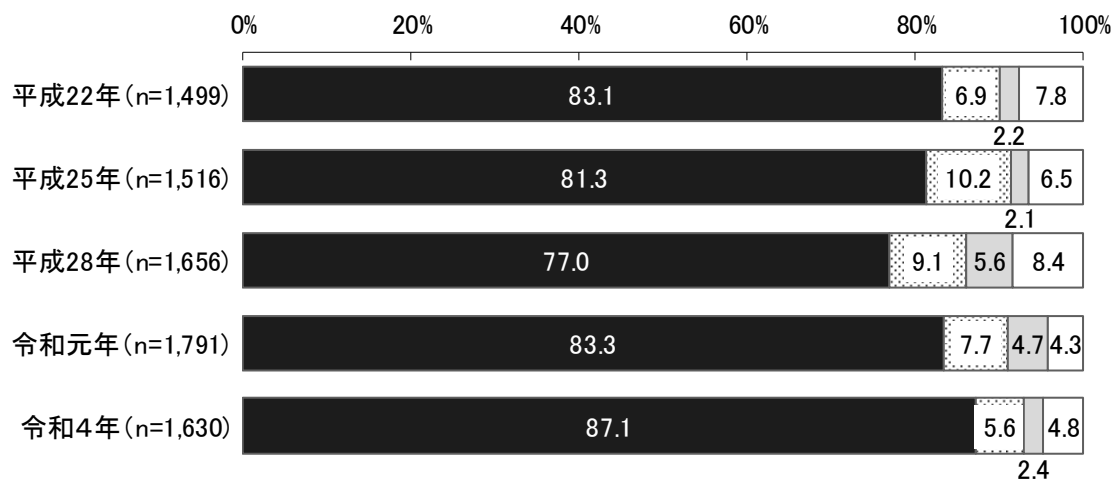
▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

▤ 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

□ 不明・無回答

■ 経年変化

経年でみると、令和4年で「介護・介助は必要ない」が87.1%と、平成22年以降で最も高くなっています。



■ 介護・介助は必要ない

▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

■ 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

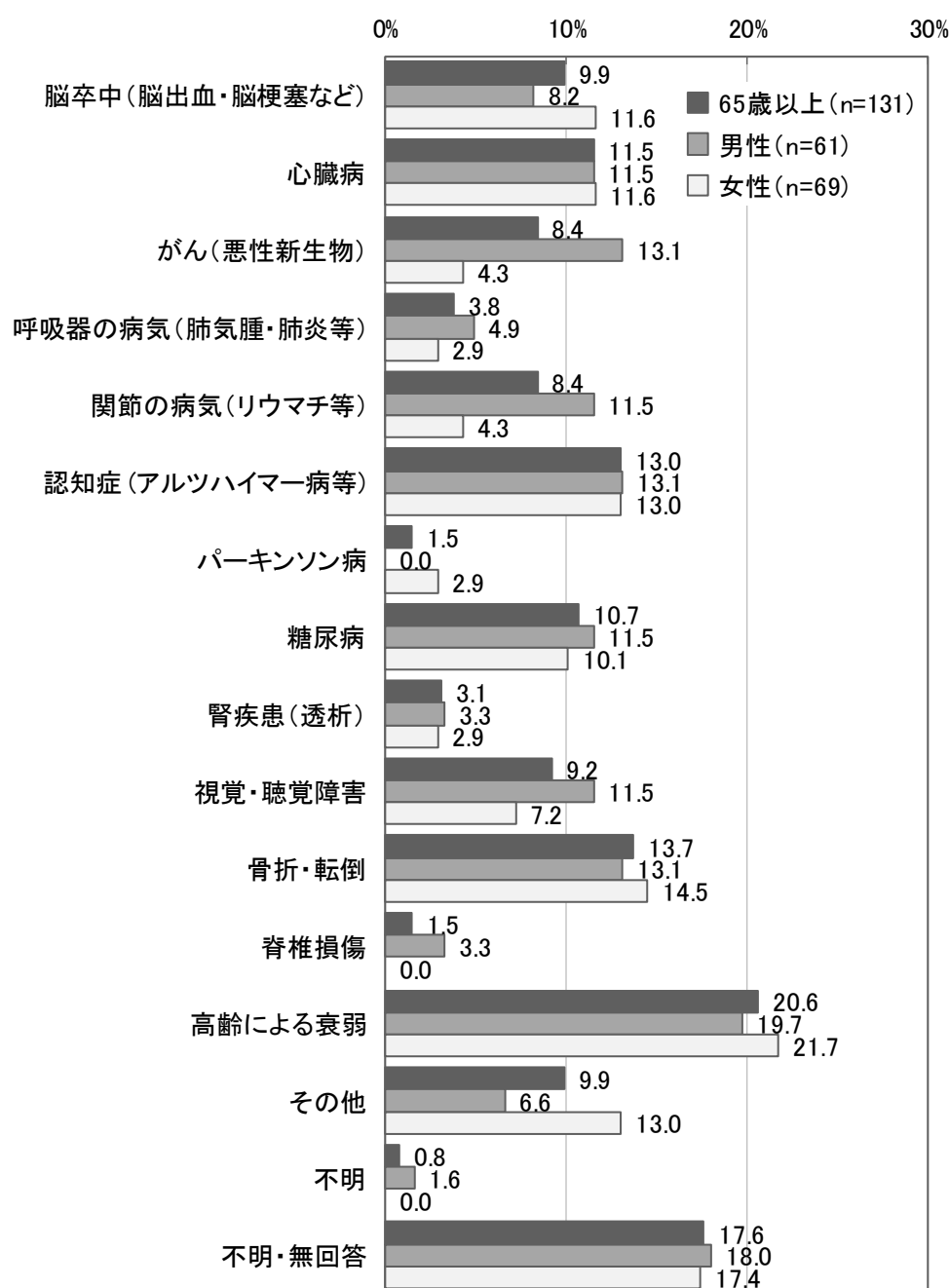
□ 不明・無回答

<介護・介助が必要な方のみ>

問6 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(複数回答)

介護・介助が必要になった主な原因について、「高齢による衰弱」が20.6%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が13.7%「認知症（アルツハイマー病等）」が13.0%となっています。

性別でみると、男性で「がん（悪性新生物）」が13.1%と、女性と比べて8.8ポイント高くなっています。

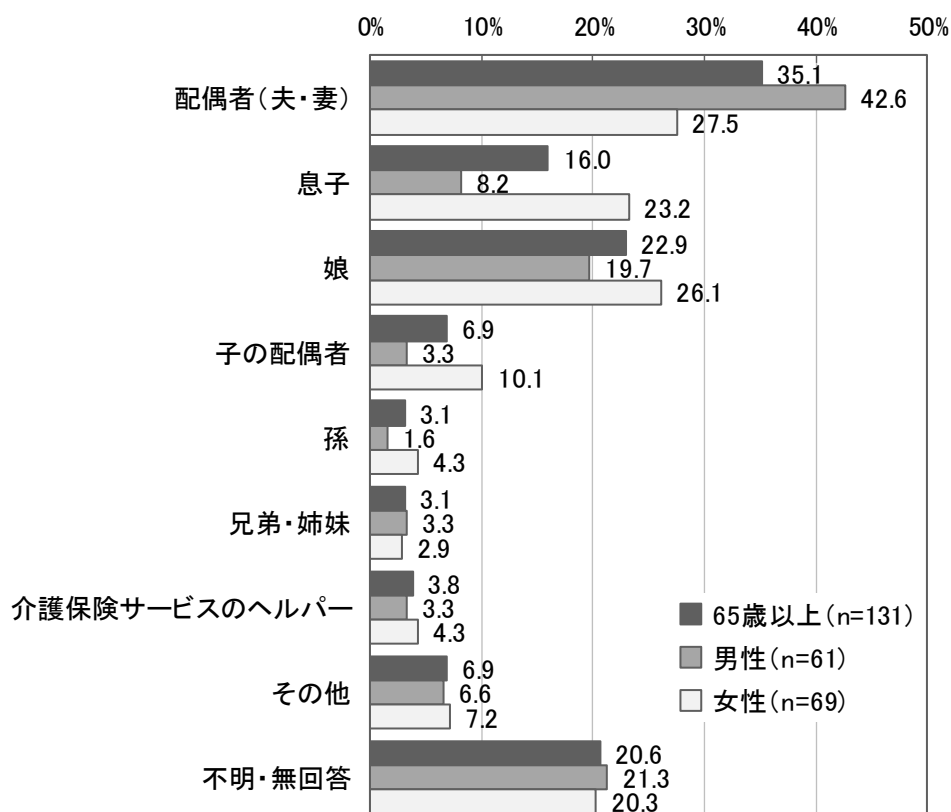


<介護・介助が必要な方のみ>

問7 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(複数回答)

主な介護者・介助者について、「配偶者(夫・妻)」が35.1%と最も高く、次いで「娘」が22.9%、「息子」が16.0%となっています。

性別でみると、男女ともに「配偶者(夫・妻)」が最も高くなっています。なお、男性は「配偶者(夫・妻)」が42.6%と女性と比べて15.1ポイント、女性は「息子」が23.2%と男性と比べて15.0ポイント、それぞれ高くなっています。



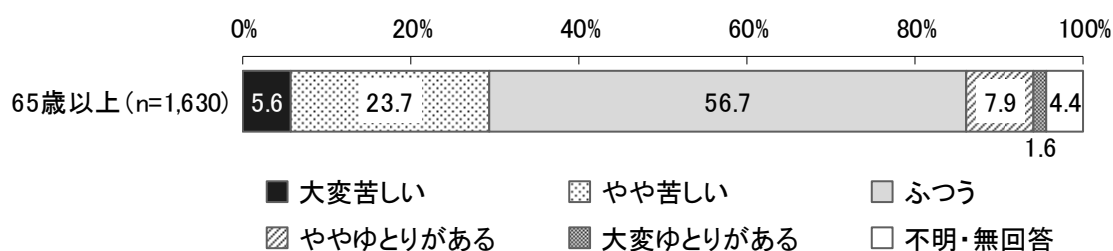
問8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『苦しい』 … 「大変苦しい」と「やや苦しい」を合算

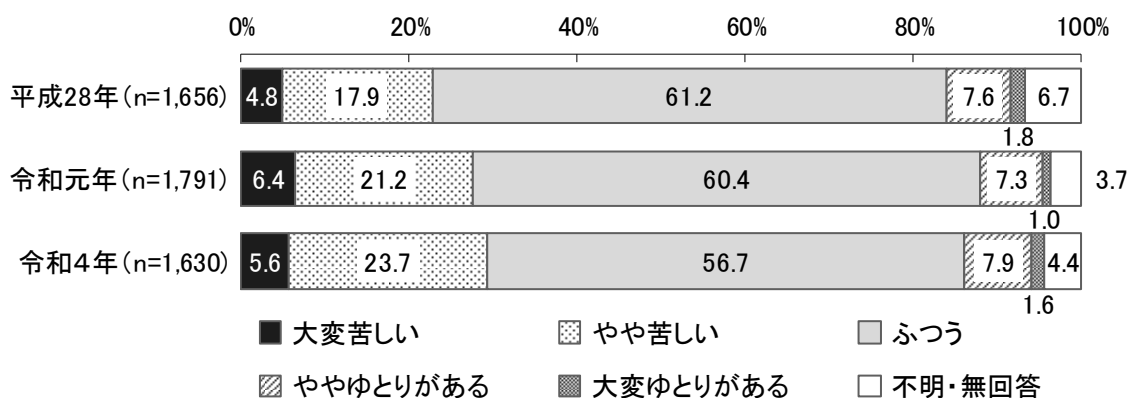
『ゆとりがある』 … 「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合算

経済的な暮らしの状況について、『苦しい』が29.3%、「ふつう」が56.7%、『ゆとりがある』が9.5%となっています。



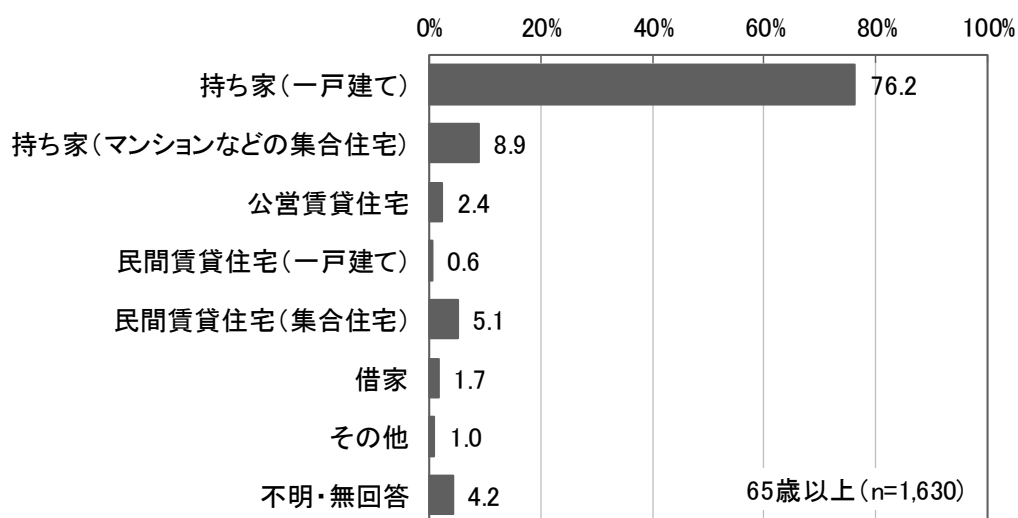
■ ■ 経年変化

経年でみると、平成28年以降、『苦しい』が高くなっています。



問9 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。(単数回答)

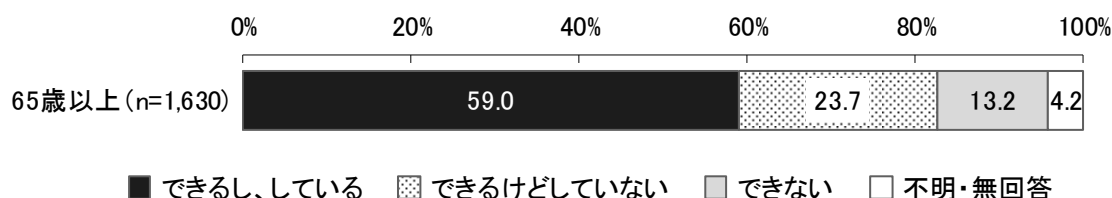
現在のお住まいについて、「持ち家（一戸建て）」が76.2%と最も高く、次いで「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が8.9%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が5.1%となっています。



2 体を動かすことについて

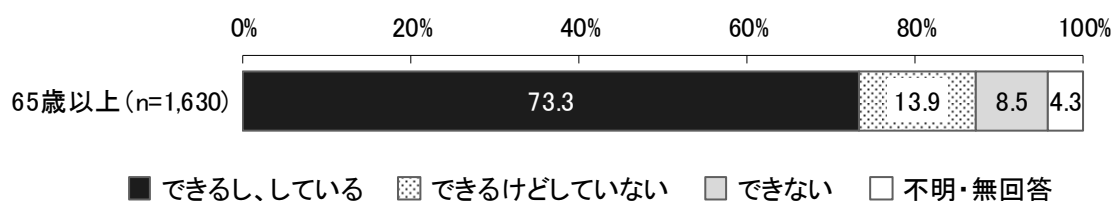
問10 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(単数回答)

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについて、「できるし、している」が59.0%、「できるけどしていない」が23.7%、「できない」が13.2%となっています。



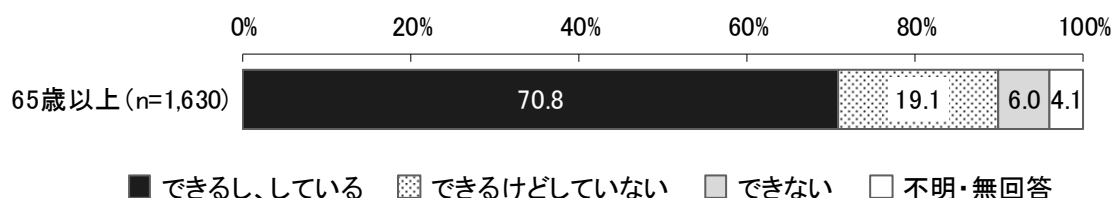
問11 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(単数回答)

椅子に座った状態から支えなしに立ち上がれるかについて、「できるし、している」が73.3%、「できるけどしていない」が13.9%、「できない」が8.5%となっています。



問12 15分位続けて歩いていますか。(単数回答)

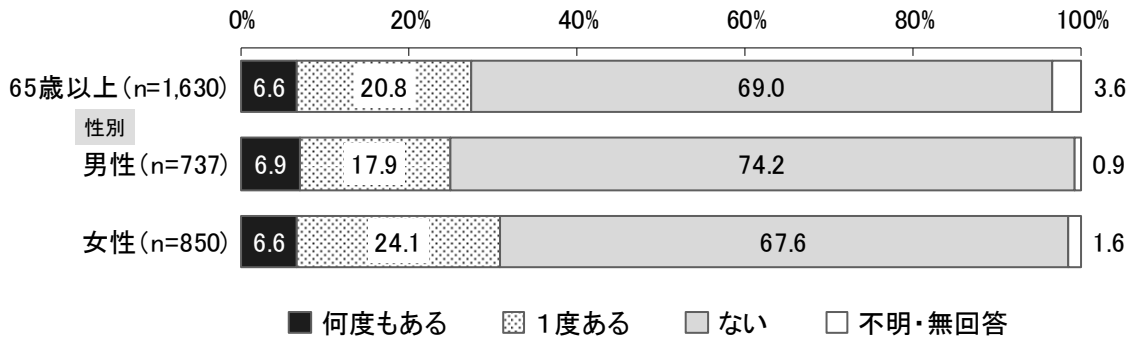
15分位続けて歩いているかについて、「できるし、している」が70.8%、「できるけどしていない」が19.1%、「できない」が6.0%となっています。



問 13 過去1年間に転んだ経験がありますか。(単数回答)

過去1年間の転倒経験について、「ない」が69.0%、「1度ある」が20.8%、「何度もある」が6.6%となっています。

性別でみると、女性で「1度ある」が男性と比べてやや高くなっています。



問 14 転倒に対する不安は大きいですか。(単数回答)

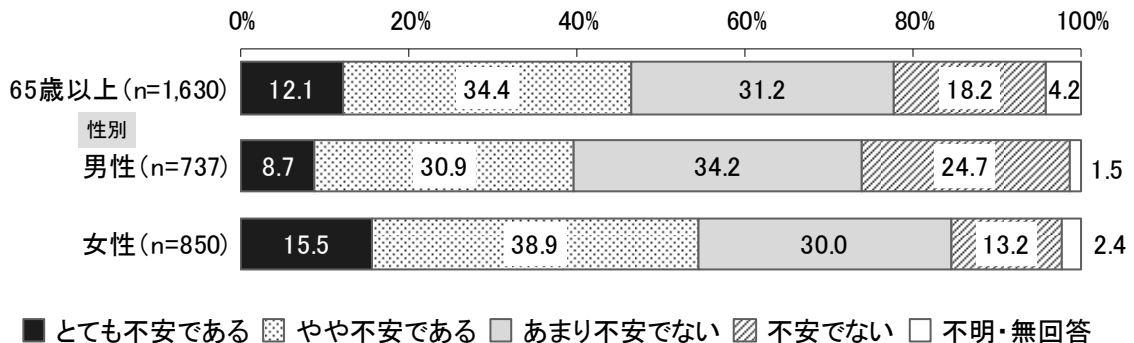
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『不安である』 … 「とても不安である」と「やや不安である」を合算

『不安でない』 … 「あまり不安でない」と「不安でない」を合算

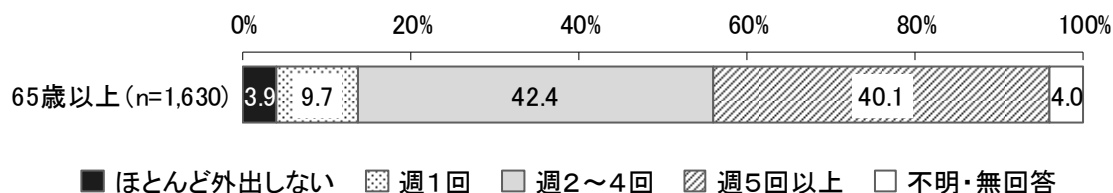
転倒に対する不安について、『不安でない』が49.4%、『不安である』が46.5%となっています。

性別でみると、女性で『不安である』が54.4%と、男性と比べて14.8ポイント高くなっています。



問 15 週に1回以上は外出していますか。(単数回答)

外出について、「週2～4回」が42.4%と最も高く、次いで「週5回以上」が40.1%、「週1回」が9.7%となっています。



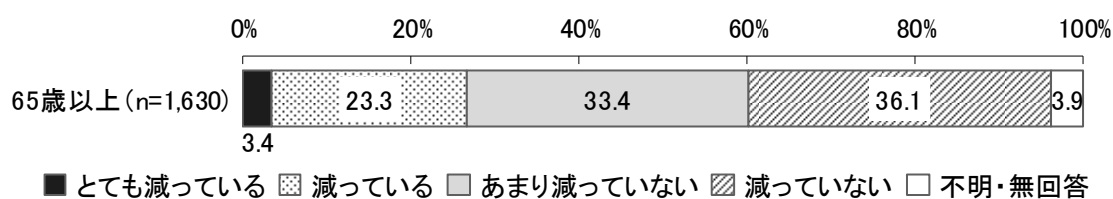
問 16 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『減っている』 … 「とても減っている」と「減っている」を合算

『減っていない』 … 「あまり減っていない」と「減っていない」を合算

外出の回数について、『減っていない』が69.5%、『減っている』が26.7%となっています。

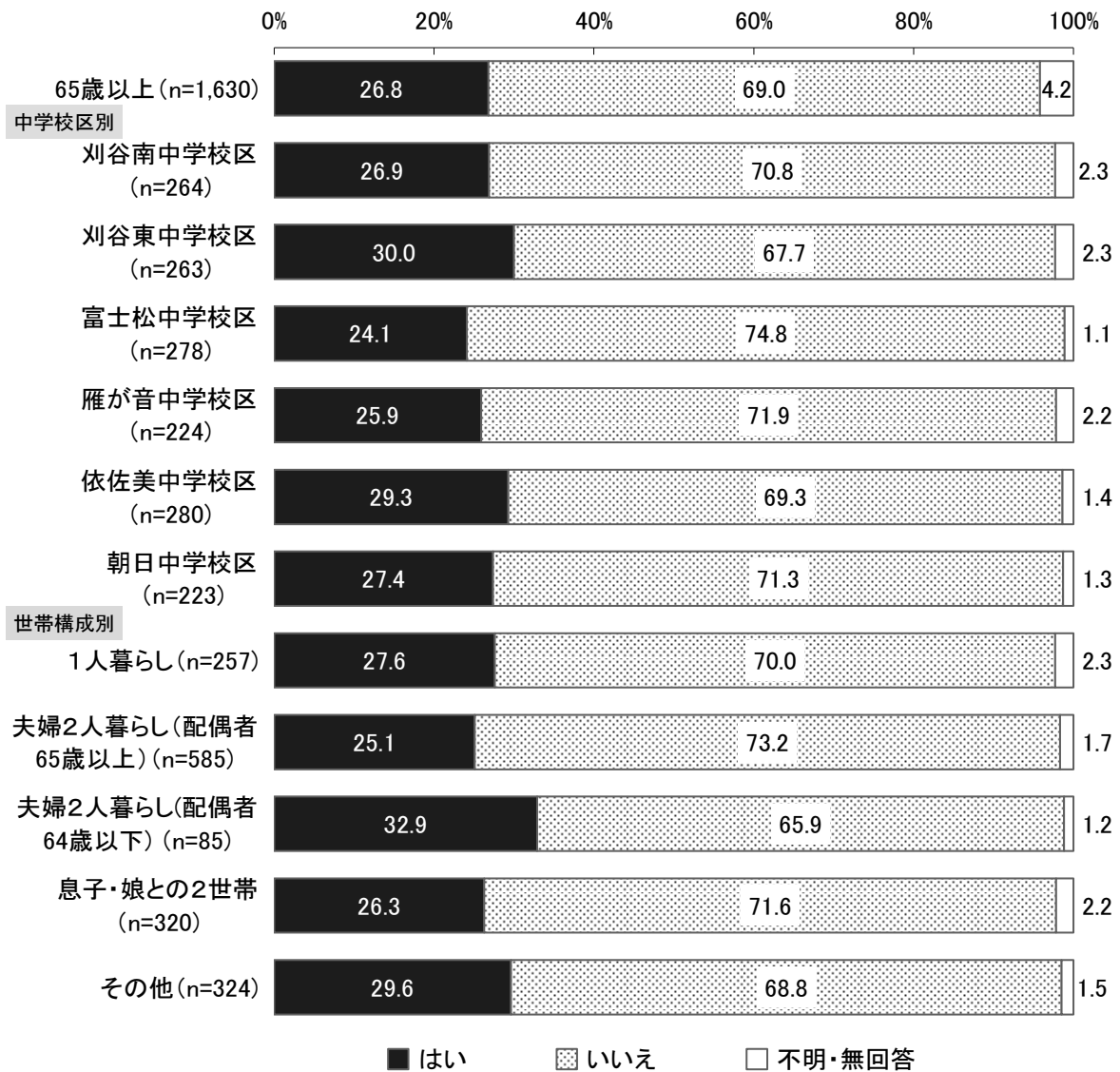


問 17 外出を控えていますか。(単数回答)

外出を控えているかについて、「いいえ」が69.0%、「はい」が26.8%となっています。

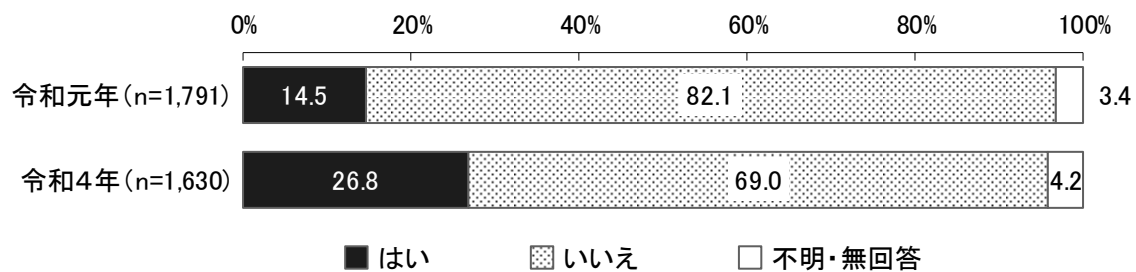
中学校区別でみると、刈谷東、依佐美の各中学校区で「はい」がそれぞれ約3割と、他の中学校区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)で「はい」が32.9%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、「はい」が令和元年と比べて12.3ポイント高くなっています。



<外出を控えている方のみ>

問 18 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数回答)

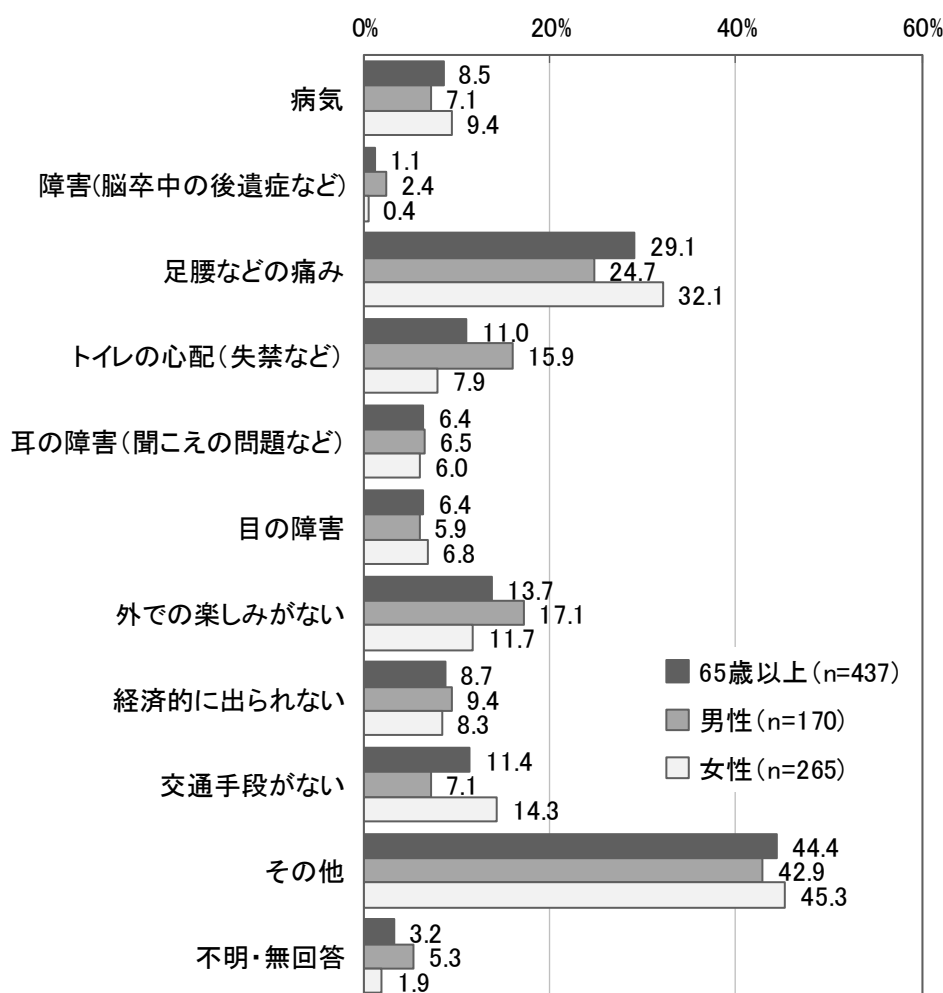
外出を控えている理由について、「その他」が 44.4%と最も高く、次いで「足腰などの痛み」が 29.1%、「外での楽しみがない」が 13.7%となっています。なお、「その他」の内容 185 件中 168 件 (90.1%) はコロナウイルスへの感染予防が主となっています。

性別でみると、女性で「足腰などの痛み」が 32.1%と、男性と比べて 7.4 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、85 歳以上で「足腰などの痛み」がそれぞれ 4 割を超えて高くなっています。80 歳以上では「トイレの心配 (失禁など)」が、90 歳以上で「目の障害」が、それぞれ高くなる傾向にあります。

中学校区別でみると、雁が音中学校区で「交通手段がない」が他の中学校区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、1 人暮らしやその他の世帯で「交通手段がない」がそれぞれ約 16%と、その他の世帯構成と比べて高くなっています。



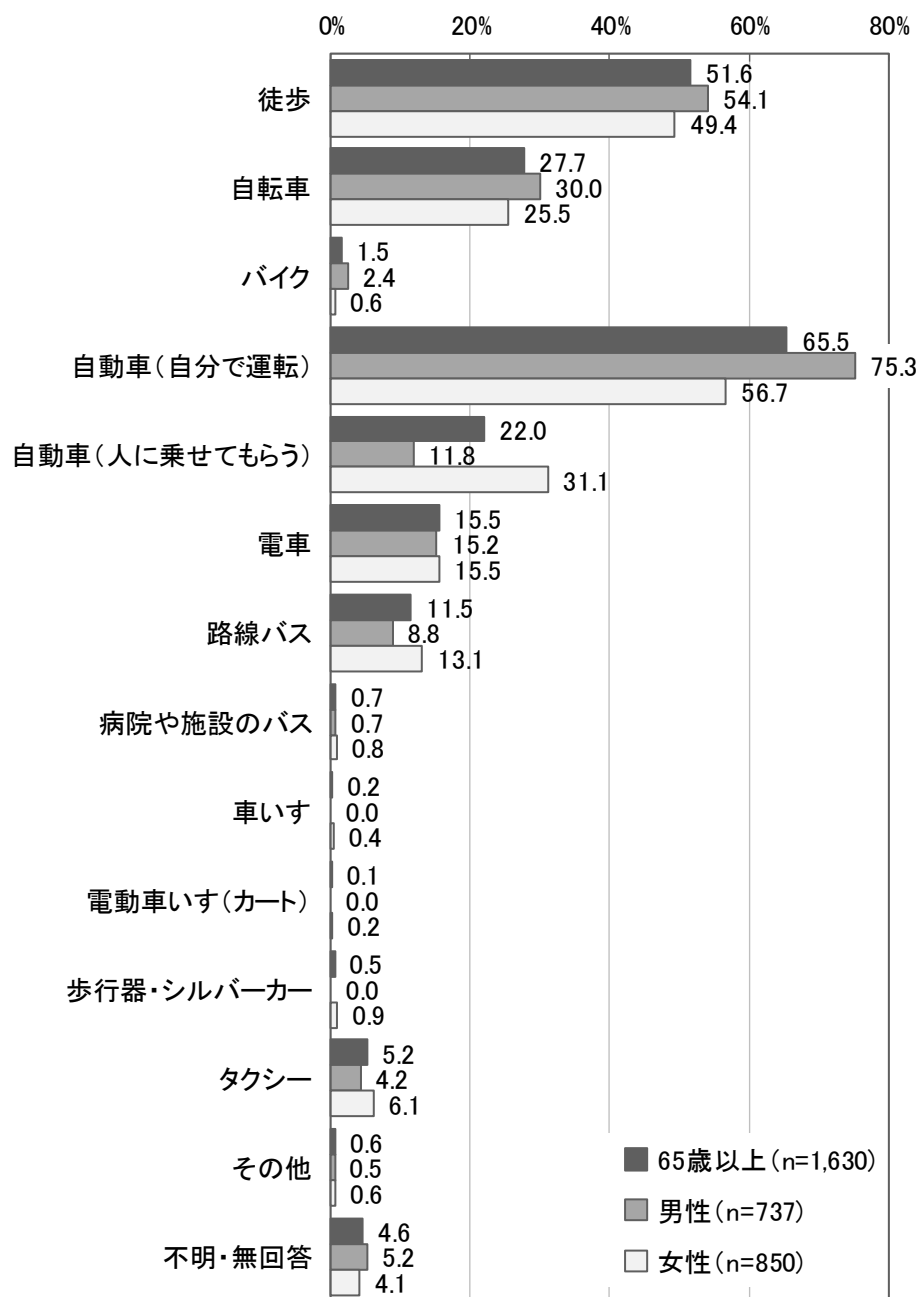
■年齢別・中学校区別・世帯構成別

(単位: %)	n=	病気	障害(脳卒中の後遺症など)	足腰などの痛み	トイレの心配(失禁など)	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	不明・無回答
年齢別												
65～69 歳	77	11.7	0.0	16.9	5.2	2.6	7.8	15.6	6.5	3.9	57.1	1.3
70～74 歳	121	9.1	1.7	20.7	9.9	2.5	2.5	14.0	10.7	6.6	52.9	4.1
75～79 歳	86	9.3	1.2	33.7	9.3	7.0	5.8	10.5	9.3	11.6	44.2	4.7
80～84 歳	78	6.4	0.0	32.1	17.9	11.5	9.0	11.5	10.3	20.5	41.0	0.0
85～89 歳	52	7.7	1.9	42.3	13.5	7.7	3.8	17.3	5.8	15.4	25.0	3.8
90 歳以上	23	0.0	4.3	56.5	13.0	17.4	21.7	17.4	4.3	21.7	13.0	8.7
中学校区別												
刈谷南	71	7.0	2.8	25.4	8.5	9.9	12.7	16.9	11.3	12.7	45.1	4.2
刈谷東	79	6.3	0.0	31.6	11.4	5.1	2.5	12.7	10.1	12.7	44.3	3.8
富士松	67	9.0	0.0	34.3	13.4	7.5	9.0	16.4	6.0	6.0	31.3	3.0
雁が音	58	15.5	0.0	29.3	10.3	3.4	5.2	10.3	12.1	17.2	46.6	0.0
依佐美	82	6.1	2.4	24.4	14.6	4.9	6.1	13.4	7.3	12.2	52.4	3.7
朝日	61	11.5	1.6	27.9	4.9	4.9	1.6	8.2	4.9	8.2	47.5	1.6
世帯構成別												
1人暮らし	71	9.9	0.0	43.7	9.9	9.9	9.9	18.3	11.3	15.5	31.0	2.8
夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)	147	8.8	0.0	23.8	10.9	6.1	4.8	11.6	6.1	8.8	51.7	2.7
夫婦2人暮らし(配偶者 64 歳以下)	28	10.7	3.6	17.9	3.6	7.1	0.0	17.9	10.7	7.1	39.3	7.1
息子・娘との2世帯	84	8.3	3.6	29.8	14.3	9.5	7.1	13.1	6.0	10.7	41.7	2.4
その他	96	7.3	1.0	28.1	10.4	2.1	8.3	14.6	12.5	15.6	47.9	3.1

問 19 外出する際の移動手段は何ですか。(複数回答)

外出時の移動手段について、「自動車（自分で運転）」が 65.5%と最も高く、次いで「徒歩」が 51.6%、「自転車」が 27.7%となっています。

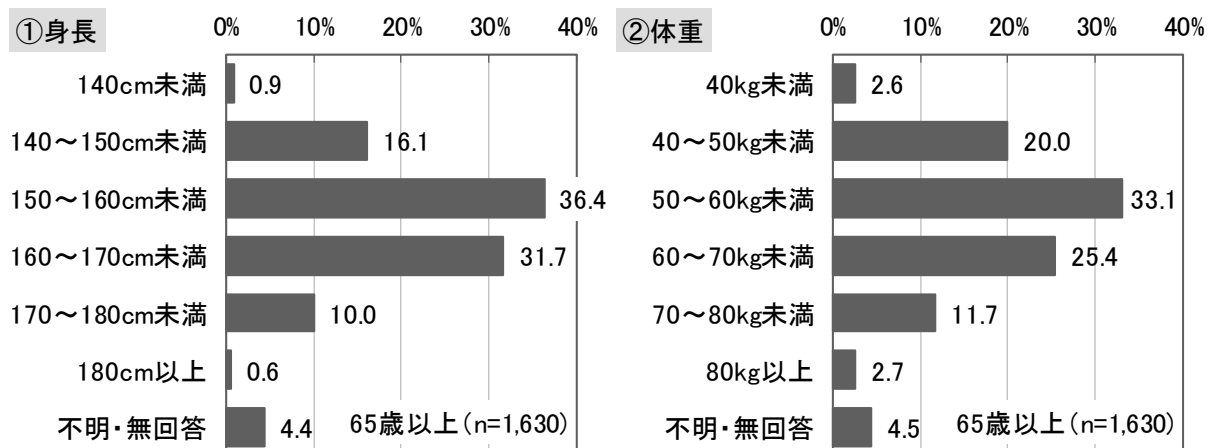
性別でみると、男性は「自動車（自分で運転）」が 75.3%と女性と比べて 18.6 ポイント、女性は「自動車（人に乗せてもらう）」が 31.1%と男性と比べて 19.3 ポイント、それぞれ高くなっています。



3 食べることについて

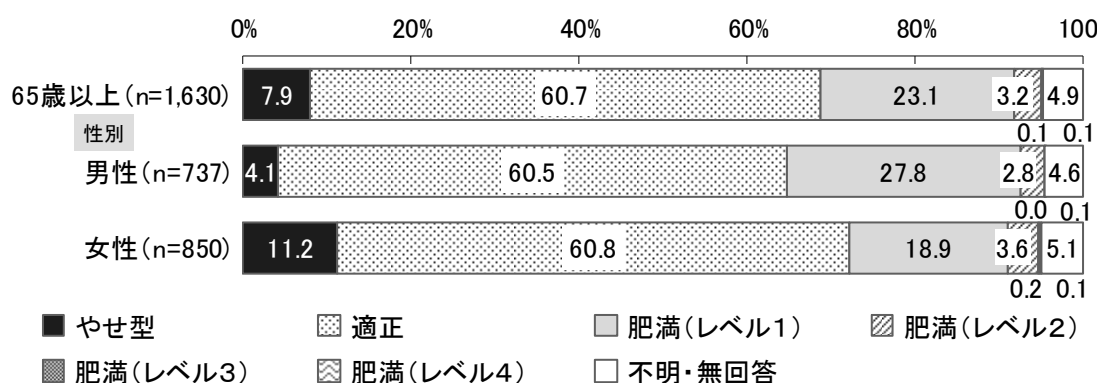
問20 身長、体重はいくつですか。(数量回答)

身長は「150～160cm未満」が36.4%、体重は「50～60kg未満」が33.1%と、それぞれ最も高くなっています。



■ BMI 値

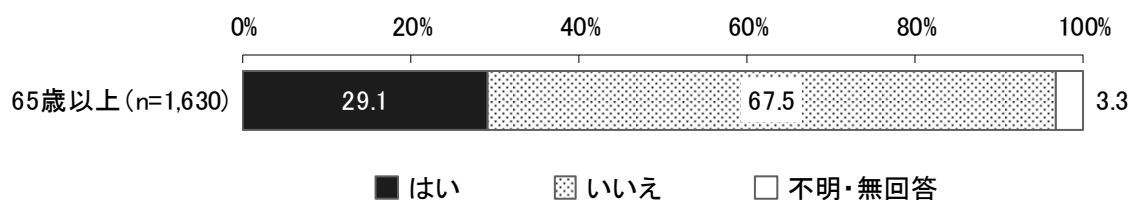
BMI 値について、性別でみると、男女ともに「適正」が6割以上と最も高くなっています。一方、「やせ型」は、女性で11.2%、男性で4.1%となっています。



算出式	区分	BMI
体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))	やせ型	18.5 未満
	適正	18.5～24.9
	肥満 (レベル1)	25.0～29.9
	肥満 (レベル2)	30.0～34.9
	肥満 (レベル3)	35.0～39.9
	肥満 (レベル4)	40.0 以上

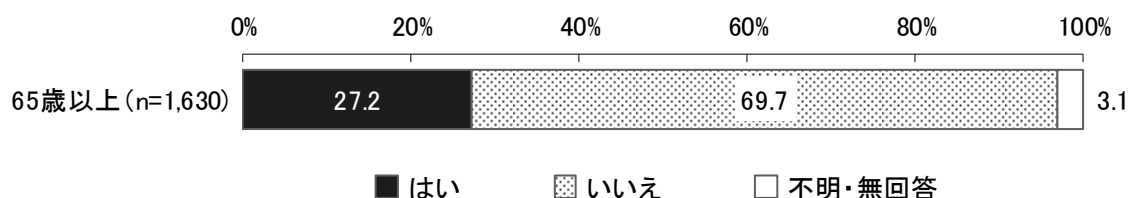
問 21 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(単数回答)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて、「いいえ」が 67.5%、「はい」が 29.1%となっています。



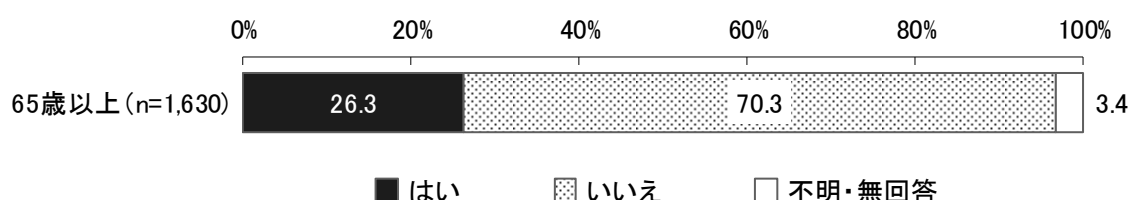
問 22 お茶や汁物などでむせることがありますか。(単数回答)

汁物等でむせることがあるかについて、「いいえ」が 69.7% 「はい」が 27.2%となっています。



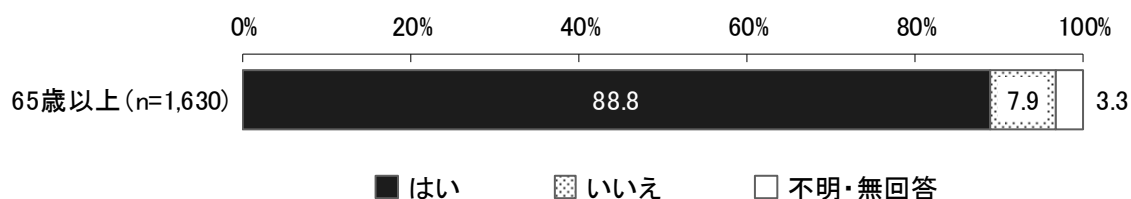
問 23 口の渇きが気になりますか。(単数回答)

口の渇きが気になるかについて、「いいえ」が 70.3%、「はい」が 26.3%となっています。



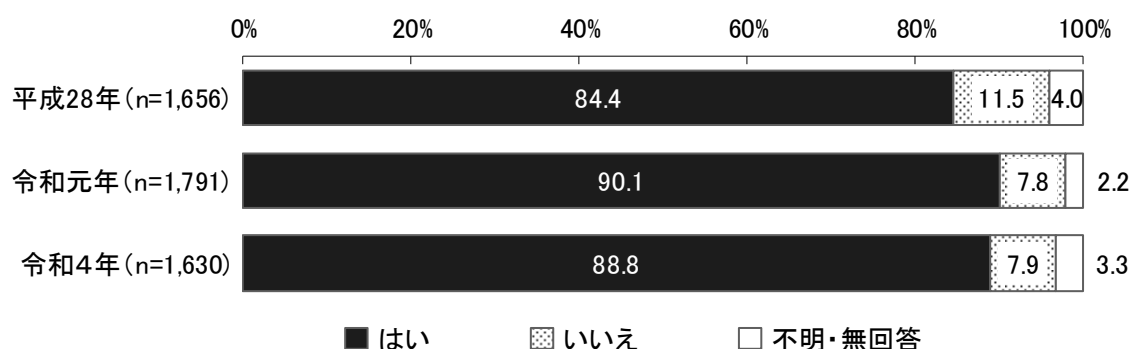
問 24 歯みがき（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。(単数回答)

歯みがきを毎日しているかについて、「はい」が 88.8%、「いいえ」が 7.9%となっています。



■ 経年変化

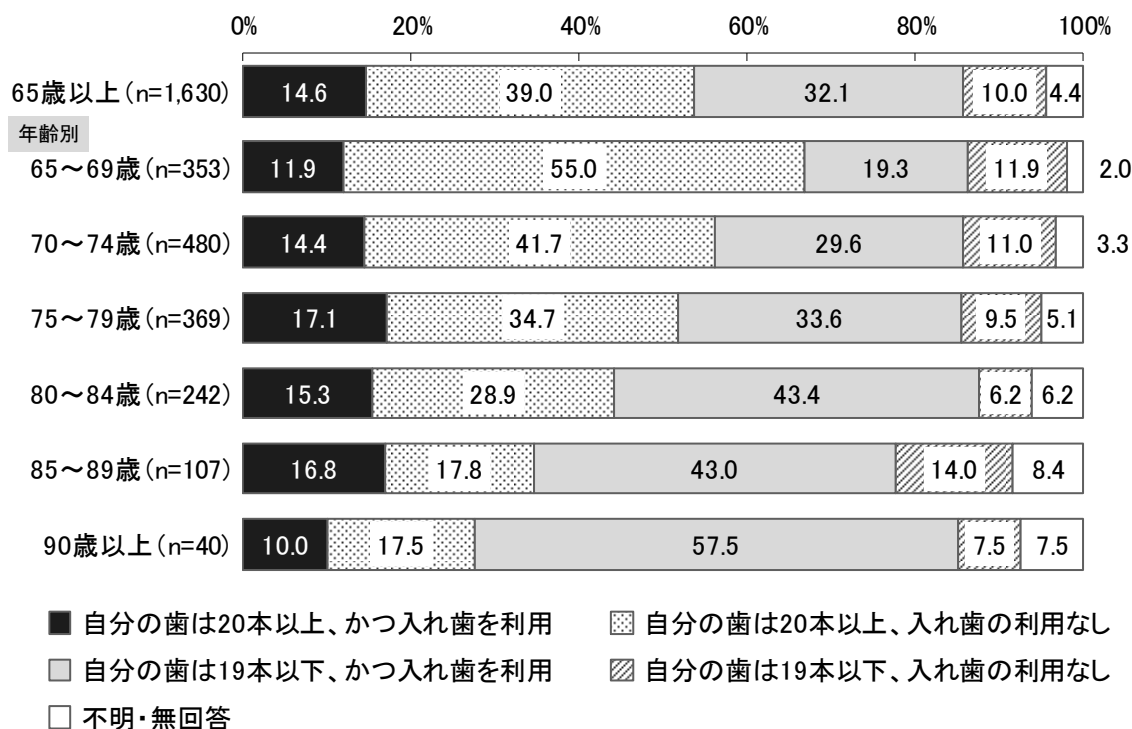
経年でみると、「はい」が令和元年以降9割前後で推移しています。



問 25 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(単数回答)

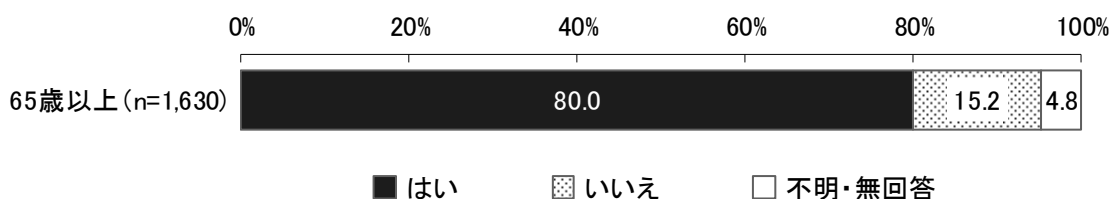
歯の数と入れ歯の利用状況について、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が39.0%と最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が32.1%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が14.6%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が高くなっています。



問 26 噛み合わせは良いですか。(単数回答)

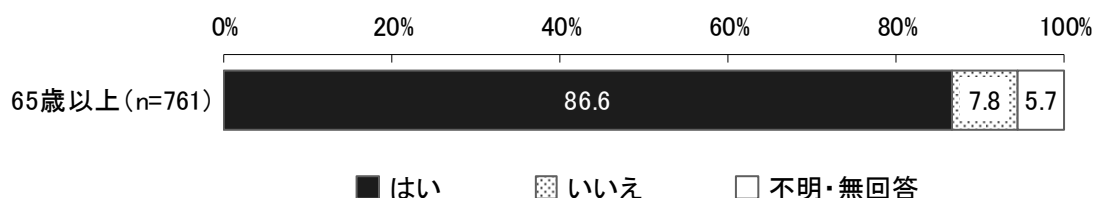
噛み合わせが良いかについて、「はい」が80.0%、「いいえ」が15.2%となっています。



<入れ歯を利用している方のみ>

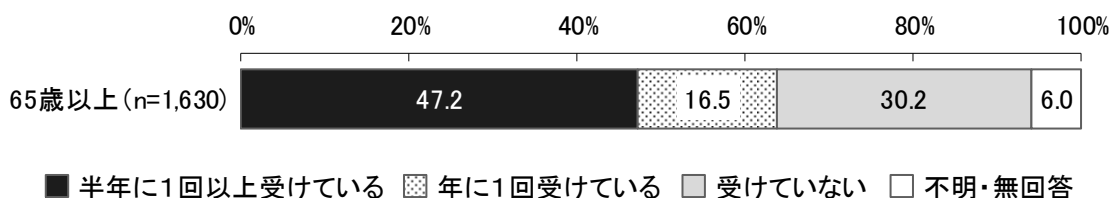
問 27 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(単数回答)

毎日入れ歯の手入れをしているかについて、「はい」が86.6%、「いいえ」が7.8%となっています。



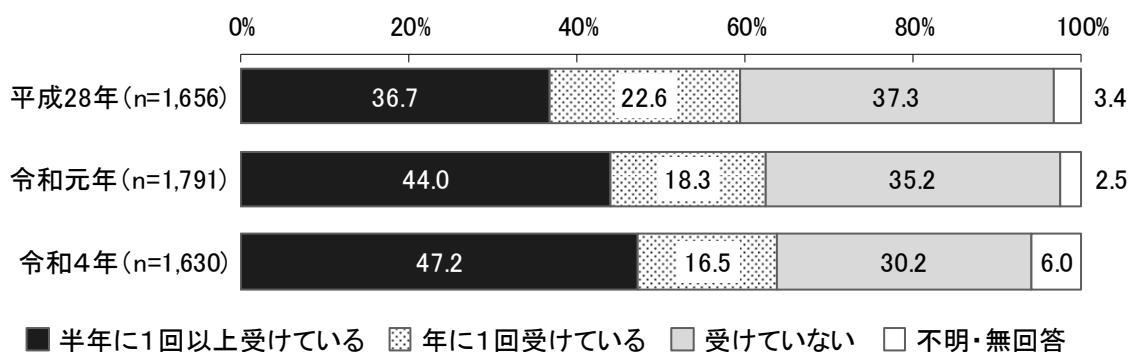
問 28 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。(単数回答)

定期的な歯科受診について、「半年に1回以上受けている」が47.2%、「受けていない」が30.2%、「年に1回受けている」が16.5%となっています。



経年変化

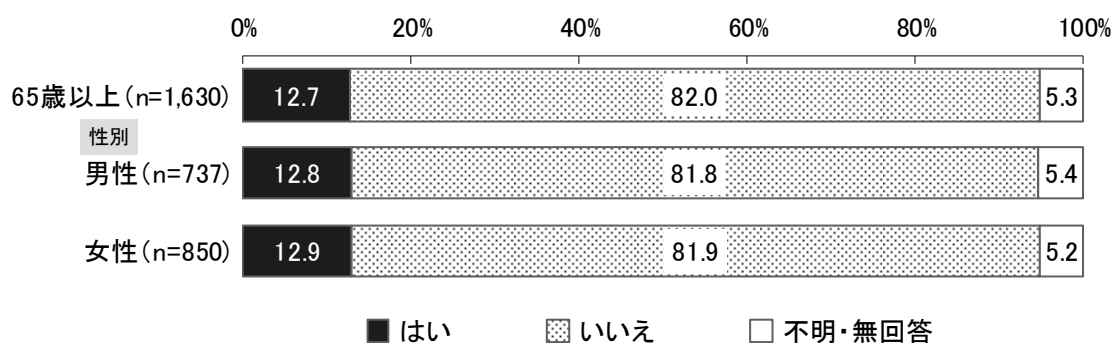
経年でみると、平成28年以降、「半年に1回以上受けている」が高くなっています。



問 29 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(単数回答)

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについて、「いいえ」が82.0%、「はい」が12.7%となっています。

性別でみると、大差はみられません。

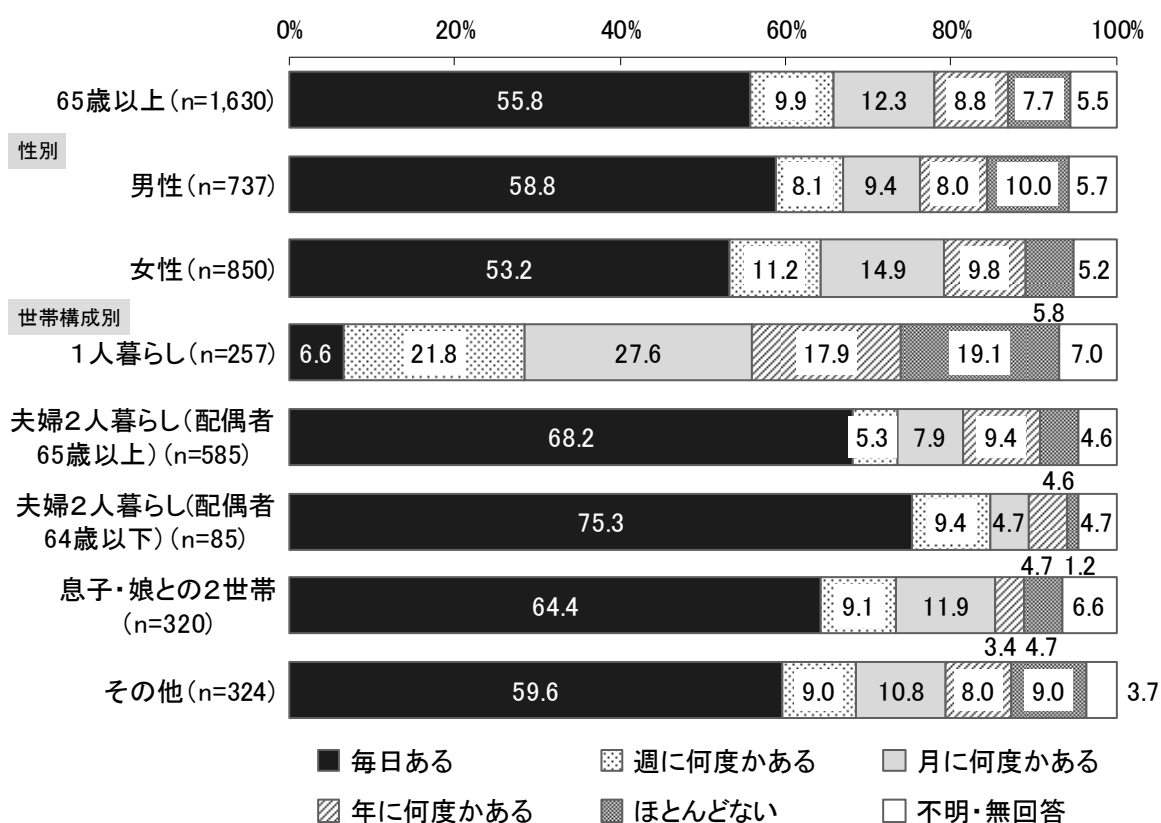


問 30 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(単数回答)

食事をとにもする機会について、「毎日ある」が55.8%と最も高く、次いで「月に何度かある」が12.3%、「週に何度かある」が9.9%となっています。

性別でみると、男性で「ほとんどない」が10.0%と、女性に比べてやや高くなっています。

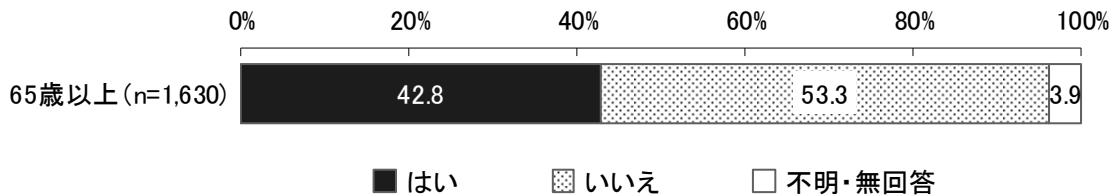
世帯構成別でみると、1人暮らしで「ほとんどない」が19.1%となっており、他の世帯構成と比べても高くなっています。



4 毎日の生活について

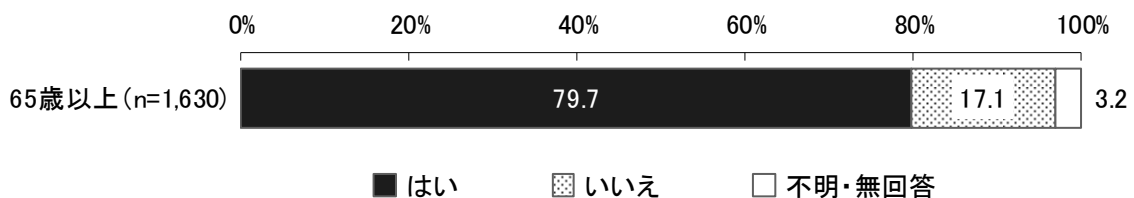
問 31 物忘れが多いと感じますか。(単数回答)

物忘れが多いかについて、「いいえ」が 53.3%、「はい」が 42.8%となっています。



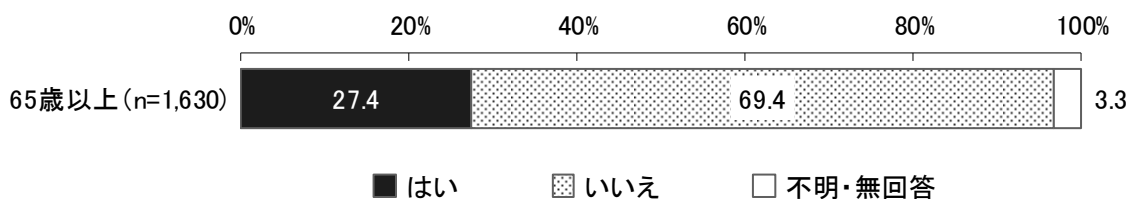
問 32 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(単数回答)

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについて、「はい」が 79.7%、「いいえ」が 17.1%となっています。



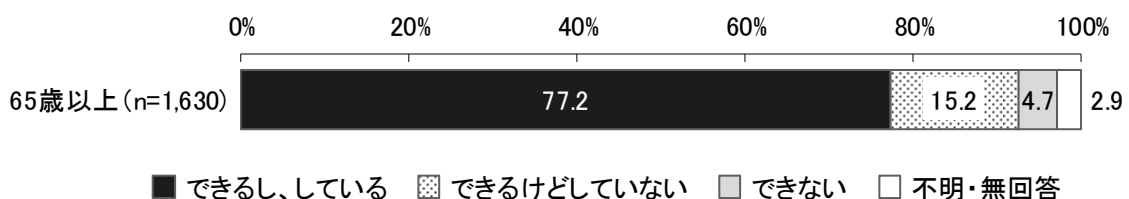
問 33 今日が何月何日かわからない時がありますか。(単数回答)

今日の日付がわからない時があるかについて、「いいえ」が 69.4%、「はい」が 27.4%となっています。



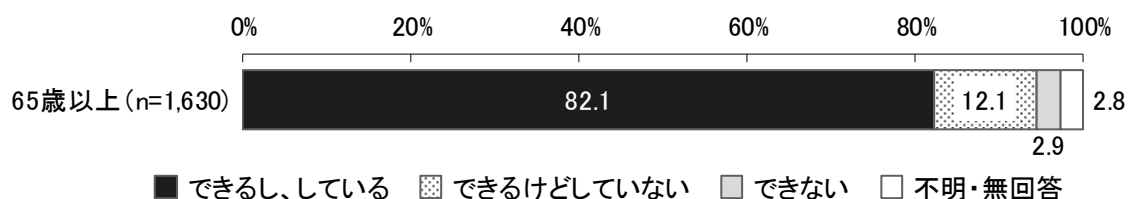
問 34 バスや電車を使って一人で外出していますか (自家用車でも可)。(単数回答)

乗り物を使って一人で外出しているかについて、「できるし、している」が 77.2%、「できるけどしてない」が 15.2%、「できない」が 4.7%となっています。



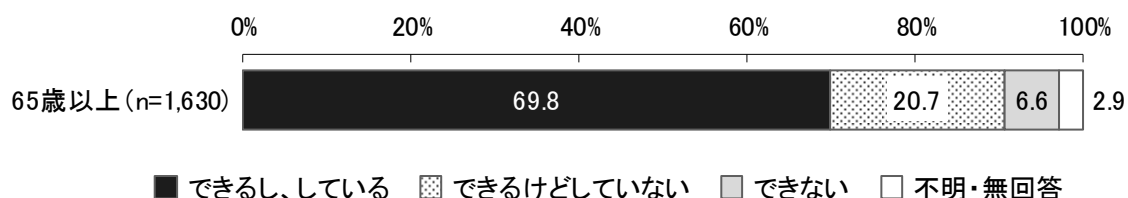
問 35 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(単数回答)

自分で食品等の買物をしているかについて、「できるし、している」が82.1%、「できるけどしていない」が12.1%、「できない」が2.9%となっています。



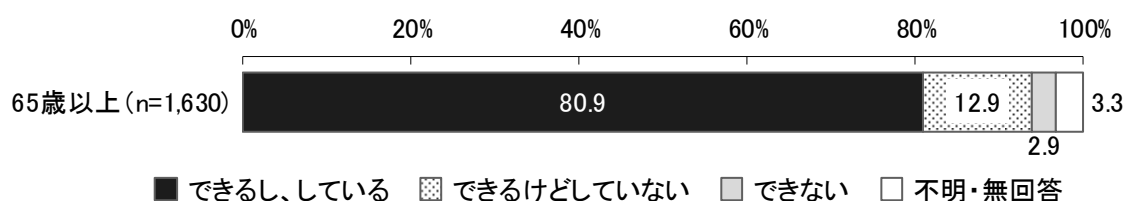
問 36 自分で食事の用意をしていますか。(単数回答)

自分で食事の用意をしているかについて、「できるし、している」が69.8%、「できるけどしていない」が20.7%、「できない」が6.6%となっています。



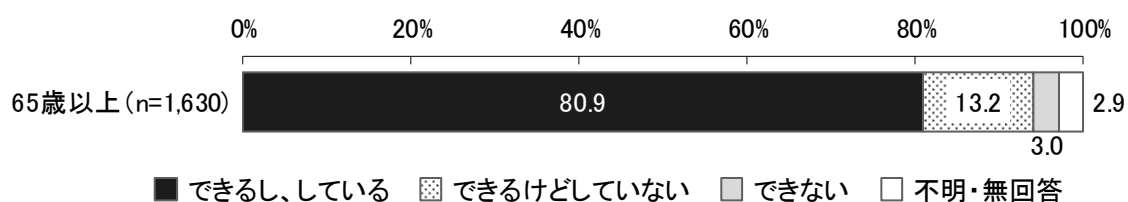
問 37 自分で請求書の支払いをしていますか。(単数回答)

自分で請求書の支払いをしているかについて、「できるし、している」が80.9%、「できるけどしていない」が12.9%、「できない」が2.9%となっています。



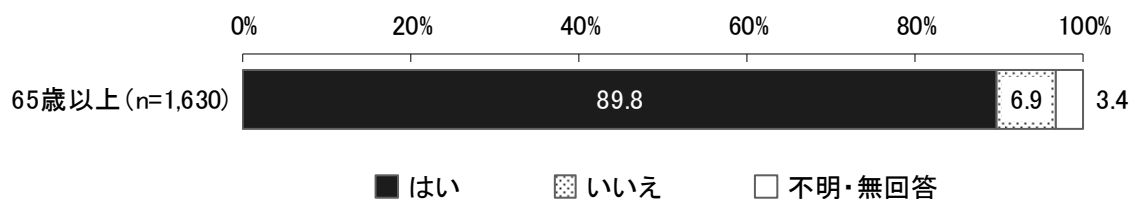
問 38 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(単数回答)

自分で預貯金の出し入れをしているかについて、「できるし、している」が80.9%、「できるけどしていない」が13.2%、「できない」が3.0%となっています。



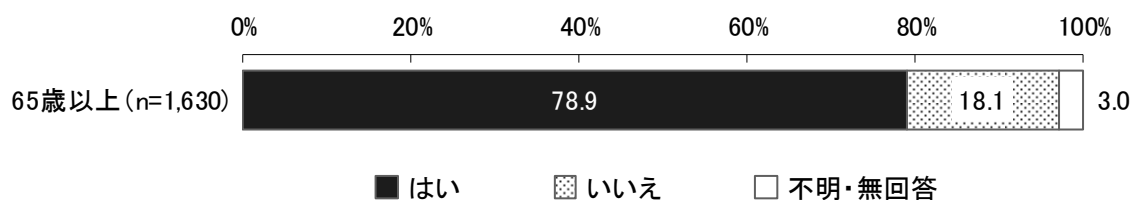
問 39 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(単数回答)

年金などの書類が書けるかについて、「はい」が89.8%、「いいえ」が6.9%となっています。



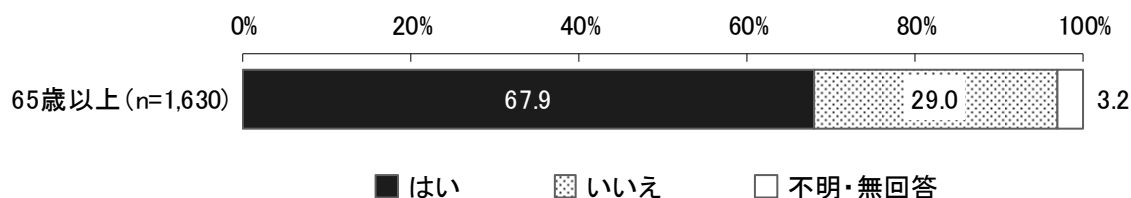
問 40 新聞を読んでいますか。(単数回答)

新聞を読んでいるかについて、「はい」が78.9%、「いいえ」が18.1%となっています。



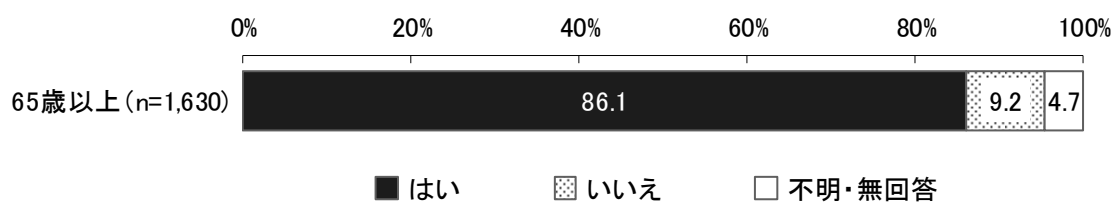
問 41 本や雑誌を読んでいますか。(単数回答)

本や雑誌を読んでいるかについて、「はい」が67.9%、「いいえ」が29.0%となっています。



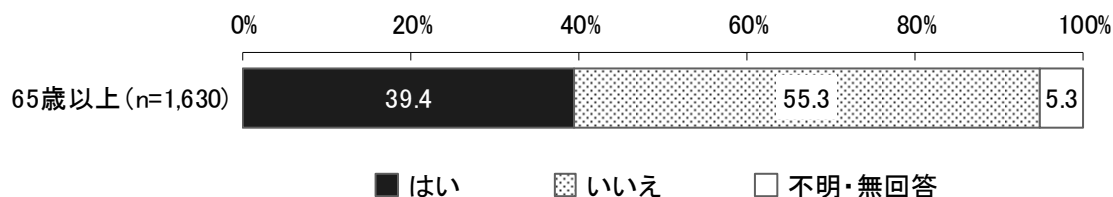
問 42 健康についての記事や番組に関心がありますか。(単数回答)

健康についての記事等に関心があるかについて、「はい」が86.1%、「いいえ」が9.2%となっています。



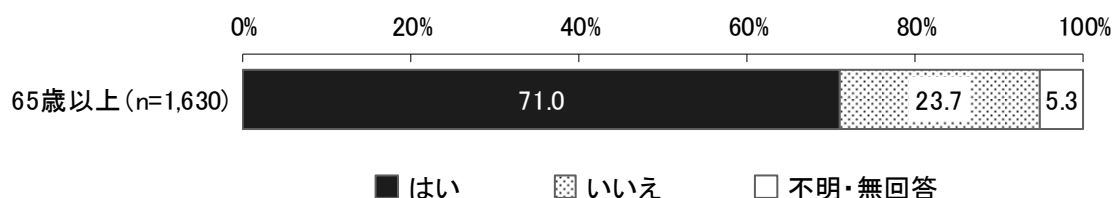
問 43 友人の家を訪ねていますか。(単数回答)

友人の家を訪問しているかについて、「いいえ」が55.3%、「はい」が39.4%となっています。



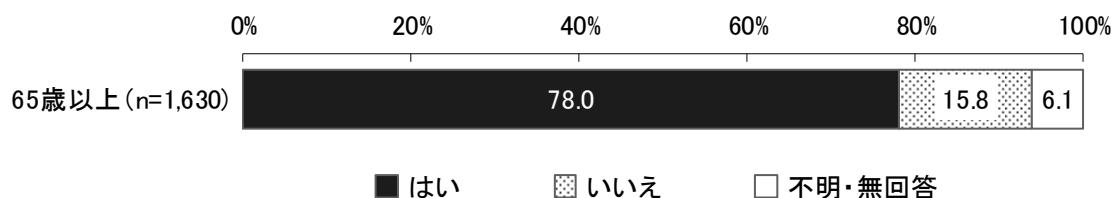
問 44 家族や友人の相談にのっていますか。(単数回答)

家族や友人の相談にのっているかについて、「はい」が71.0%、「いいえ」が23.7%となっています。



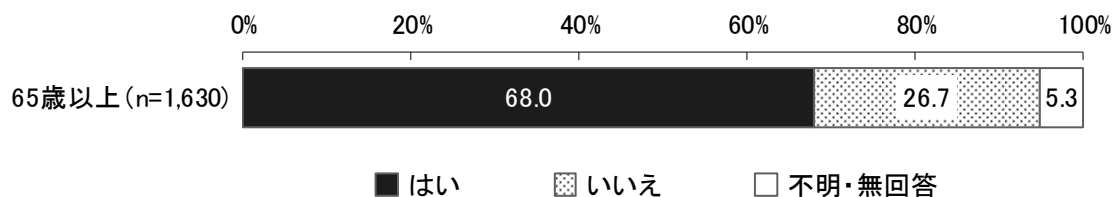
問 45 病人を見舞うことができますか。(単数回答)

病人を見舞うことができるかについて、「はい」が78.0%、「いいえ」が15.8%となっています。



問 46 若い人に自分から話しかけることがありますか。(単数回答)

若い人に自分から話しかけることがあるかについて、「はい」が68.0%、「いいえ」が26.7%となっています。

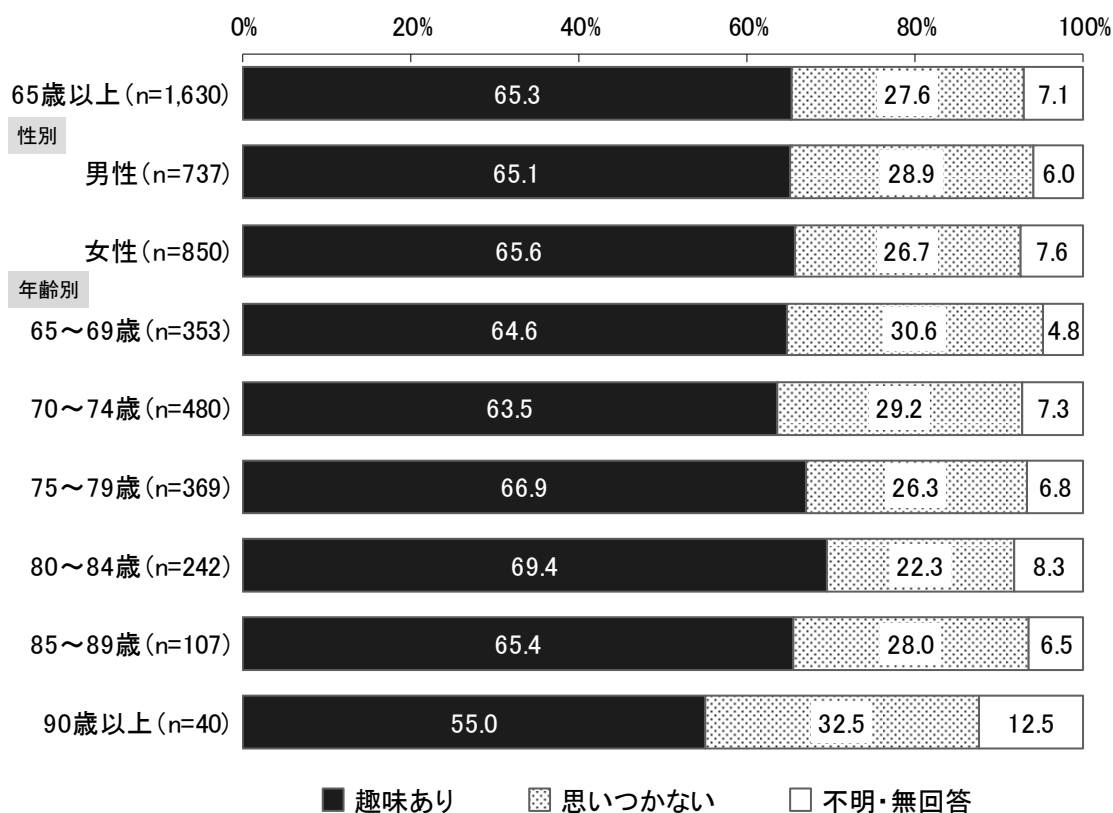


問 47 趣味はありますか。(単数回答)

趣味があるかについて、「趣味あり」が 65.3%、「思いつかない」が 27.6%となっています。

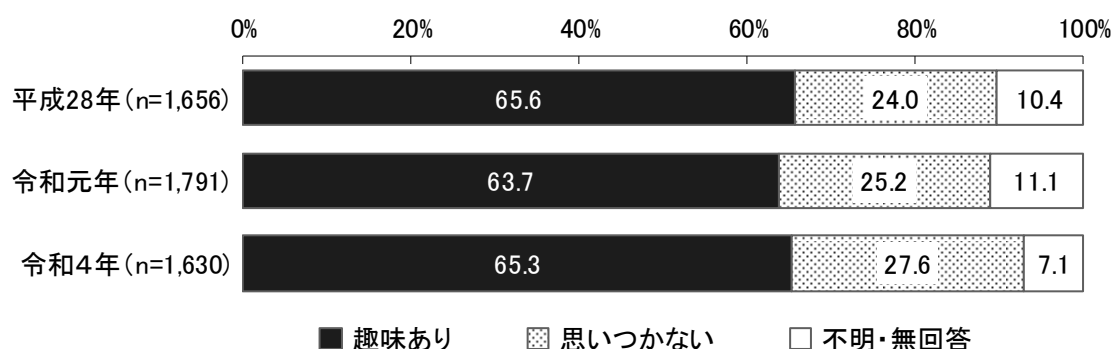
性別でみると、大きな差はみられません。

年齢別でみると、80～84 歳を除いた他の年齢では「思いつかない」がそれぞれ約 3 割となっています。



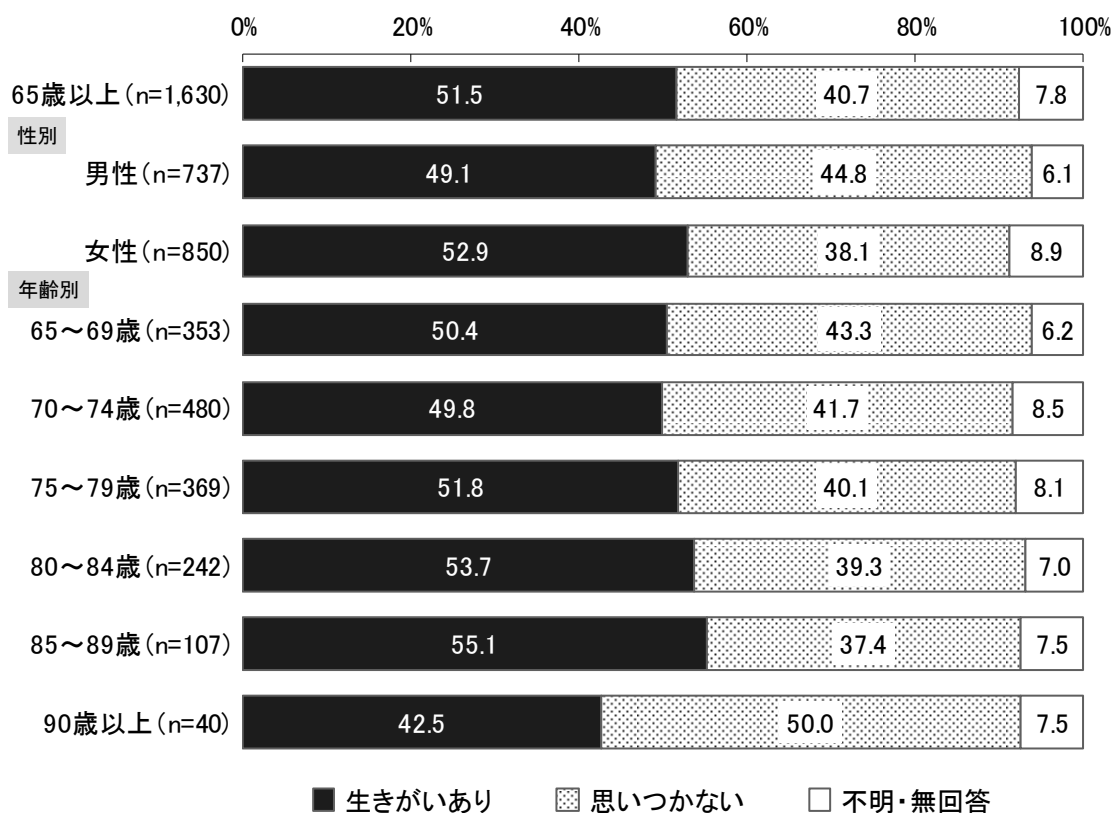
経年変化

経年でみると、平成 28 年以降、「趣味あり」は 6 割台で推移しています。



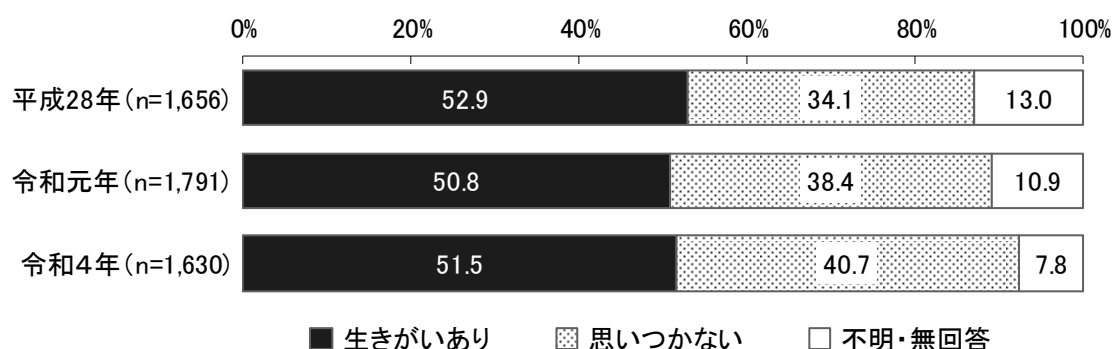
問 48 生きがいがありますか。(単数回答)

生きがいがあるかについて、「生きがいあり」が51.5%、「思いつかない」が40.7%となっています。
性別でみると、男性で「思いつかない」が44.8%と、女性と比べてやや高くなっています。
年齢別でみると、「思いつかない」が90歳以上で50.0%と、他の年代と比べて高くなっています。



経年変化

経年でみると、平成28年以降、「生きがいあり」は5割台で推移しています。



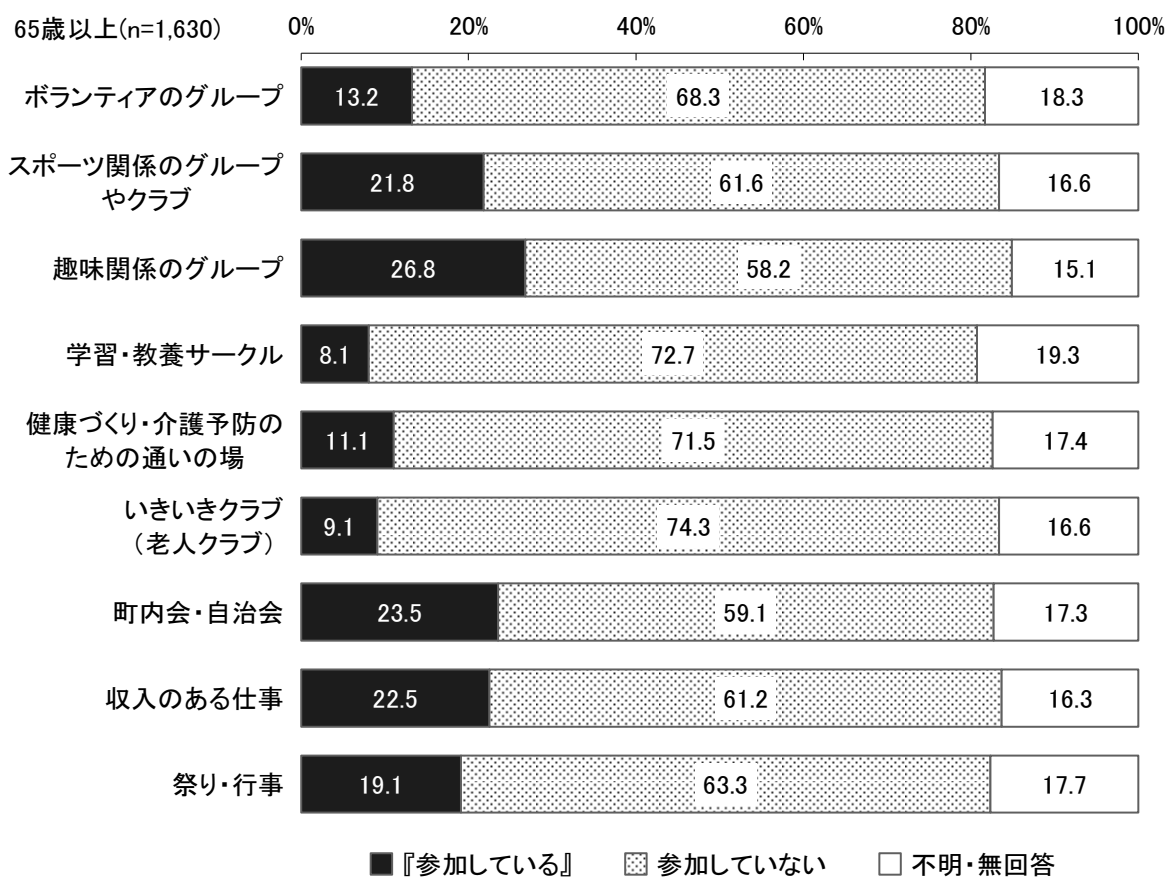
5 地域での活動について

問 49 以下のような会・グループなどにどのくらいの頻度で参加していますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

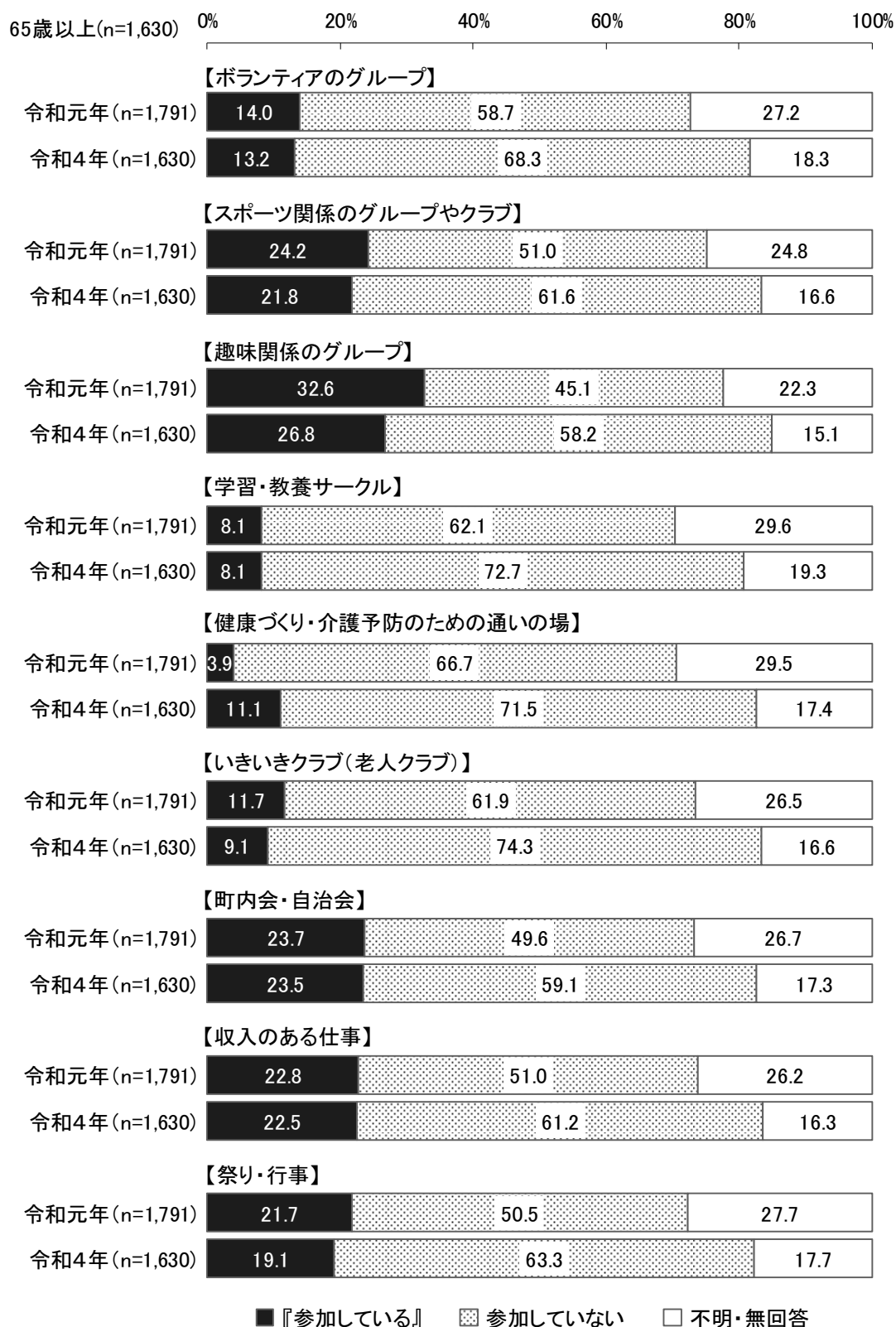
『参加している』 … 「週4回以上」と「週2～3回」と「週1回」と「月1～3回」と「年に数回」を合算

参加している会・グループなどについて、『参加している』が「趣味関係のグループ」「町内会・自治会」「収入のある仕事」「スポーツ関係のグループやクラブ」でそれぞれ2割を超えており、他の会・グループと比べて高くなっています。

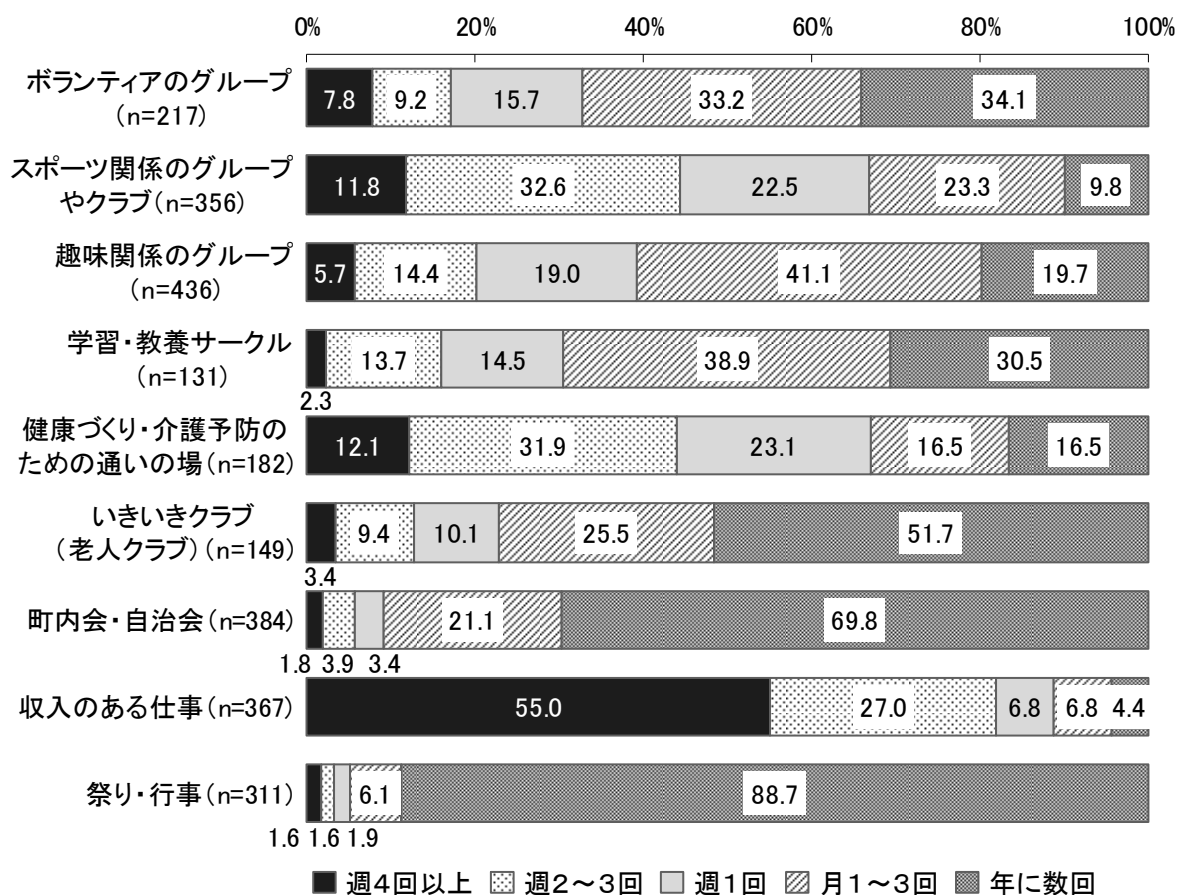


■ 経年変化

経年でみると、「健康づくり・介護予防のための通いの場」で『参加している』が令和元年と比べて7.3ポイント高くなっています。また、「趣味関係のグループ」は令和元年と比べて6.2ポイント低くなっているものの、その他の活動については多少の増減はあるものの、令和元年と比べて大きな変化はみられません。



■参加頻度 ※『参加している人』のみの集計



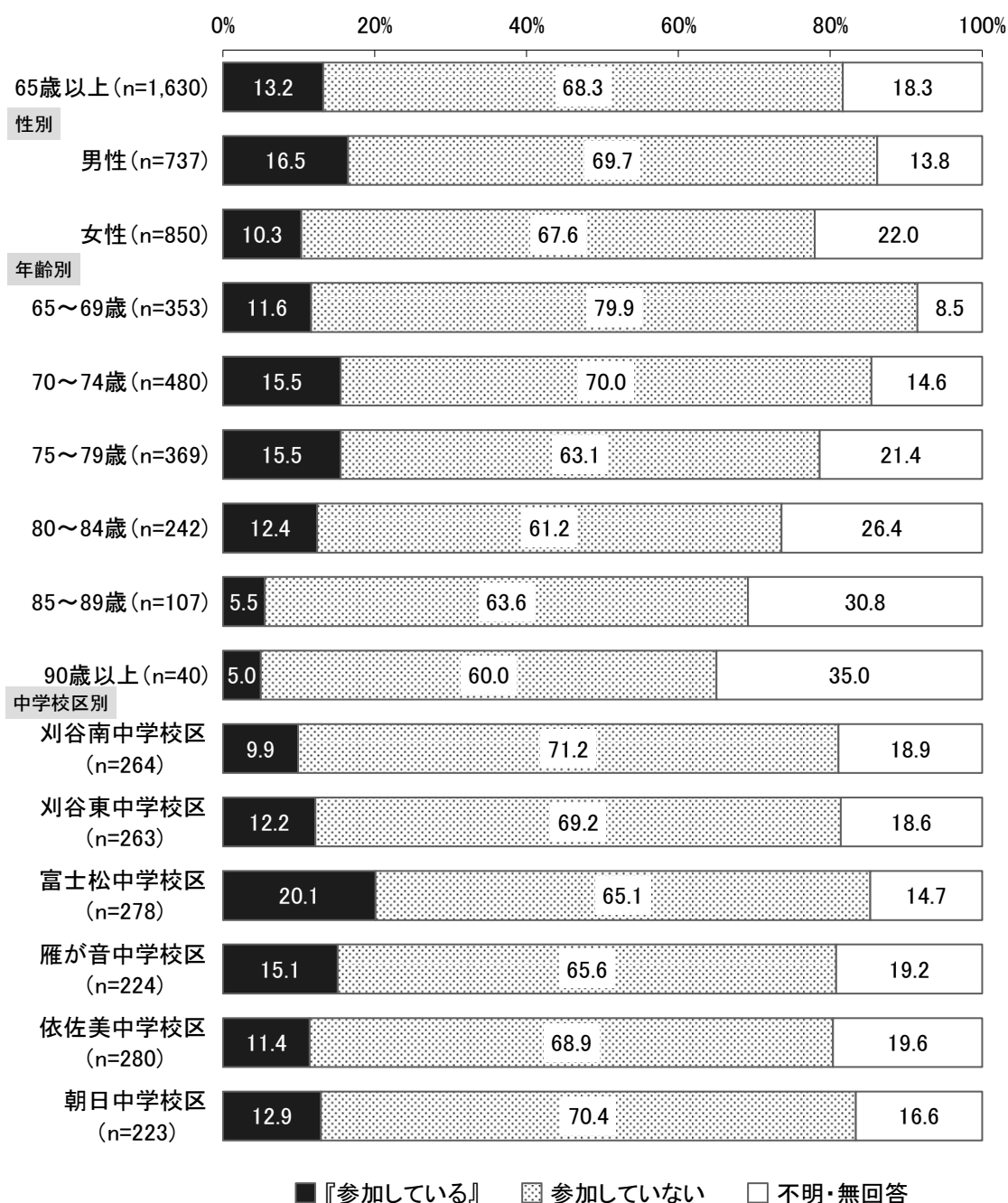
(1) ボランティアのグループ

ボランティアのグループについて、『参加している』は13.2%となっています。

性別でみると、『参加している』は男性で16.5%、女性で10.3%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は70歳代で15%台と、他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は富士松中学校区で20.1%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



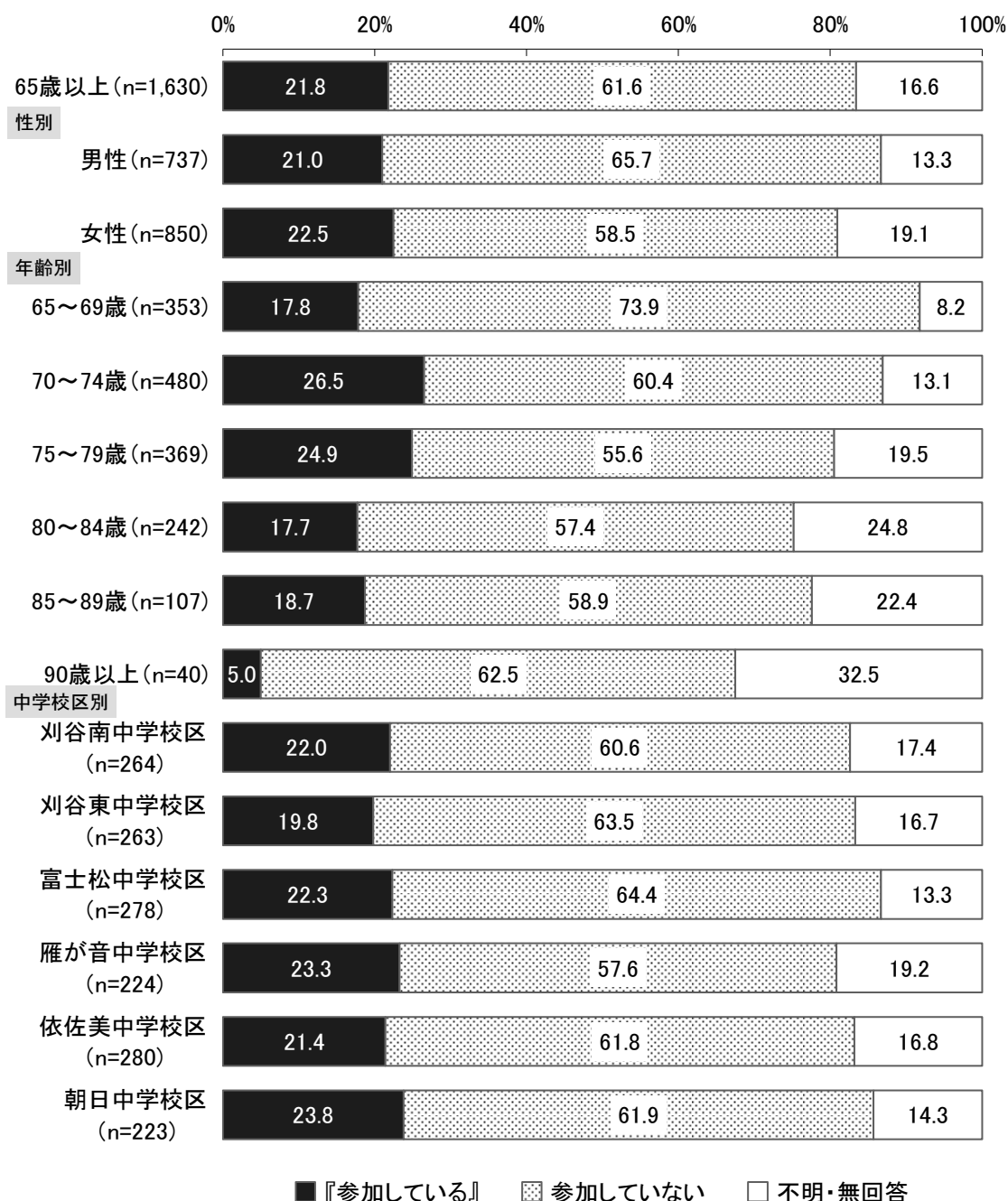
(2) スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブについて、『参加している』は21.8%となっています。

性別でみると、『参加している』は女性で22.5%、男性で21.0%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は70歳代で2割半ばと、他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』はいずれの中中学校区もそれぞれ2割前後となっています。



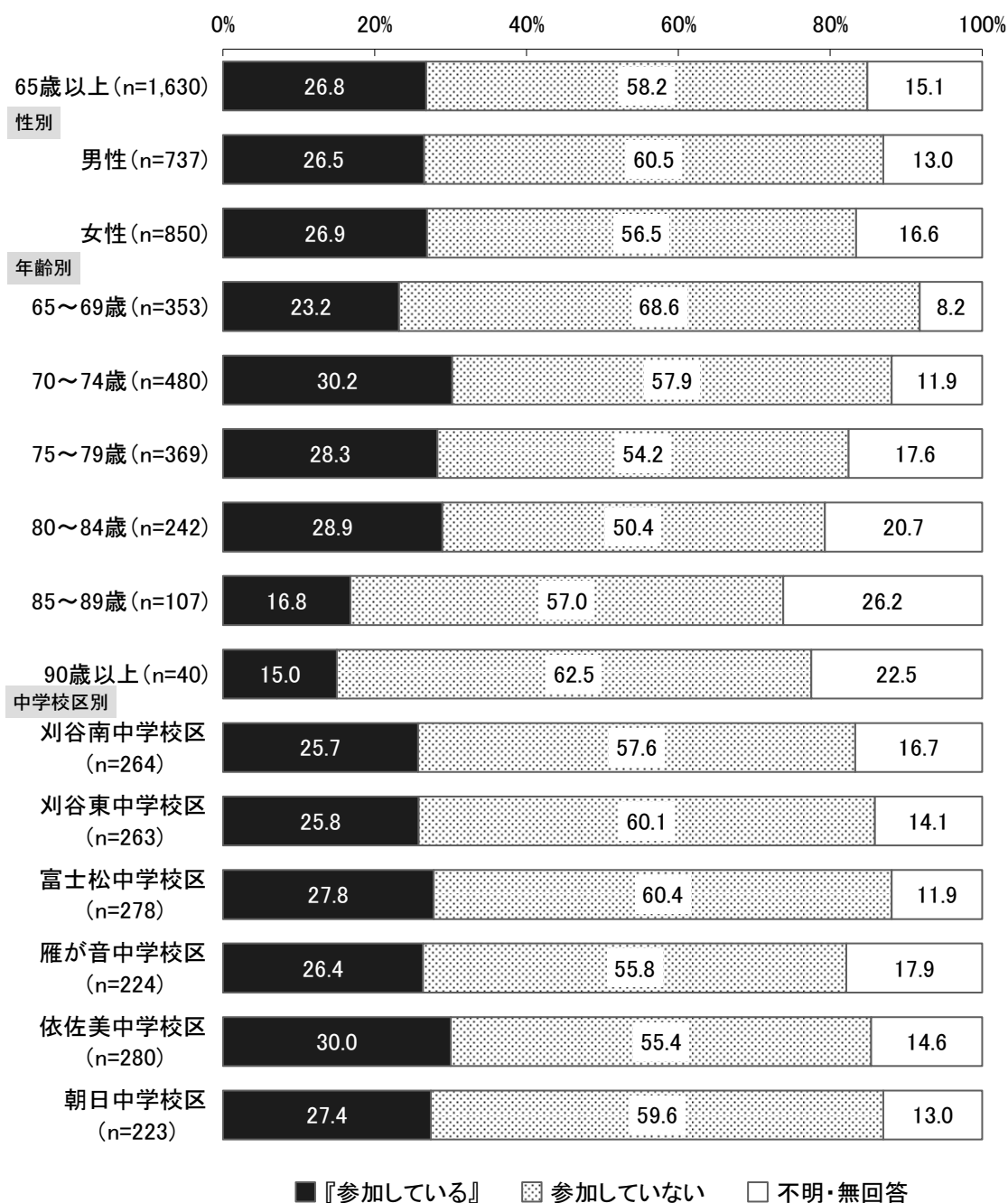
(3) 趣味関係のグループ

趣味関係のグループについて、『参加している』は26.8%となっています。

性別でみると、『参加している』は女性で26.9%、男性で26.5%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は70～84歳で3割前後と、他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』はいずれの中中学校区もそれぞれ3割前後となっています。



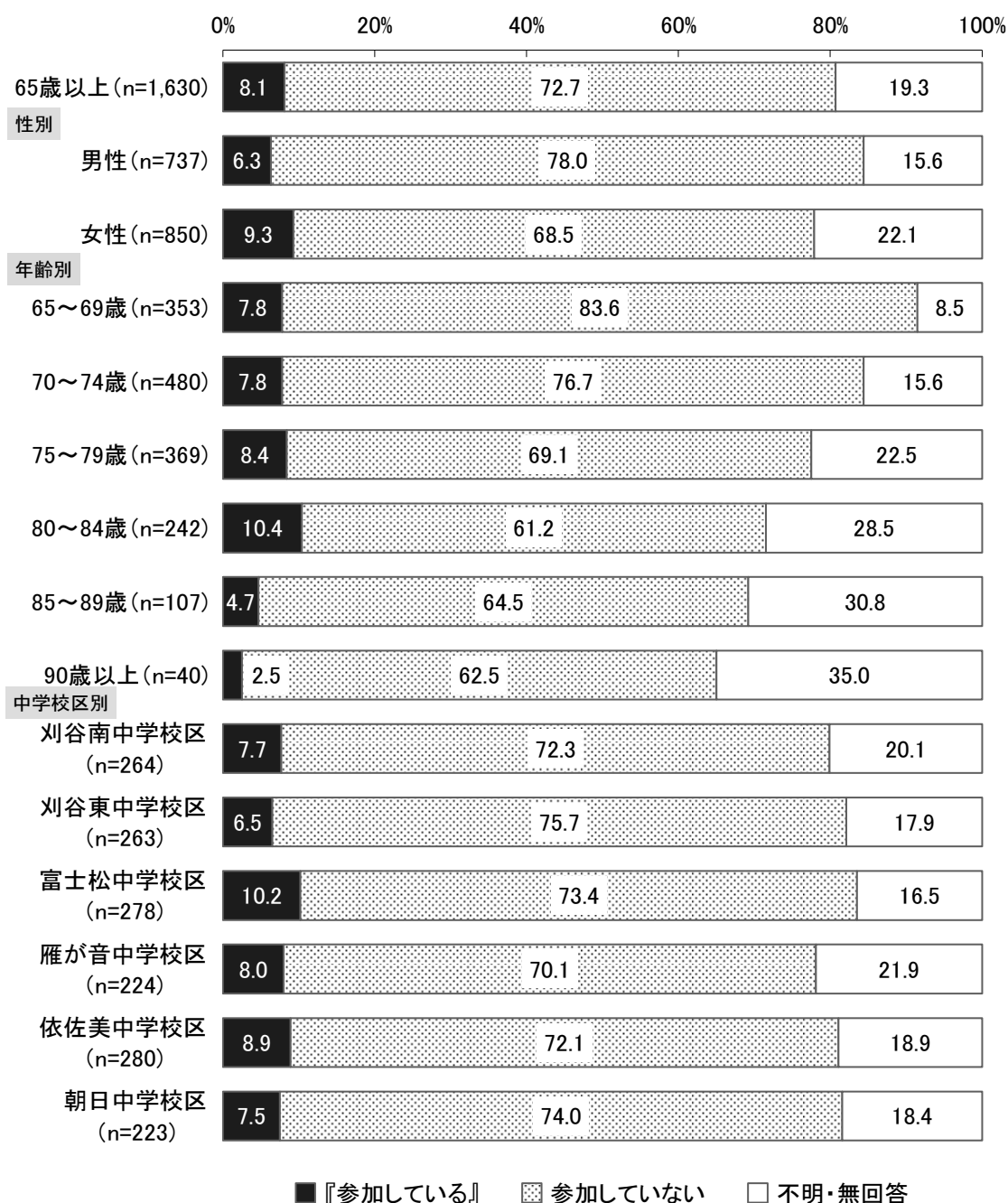
(4) 学習・教養サークル

学習・教養サークルについて、『参加している』は8.1%となっています。

性別でみると、『参加している』は女性で9.3%、男性で6.3%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は75～84歳で1割前後と、他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は富士松中学校区で10.2%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



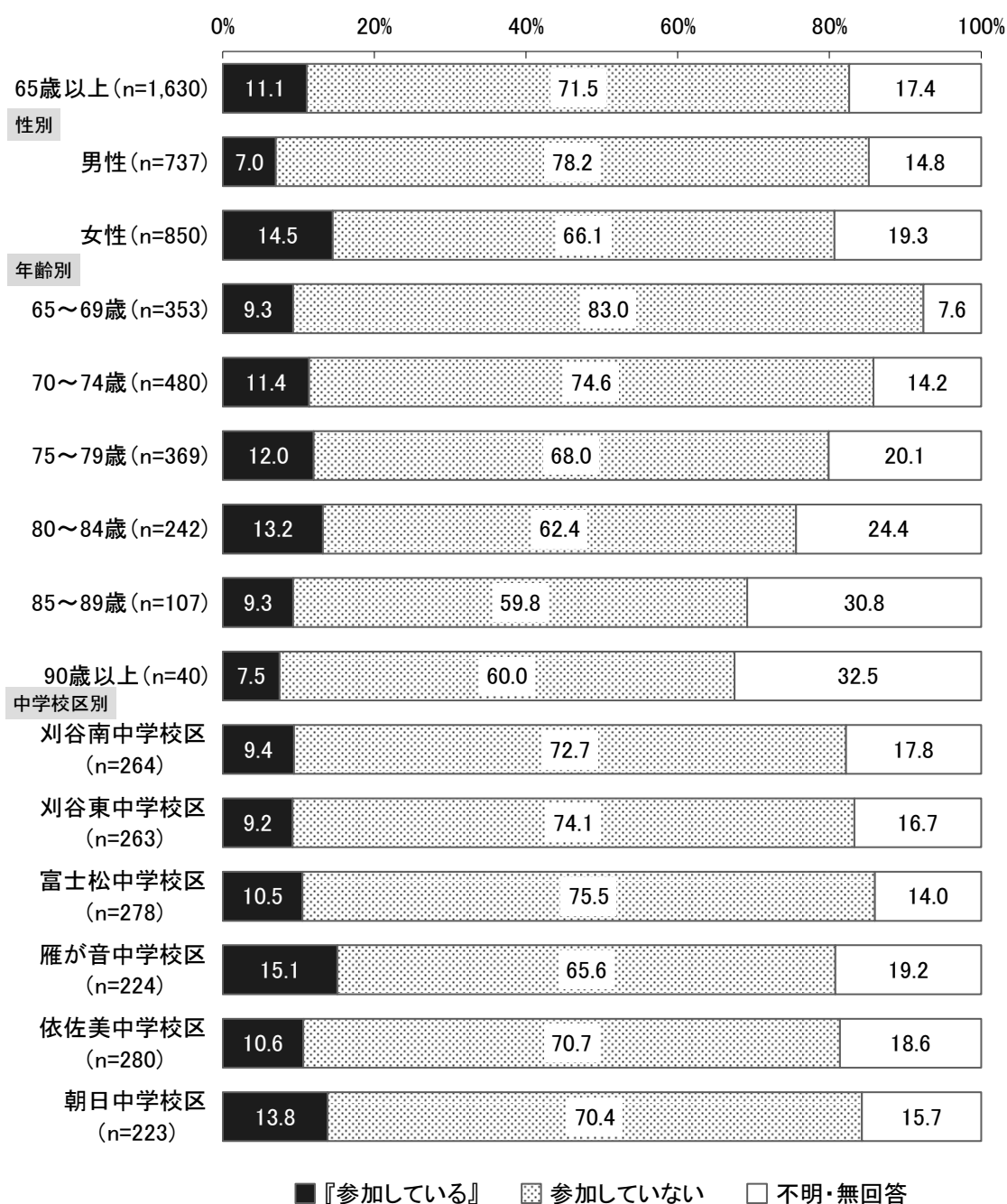
(5) 健康づくり・介護予防のための通いの場（高齢者サロン、健康いちばん教室、総合型地域スポーツクラブ等）

健康づくり・介護予防のための通いの場について、『参加している』は11.1%となっています。

性別でみると、『参加している』は女性で14.5%、男性で7.0%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は70～84歳でそれぞれ1割強と、他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は雁が音中学校区で15.1%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



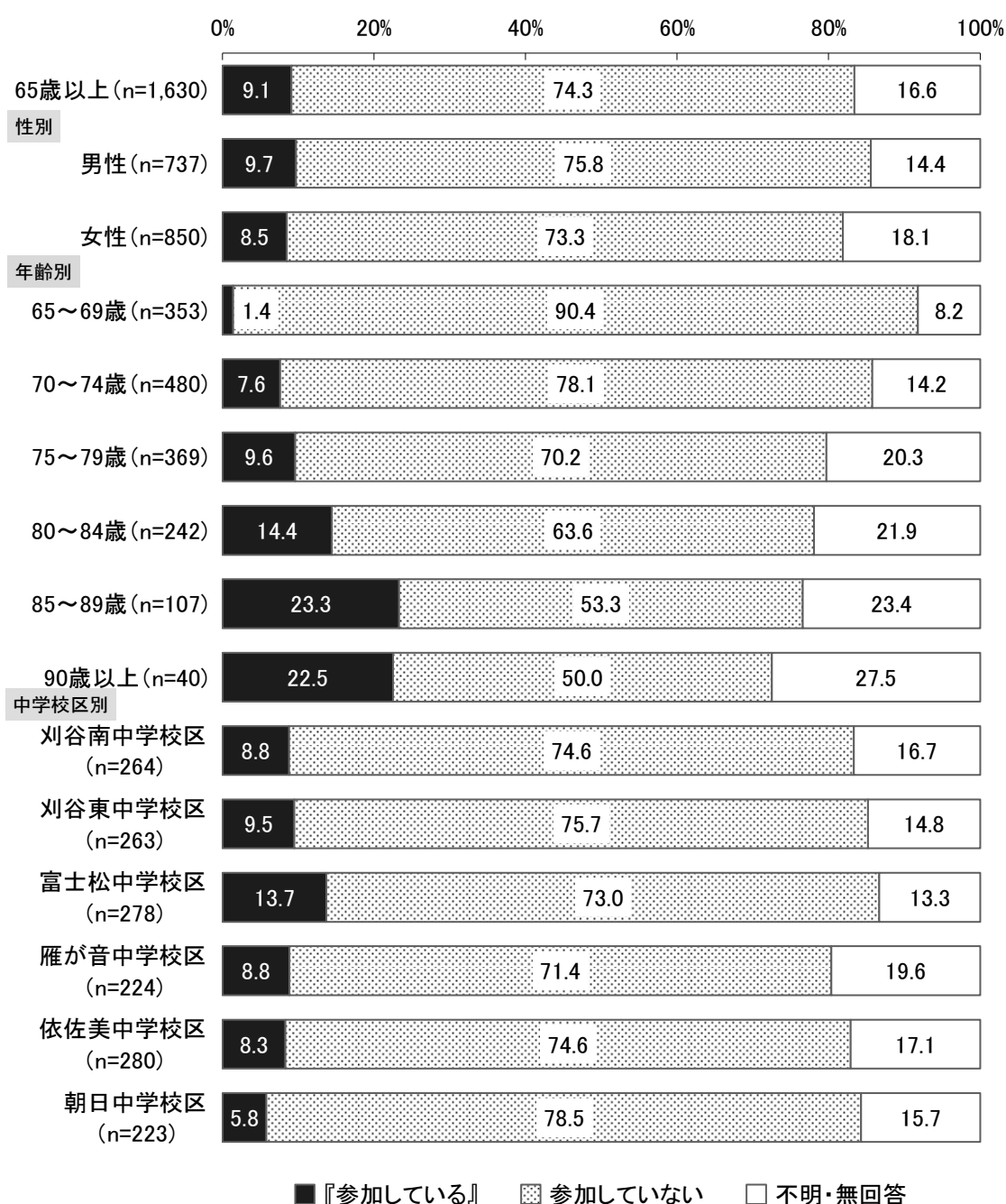
(6) いきいきクラブ（老人クラブ）

いきいきクラブ（老人クラブ）について、『参加している』は9.1%となっています。

性別でみると、『参加している』は男性で9.7%、女性で8.5%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は年代が上がるにつれて85～89歳までは高くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は富士松中学校区で13.7%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



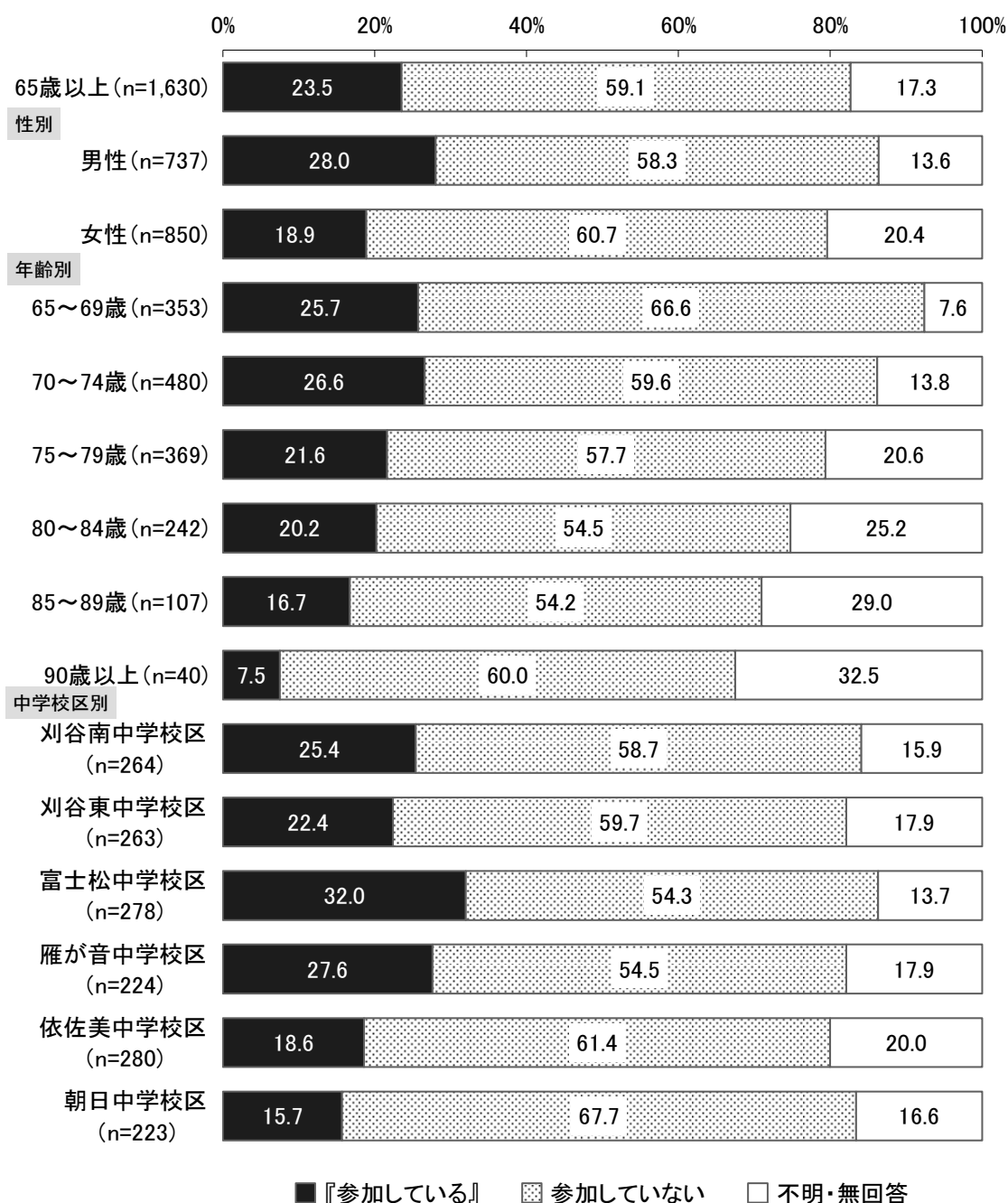
(7) 町内会・自治会

町内会・自治会について、『参加している』は23.5%となっています。

性別でみると、『参加している』は男性で28.0%、女性で18.9%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は70～74歳以降で年代が上がるにつれて低くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は富士松中学校区で32.0%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



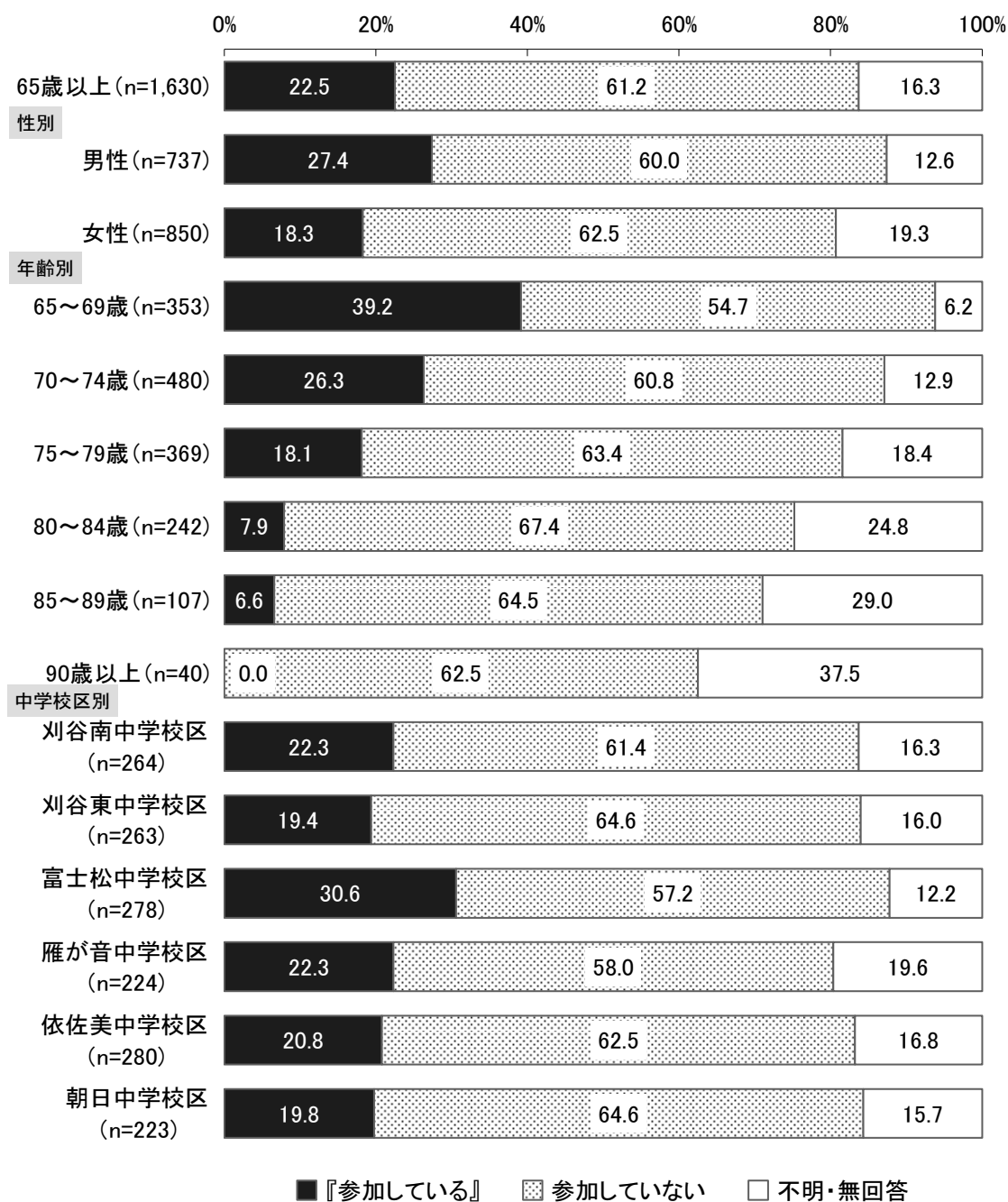
(8) 収入のある仕事

収入のある仕事について、『参加している』は22.5%となっています。

性別でみると、『参加している』は男性で27.4%、女性で18.3%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は65～69歳で39.2%と他の年代と比べて高くなっており、以降、年代が上がるにつれて低くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は富士松中学校区で30.6%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



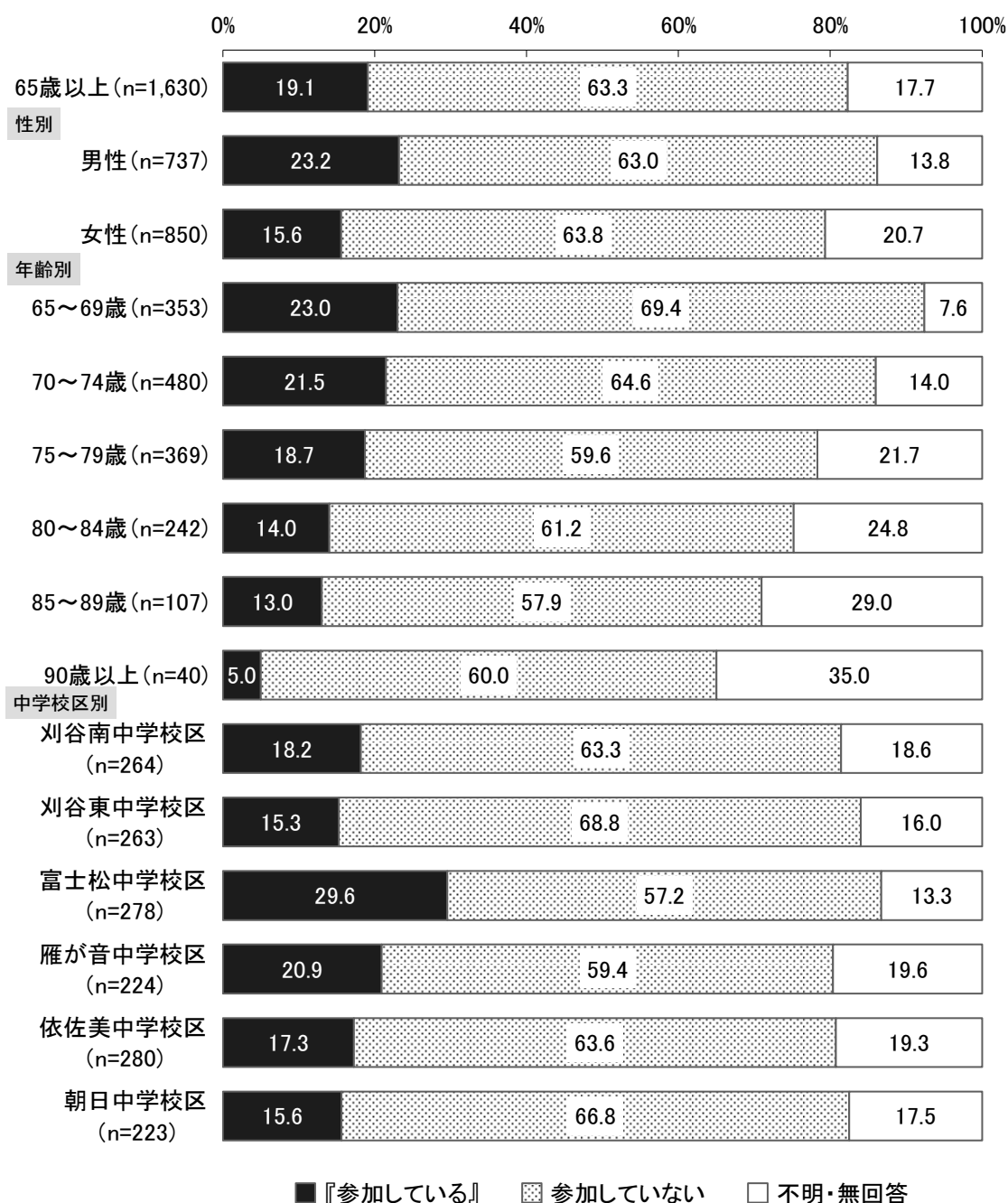
(9) 祭り・行事

祭り・行事について、『参加している』は19.1%となっています。

性別でみると、『参加している』は男性で23.2%、女性で15.6%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は年代が上がるにつれて低くなっています。

中学校区別でみると、『参加している』は富士松中学校区で29.6%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



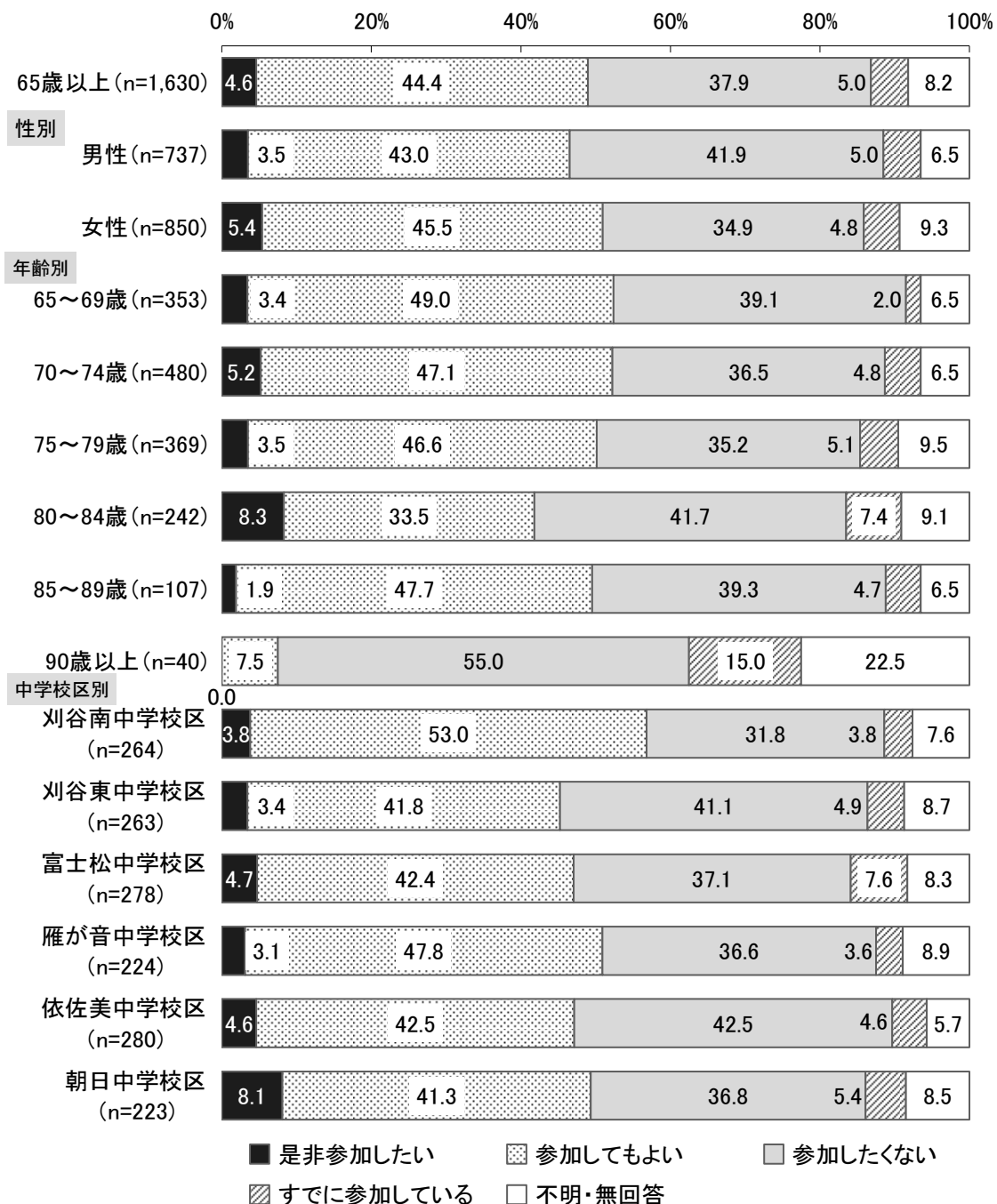
問 50 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(単数回答)

参加者として健康づくり活動等について、「参加してもよい」が44.4%と最も高く、次いで「参加したくない」が37.9%、「すでに参加している」が5.0%となっています。

性別でみると、男性で「参加したくない」が41.9%と、女性と比べてやや高くなっています。

年齢別でみると、89歳以下で「参加してもよい」が、90歳以上で「参加したくない」が、それぞれ最も高くなっています。

中学校区別でみると、「是非参加したい」が朝日中学校区で8.1%、「参加してもよい」が刈谷南中学校区で53.0%と、それぞれ他の中学校区と比べて高くなっています。



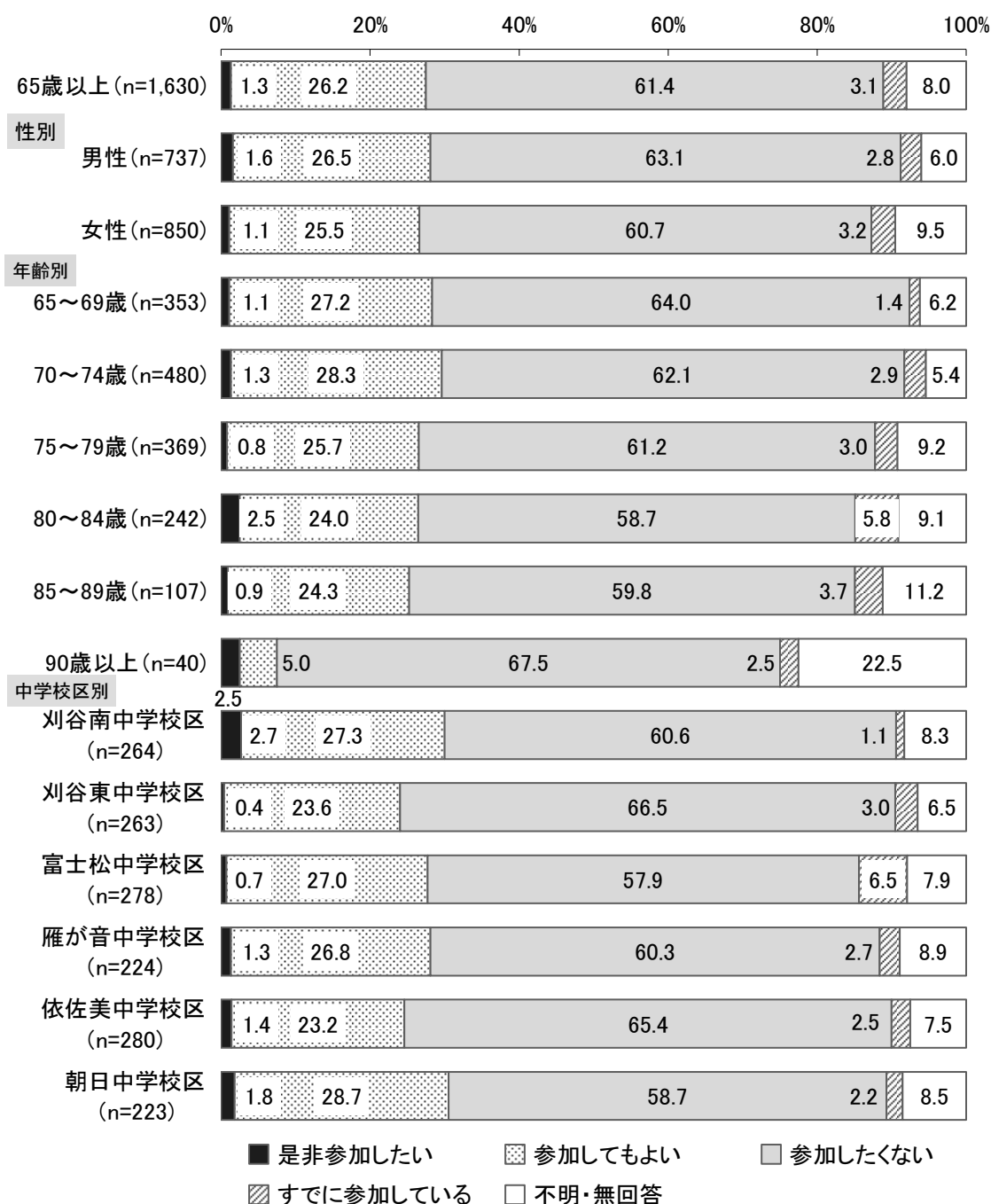
問 51 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（単数回答）

企画・運営側として健康づくり活動等について、「参加したくない」が61.4%と最も高く、次いで「参加してもよい」が26.2%、「すでに参加している」が3.1%となっています。

性別でみると、大差はみられません。

年齢別でみると、「参加してもよい」は、70～74歳をピークに年代が上がるにつれて低くなっています。

中学校区別でみると、いずれの中中学校区でも「参加してもよい」がそれぞれ約2～3割となっています。



問 52 誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らしていくためには、地域住民同士の助け合い、支え合いの活動が重要となります。そこで、①地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うもの、②自分ができる、あるいはやってみたくと思う支援、のそれぞれについて、あてはまるものをお答えください。

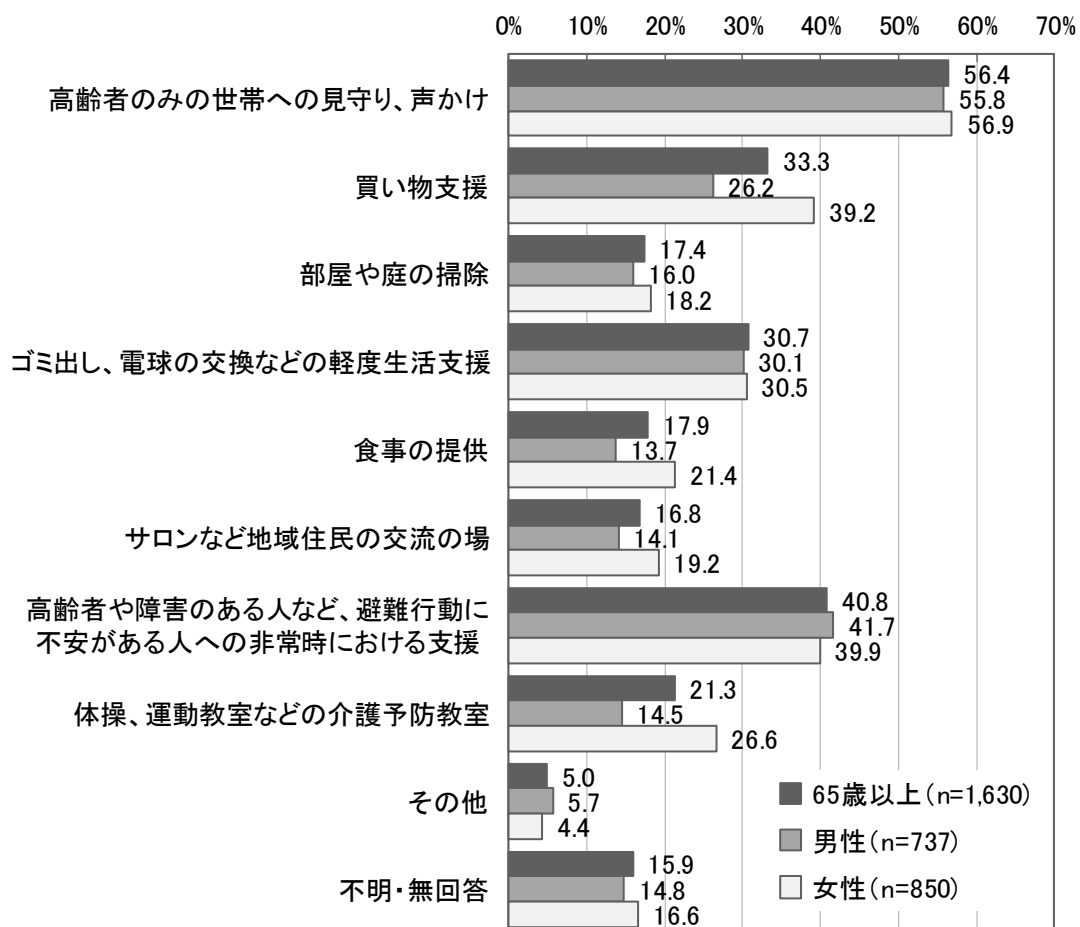
①地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うもの（複数回答）

地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うものについて、「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が56.4%と最も高く、次いで「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」が40.8%、「買い物支援」が33.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が最も高くなっていますが、女性では「買い物支援」「体操、運動教室などの介護予防教室」が男性と比べてそれぞれ10ポイント以上高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年代でも「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」が上位となっています。なお、65～74歳で「買い物支援」がそれぞれ4割前後と、他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、いずれの中中学校区でも「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が最も高くなっています。



■年齢別・中学校区別

(単位: %)	n=	高齢者のみの世帯への見守り、声かけ	買い物支援	部屋や庭の掃除	ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援	食事の提供	サロンなど地域住民の交流の場	高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援	体操、運動教室などの介護予防教室	その他	不明・無回答
年齢別											
65～69 歳	353	68.0	43.3	20.7	38.8	24.9	16.7	52.4	23.8	4.2	7.9
70～74 歳	480	59.6	37.7	16.3	32.1	19.0	19.2	45.2	21.7	3.1	14.2
75～79 歳	369	50.4	25.7	14.9	26.6	13.6	15.7	34.4	19.0	5.1	18.4
80～84 歳	242	47.9	27.7	16.9	24.4	14.0	15.3	31.8	17.4	7.9	21.9
85～89 歳	107	50.5	20.6	19.6	24.3	13.1	15.0	29.9	27.1	5.6	20.6
90 歳以上	40	40.0	20.0	12.5	20.0	15.0	15.0	22.5	15.0	12.5	30.0
中学校区別											
刈谷南	264	58.7	36.4	19.7	30.3	20.1	16.3	42.4	22.3	3.8	14.8
刈谷東	263	56.3	32.7	17.1	29.3	16.3	19.8	42.2	20.2	5.7	15.6
富士松	278	58.6	33.5	17.3	29.5	18.3	17.6	39.2	23.7	6.1	14.7
雁が音	224	54.0	31.7	12.1	27.2	11.2	14.3	38.8	21.0	3.6	17.9
依佐美	280	56.8	31.1	19.6	30.0	21.1	15.0	40.4	20.7	4.3	17.9
朝日	223	57.4	35.9	15.2	37.2	19.7	20.2	45.3	20.6	4.9	13.0

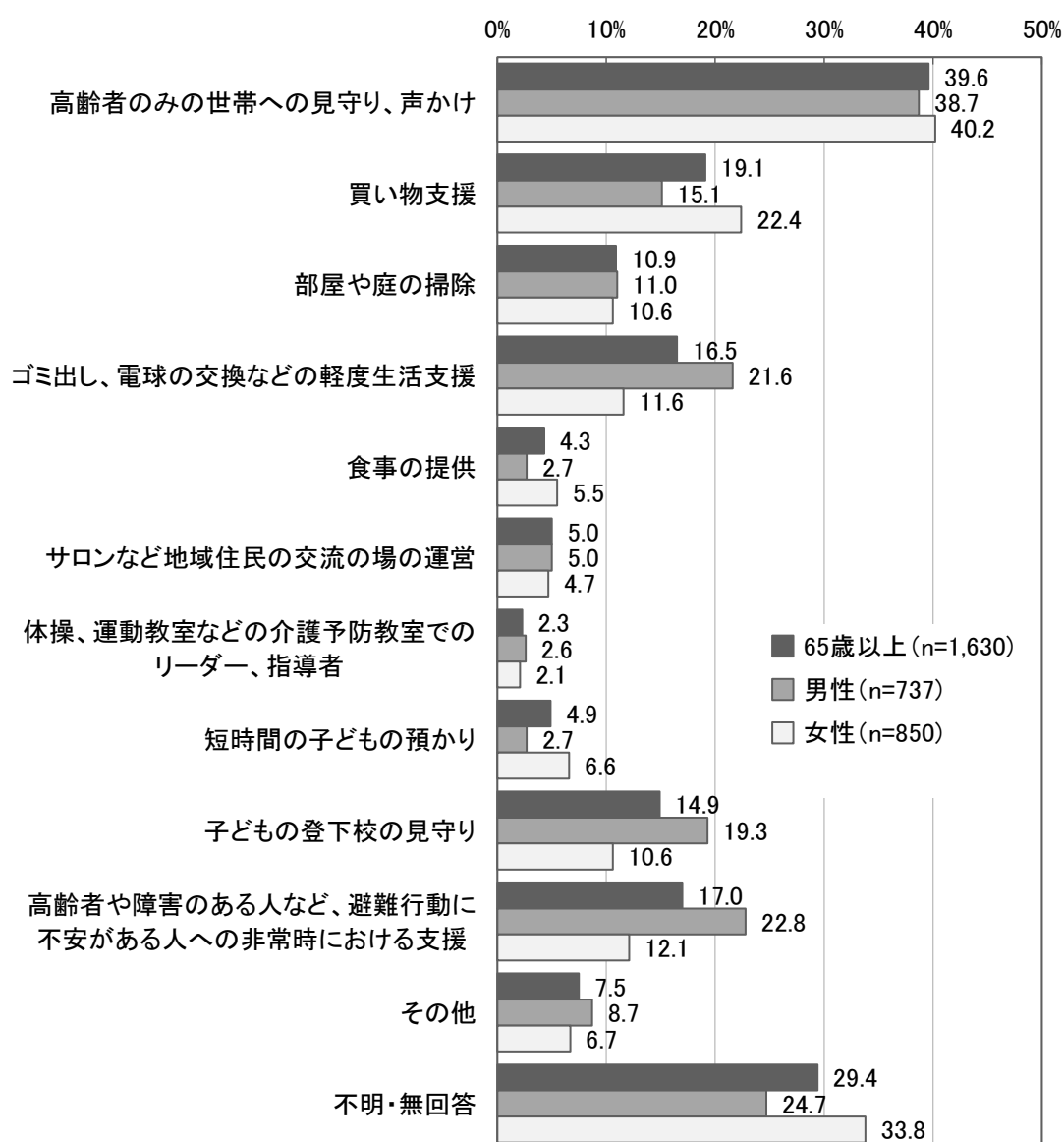
②自分でできる、あるいはやってみたいと思う支援（複数回答）

自分でできる、あるいはやってみたいと思う支援について、「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が39.6%と最も高く、次いで「買い物支援」が19.1%、「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」が17.0%となっています。

性別でみると、男女ともに「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が最も高くなっていますが、女性では「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」「ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援」が男性と比べてそれぞれ10ポイント以上低くなっています。

年齢別でみると、いずれの年代も「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が最も高くなっています。

中学校区別でみると、いずれの年代も「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が最も高くなっています。



■年齢別・中学校区別

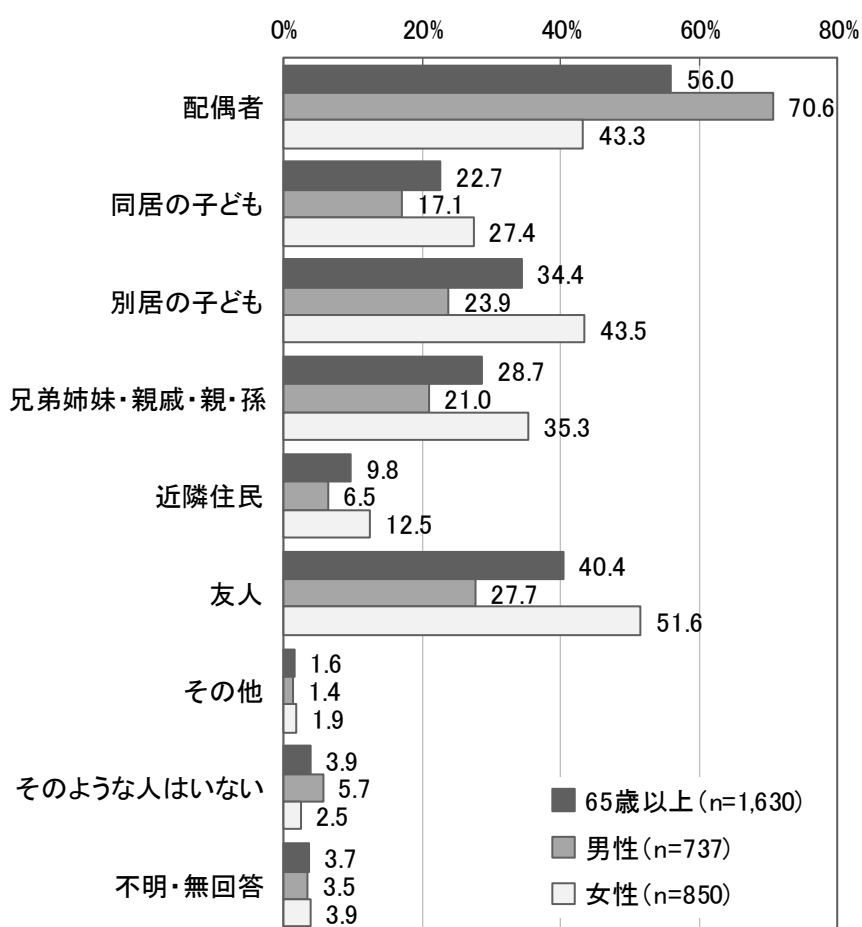
(単位: %)	n=	高齢者のみの世帯への見守り、声かけ	買い物支援	部屋や庭の掃除	ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援	食事の提供	サロンなど地域住民の交流の場の運営	体操、運動教室などの介護予防教室でのリーダー、指導者	短時間の子どもの預かり	子どもの登下校の見守り	高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援	その他	不明・無回答
年齢別													
65～69 歳	353	49.0	24.1	11.3	19.0	5.4	4.5	3.4	8.5	18.7	22.4	6.2	17.6
70～74 歳	480	41.5	23.3	10.8	17.3	5.2	5.6	1.5	4.8	16.5	19.0	7.3	27.1
75～79 歳	369	37.4	15.7	10.0	18.4	3.5	4.9	2.4	4.1	16.0	16.0	7.3	31.4
80～84 歳	242	34.3	14.9	12.0	12.0	2.1	3.7	2.1	2.5	9.5	12.8	8.7	37.2
85～89 歳	107	26.2	10.3	12.1	10.3	3.7	5.6	3.7	1.9	5.6	10.3	10.3	43.0
90 歳以上	40	15.0	0.0	2.5	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	67.5
中学校区別													
刈谷南	264	40.5	20.8	11.7	14.4	7.2	4.9	1.1	4.2	14.8	17.0	6.8	28.4
刈谷東	263	38.0	16.3	12.5	16.0	4.2	5.7	1.5	3.4	12.9	18.6	8.7	31.6
富士松	278	38.5	18.3	9.4	16.5	4.7	4.0	3.6	5.8	17.6	15.1	9.0	28.8
雁が音	224	42.9	19.2	8.0	17.4	4.0	4.5	4.5	7.1	13.8	17.9	8.5	28.6
依佐美	280	41.8	18.6	12.1	15.4	4.3	5.0	1.4	3.6	14.3	15.4	5.0	30.0
朝日	223	39.0	21.5	9.9	18.8	0.9	5.4	2.7	6.3	15.2	18.8	7.6	26.9

6 助け合いについて

問 53 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてくれる人について、「配偶者」が56.0%と最も高く、次いで「友人」が40.4%、「別居の子ども」が34.4%となっています。

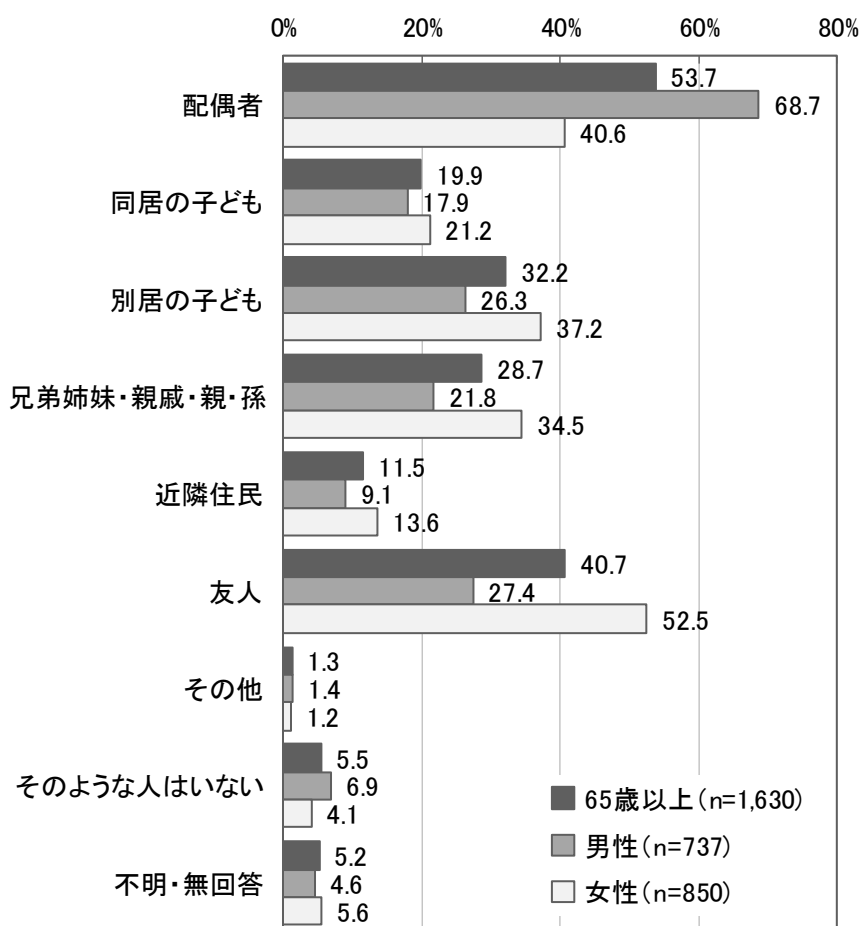
性別でみると、男性で「配偶者」が、女性で「友人」がそれぞれ最も高くなっています。女性は男性に比べて「配偶者」が27.3ポイント低く、「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣住民」「友人」は、男性と比べてそれぞれ高くなっています。



問 54 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてあげる人について、「配偶者」が53.7%と最も高く、次いで「友人」が40.7%、「別居の子ども」が32.2%となっています。

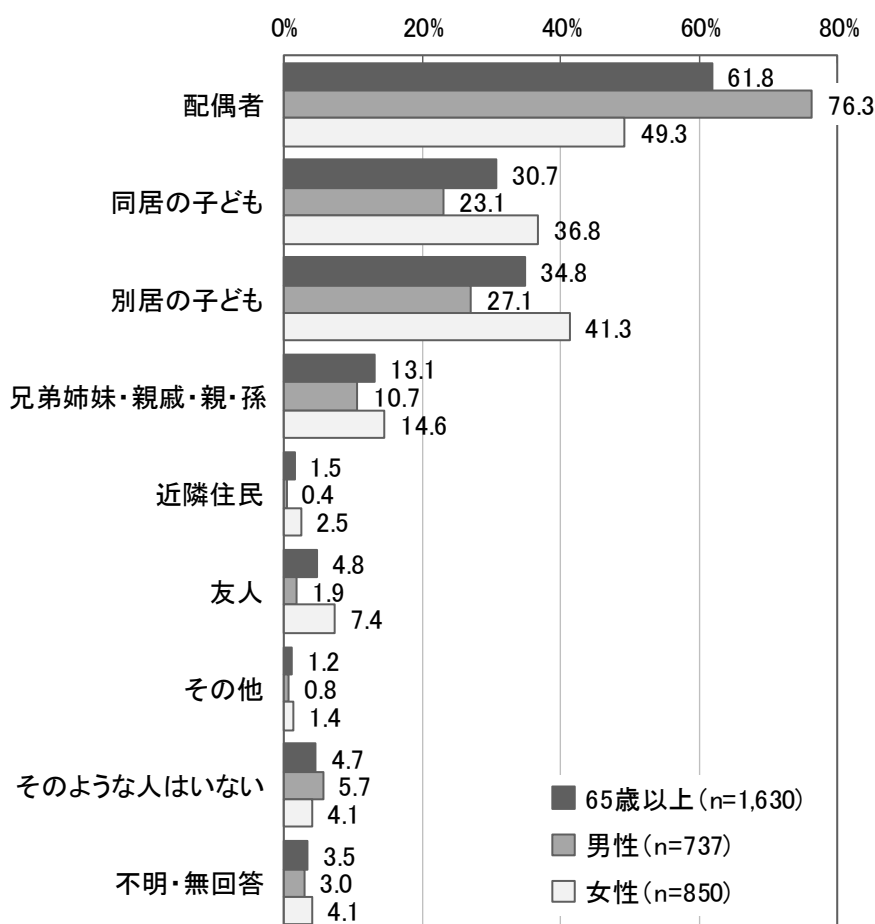
性別でみると、男性は「配偶者」が、女性は「友人」がそれぞれ最も高くなっています。女性は男性に比べて「配偶者」が28.1ポイント低く、「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣住民」「友人」は、男性と比べてそれぞれ高くなっています。



問 55 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(複数回答)

病気で寝込んだときに看病や世話をしてくれる人について、「配偶者」が 61.8%と最も高く、次いで「別居の子ども」が 34.8%、「同居の子ども」が 30.7%となっています。

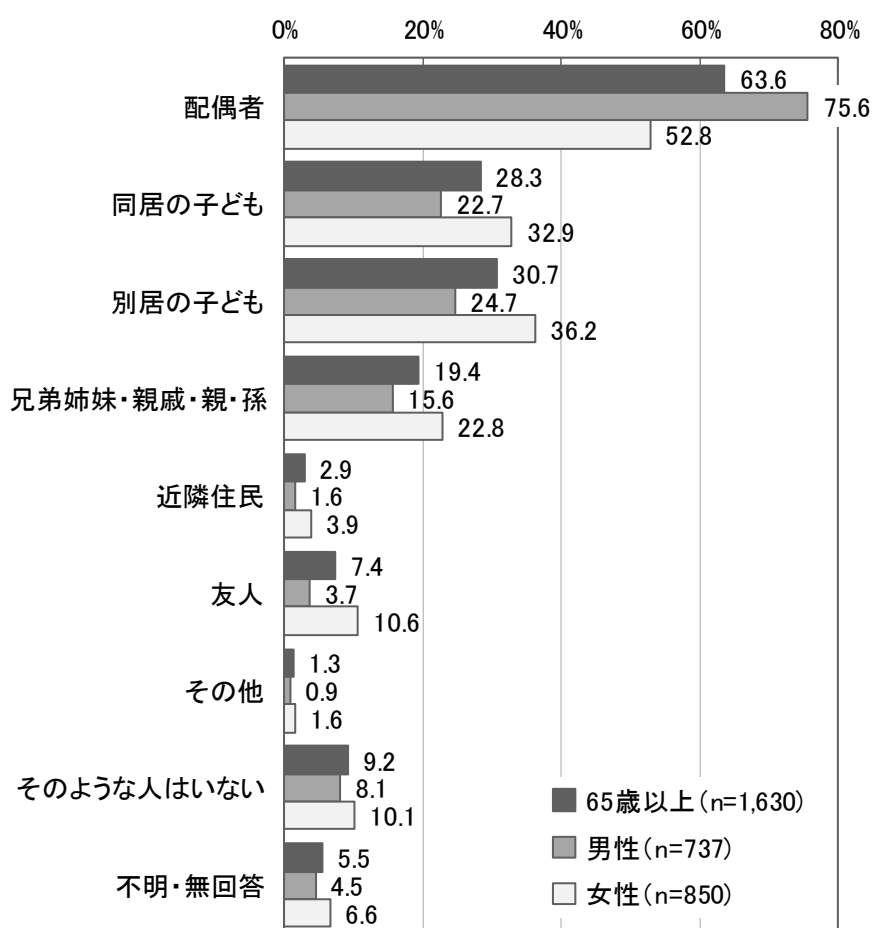
性別でみると、男女ともに「配偶者」が最も高くなっていますが、男性に比べて女性は 27.0 ポイント低く、「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣住民」「友人」は、男性と比べてそれぞれ高くなっています。



問 56 反対に、看病や世話をしあける人。(複数回答)

看病や世話をしあける人について、「配偶者」が63.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」が30.7%、「同居の子ども」が28.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「配偶者」が最も高くなっていますが、男性に比べて女性は22.8ポイント低く、「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣住民」「友人」は、男性と比べてそれぞれ高くなっています。



7 健康について

問 57 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

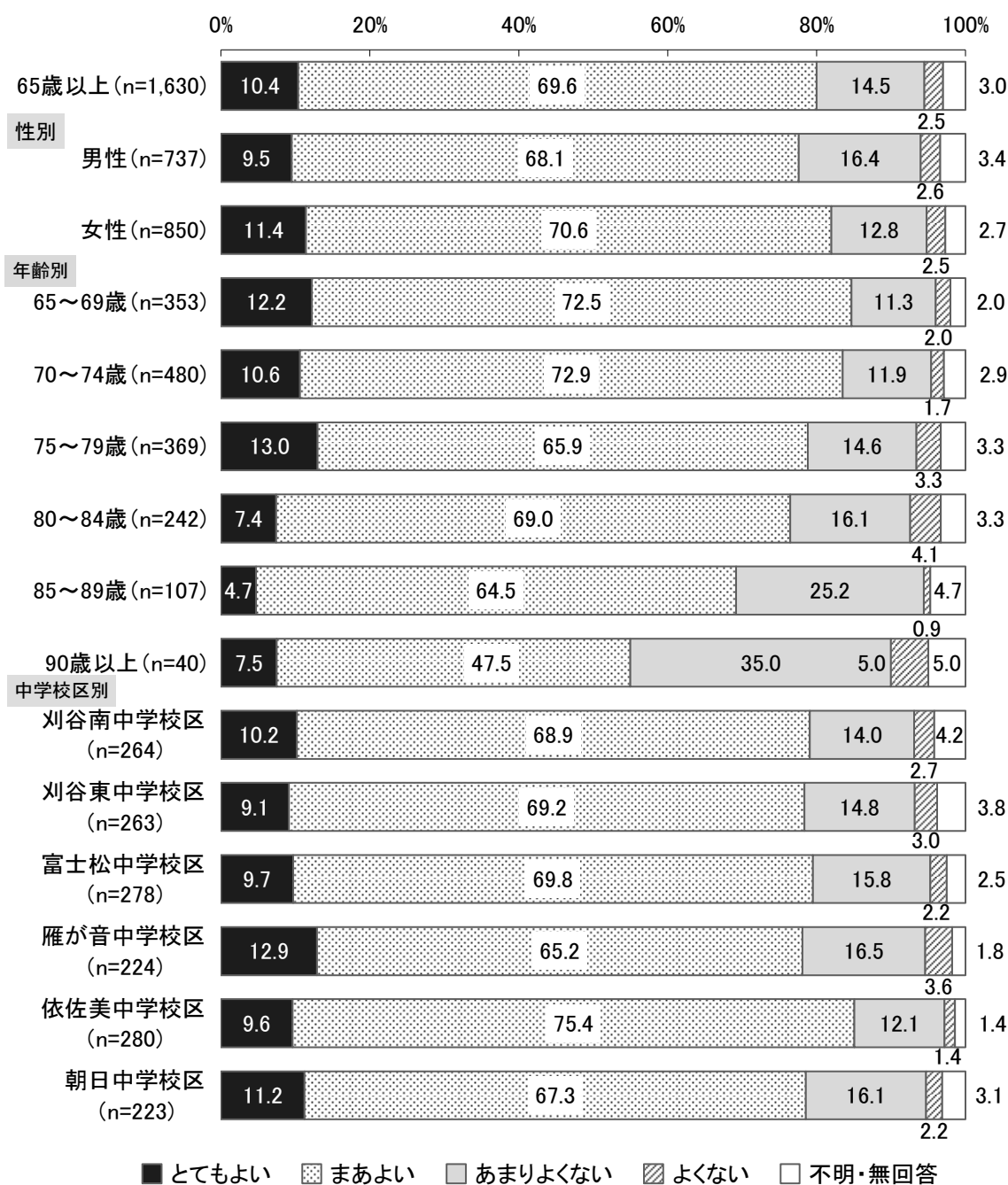
『よい』 …「とてもよい」と「まあよい」を合算

『よくない』 …「あまりよくない」と「よくない」を合算

健康状態について、『よい』が80.0%、『よくない』が17.0%となっています。

年齢別でみると、いずれの年代でも『よい』が高くなっていますが、年齢が上がるにつれて低くなっています。

中学校区別でみると、いずれの中学校区でも『よい』がそれぞれ78%以上となっており、依佐美中学校区では85.0%と、他の中学校区と比べて高くなっています。

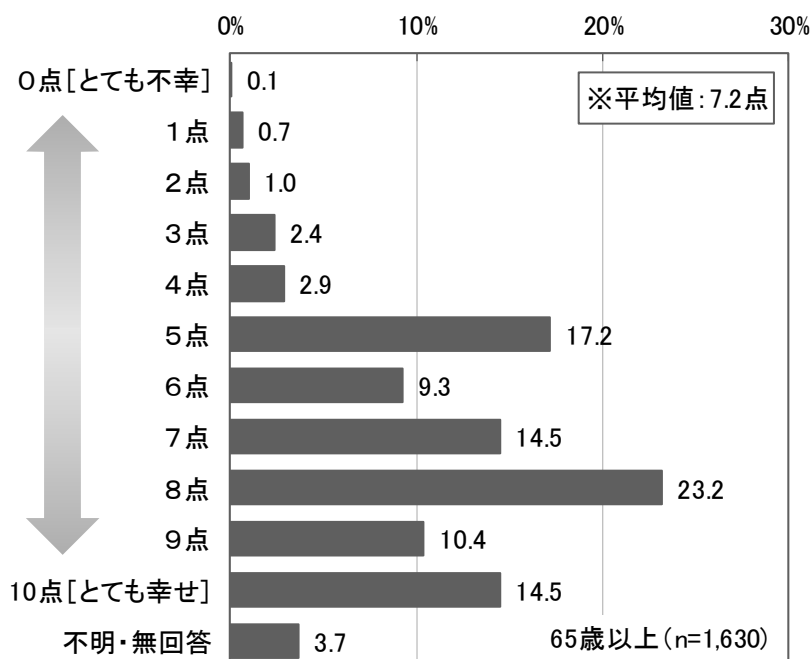


問 58 あなたは、現在どの程度幸せですか。(単数回答)

どの程度幸せかについて、「8点」が23.2%と最も高く、次いで「5点」が17.2%、「10点[とても幸せ]」が14.5%となっています。なお、全体の平均値は7.2点となっています。

平均値を性別でみると、男性で6.9点、女性で7.4点と、男性と比べて女性の方が高くなっています。

平均値を年齢別でみると、85～89歳で7.4点となっています。



※全体の平均値 7.2 点は、「不明・無回答」を除いた n=1,569 の平均値。

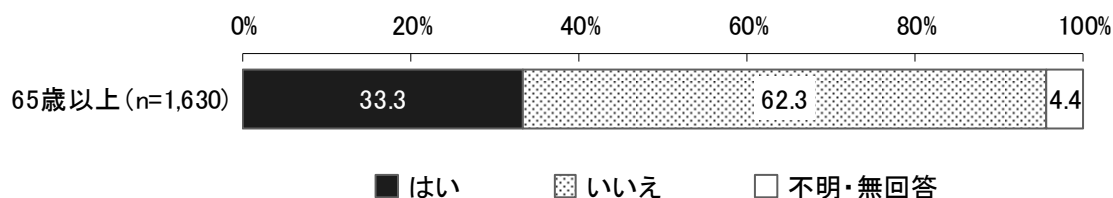
■性別・年齢別

(単位: %)	n=	とても不幸 ←————→ とても幸せ											不明・無回答	平均値 (点)
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点		
性別														
男性	737	0.1	0.7	1.4	3.0	3.9	20.4	10.7	14.0	21.3	8.3	12.1	4.2	6.9
女性	850	0.1	0.7	0.8	1.9	1.8	14.5	8.4	14.9	24.8	12.2	16.5	3.4	7.4
年齢別														
65～69 歳	353	0.3	0.6	1.4	2.8	3.1	12.7	9.9	16.4	26.6	12.7	10.8	2.5	7.2
70～74 歳	480	0.0	1.0	1.3	2.5	3.3	16.7	9.2	16.0	22.7	10.4	12.9	4.0	7.1
75～79 歳	369	0.3	0.3	0.8	2.4	2.2	19.5	10.8	15.4	21.7	8.7	14.9	3.0	7.1
80～84 歳	242	0.0	1.2	1.2	1.7	2.9	19.4	7.4	10.3	24.0	7.9	19.4	4.5	7.2
85～89 歳	107	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	18.7	8.4	9.3	16.8	14.0	20.6	6.5	7.4
90 歳以上	40	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	10.0	7.5	25.0	10.0	15.0	7.5	7.3

※平均値は、各々「不明・無回答」を除いた値。

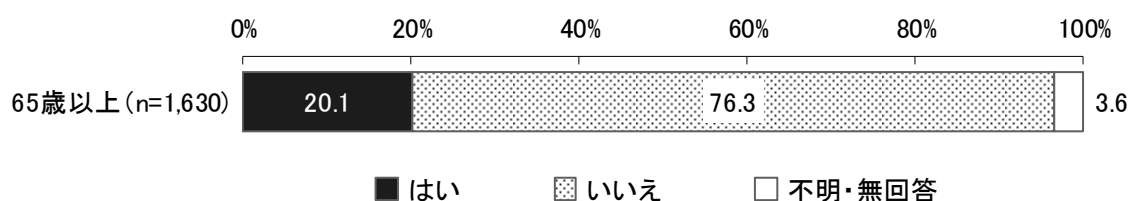
問 59 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(単数回答)

この1か月間に気分が沈んだりしたことがあったかについて、「いいえ」が62.3%、「はい」が33.3%となっています。



問 60 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(単数回答)

この1か月間に物事に対して興味がわかないなどがあったかについて、「いいえ」が76.3%、「はい」が20.1%となっています。

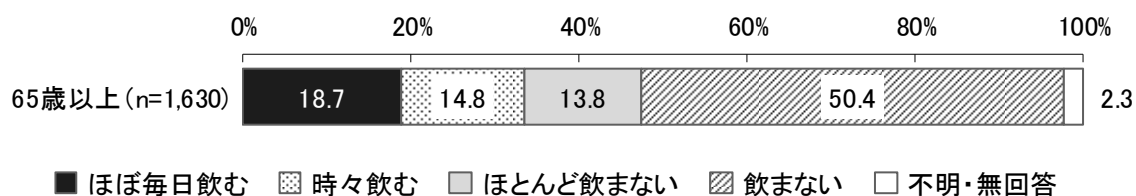


問 61 お酒は飲みますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『飲む』 … 「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合算
『飲まない』 … 「ほとんど飲まない」と「飲まない」を合算

飲酒について、『飲まない』が64.2%、『飲む』が33.5%となっています。

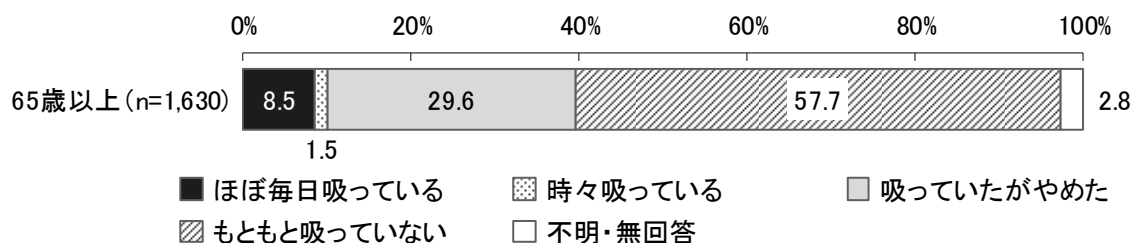


問 62 タバコは吸っていますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『吸っている』 … 「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合算

喫煙について、「もともと吸っていない」が 57.7%、「吸っていたがやめた」が 29.6%、『吸っている』が 10.0%となっています。

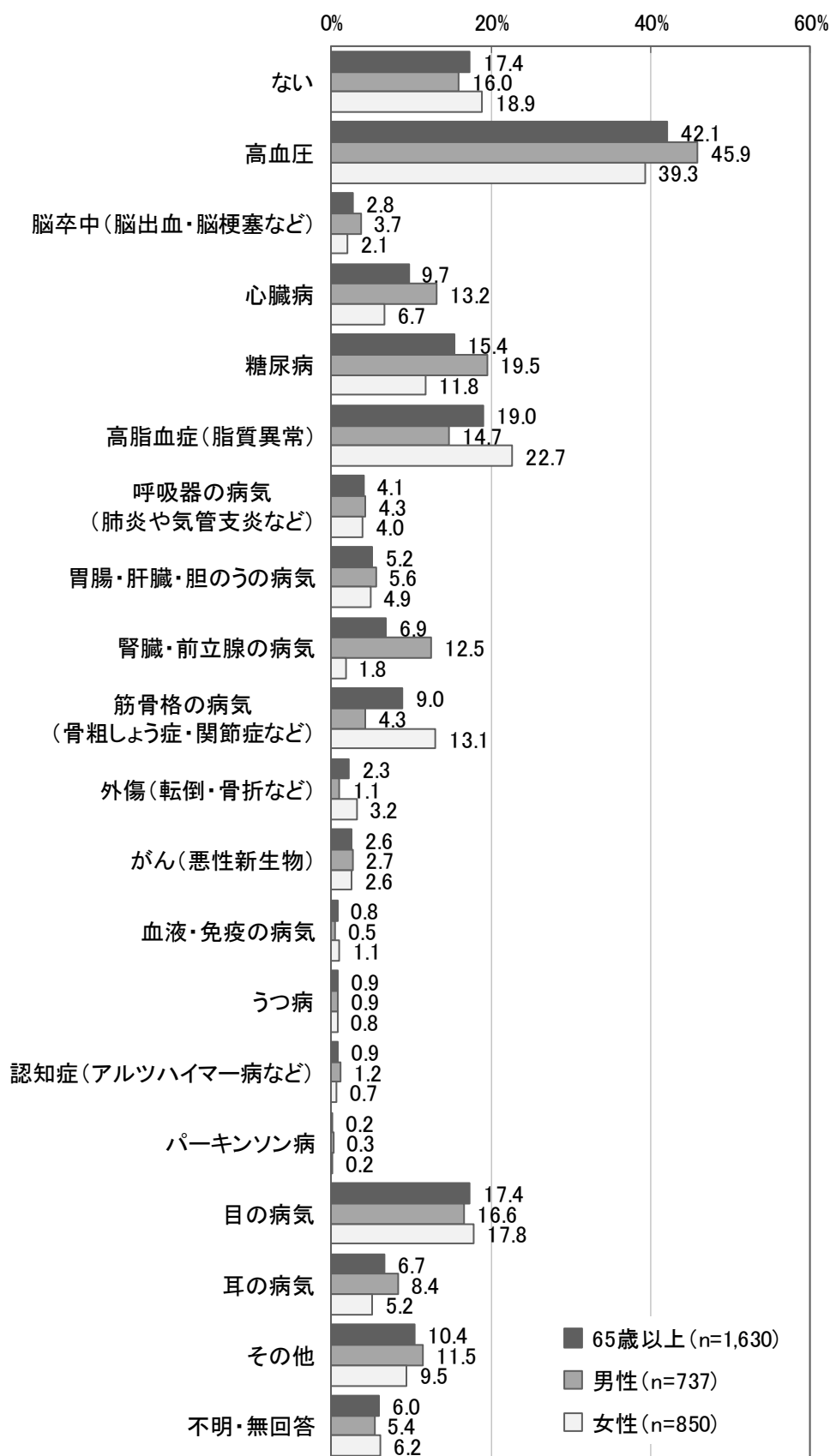


問 63 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

治療中または後遺症のある病気について、「高血圧」が 42.1%と最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が 19.0%、「目の病気」「ない」がそれぞれ 17.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「高血圧」が最も高く、次いで男性では「糖尿病」が、女性では「高脂血症（脂質異常）」が高くなっています。この他、男性では女性に比べて「腎臓・前立腺の病気」「糖尿病」「心臓病」が高く、特に「腎臓・前立腺の病気」は 10.7 ポイント高くなっています。また、女性では男性に比べて「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症など）」「高脂血症（脂質異常）」がそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年代でも「高血圧」が最も高く、次いで 65～69 歳では「高脂血症（脂質異常）」が、70～74 歳では「ない」が、75 歳以上では「目の病気」が、それぞれ高くなっています。



■年齢別

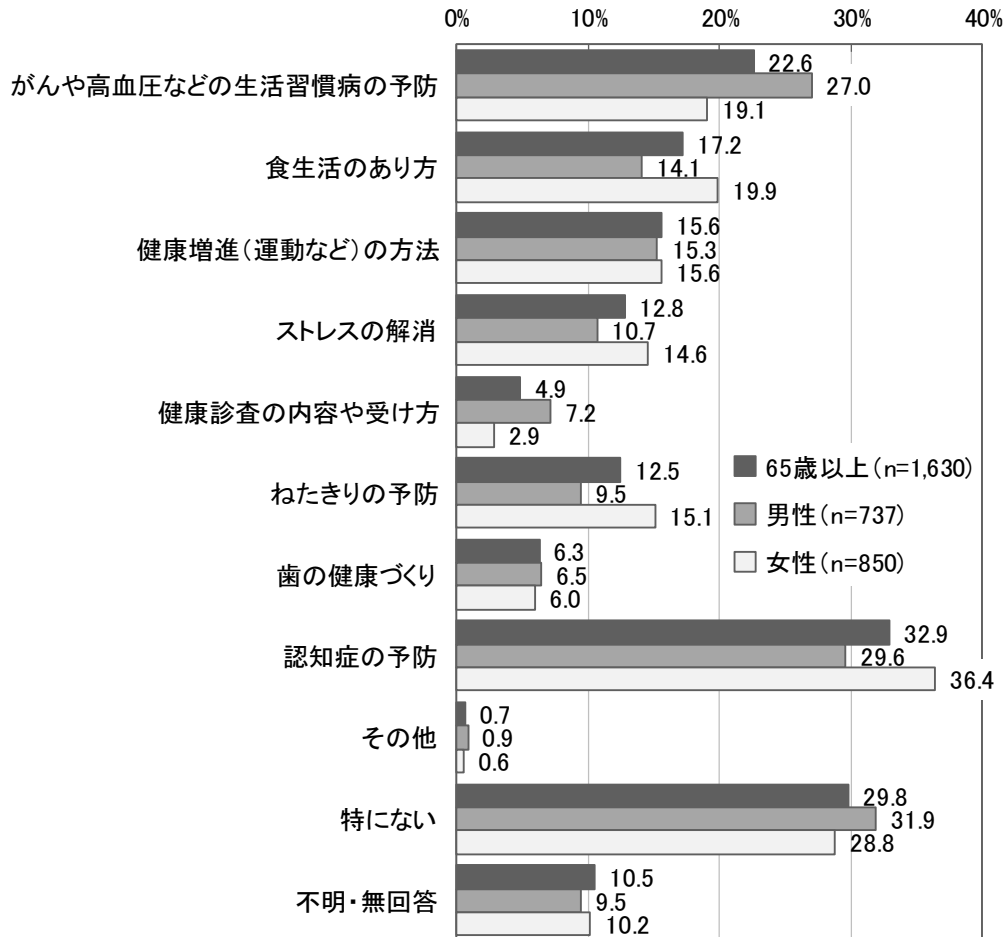
(単位: %)	n=	ない	高血圧	脳卒中(脳出血・脳梗塞など)	心臓病	糖尿病	高脂血症(脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎など)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症など)
年齢別											
65～69 歳	353	23.2	36.0	2.0	4.0	16.4	23.5	3.4	6.8	4.8	7.4
70～74 歳	480	19.0	39.6	2.9	7.1	16.7	18.8	3.1	4.0	6.0	9.0
75～79 歳	369	16.3	46.9	3.5	11.9	16.5	17.9	5.7	4.6	6.8	7.6
80～84 歳	242	12.0	49.6	2.5	15.3	14.9	18.6	6.6	7.0	9.5	10.7
85～89 歳	107	12.1	46.7	4.7	16.8	10.3	11.2	1.9	4.7	9.3	15.9
90 歳以上	40	10.0	37.5	0.0	17.5	0.0	15.0	0.0	2.5	7.5	10.0

(単位: %)	n=	外傷(転倒・骨折など)	がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病など)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	不明・無回答
年齢別											
65～69 歳	353	0.6	2.0	0.3	1.4	0.0	0.0	10.2	5.4	9.1	5.7
70～74 歳	480	1.9	4.6	1.7	0.8	0.4	0.2	15.4	5.0	11.9	5.8
75～79 歳	369	2.7	1.4	0.5	0.5	0.5	0.5	18.4	6.0	10.6	5.1
80～84 歳	242	2.9	2.1	0.4	0.8	2.5	0.4	24.4	9.9	8.7	5.8
85～89 歳	107	4.7	1.9	0.9	0.9	3.7	0.0	25.2	11.2	9.3	7.5
90 歳以上	40	5.0	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	25.0	15.0	15.0	10.0

問 64 健康について、知りたいことがありますか。(複数回答)

健康について知りたいことは、「認知症の予防」が32.9%と最も高く、次いで「特にない」が29.8%、「がんや高血圧などの生活習慣病の予防」が22.6%となっています。

性別でみると、男性では「特にない」が、女性では「認知症の予防」がそれぞれ最も高くなっています。



経年変化

経年でみると、平成25年度調査以降、「認知症の予防」が3割前後で推移しています。

(単位: %)	n=	がんや高血圧などの生活習慣病の予防	食生活のあり方	健康増進(運動など)の方法	ストレスの解消	健康診査の内容や受け方	ねたきりの予防	歯の健康づくり	認知症の予防	その他	特にない	不明・無回答
調査年度												
平成25年	1,516	30.5	21.7	21.4	16.0	7.8	12.4	9.6	31.1	0.8	29.0	5.1
平成28年	1,656	21.9	16.0	15.0	13.3	6.7	11.7	6.7	29.8	0.8	37.1	7.4
令和元年	1,791	25.0	20.3	16.0	13.8	5.3	14.4	7.1	34.0	0.7	29.5	7.4
令和4年	1,630	22.6	17.2	15.6	12.8	4.9	12.5	6.3	32.9	0.7	29.8	10.5

問 65 あなたは、将来、健康に過ごし、介護を受けなくてもいいようにするための健康づくり（以下、このような活動を「健康づくり・介護予防」と言います。）に取り組んでいますか。（単数回答）

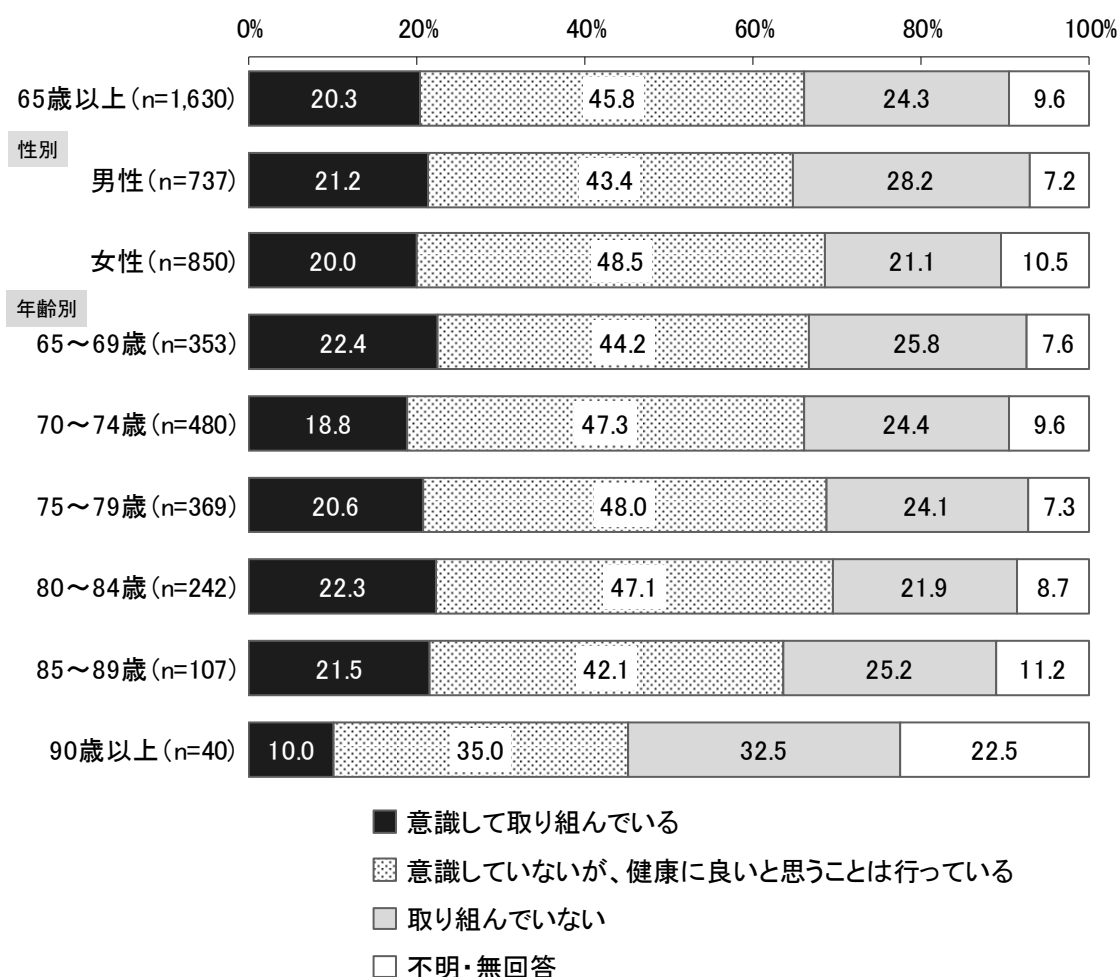
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『取り組んでいる』…「意識して取り組んでいる」と「意識していないが、健康に良いと思うことは行っている」を合算

将来、健康に過ごし、介護を受けなくてもいいようにするための健康づくりに取り組んでいるかについて、「意識していないが、健康に良いと思うことは行っている」が 45.8%、「取り組んでいない」が 24.3%、「意識して取り組んでいる」が 20.3%となっています。なお、『取り組んでいる』は 66.1%となっています。

性別でみると、『取り組んでいる』は男性で 64.6%、女性で 68.5%と男女で大差はみられませんが、男性に比べて女性では「意識していないが、健康に良いと思うことは行っている」がやや高くなっています。

年齢別でみると、80～84 歳をピークに年齢が上がるにつれて『取り組んでいる』が低くなっています。



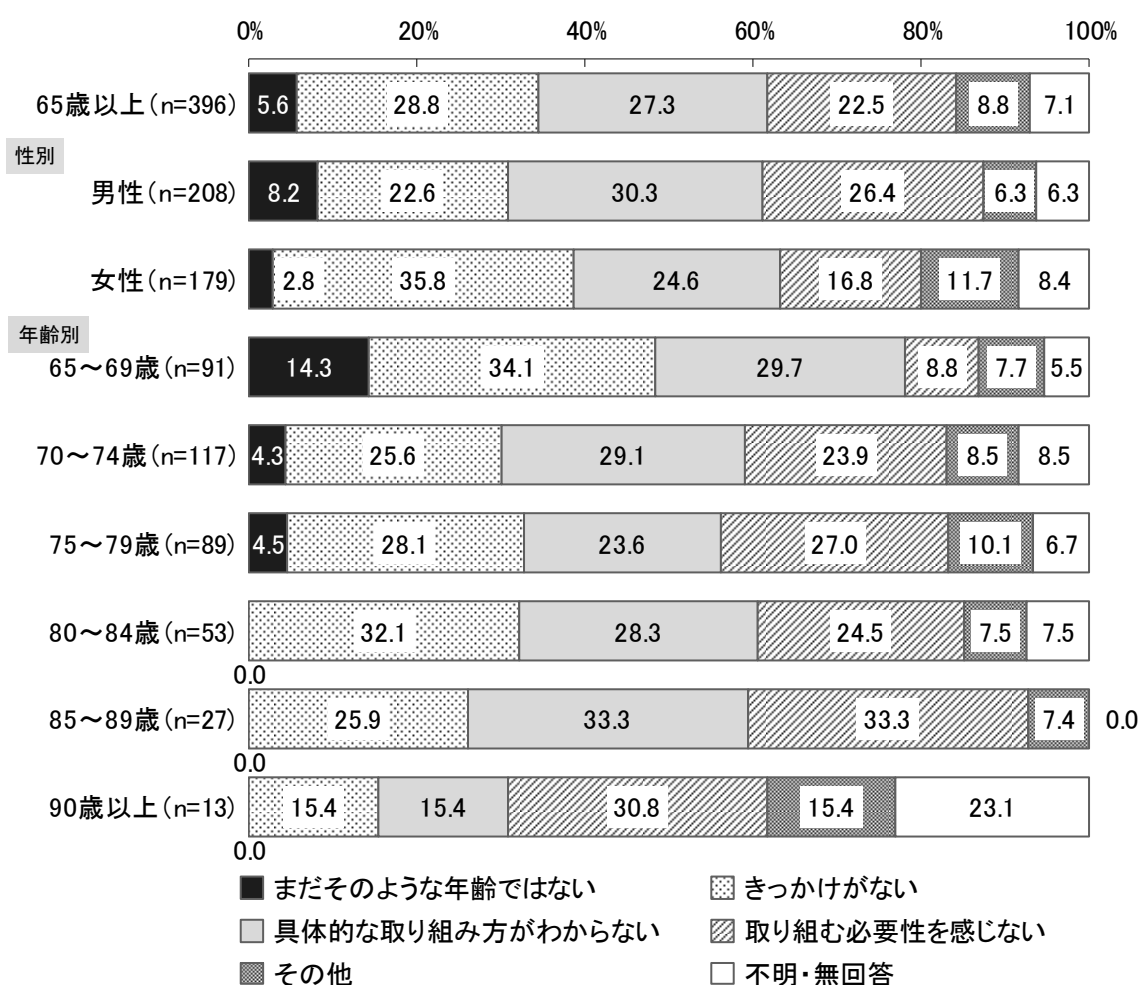
<取り組んでいない方のみ>

問 66 健康づくり・介護予防に取り組んでいない理由を教えてください。(単数回答)

介護予防に取り組んでいない理由について、「きっかけがない」が28.8%と最も高く、次いで「具体的な取り組み方がわからない」が27.3%、「取り組む必要性を感じない」が22.5%となっています。

性別でみると、男性で「具体的な取り組み方がわからない」が、女性で「きっかけがない」が、それぞれ最も高くなっています。なお、女性の「きっかけがない」は35.8%と、男性と比べて13.2ポイント高くなっています。また、男性は「取り組む必要性を感じない」が26.4%と、女性と比べて9.6ポイント高くなっています。

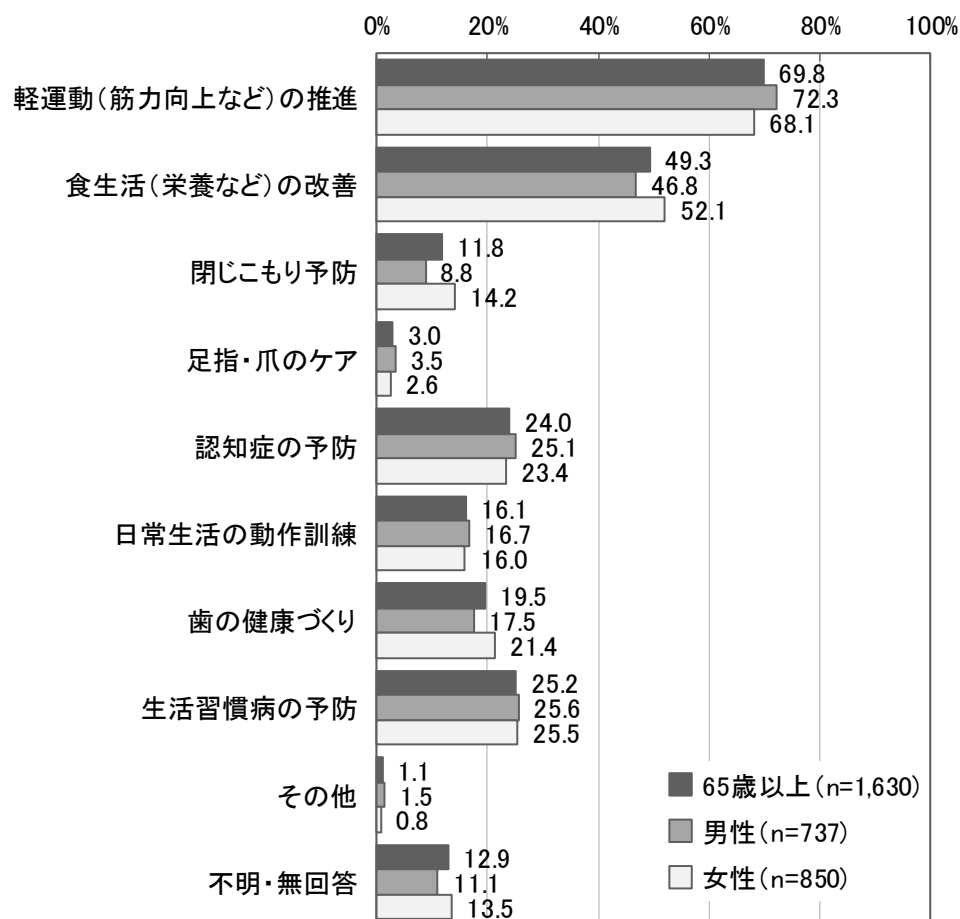
年齢別でみると、65～89歳で「きっかけがない」がそれぞれ3割前後となっています。



問 67 健康づくり・介護予防に関して、必要なことは何だと思いますか。(複数回答)

介護予防に関して必要なことについて、「軽運動（筋力向上など）の推進」が 69.8%と最も高く、次いで「食生活（栄養など）の改善」が 49.3%、「生活習慣病の予防」が 25.2%となっています。

性別でみると、女性で「閉じこもり予防」「食生活（栄養など）の改善」が、男性と比べてそれぞれやや高くなっています。



経年変化

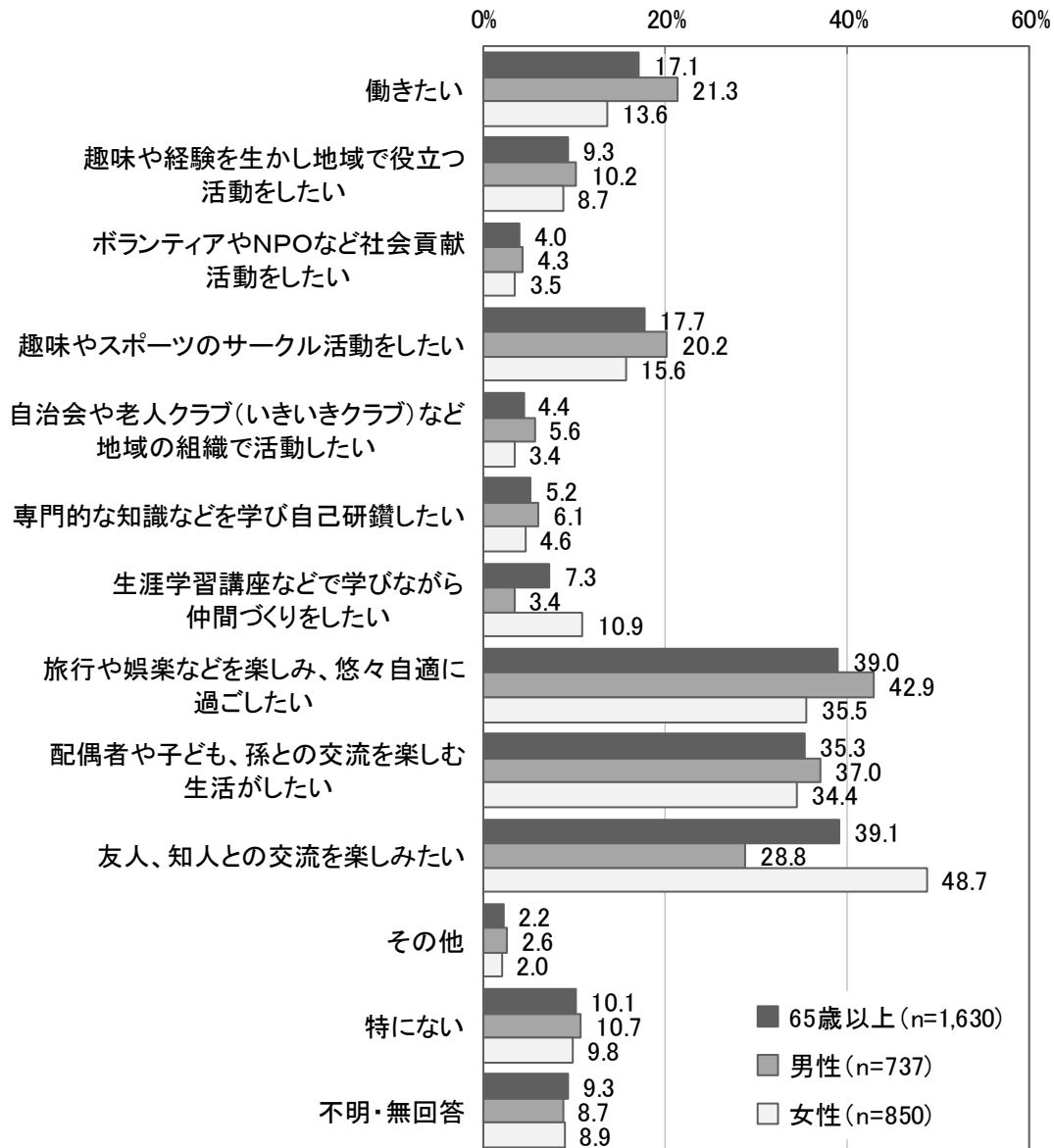
経年でみると、「軽運動（筋力向上など）の推進」は概ね7割前後で推移しています。

(単位: %)	n=	軽運動(筋力向上など)の推進	食生活(栄養など)の改善	閉じこもり予防	足指・爪のケア	認知症の予防	日常生活の動作訓練	歯の健康づくり	生活習慣病の予防	その他	不明・無回答
調査年度											
平成 25 年	1,516	69.3	42.6	24.3	2.7	31.7	22.0	13.7	31.0	0.9	5.9
平成 28 年	1,656	64.7	42.9	23.1	2.5	39.2	23.2	13.5	34.6	1.1	7.1
令和元年	1,791	74.3	54.4	16.4	4.0	28.9	20.0	20.1	29.8	1.1	5.4
令和4年	1,630	69.8	49.3	11.8	3.0	24.0	16.1	19.5	25.2	1.1	12.9

問 68 あなたは、高齢期を健康で生きがいをもって過ごすために、何をしたいとお考えですか。（複数回答）

高齢期を健康で生きがいをもって過ごすためにやりたいことについて、「友人、知人との交流を楽しみたい」が39.1%と最も高く、次いで「旅行や娯楽などを楽しみ、悠々自適に過ごしたい」が39.0%、「配偶者や子ども、孫との交流を楽しむ生活がしたい」が35.3%となっています。

性別でみると、男性では「旅行や娯楽などを楽しみ、悠々自適に過ごしたい」が、女性では「友人、知人との交流を楽しみたい」が、それぞれ最も高くなっています。



■ 経年変化

経年でみると、令和元年まで「働きたい」「配偶者や子ども、孫との交流を楽しむ生活がしたい」「友人、知人との交流を楽しみたい」がいずれも継続して高くなっていましたが、令和4年には減少に転じています。

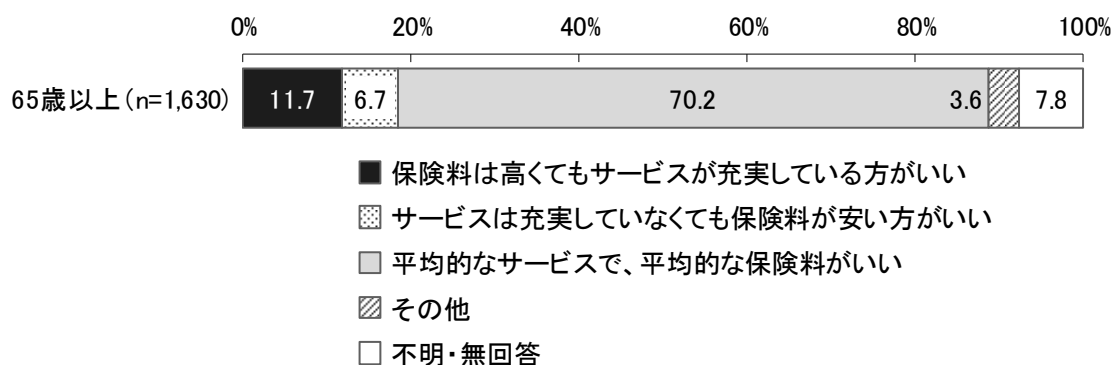
(単位: %)	n=	働きたい	趣味や経験を生かし地域で役立つ活動をしたい	ボランティアやNPOなど社会貢献活動をしたい	趣味やスポーツのサークル活動をしたい	自治会や老人クラブ(いきいきクラブ)など地域の組織で活動したい	専門的な知識などを学び自己研鑽したい	生涯学習講座などで学びながら仲間づくりをしたい	旅行や娯楽などを楽しみ、悠々自適に過ごしたい	配偶者や子ども、孫との交流を楽しむ生活がしたい	友人、知人との交流を楽しみたい
調査年度											
平成25年	1,516	12.6	12.9	3.5	23.0	6.5	5.0	10.8	47.2	30.5	41.4
平成28年	1,656	15.2	11.7	5.1	18.1	4.6	5.9	10.2	43.7	33.4	44.0
令和元年	1,791	17.9	9.8	4.9	19.5	6.3	5.7	9.4	42.4	36.1	47.3
令和4年	1,630	17.1	9.3	4.0	17.7	4.4	5.2	7.3	39.0	35.3	39.1

(単位: %)	n=	その他	特にない	不明・無回答
調査年度				
平成25年	1,516	6.7	2.1	4.6
平成28年	1,656	8.6	2.2	7.7
令和元年	1,791	1.5	8.8	5.2
令和4年	1,630	2.2	10.1	9.3

8 介護保険について

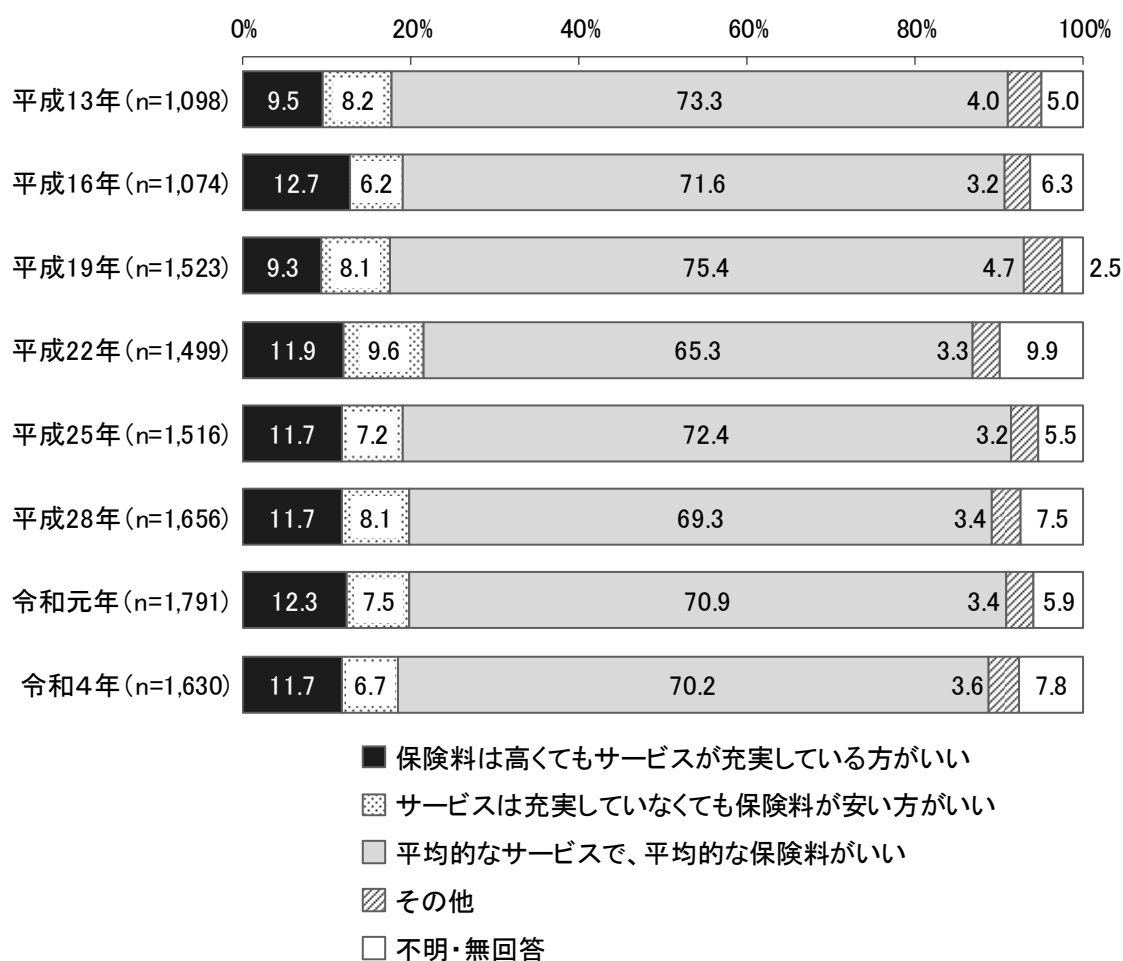
問 69 介護保険サービスの水準と保険料についてどのように考えますか。(単数回答)

介護保険サービスの水準と保険料について、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が70.2%と最も高く、次いで「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が11.7%、「サービスは充実していなくても保険料が安い方がいい」が6.7%となっています。



経年変化

経年でみると、平成13年以降、大きな変化はありません。



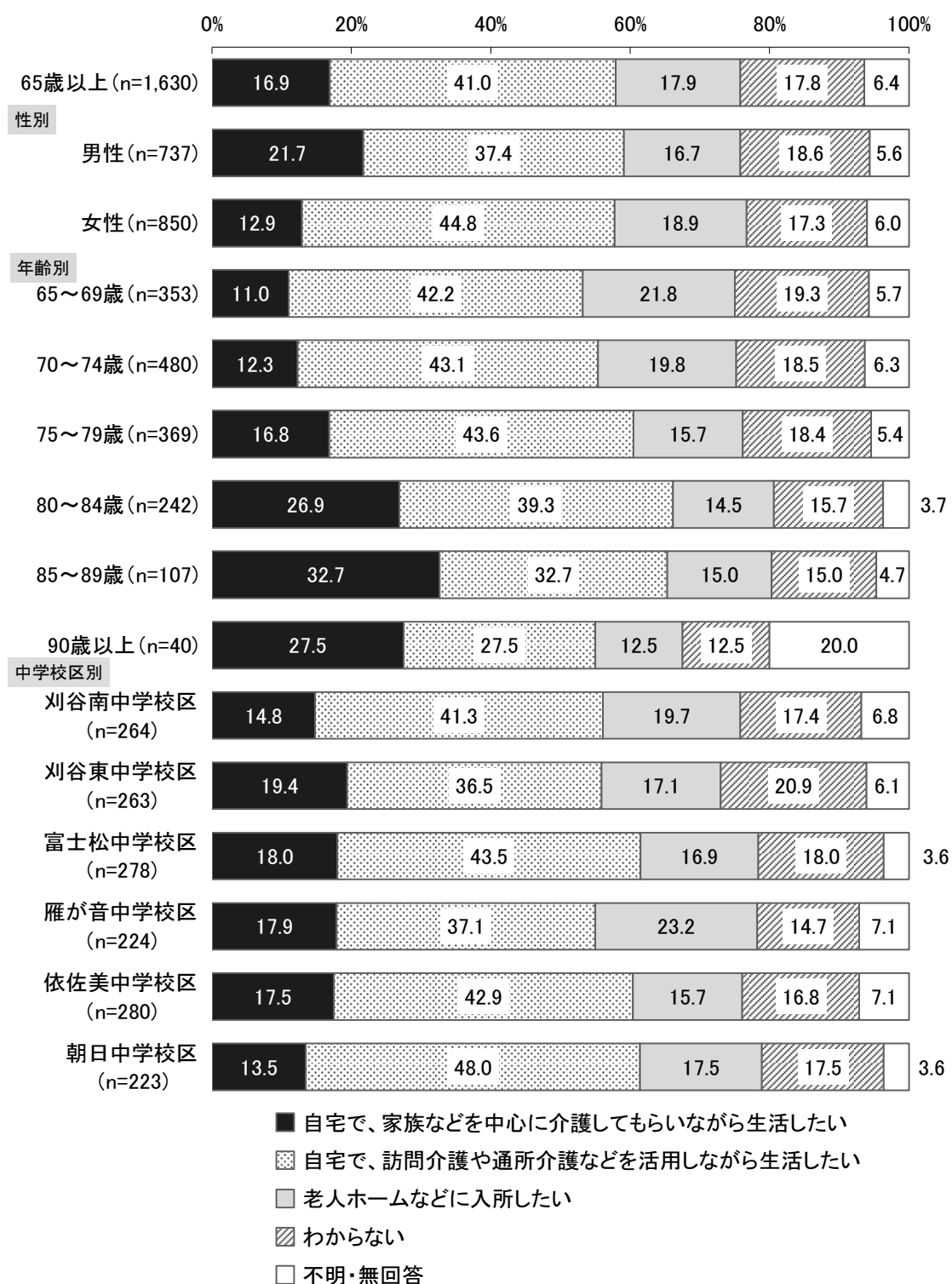
問 70 今後、仮にあなたに介護が必要になった場合、どのようにしたいですか。(単数回答)
--

介護が必要になった場合について、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が41.0%と最も高く、次いで「老人ホームなどに入所したい」が17.9%、「わからない」が17.8%となっています。

性別でみると、男女ともに「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が最も高くなっています。

年齢別でみると、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」は65～84歳で4割前後、85歳以上で3割前後となっています。

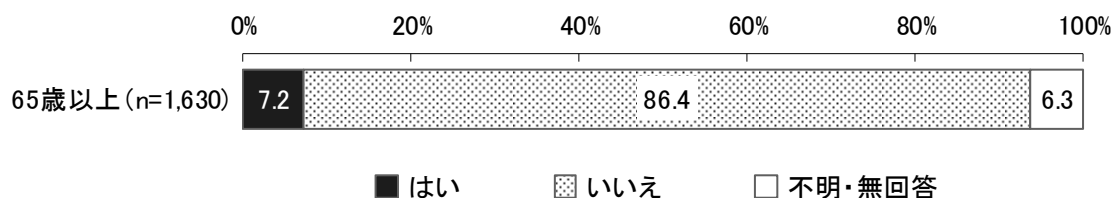
中学校区別でみると、いずれの中中学校区でも「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が最も高くなっています。なお、「老人ホームなどに入所したい」はいずれも2割前後となっており、雁が音中学校区で23.2%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



9 認知症の支援について

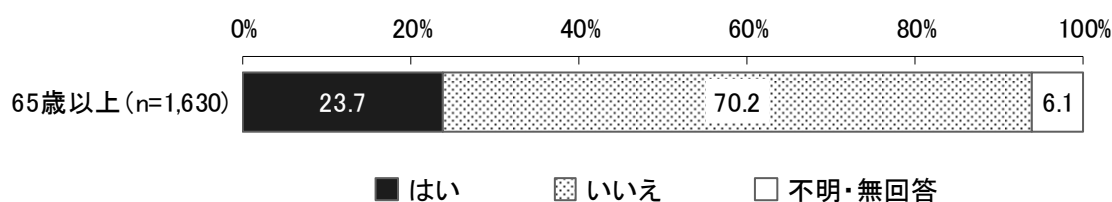
問 71 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(単数回答)

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについて、「いいえ」が86.4%、「はい」が7.2%となっています。



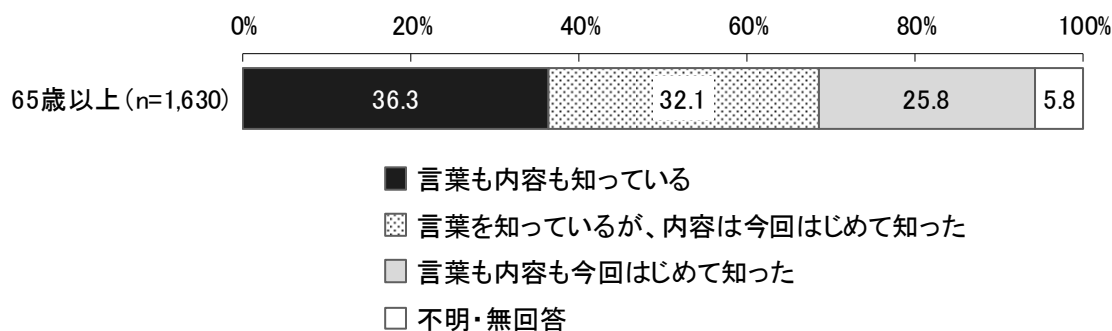
問 72 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(単数回答)

認知症に関する相談窓口を知っているかについて、「いいえ」が70.2%、「はい」が23.7%となっています。



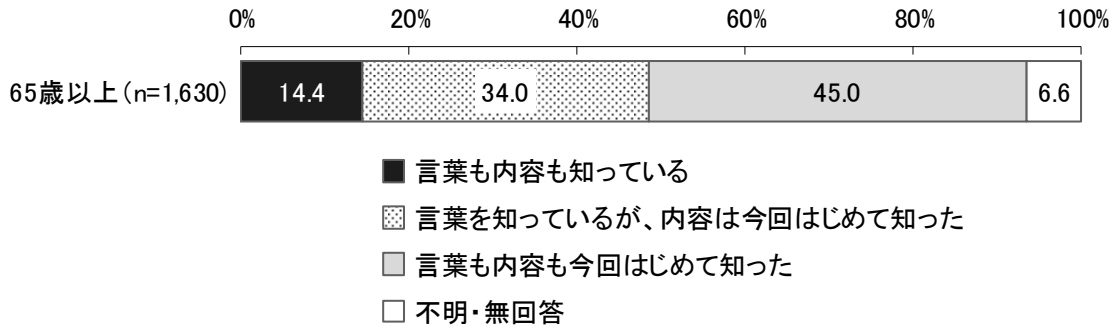
問 73 成年後見制度をご存じですか。(単数回答)

成年後見制度の認知度について、「言葉も内容も知っている」が36.3%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が32.1%、「言葉も内容も今回はじめて知った」が25.8%となっています。



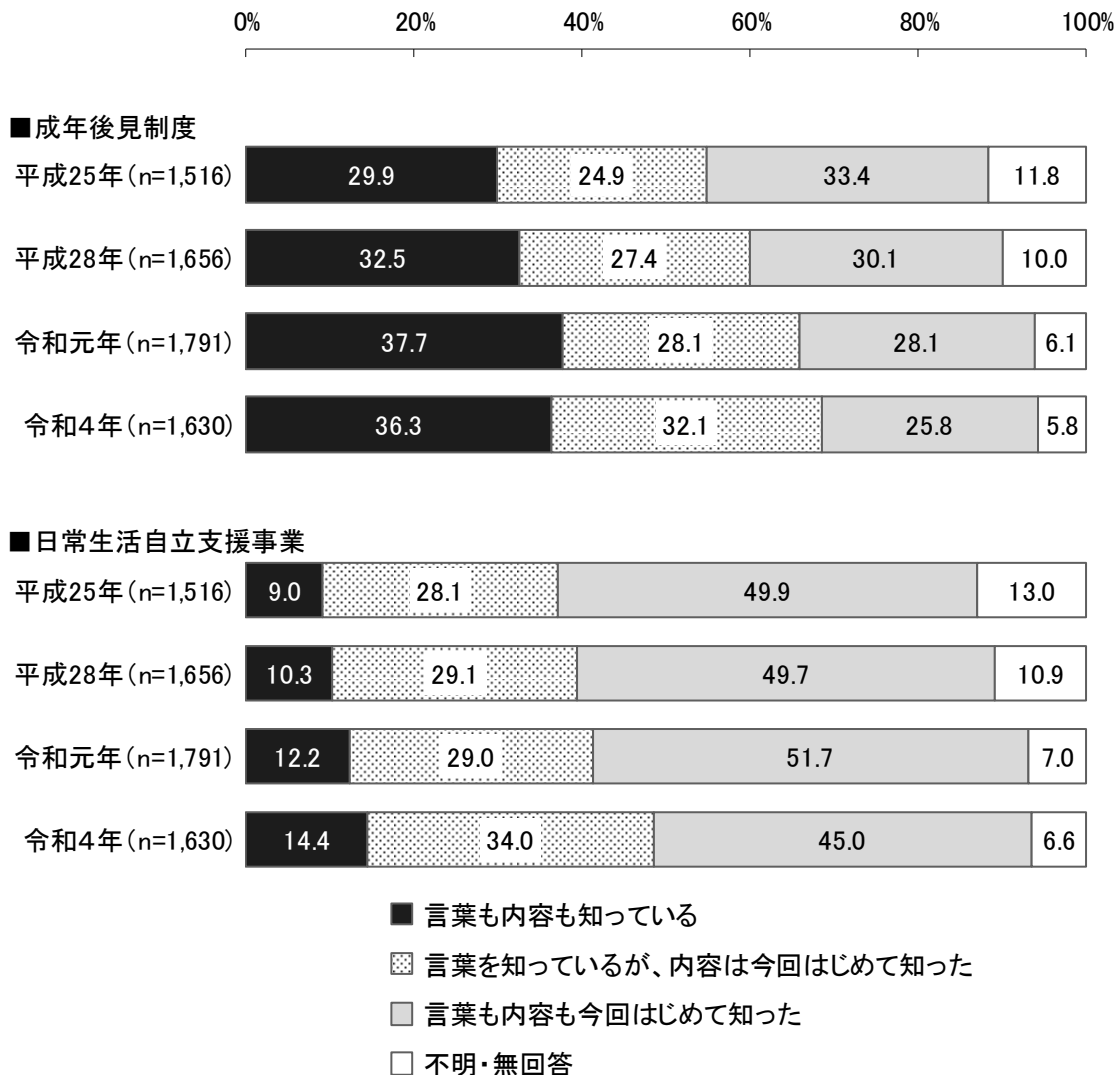
問 74 日常生活自立支援事業をご存じですか。(単数回答)

日常生活自立支援事業の認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が45.0%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が34.0%、「言葉も内容も知っている」が14.4%となっています。



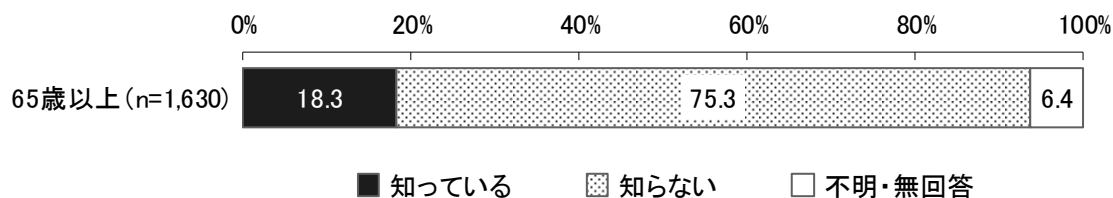
経年変化

経年でみると、成年後見制度は「言葉も内容も知っている」が平成25年以降高くなっていったものの、令和4年で低くなっています。日常生活自立支援事業は、「言葉も内容も知っている」が平成25年以降年々高くなっています。なお、いずれも平成25年以降、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が高くなっています。



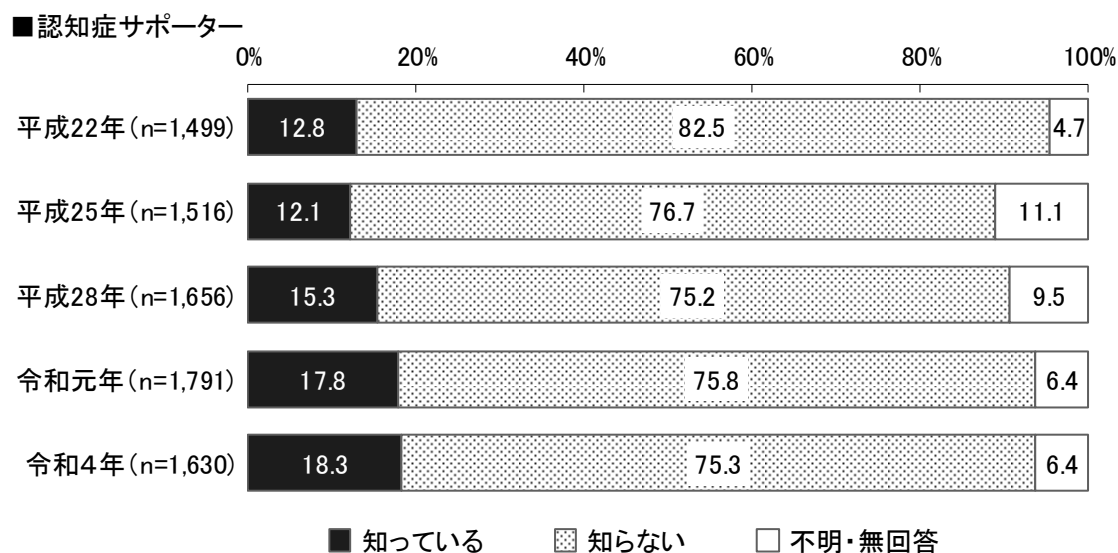
問 75 認知症サポーターをご存じですか。(単数回答)

認知症サポーターの認知度について、「知らない」が 75.3%、「知っている」が 18.3%となっています。



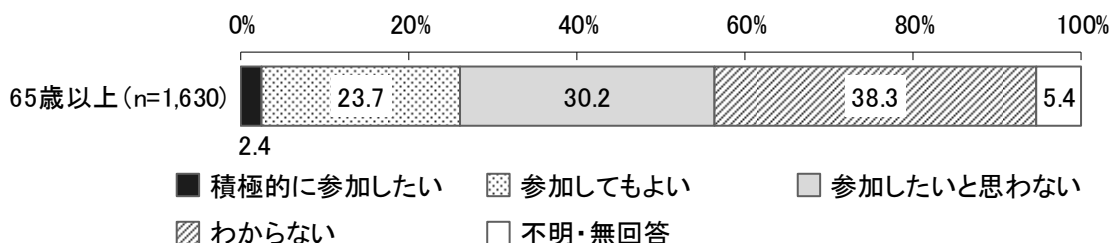
■ 経年変化

経年でみると、平成 25 年以降、「知っている」が高くなっています。



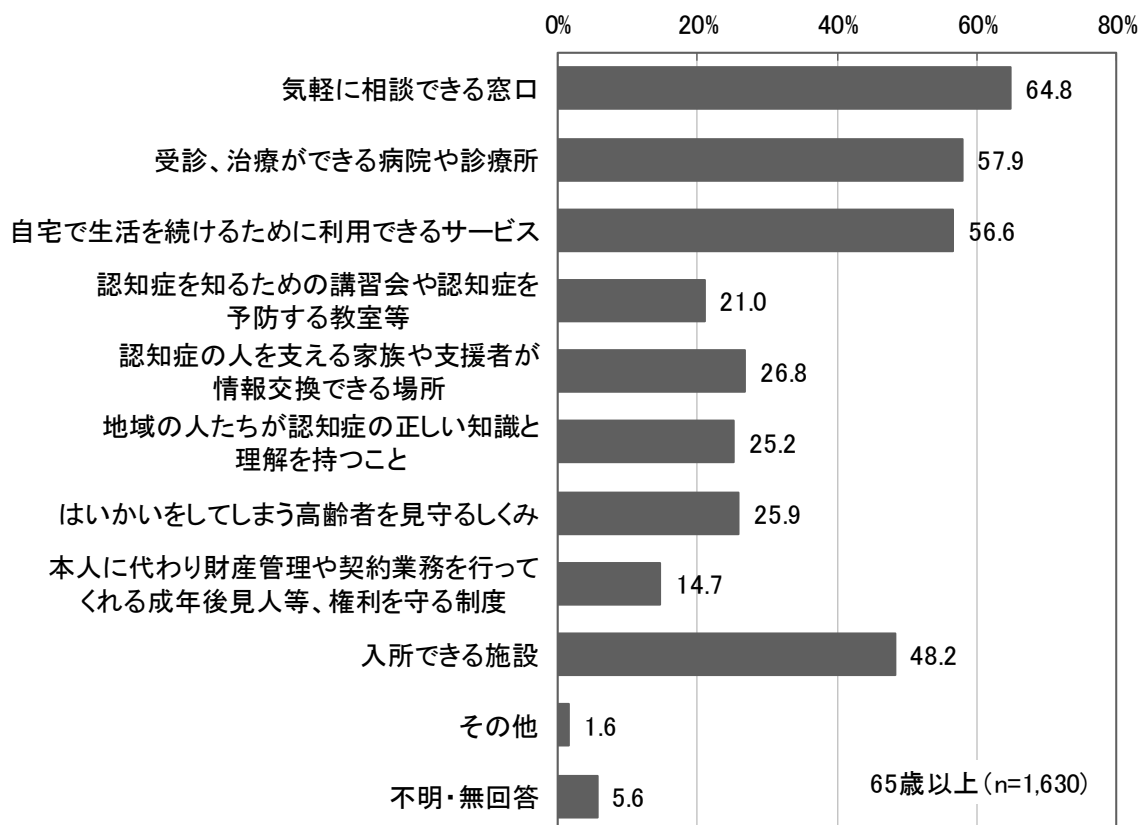
問 76 市が行っている、認知症サポーター養成講座について、今後参加したいと思いますか。 ※過去に参加したこともある方も今後の意向としてお答えください。(単数回答)

認知症サポーター養成講座への参加意向について、「参加してもよい」が23.7%、「積極的に参加したい」が2.4%となっています。



問 77 どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができると思いますか。(複数回答)

どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができると思うかについて、「気軽に相談できる窓口」が64.8%と最も高く、次いで「受診、治療ができる病院や診療所」が57.9%、「自宅で生活続けるために利用できるサービス」が56.6%となっています。なお、「入所できる施設」も48.2%と高くなっています。



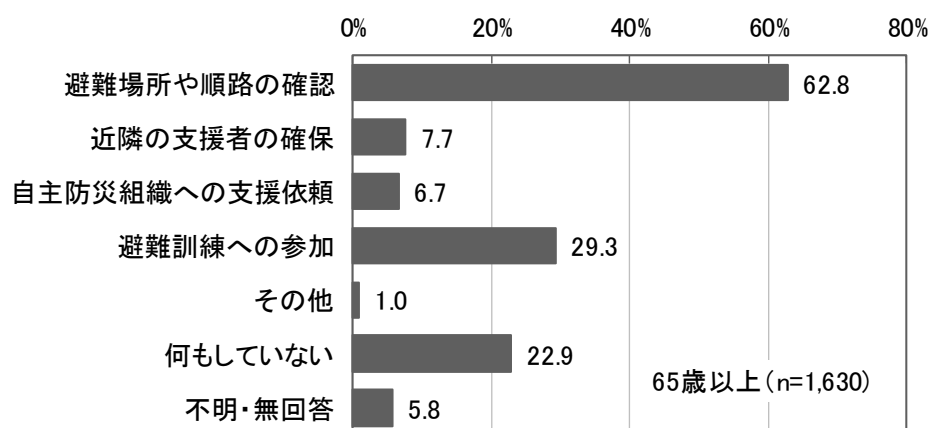
10 災害時の対策について

問 78 災害時の避難においてどのような対策をとっていますか。(複数回答)

災害時の避難対策について、「避難場所や順路の確認」が 62.8%と最も高く、次いで「避難訓練への参加」が 29.3%、「何もしていない」が 22.9%となっています。

年齢別でみると、いずれの年代でも「避難場所や順路の確認」が最も高く、次いで 65～89 歳では「避難訓練への参加」が、90 歳以上では「何もしていない」が他の年代と比べて高くなっています。

中学校区別でみると、いずれの中中学校区でも「避難場所や順路の確認」が最も高く、特に朝日中学校区では 68.2%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



■年齢別・中学校区別

(単位: %)	n=	避難場所や順路の確認	近隣の支援者の確保	依頼 自主防災組織への支援	避難訓練への参加	その他	何もしていない	不明・無回答
年齢別								
65～69 歳	353	66.9	4.0	4.8	27.2	1.7	23.2	2.0
70～74 歳	480	64.0	6.0	6.3	28.7	1.0	22.1	7.1
75～79 歳	369	62.9	9.2	8.4	31.2	1.1	24.7	3.8
80～84 歳	242	60.3	12.8	8.3	33.1	0.4	21.1	7.4
85～89 歳	107	57.0	10.3	7.5	26.2	0.0	23.4	8.4
90 歳以上	40	42.5	0.0	2.5	20.0	0.0	32.5	17.5
中学校区別								
刈谷南	264	61.7	5.7	6.1	20.1	1.5	25.8	4.9
刈谷東	263	61.2	6.1	3.4	27.8	1.1	26.2	5.7
富士松	278	67.6	10.4	9.4	44.6	0.7	15.1	5.0
雁が音	224	59.4	6.3	8.5	28.6	1.3	24.6	5.4
依佐美	280	61.1	8.6	7.1	29.6	0.0	24.6	6.1
朝日	223	68.2	8.5	7.2	24.2	1.3	21.5	5.8

■ ■ 経年変化

経年でみると、令和元年に「避難場所や順路の確認」が9.3ポイント増加し、令和4年も増加傾向で推移しています。

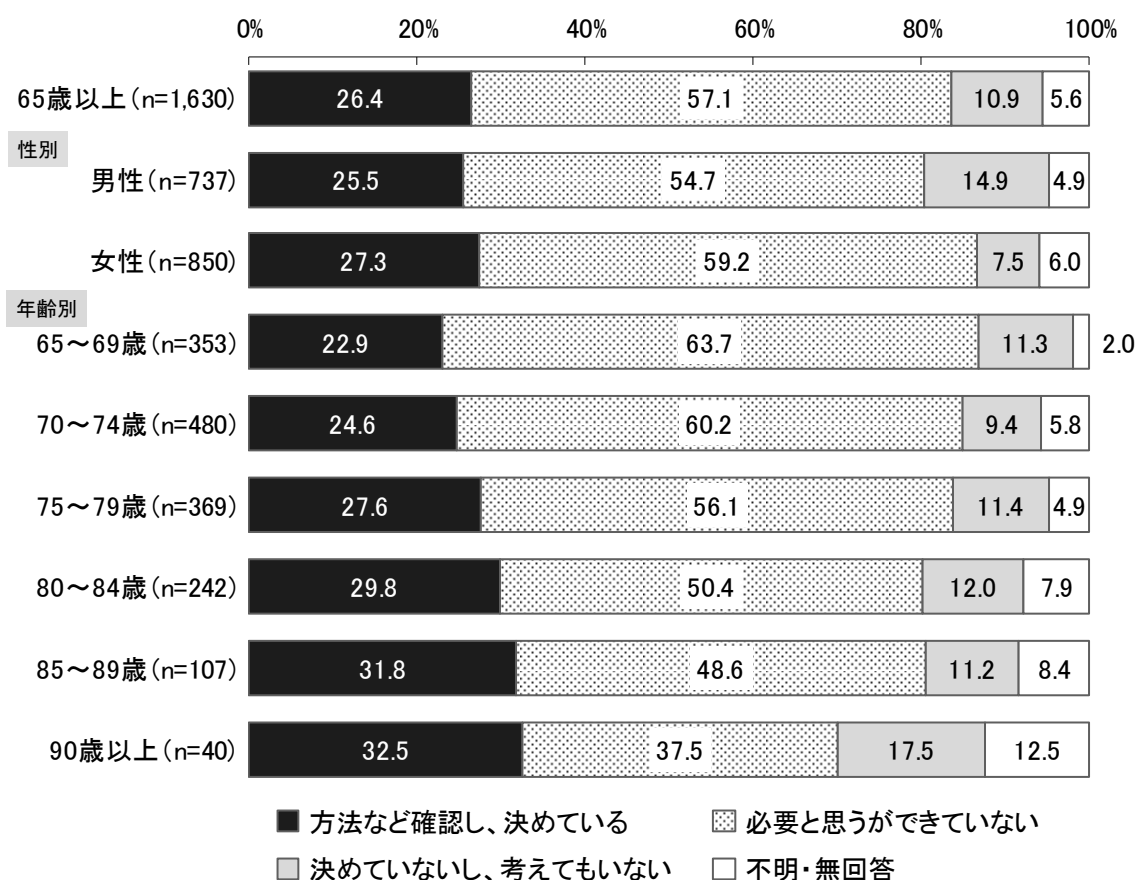
(単位: %)	n=	避難場所や順路の確認	近隣の支援者の確保	自主防災組織への支援依頼	避難訓練への参加	その他	何もしていない	不明・無回答
調査年度								
平成28年	1,656	52.5	10.5	6.9	28.7	1.4	32.0	9.5
令和元年	1,791	61.8	10.8	8.3	30.7	1.1	21.6	8.9
令和4年	1,630	62.8	7.7	6.7	29.3	1.0	22.9	5.8

問 79 家族と避難方法や安否確認の方法についての話し合いや決めごとをしていますか。(単数回答)

家族と避難方法や安否確認の方法についての話し合いや決めごとをしているかについて、「必要と思うができていない」が57.1%、「方法など確認し、決めている」が26.4%、「決めていないし、考えてもいない」が10.9%となっています。

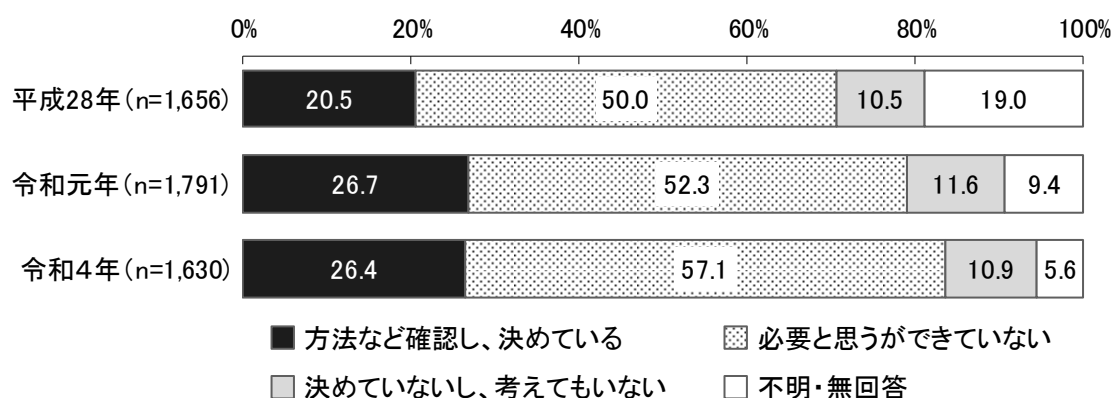
性別でみると、男性で「決めていないし、考えてもいない」が14.9%と、女性と比べて7.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、65～69歳で「必要と思うができていない」が63.7%と、他の年代と比べて高くなっています。



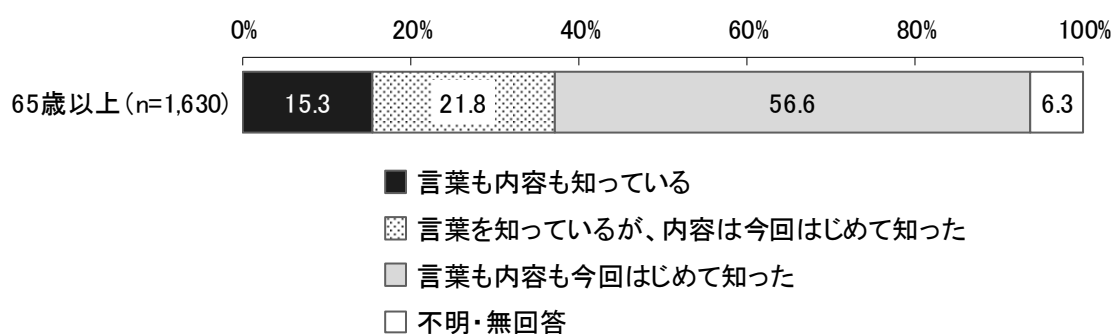
■ 経年変化

経年でみると、平成 28 年以降、「必要と思うができていない」が高くなっています。



問 80 避難行動要支援者名簿をご存知ですか。(単数回答)

避難行動要支援者名簿の認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が 56.6%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が 21.8%、「言葉も内容も知っている」が 15.3%、となっています。



11 高齢期の課題について

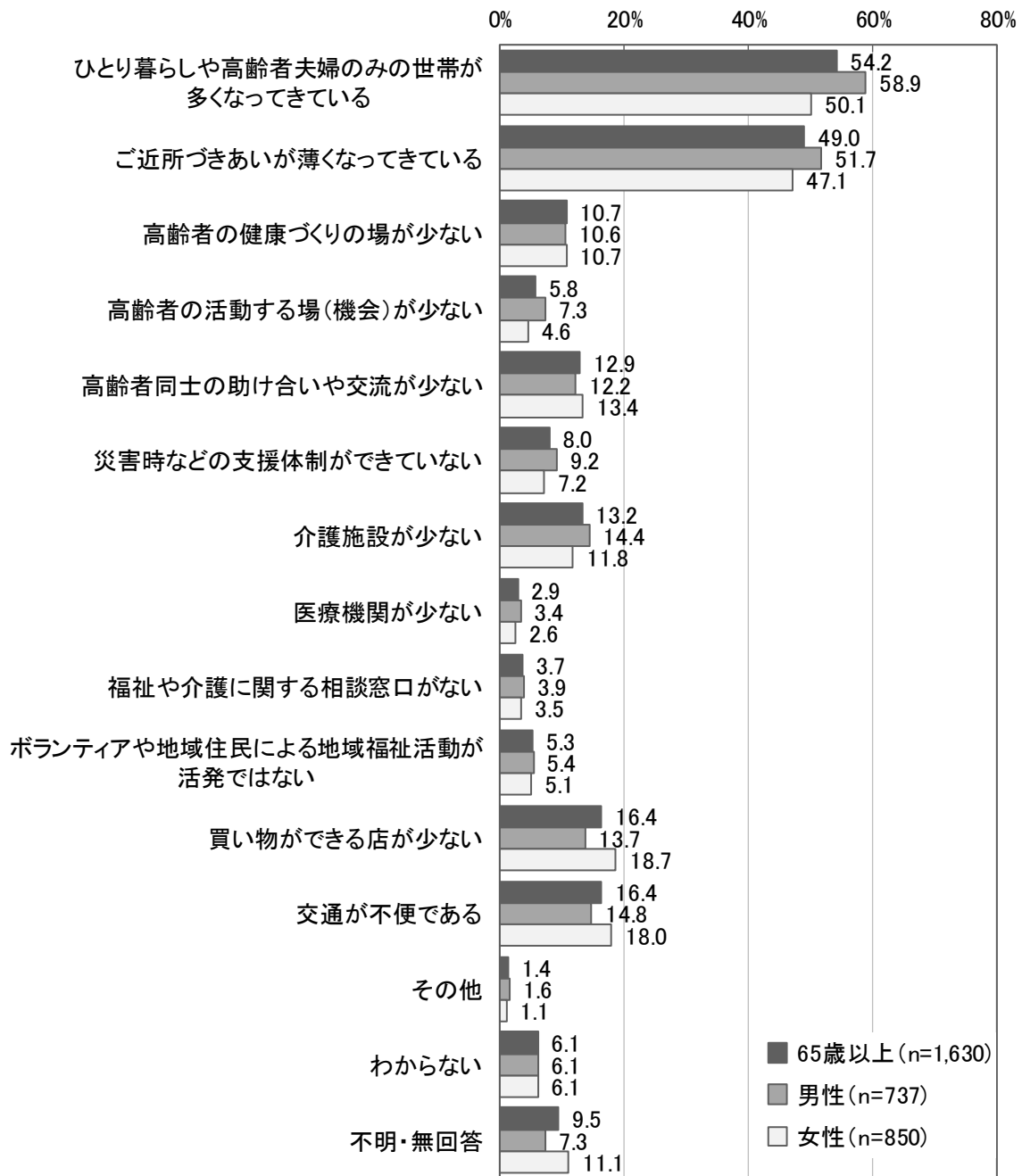
問 81 あなたの地域（中学校区程度）における高齢者（高齢化）に関する課題は何だと思えますか。（複数回答）

地域における高齢者に関する課題について、「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が54.2%と最も高く、次いで「ご近所づきあいが薄くなってきている」が49.0%、「買い物ができる店が少ない」「交通が不便である」がそれぞれ16.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が最も高くなっています。

年齢別でみると、65～84 歳では「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が、85 歳以上では「ご近所づきあいが薄くなってきている」が、それぞれ最も高くなっています。

中学校区別でみると、朝日中学校区では「高齢者同士の助け合いや交流が少ない」が18.4%と、他の中学校区と比べて高くなっています。また、雁が音中学校区では「買い物ができる店が少ない」が3割弱、雁が音、依佐美、富士松の各中学校区では「交通が不便である」が2割前後と、他の中学校区と比べて高くなっています。



■年齢別・中学校区別

(単位: %)	n=	ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなっている	近所づきあいが薄くなっている	高齢者の健康づくりの場が少ない	高齢者の活動する場(機会)が少ない	高齢者同士の助け合いや交流が少ない	災害時などの支援体制ができていない	介護施設が少ない	医療機関が少ない	福祉や介護に関する相談窓口がない	ボランティアや地域住民による地域福祉活動が活発ではない
年齢別											
65～69 歳	353	58.9	48.7	8.8	6.5	9.9	13.0	13.9	4.0	3.7	6.5
70～74 歳	480	54.0	49.6	9.6	5.2	11.3	7.9	13.8	2.3	3.3	4.6
75～79 歳	369	53.7	47.7	10.8	6.5	13.6	5.4	11.1	3.0	2.7	5.4
80～84 歳	242	53.3	50.4	12.4	4.1	15.7	7.4	13.2	2.5	3.7	4.5
85～89 歳	107	46.7	48.6	16.8	9.3	21.5	4.7	11.2	3.7	9.3	3.7
90 歳以上	40	45.0	60.0	10.0	2.5	10.0	7.5	15.0	2.5	2.5	10.0
中学校区別											
刈谷南	264	52.7	52.7	12.9	8.7	15.9	9.1	13.6	3.4	1.9	5.3
刈谷東	263	55.9	56.3	9.1	3.0	10.6	6.8	14.4	3.8	3.0	6.1
富士松	278	56.8	50.0	10.1	4.0	10.4	5.8	12.2	2.9	3.2	4.3
雁が音	224	52.2	42.4	8.5	3.6	8.5	5.4	12.5	3.6	4.9	4.0
依佐美	280	53.9	50.4	10.7	6.4	13.6	10.4	9.3	2.5	3.9	5.0
朝日	223	54.7	43.9	13.5	9.4	18.4	10.3	16.1	2.2	4.5	8.1

(単位: %)	n=	買い物ができる店が少ない	交通が不便である	その他	わからない	不明・無回答
年齢別						
65～69 歳	353	14.7	18.7	1.4	7.1	4.5
70～74 歳	480	15.2	16.5	0.8	7.5	9.4
75～79 歳	369	17.9	15.2	2.4	7.0	10.0
80～84 歳	242	16.1	14.9	1.2	2.9	12.8
85～89 歳	107	22.4	20.6	0.0	2.8	9.3
90 歳以上	40	17.5	10.0	0.0	0.0	22.5
中学校区別						
刈谷南	264	20.8	12.1	1.5	6.4	10.2
刈谷東	263	12.2	16.0	0.4	7.2	8.0
富士松	278	19.4	19.4	0.7	5.8	9.4
雁が音	224	27.7	23.2	2.7	3.6	10.7
依佐美	280	14.6	20.0	2.1	6.8	7.5
朝日	223	5.4	10.8	0.0	6.3	9.0

■ ■ 経年変化

経年でみると、平成 28 年以降、「ご近所づきあいが薄くなってきている」が高くなっています。

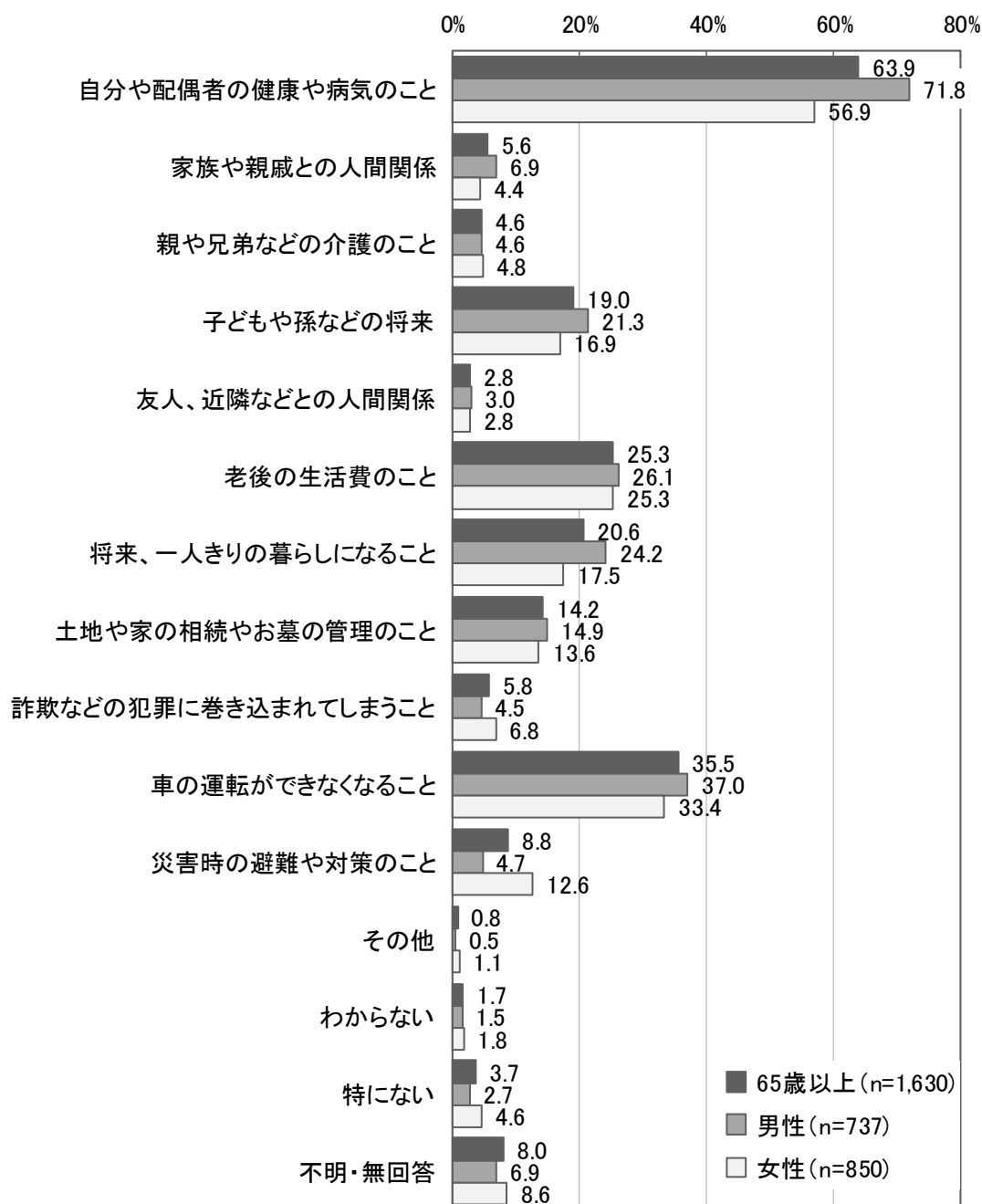
(単位: %)	n=	ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなっている	ご近所づきあいが薄くなってきている	高齢者の健康づくりの場が少ない	高齢者の活動する場(機会)が少ない	高齢者同士の助け合いや交流が少ない	災害時などの支援体制ができていない	介護施設が少ない	医療機関が少ない	福祉や介護に関する相談窓口がない	ボランティアや地域住民による地域福祉活動が活発ではない
調査年度											
平成 28 年	1,656	49.0	45.9	9.8	7.3	15.0	12.6	13.2	2.2	3.3	6.6
令和元年	1,791	54.8	47.9	8.7	6.2	13.6	10.2	17.1	3.9	4.7	7.3
令和4年	1,630	54.2	49.0	10.7	5.8	12.9	8.0	13.2	2.9	3.7	5.3

(単位: %)	n=	買い物ができる店が少ない	交通が不便である	その他	わからない	不明・無回答
調査年度						
平成 28 年	1,656	18.5	15.8	0.6	7.3	16.4
令和元年	1,791	21.8	20.4	0.9	5.2	8.3
令和4年	1,630	16.4	16.4	1.4	6.1	9.5

問 82 あなたご自身が、高齢期において不安に思うことがありますか。(複数回答)

高齢期において不安に思うことについて、「自分や配偶者の健康や病気のこと」が 63.9%と最も高く、次いで「車の運転ができなくなること」が 35.5%、「老後の生活費のこと」が 25.3%となっています。

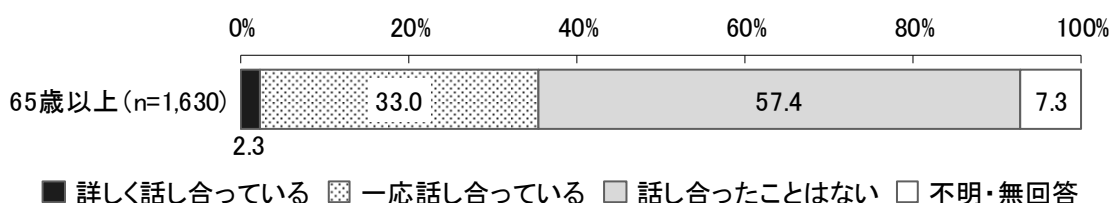
性別でみると、男女ともに「自分や配偶者の健康や病気のこと」が最も高く、男性は女性と比べて 14.9 ポイント高くなっています。



12 希望する医療等について

問 83 あなたは、自分の死期が近づいた場合の治療方針等について、ご家族等（内縁関係の方を含みます）や医療介護関係者とどのくらい話し合ったことがありますか。（単数回答）

自分の死期が近づいた場合の治療方針等をご家族等や医療介護関係者とどのくらい話し合ったことがあるかについて、「話し合ったことはない」が 57.4%、「一応話し合っている」が 33.0%、「詳しく話し合っている」が 2.3%となっています。

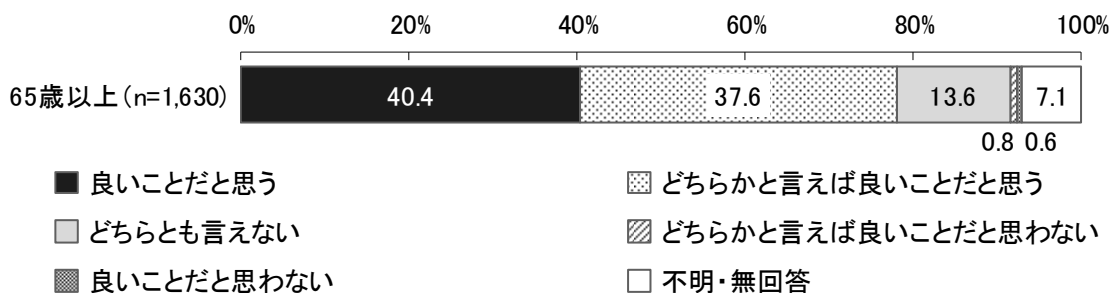


問 84 あなたは、自分が意思決定できなくなった時に備えて、どのような医療・療養・介護を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。（単数回答）

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『良いことだと思う』 … 「良いことだと思う」と「どちらかと言えば良いことだと思う」を合算
 『良いことだと思わない』 … 「どちらかと言えば良いことだと思わない」と「良いことだと思わない」を合算

自分が意思決定できなくなった時に備えて、どのような医療・療養・介護を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについて、『良いことだと思う』が 78.0%、「どちらとも言えない」が 13.6%、『良いことだと思わない』が 1.4%となっています。

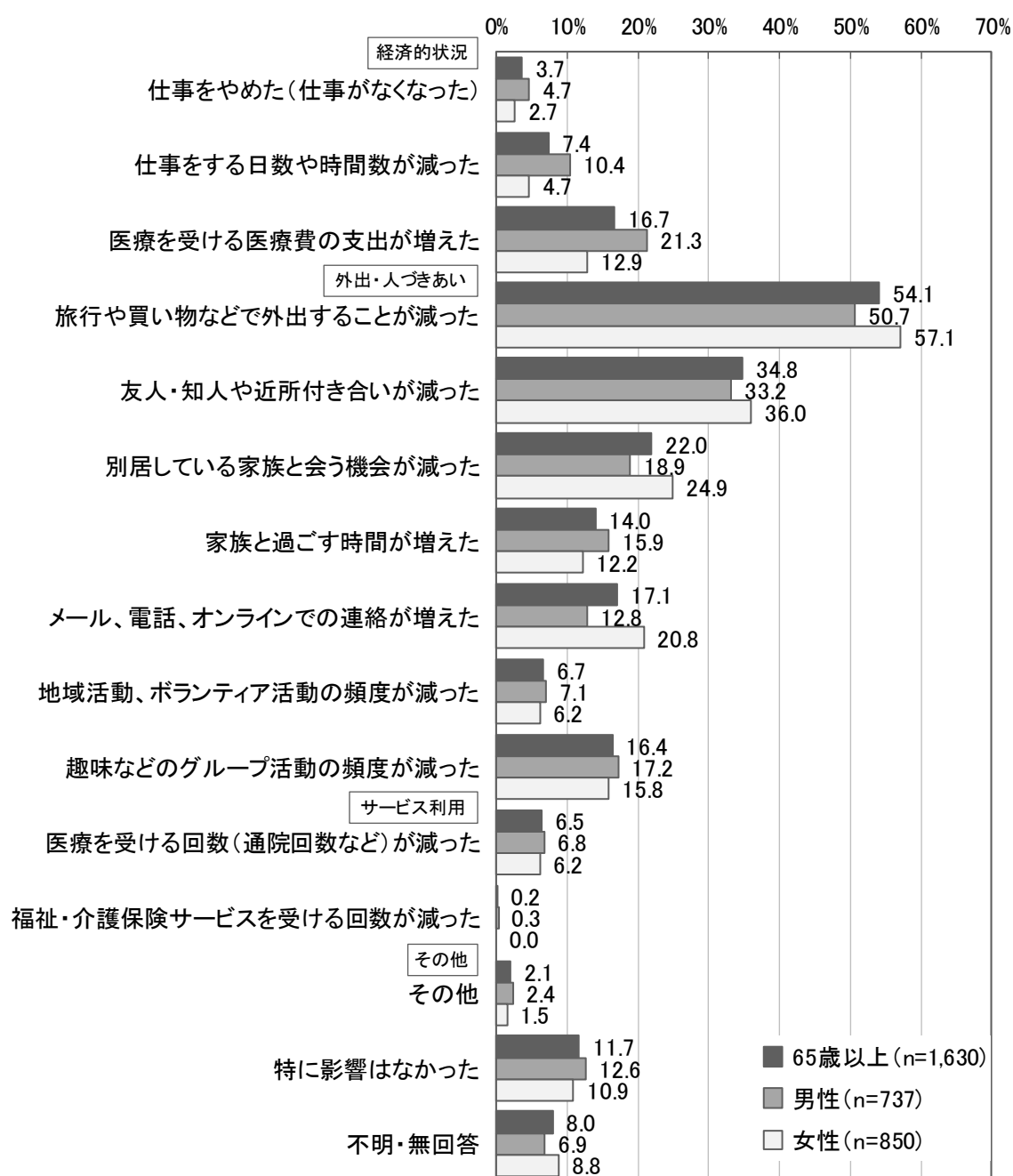


13 その他近年の生活状況について

問 85 新型コロナウイルス感染症が流行して以降、あなたの生活はどう変わりましたか。(複数回答)

新型コロナウイルス感染症が流行して以降、生活はどう変化したかについて、「旅行や買い物などで外出することが減った」が54.1%と最も高く、次いで「友人・知人や近所付き合いが減った」が34.8%、「別居している家族と会う機会が減った」が22.0%と、外出・人づきあいに関する割合が高くなっています。

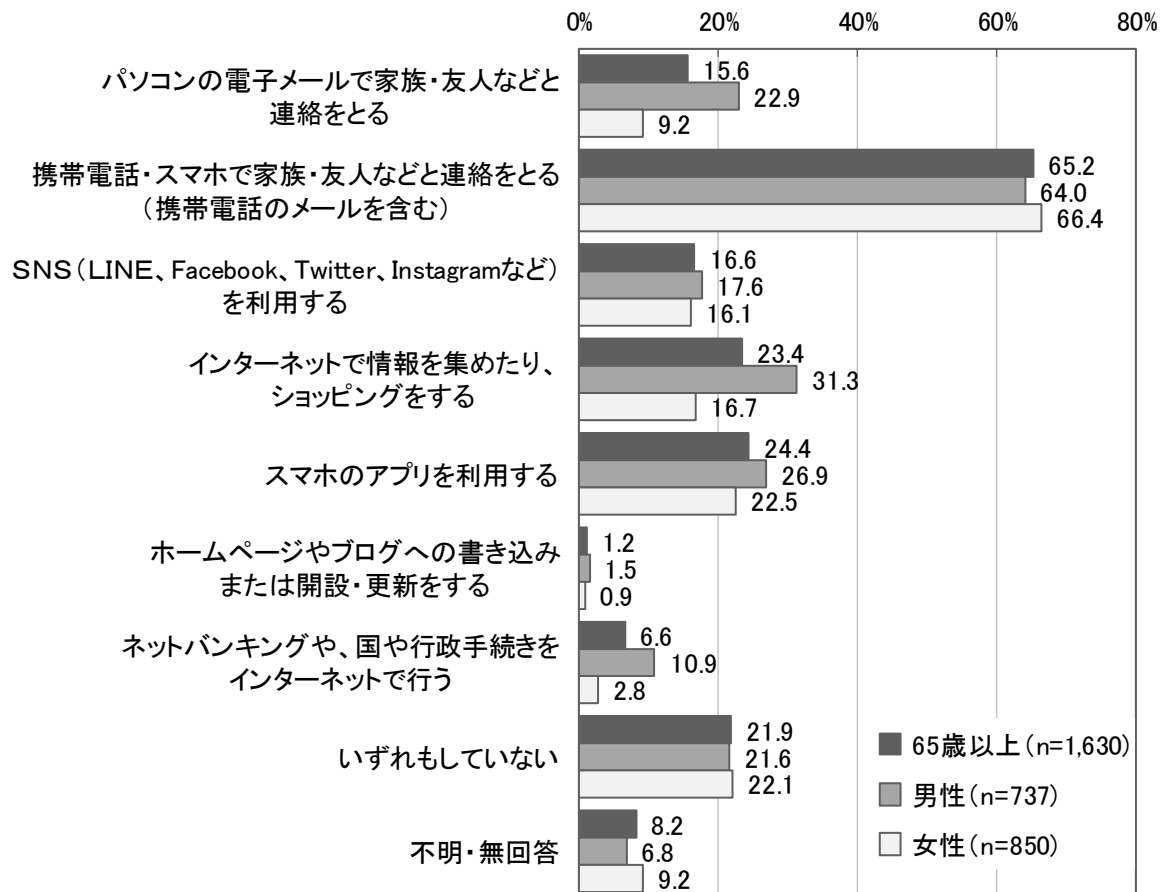
性別でみると、男女ともに「旅行や買い物などで外出することが減った」がそれぞれ最も高くなっています。



問 86 あなたはパソコンやスマホなどの情報機器を使って、どのようなことをされますか。(複数回答)

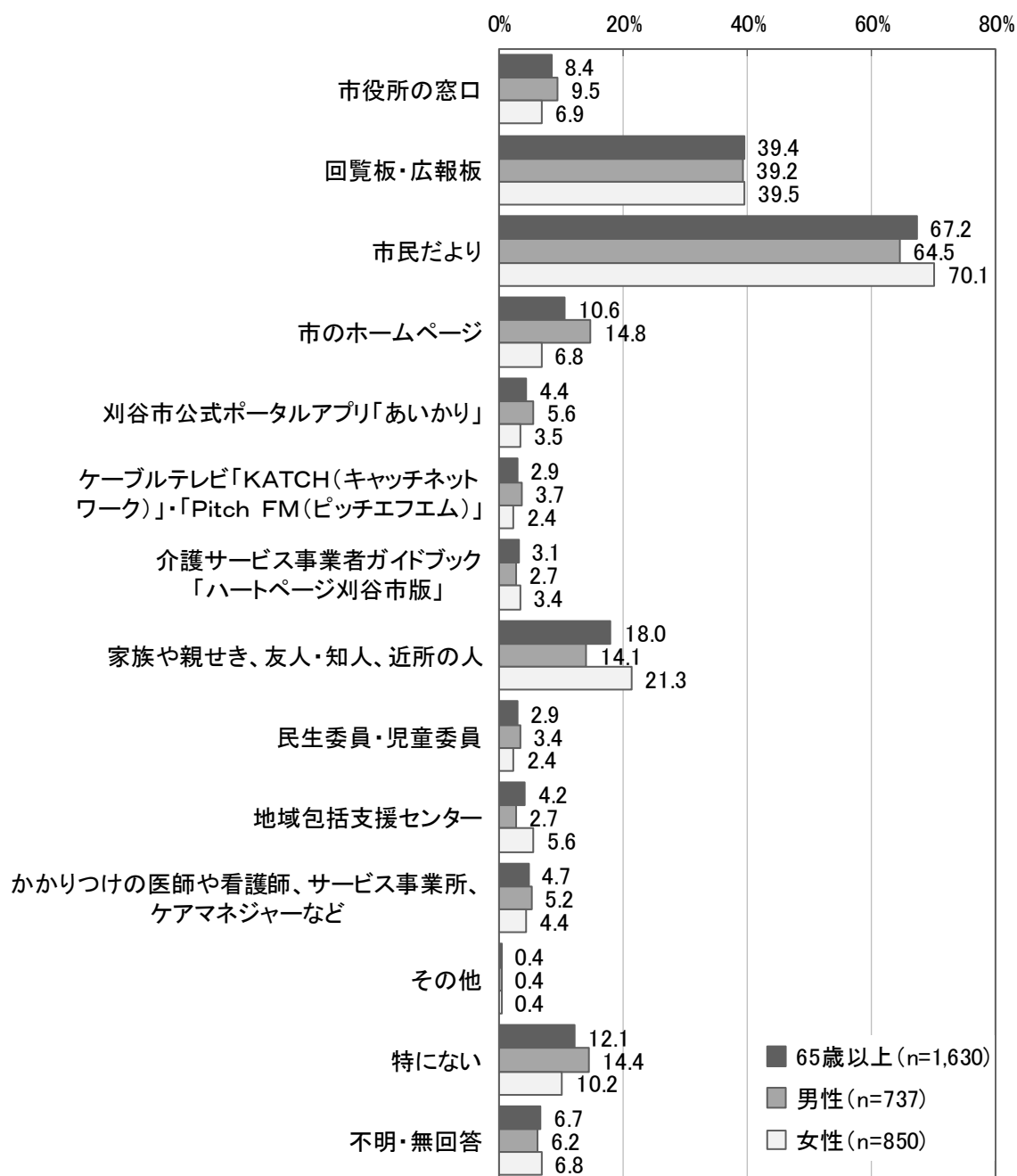
パソコンやスマホなどの情報機器を使ってやっていることについて、「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる（携帯電話のメールを含む）」が 65.2%と最も高く、次いで「スマホのアプリを利用する」が 24.4%、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」が 23.4%となっています。

性別でみると、男性で「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」が、それぞれ女性と比べて 10 ポイント以上高くなっています。



問 87 あなたは、市の高齢者福祉や介護に関する情報をどこから入手していますか。
(複数回答)

市の高齢者福祉や介護に関する情報の入手先について、は、「市民だより」が67.2%と最も高く、次いで「回覧板・広報板」が39.4%、「家族や親せき、友人・知人、近所の人」が18.0%となっています。
性別でみると、男女ともに「市民だより」が最も高くなっています。

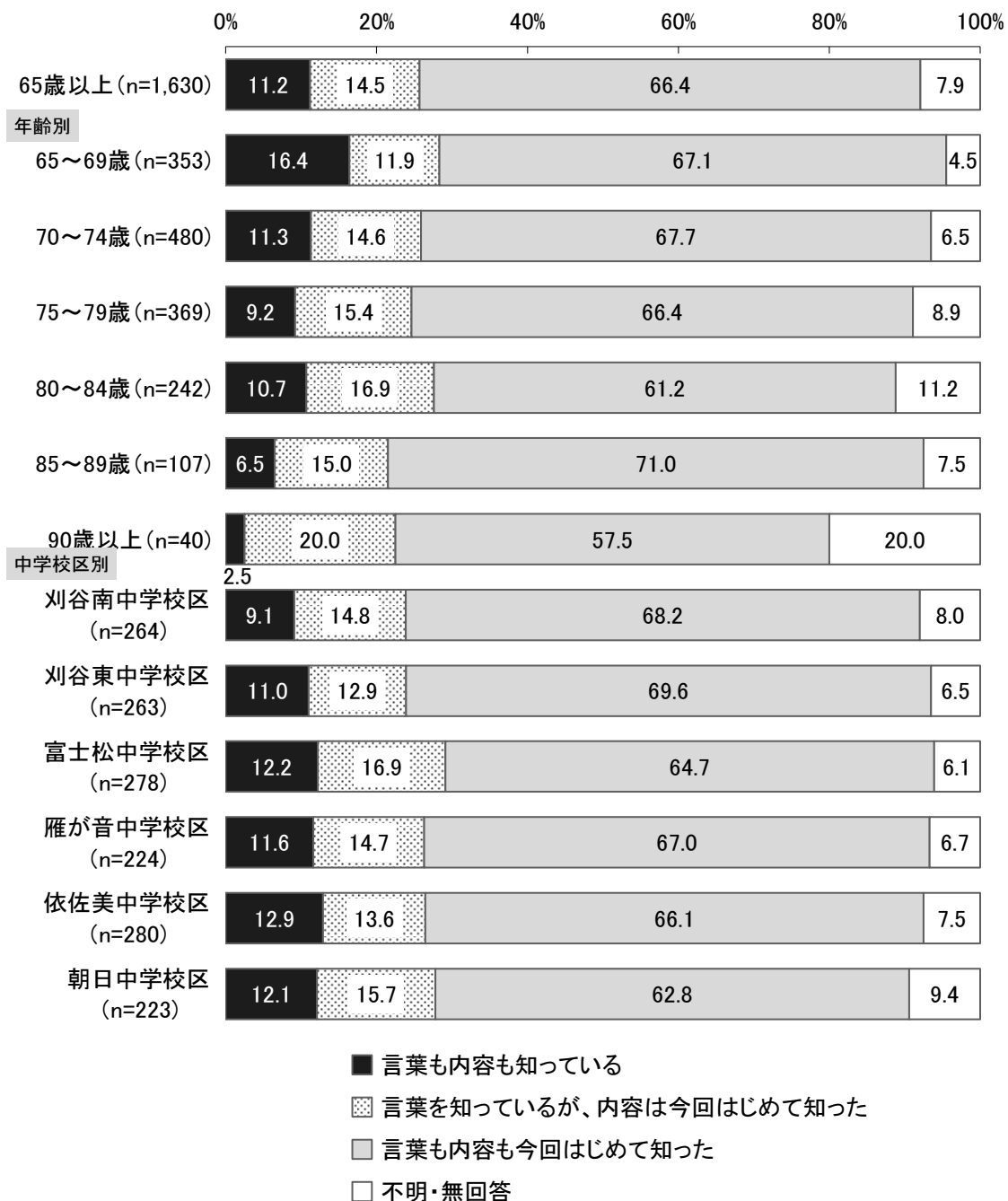


問 88 介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」をご存じですか。(単数回答)

介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」の認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が66.4%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が14.5%、「言葉も内容も知っている」が11.2%となっています。

年齢別でみると、「言葉も内容も今回はじめて知った」が85～89歳で71.0%、90歳以上を除いた年代でそれぞれ6割以上と高くなっています。

中学校区別でみると、いずれの中中学校区でも「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」がそれぞれ約6割以上と高くなっています。

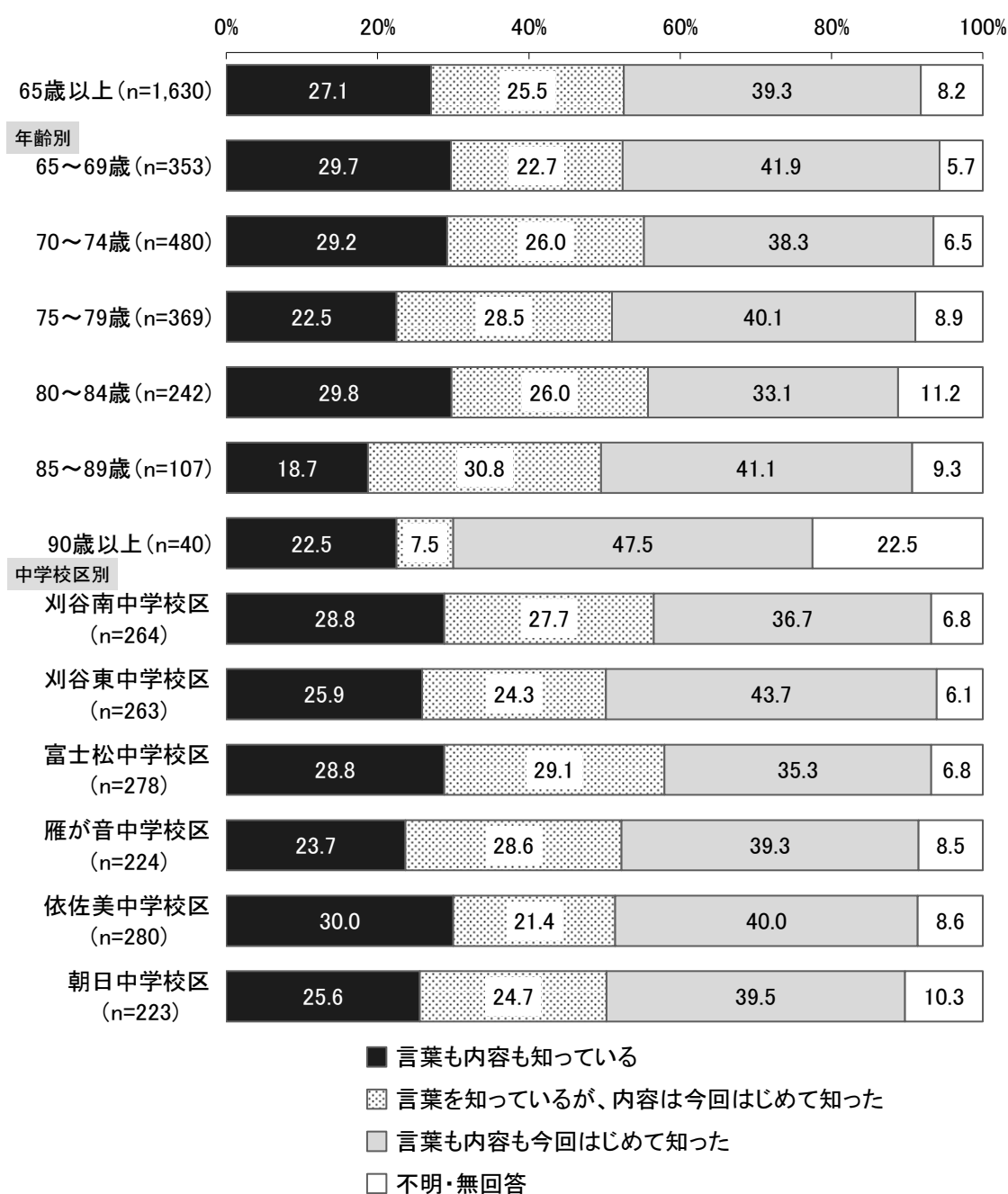


問 89 地域包括支援センターをご存じですか。(単数回答)

地域包括支援センターの認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が39.3%、「言葉も内容も知っている」が27.1%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が25.5%となっています。

年齢別でみると、「言葉も内容も今回はじめて知った」が90歳以上で47.5%、80～84歳を除いた年代でそれぞれ4割前後と高くなっています。

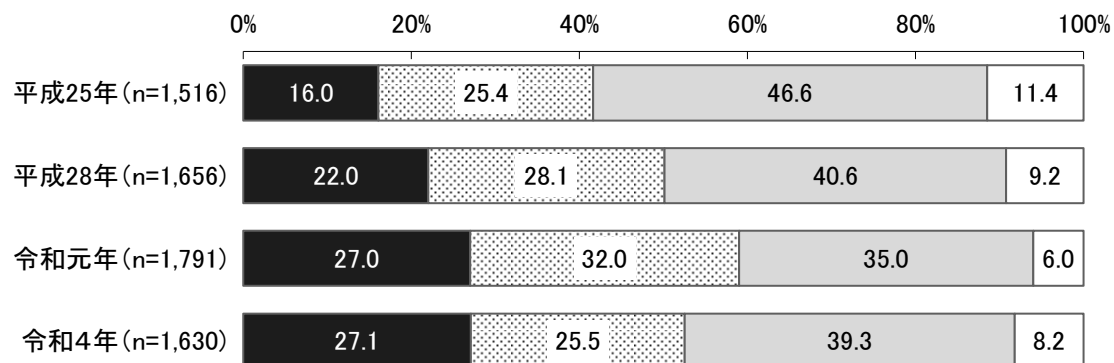
中学校区別でみると、富士松、雁が音、刈谷南中学校区で「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」がそれぞれ約3割と、他の中学校区と比べて高くなっています。



■ 経年変化

経年でみると、平成 25 年以降、「言葉も内容も知っている」が高くなっています。

■ 地域包括支援センター



■ 言葉も内容も知っている

▨ 言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った

■ 言葉も内容も今回はじめて知った

□ 不明・無回答

14 調査結果からみる調査対象者の評価

一般高齢者調査結果を活用し、「運動器」「転倒」「閉じこもりリスク」「栄養」「口腔」「認知機能」「うつ傾向」「IADL」「知的能動性」「社会的役割」の10項目について機能判定の評価を行いました。

(1) 運動器

■評価方法

以下の5つの設問中3問以上、該当する選択肢（問10～12で「できない」、問13で「何度もある」または「1度ある」、問14で「とても不安である」または「やや不安である」）が回答された場合、該当者（運動器機能の低下している高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

設問番号	設問	できるし、している	できるけどしていない	できない	不明・無回答
10	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	59.0	23.7	13.2	4.2
11	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	73.3	13.9	8.5	4.3
12	15分位続けて歩いていますか。	70.8	19.1	6.0	4.1

設問番号	設問	何度もある	1度ある	ない	不明・無回答
13	過去1年間に転んだ経験がありますか。	6.6	20.8	69.0	3.6

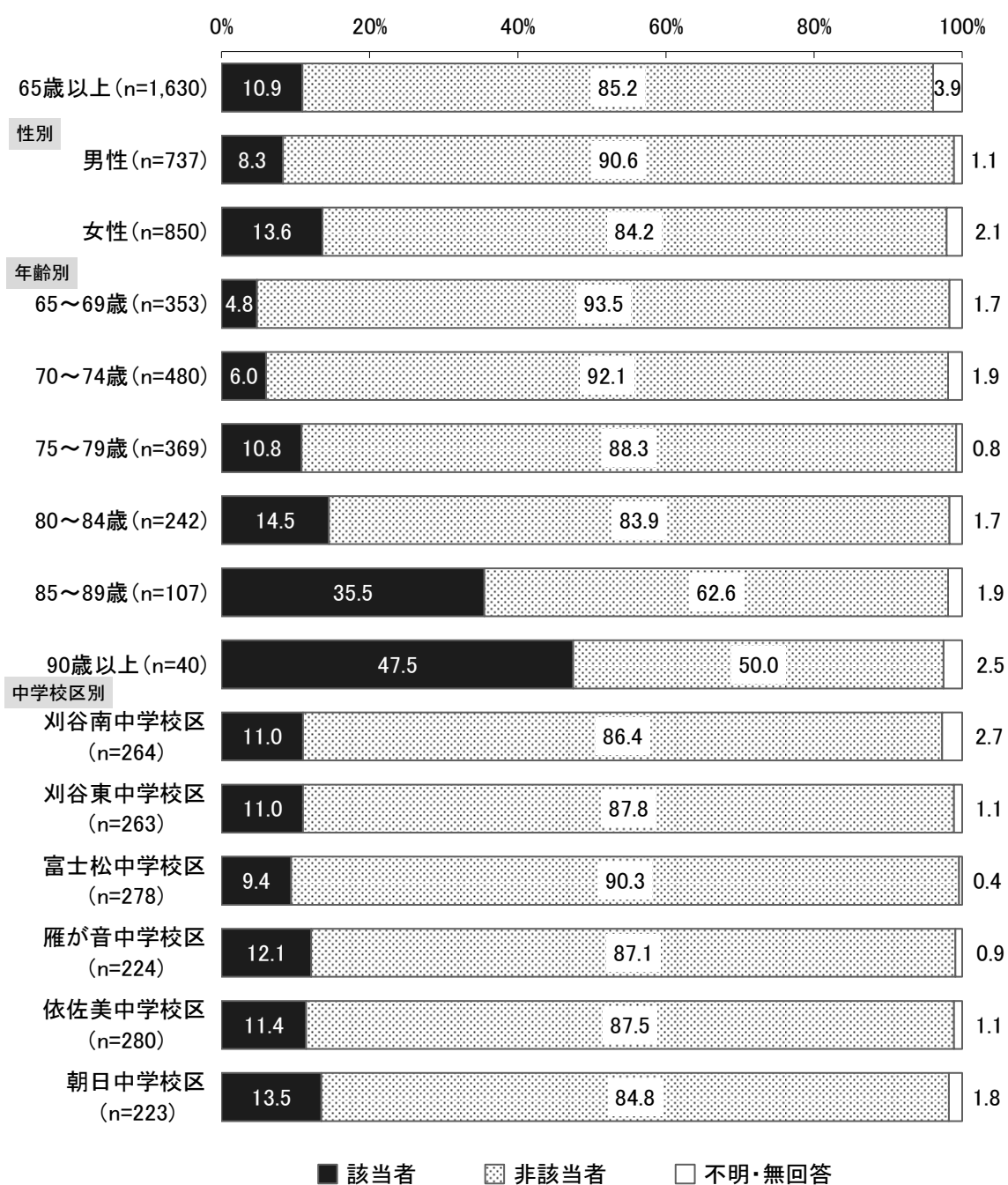
設問番号	設問	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	不明・無回答
14	転倒に対する不安は大きいですか。	12.1	34.4	31.2	18.2	4.2

「該当者」は10.9%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性に比べて女性で5.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「該当者」は年代が上がるにつれて高くなっています。

中学校区別でみると、「該当者」はいずれの中学校区でもそれぞれ1割前後となっています。



(2) 転倒

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「何度もある」または「1度ある」）が回答された場合、該当者（転倒リスクのある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

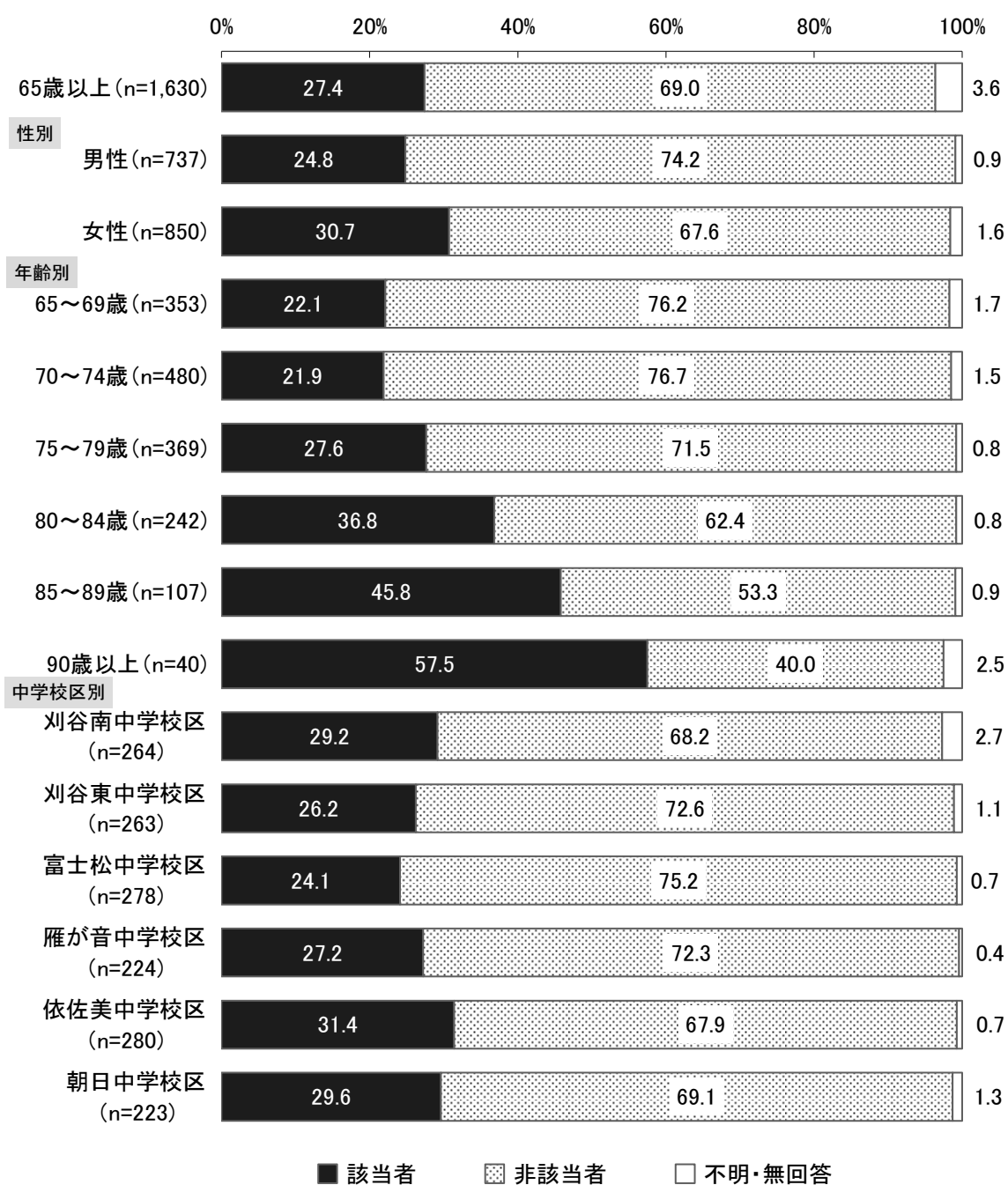
設問 番号	設問	何度もある	1度ある	ない	不明・無回答
13	過去1年間に転んだ経験がありますか。	6.6	20.8	69.0	3.6

「該当者」は27.4%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性と比べて女性で5.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「該当者」は年代が上がるにつれて高くなっています。

中学校区別でみると、「該当者」は富士松中学校区を除き、それぞれ3割前後となっています。



(3) 閉じこもりリスク

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「ほとんど外出しない」または「週1回」）が回答された場合、該当者（閉じこもり傾向のある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

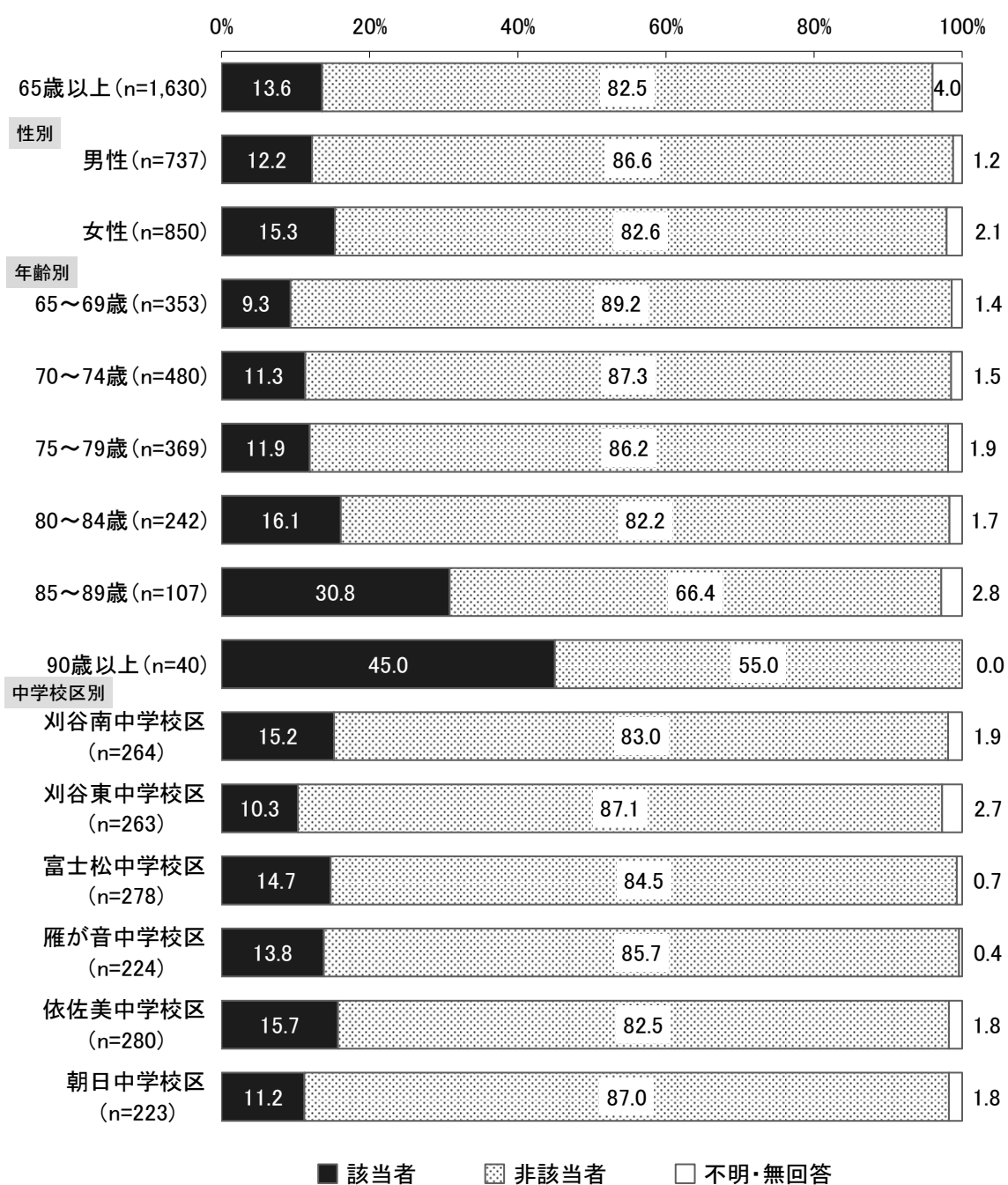
設問 番号	設問	ほとんど 外出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	不明・ 無回答
15	週に1回以上は外出していますか。	3.9	9.7	42.4	40.1	4.0

「該当者」は13.6%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性と比べて女性で3.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「該当者」は年代が上がるにつれ高くなっています。

中学校区別にみると、「該当者」は依佐美、刈谷南、富士松の各中学校区で15%程度となっています。



(4) 栄養

■評価方法

以下の2つの設問のうち、問20の結果から算出したBMIが18.5未満かつ、問29で「はい」と回答された場合、該当者（低栄養状態にある高齢者）とした。

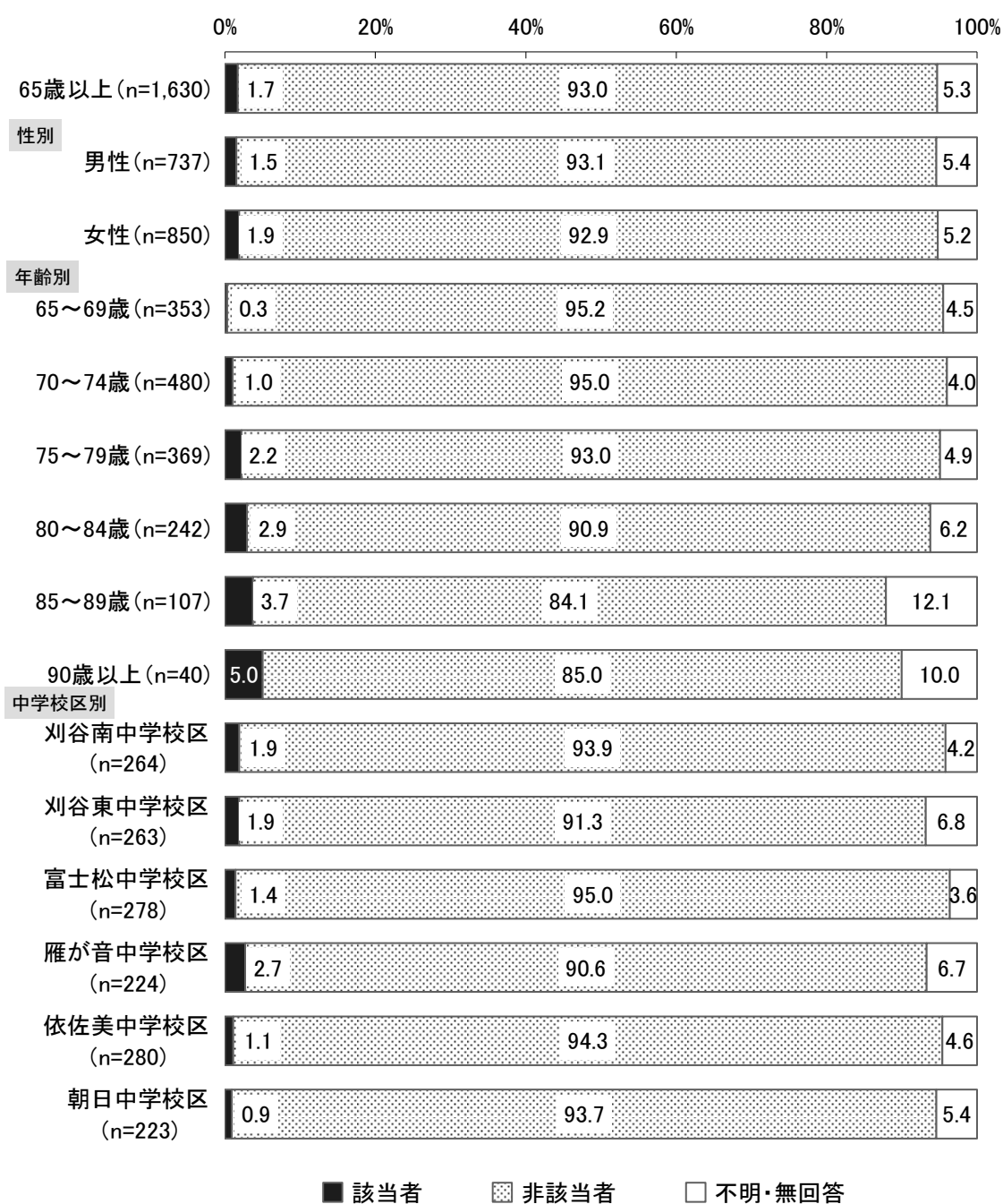
■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

設問 番号	設問	BMI 18.5 未満	BMI 18.5 以上	不明・無回答
20	身長、体重はいくつですか。	7.9	87.2	4.9
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
29	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	12.7	82.0	5.3

「該当者」は1.7%となっています。

性別、年齢別、中学校区別でみても10ポイントを超えるような大差はみられませんが、「該当者」は年代が上がるにつれ高くなっています。



(5) 口腔

■評価方法

以下の3つの設問中2問以上、該当する選択肢（「はい」）が回答された場合、該当者（口腔機能の低下している高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

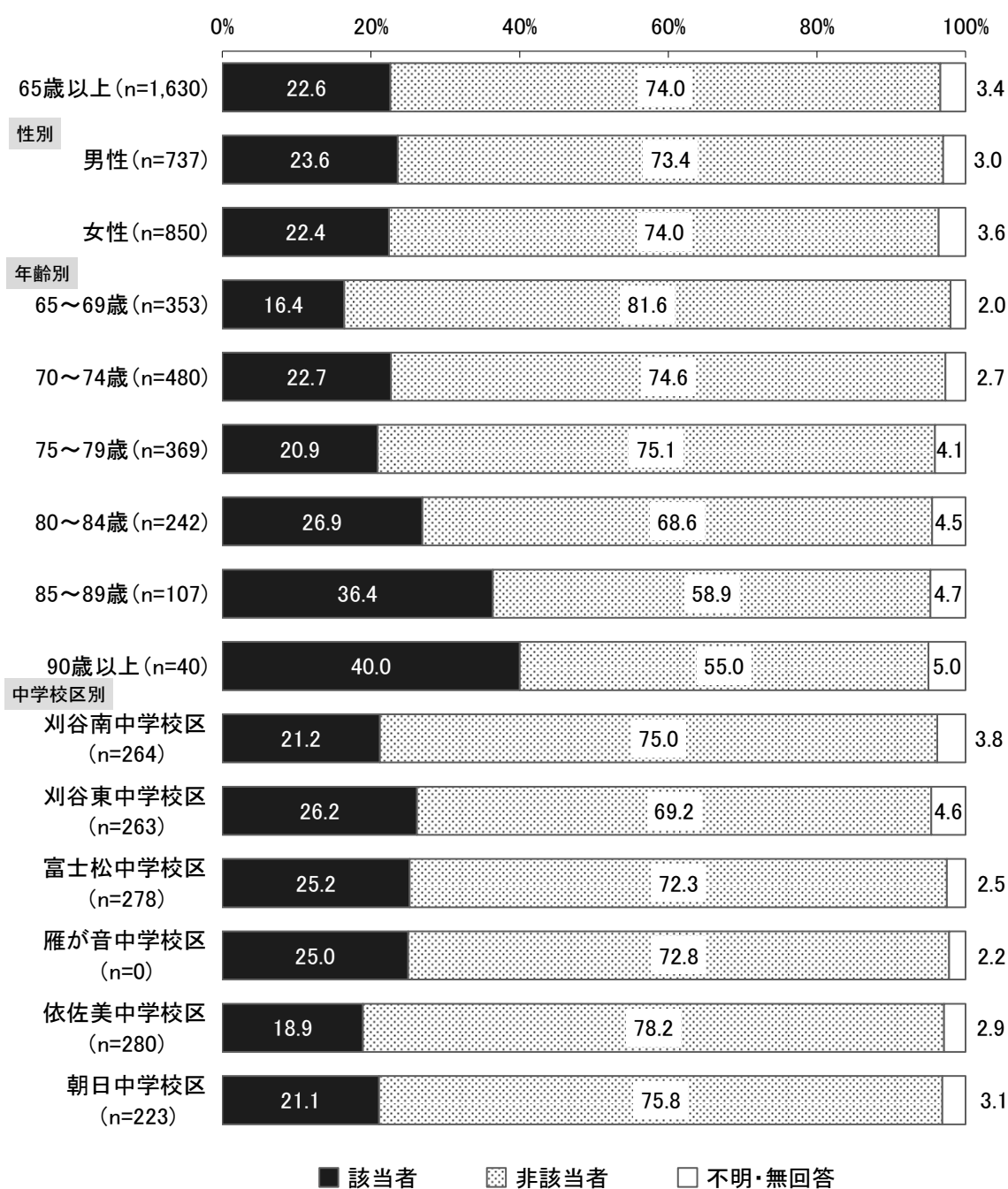
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
21	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	29.1	67.5	3.3
22	お茶や汁物などでむせることがありますか。	27.2	69.7	3.1
23	口の渇きが気になりますか。	26.3	70.3	3.4

「該当者」は22.6％となっています。

性別でみると、10ポイントを超えるような大差はみられません。

年齢別でみると、「該当者」は75歳以降で年代が上がるにつれ高くなっています。

中学校区別にみると、「該当者」は刈谷東、富士松、雁が音の各中学校区で25～26％程度となっています。



(6) 認知機能

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「はい」）が回答された場合、該当者（認知機能の低下がみられる高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【65 歳以上(n=1,630)】

単位：％

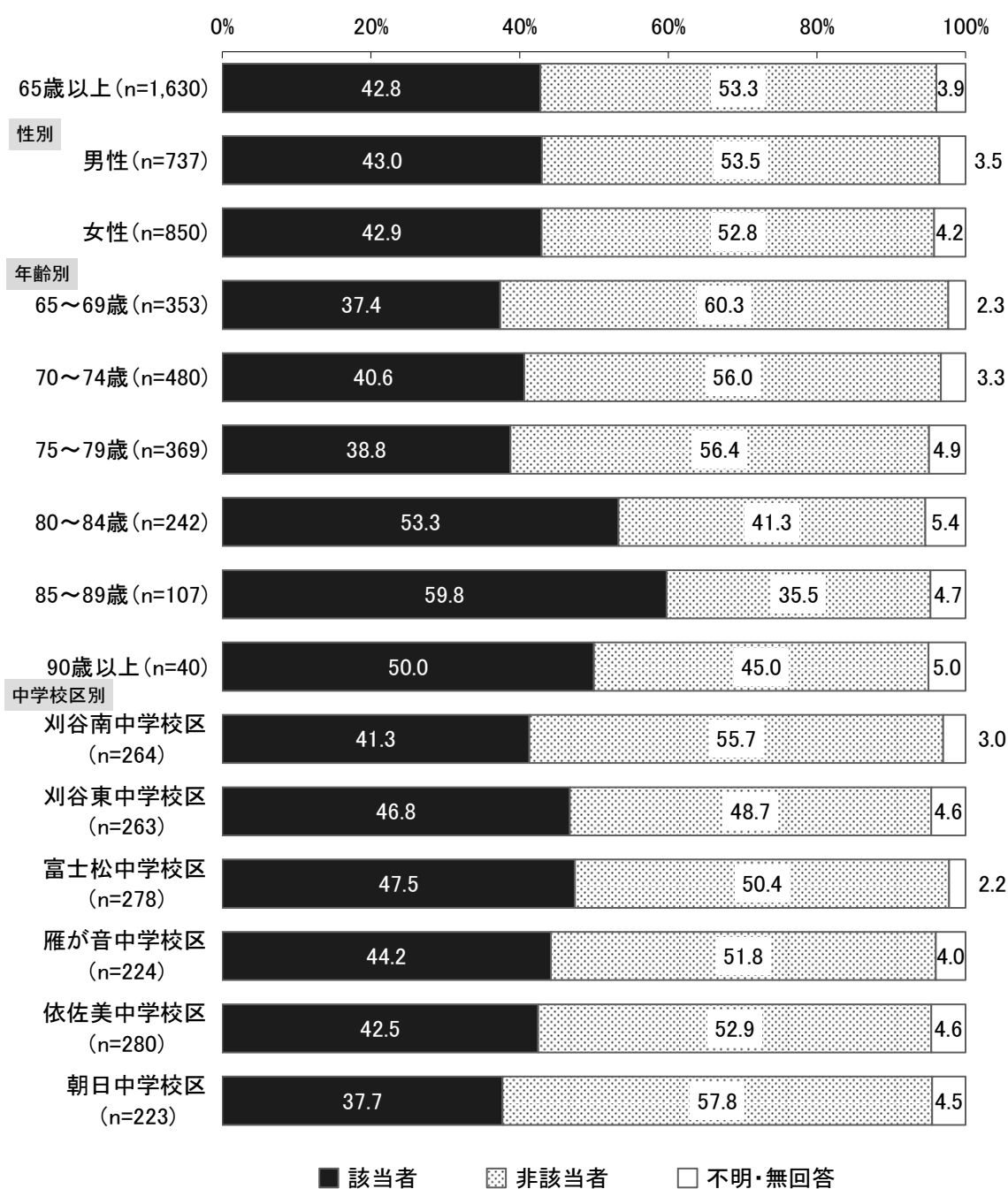
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
31	物忘れが多いと感じますか。	42.8	53.3	3.9

「該当者」は 42.8％となっています。

性別でみると、10 ポイントを超えるような大差はみられません。

年齢別でみると、「該当者」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、85～89 歳代で 59.8％と最も高くなっています。

中学校区別でみると、「該当者」は富士松、刈谷東の各中学校区でそれぞれ約 5 割と、他の中学校区と比べて高くなっています。



(7) うつ傾向

■評価方法

以下の2つの設問中いずれか1つでも該当する選択肢（「はい」）が回答された場合、該当者（うつ傾向の高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

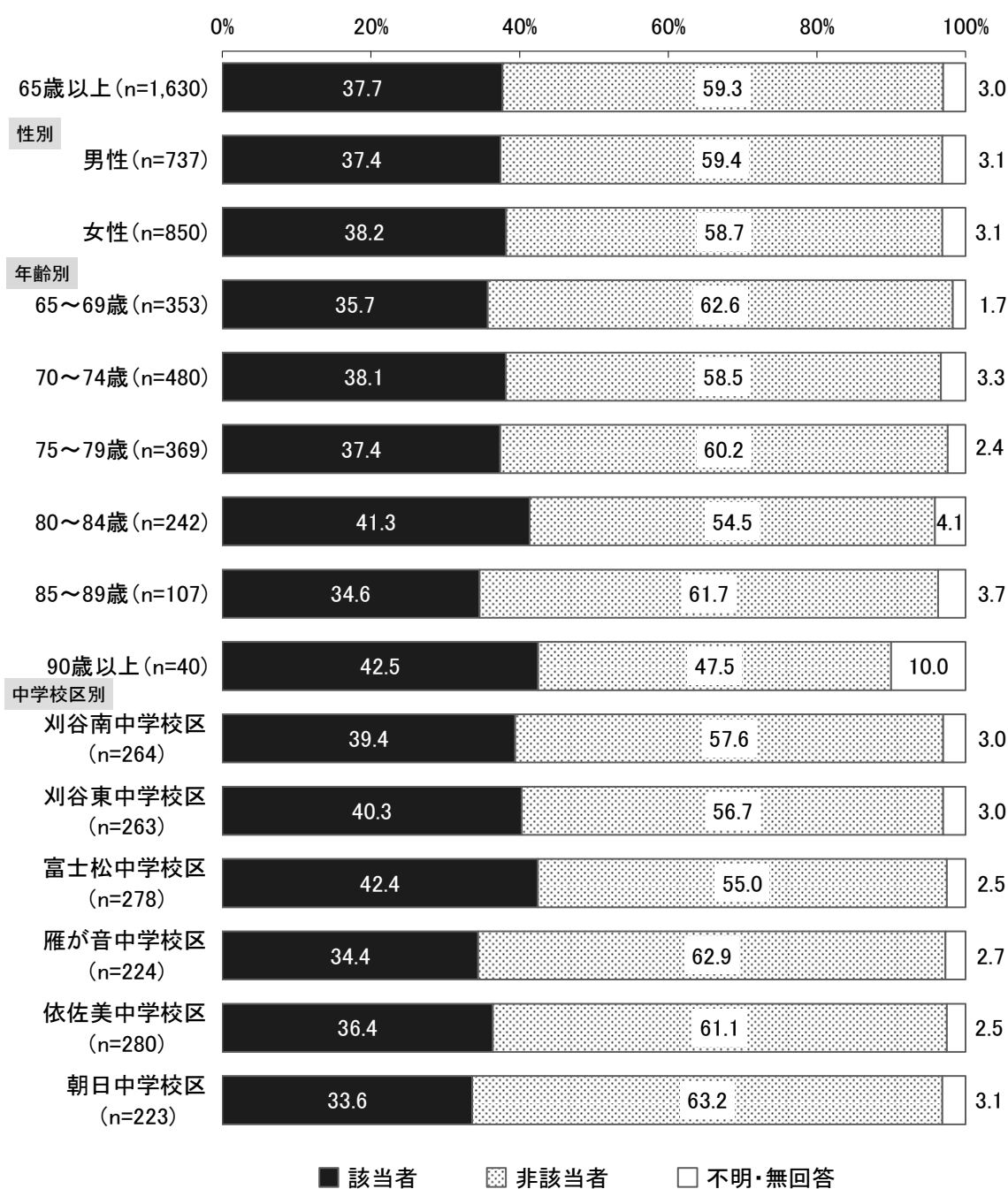
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・ 無回答
59	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	33.3	62.3	4.4
60	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	20.1	76.3	3.6

「該当者」は37.7%となっています。

性別でみると、10ポイントを超えるような大差はみられません。

年齢別でみると、「該当者」はいずれも4割前後となっています。

中学校区別でみると、「該当者」は富士松、刈谷東の各中学校区でそれぞれ4割以上と、他の中学校区と比べて高くなっています。



(8) IADL (手段的日常生活動作)

IADLとは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、ADL（日常生活動作：食事、排せつ、入浴などの基本的な行動）より複雑で高次の動作のことを言います。（例：買い物や洗濯・掃除などの家事全般、金銭や服薬の管理、外出時に乗り物に乗ることなど）

■評価方法

以下の5つの設問について、「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した方を1点とし、5点満点で評価した。5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価した。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

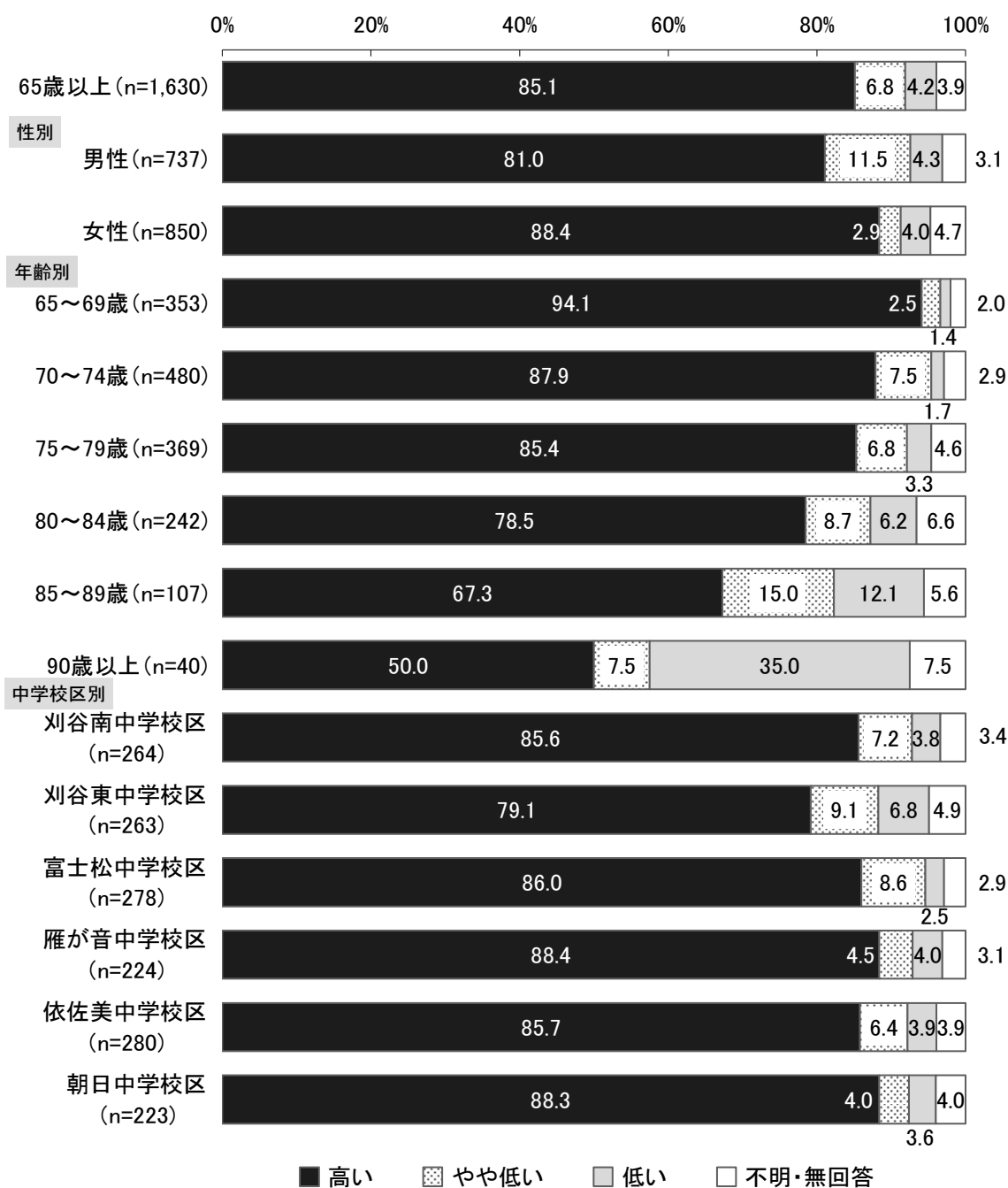
設問番号	設問	できるし、 している	できるけど していない	できない	不明・無回答
34	バスや電車を使って一人で外出していますか(自家用車でも可)。	77.2	15.2	4.7	2.9
35	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	82.1	12.1	2.9	2.8
36	自分で食事の用意をしていますか。	69.8	20.7	6.6	2.9
37	自分で請求書の支払いをしていますか。	80.9	12.9	2.9	3.3
38	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	80.9	13.2	3.0	2.9

「低い」は4.2%となっています。

性別でみると、女性で「高い」が88.4%と、男性と比べて7.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「低い」は年代が上がるにつれて高くなっており、90歳以上では35.0%となっています。

中学校区別でみると、「低い」は刈谷東中学校区で6.8%と、他の中学校区と比べてやや高くなっています。



(9) 知的能動性

■評価方法

以下の4つの設問について、「はい」と回答した方を1点として計算し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価した。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

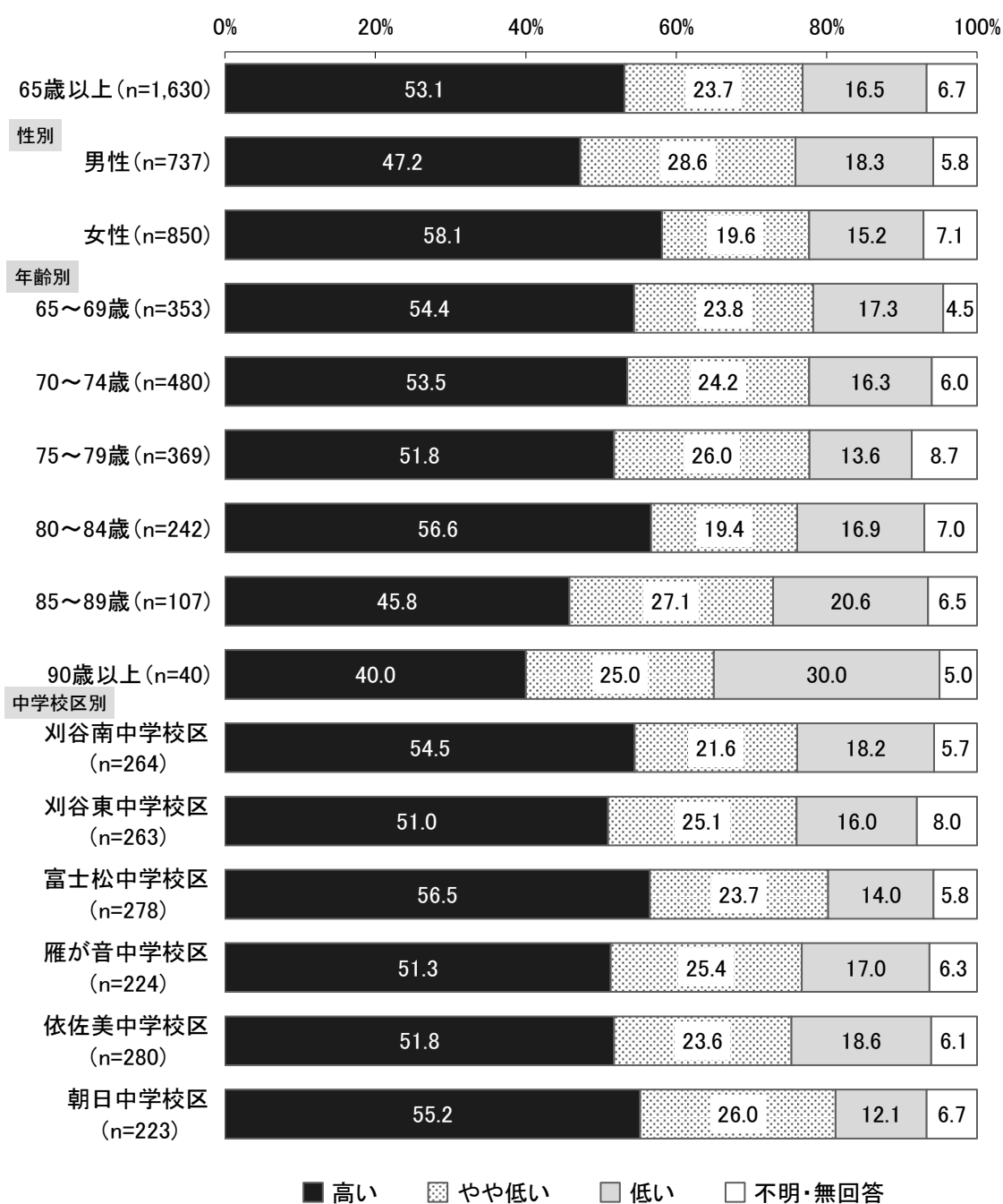
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・ 無回答
39	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。	89.8	6.9	3.4
40	新聞を読んでいますか。	78.9	18.1	3.0
41	本や雑誌を読んでいますか。	67.9	29.0	3.2
42	健康についての記事や番組に関心がありますか。	86.1	9.2	4.7

「低い」は16.5%となっています。

性別でみると、女性で「高い」が58.1%と、男性と比べて10.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「低い」は85歳以上でやや高くなっています。

中学校区別でみると、「低い」は朝日中学校区で12.1%と、他の中学校区と比べて低くなっています。



(10) 社会的役割

■評価方法

以下の4つの設問について、「はい」と回答した方を1点として計算し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価した。

■評価に使用した調査設問結果【65歳以上(n=1,630)】

単位：％

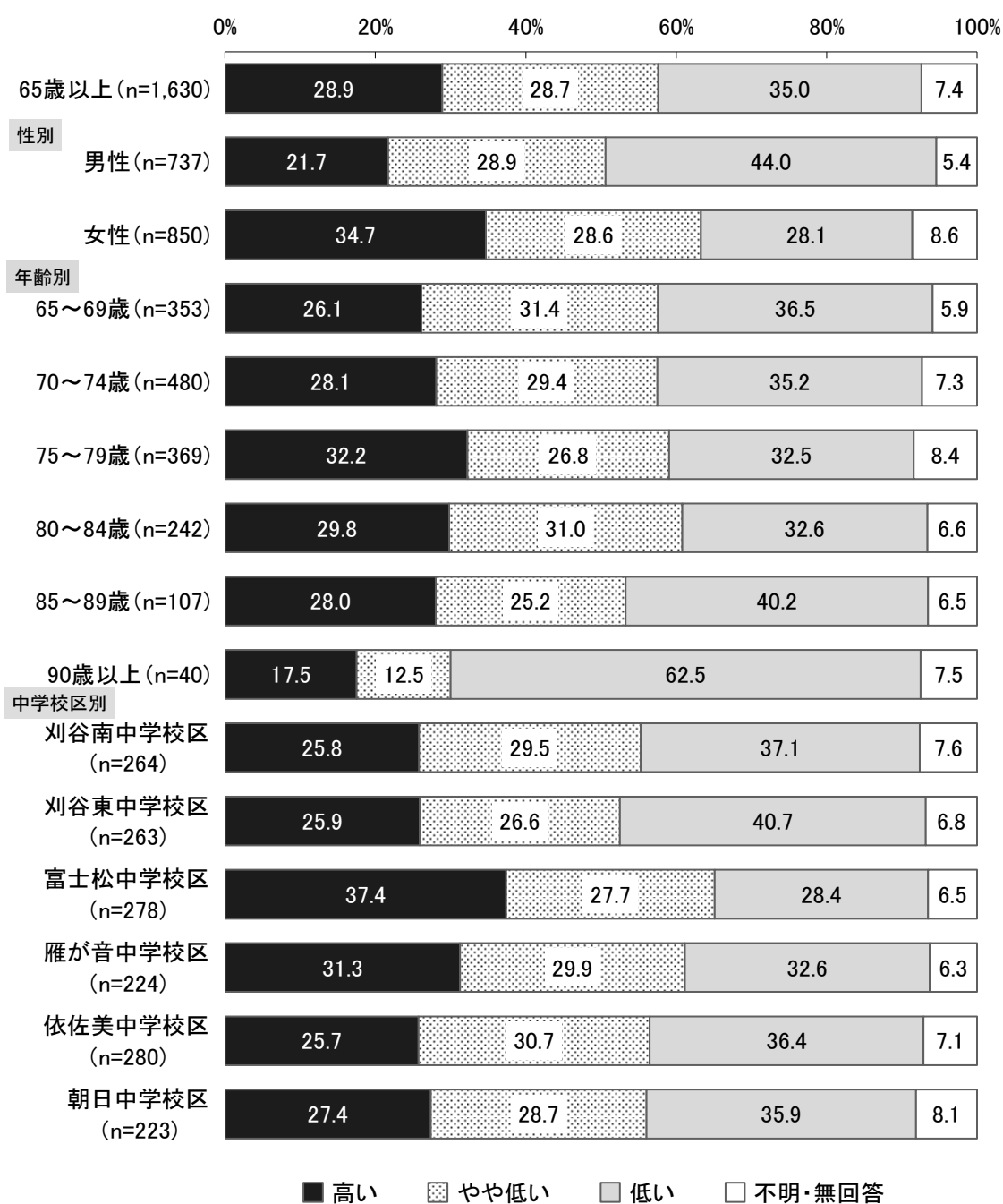
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・ 無回答
43	友人の家を訪ねていますか。	39.4	55.3	5.3
44	家族や友人の相談にのっていますか。	71.0	23.7	5.3
45	病人を見舞うことができますか。	78.0	15.8	6.1
46	若い人に自分から話しかけることがありますか。	68.0	26.7	5.3

「低い」は35.0%となっています。

性別でみると、「低い」は女性と比べて男性で15.9ポイント高くなっています。

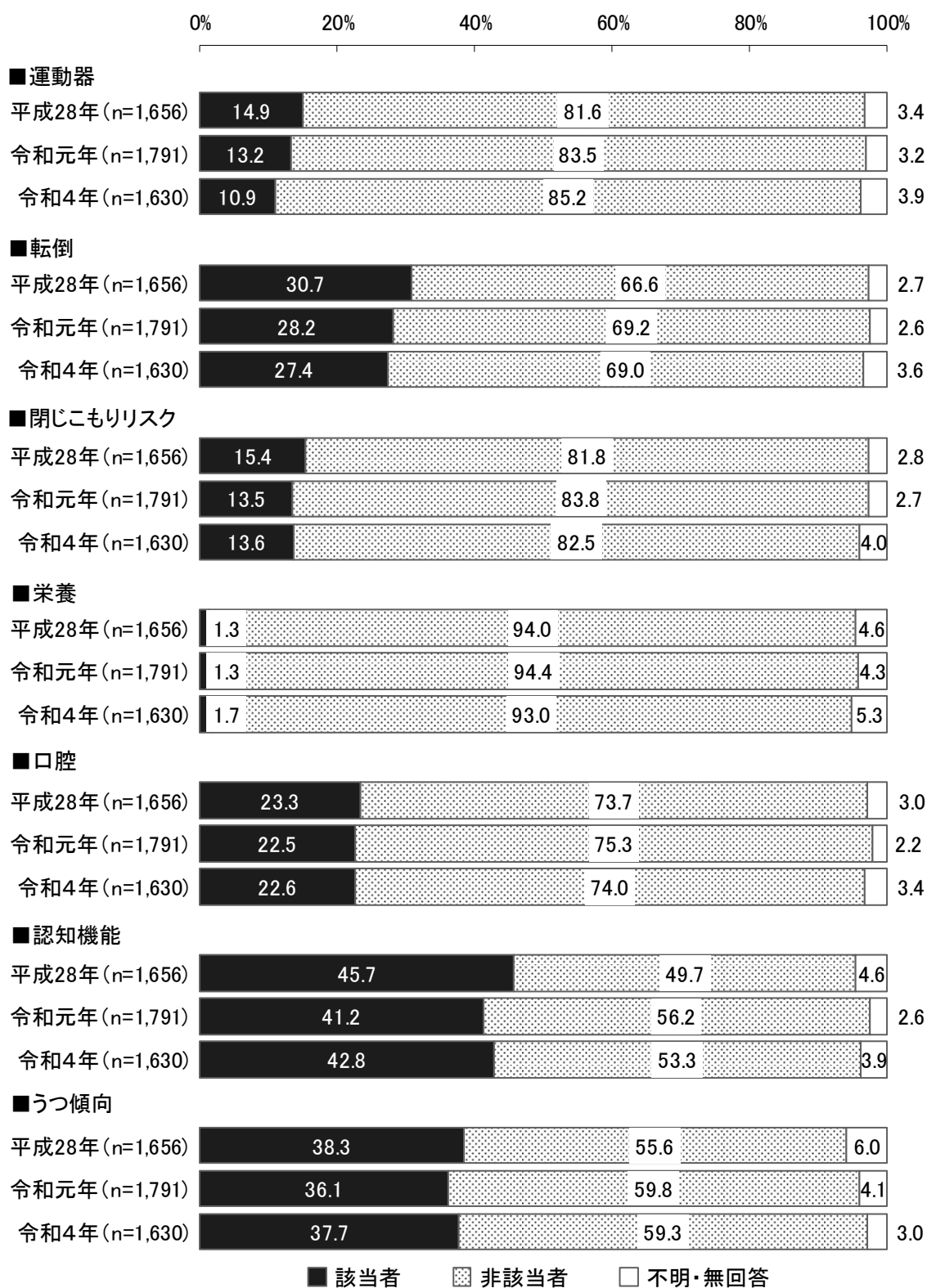
年齢別でみると、「低い」は90歳以上で急激に高くなっています。

中学校区別でみると、「低い」は富士松中学校区で28.4%と、他の中学校区と比べて低くなっています。

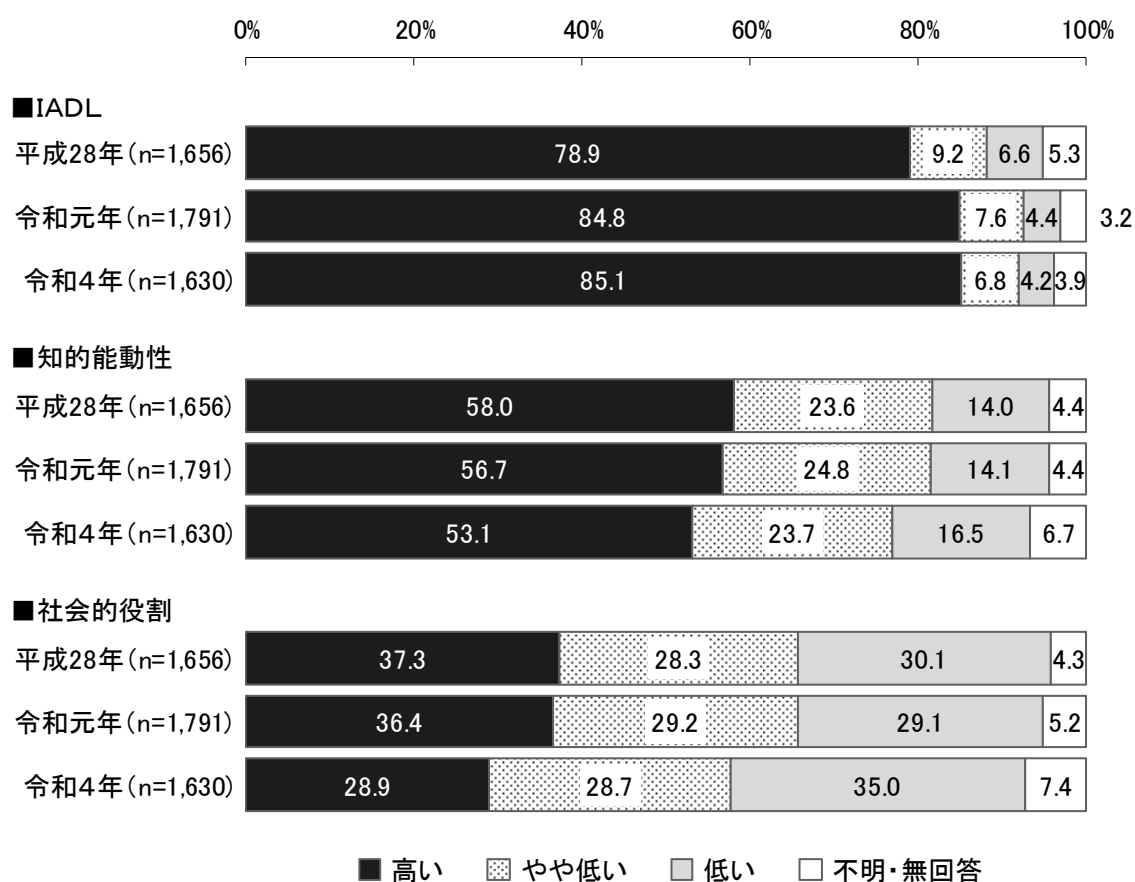


■ 経年変化（各種評価）

経年でみると、「運動器」「転倒」「閉じこもりリスク」「口腔」の4項目について、「該当者」は同等もしくは平成28年以降低くなっています。また、「栄養」「認知機能」「うつ傾向」の3項目について、「該当者」は令和元年と比べて高くなっています。



「IADL（手段的日常生活動作）」「知的能動性」「社会的役割」の3項目について、「IADL（手段的日常生活動作）」の「低い」は平成28年以降低くなっています。一方、「知的能動性」「社会的役割」は令和元年と比べて高くなっており、特に「社会的役割」は5.9ポイント高くなっています。

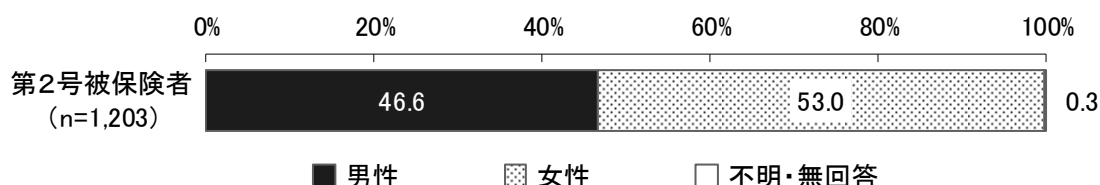


IV 第2号被保険者調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

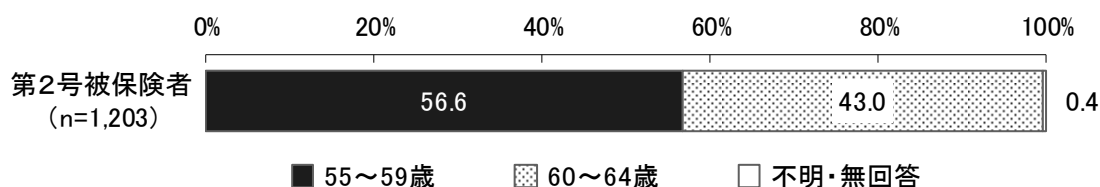
問1 あなたの性別はどちらですか。(単数回答)

性別について、「女性」が53.0%、「男性」が46.6%となっています。



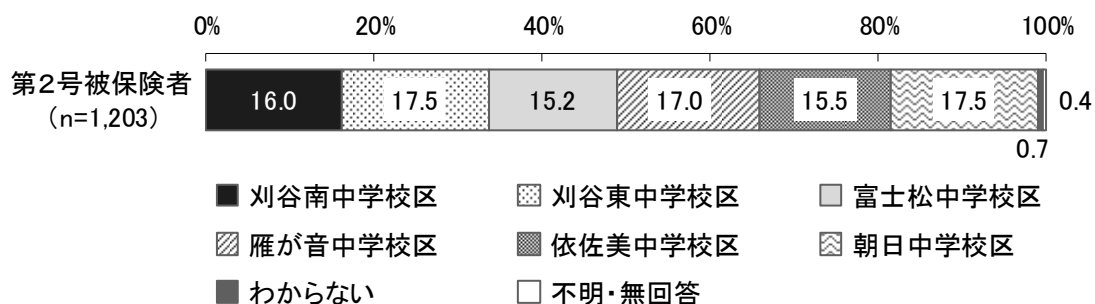
問2 あなたの年齢は、おいくつですか。(数量回答)

年齢について、「55～59歳」が56.6%、「60～64歳」が43.0%となっています。



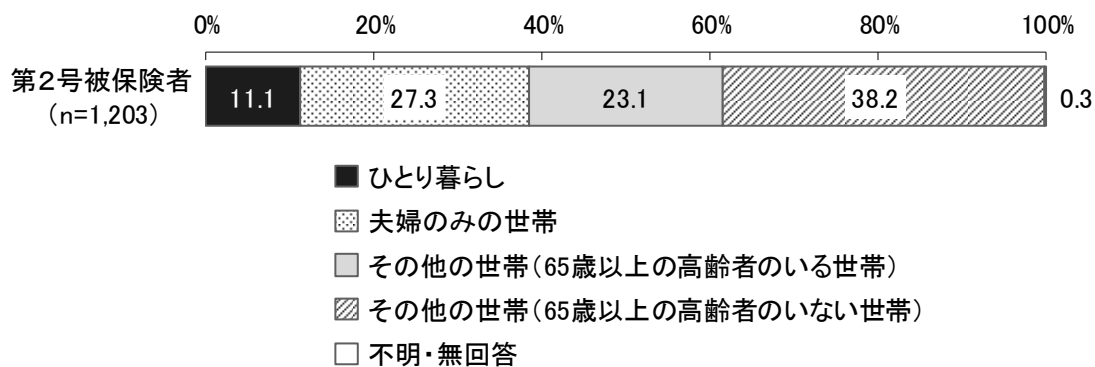
問3 あなたの居住地（中学校区別）は次のどれですか。(単数回答)

中学校区別の居住地については概ね均等に分散しており、その中では「刈谷東中学校区」「朝日中学校区」がそれぞれ17.5%と最も高く、次いで「雁が音中学校区」が17.0%、「刈谷南中学校区」が16.0%となっています。



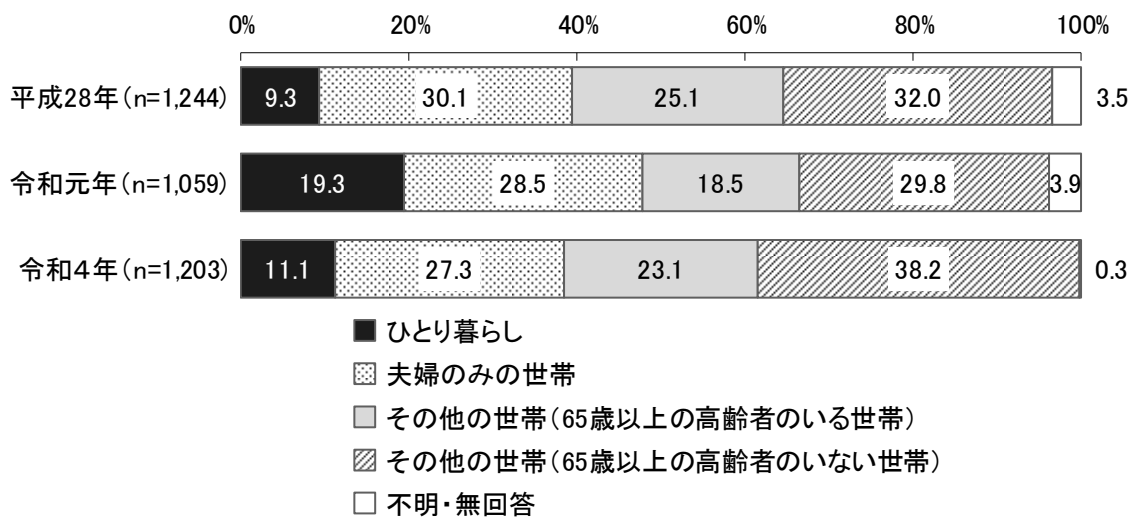
問4 家族構成をお教えてください。(単数回答)

家族構成について、「その他の世帯(65歳以上の高齢者のいない世帯)」が38.2%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が27.3%となっています。



経年変化

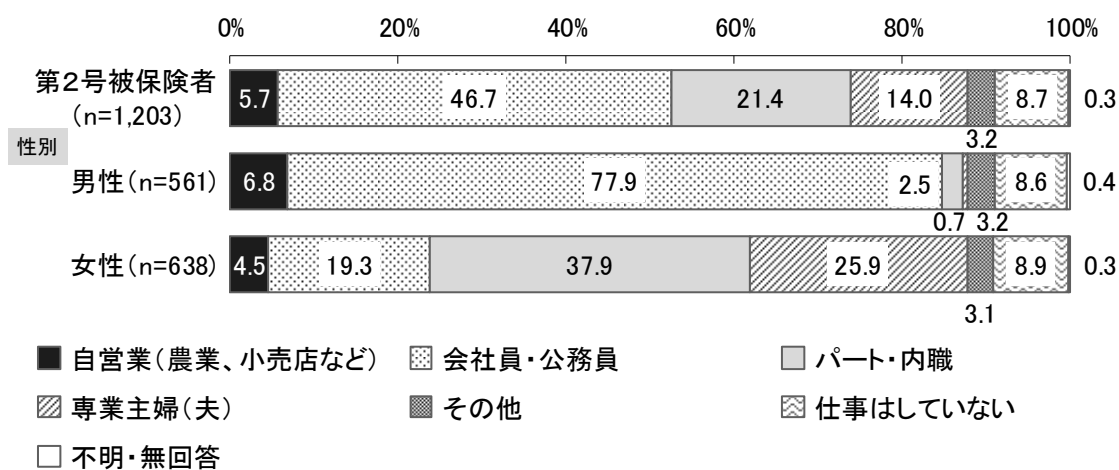
経年でみると、令和元年と比べて「ひとり暮らし」が8.2ポイント低くなっています。



問5 あなたは、現在、どんな仕事をしていますか。(単数回答)

現在の仕事について、「会社員・公務員」が 46.7%と最も高く、次いで「パート・内職」が 21.4%、「専業主婦（夫）」が 14.0%となっています。

性別でみると、男性で「会社員・公務員」が、女性で「パート・内職」が、それぞれ最も高くなっています。



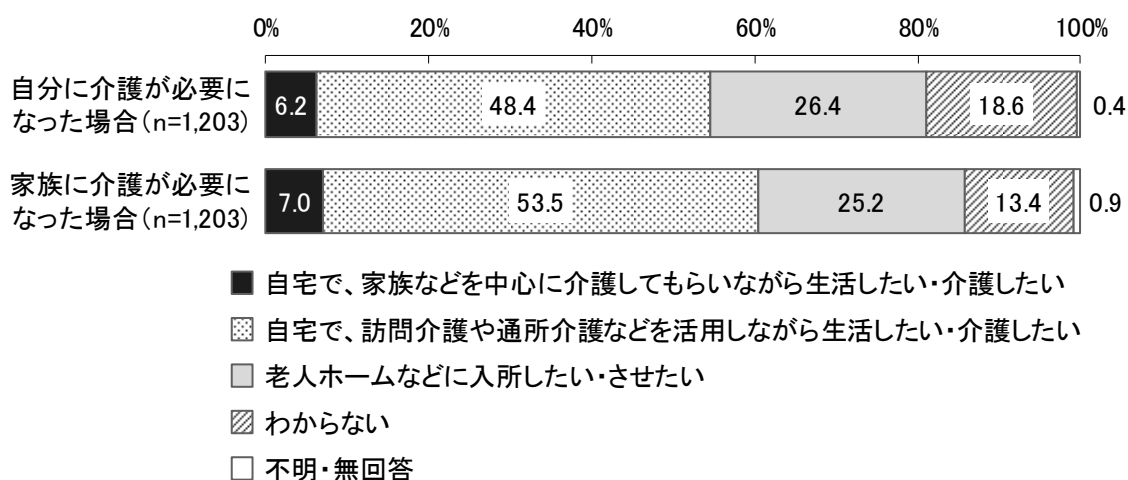
2 介護についての考え方について

問6 今後、仮にあなたに介護が必要になった場合（介護を受けている場合も含む）、どのようにしたいですか。（単数回答）

問7 あなたは、ご家族に介護が必要になった場合（介護をしている場合も含む）、どのようにしたいですか。（単数回答）

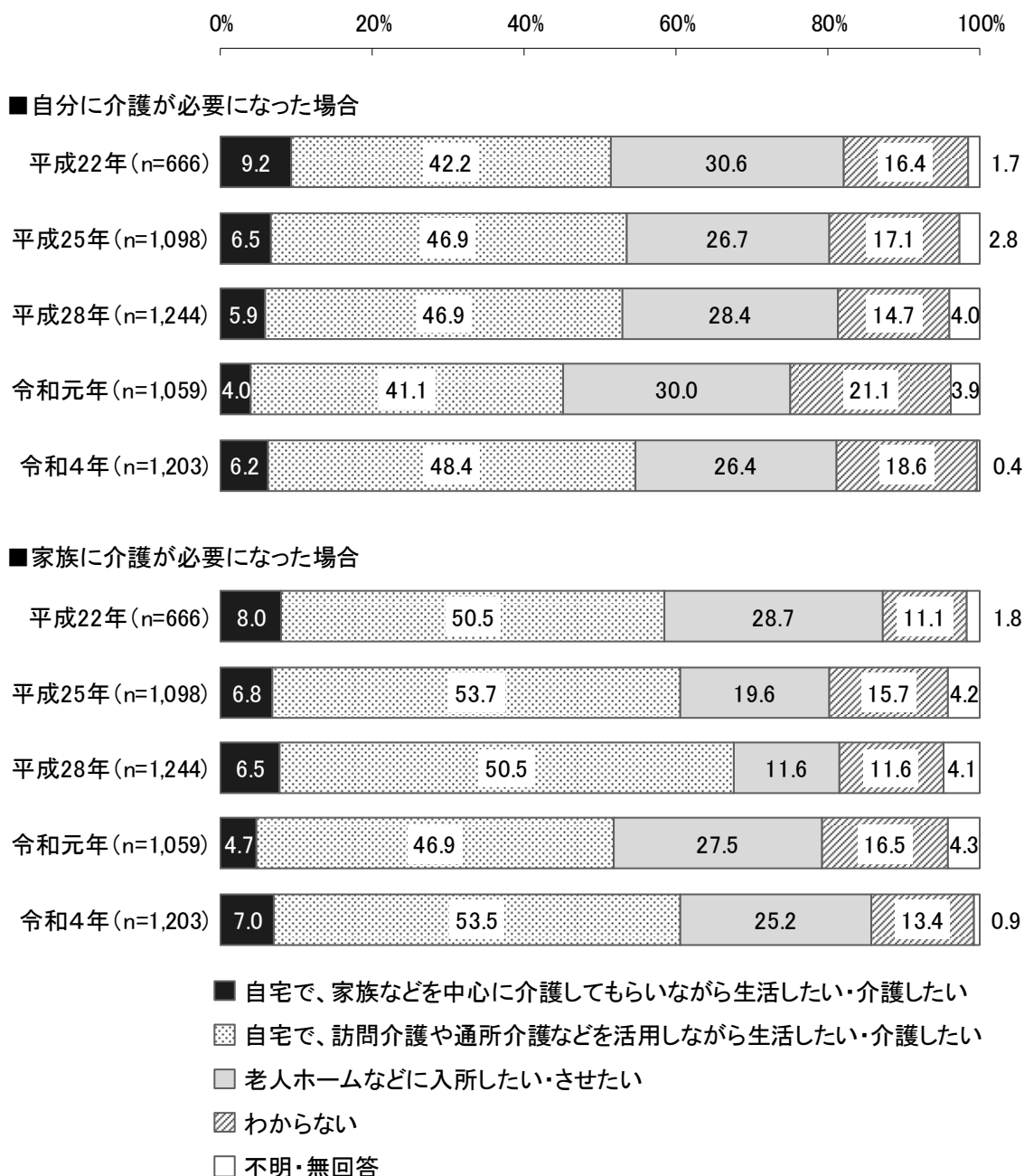
自分自身に介護が必要になった場合について、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が48.4%と最も高く、次いで「老人ホームなどに入所したい」が26.4%となっています。

家族に介護が必要になった場合について、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら介護したい」が53.5%と最も高く、次いで「老人ホームなどに入所させたい」が25.2%となっています。



■ 経年変化

経年でみると、自分の希望、家族に対する希望ともに令和元年と比べて「自宅で、家族などを中心に介護してもらいながら生活したい・介護したい」「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい・介護したい」が高くなっています。



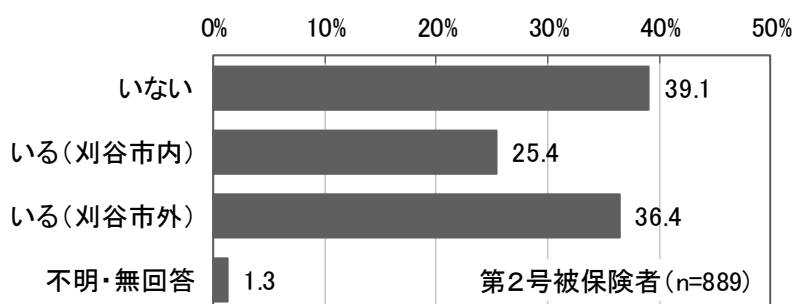
※令和4年度調査で「自宅で、家族などを中心に介護してもらいながら生活したい・介護したい」は令和元年度調査までは「自宅で、家族などを中心に介護してほしい・したい」でした。

※令和4年度調査で「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい・介護したい」は令和元年度調査までは「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら介護してほしい・したい」でした。

<自宅で介護したい・わからないと回答した方のみ>

問8 あなたには、現在と一緒に暮らしてはいないが、ご自身や配偶者が介護することになると考えておられる親や祖父母などのご家族がいますか（介護が必要になっている場合も含む）。（複数回答）

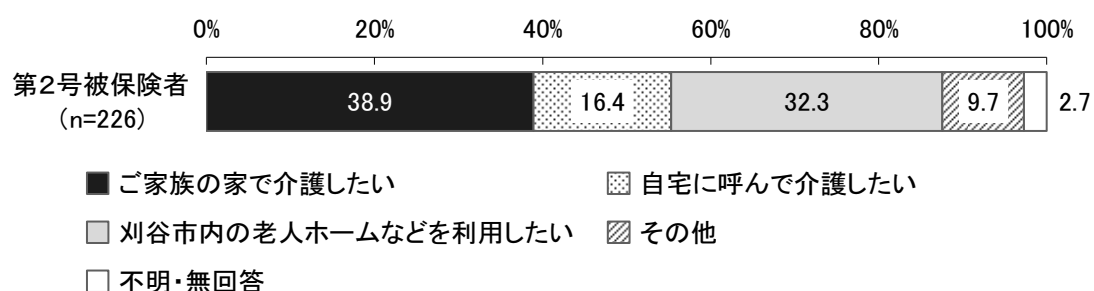
将来介護が必要になると考えられ、現在同居していない家族の有無について、「いない」が39.1%、「いる（刈谷市外）」が36.4%、「いる（刈谷市内）」が25.4%となっています。



<いる（刈谷市内）と回答した方のみ>

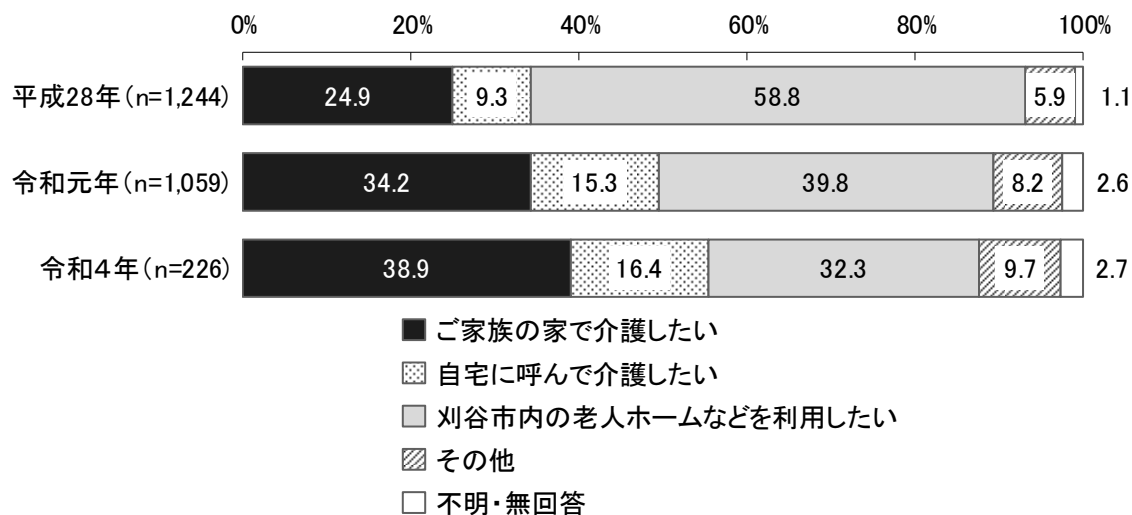
問9 市内のご家族に介護が必要となった場合、どのように介護したいと思いますか（すでに介護している場合も含む）。（単数回答）

市内の家族に介護が必要となった場合について、「ご家族の家で介護したい」が38.9%と最も高く、次いで「刈谷市内の老人ホームなどを利用したい」が32.3%、「自宅に呼んで介護したい」が16.4%となっています。



■ 経年変化

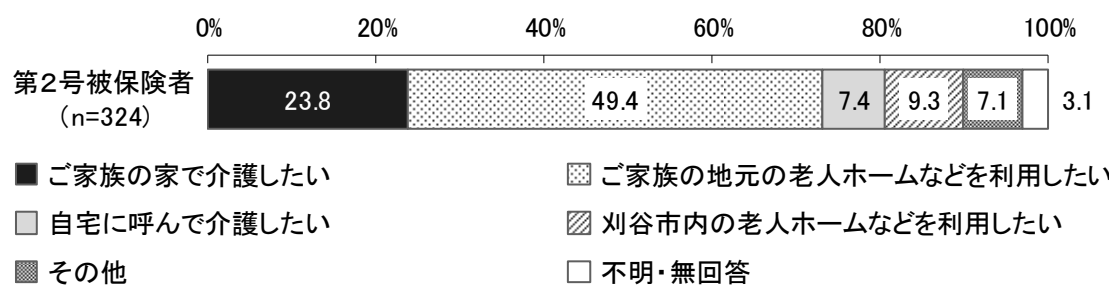
経年でみると、平成 28 年以降、「ご家族の家で介護したい」「自宅に呼んで介護したい」が高くなっています。



<いる（刈谷市外）と回答した方のみ>

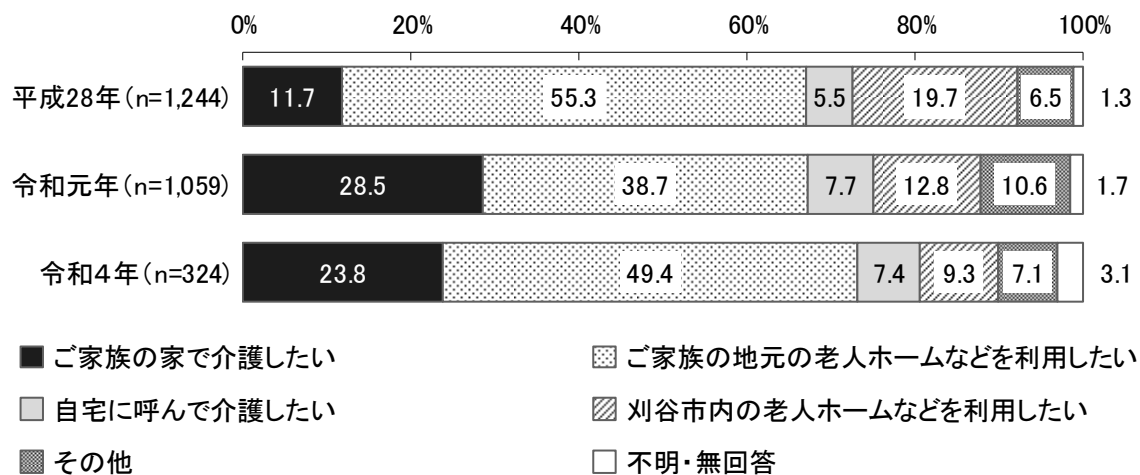
問 10 市外のご家族に介護が必要となった場合、どのように介護したいと思いますか（すでに介護している場合も含む）。（単数回答）

市外の家族に介護が必要となった場合について、「ご家族の地元の老人ホームなどを利用したい」が 49.4%と最も高く、次いで「ご家族の家で介護したい」が 23.8%、「刈谷市内の老人ホームなどを利用したい」が 9.3%となっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、令和元年と比べて「ご家族の地元の老人ホームなどを利用したい」が 10.7 ポイント高くなっています。「刈谷市内の老人ホームなどを利用したい」は、平成 28 年以降低くなっています。

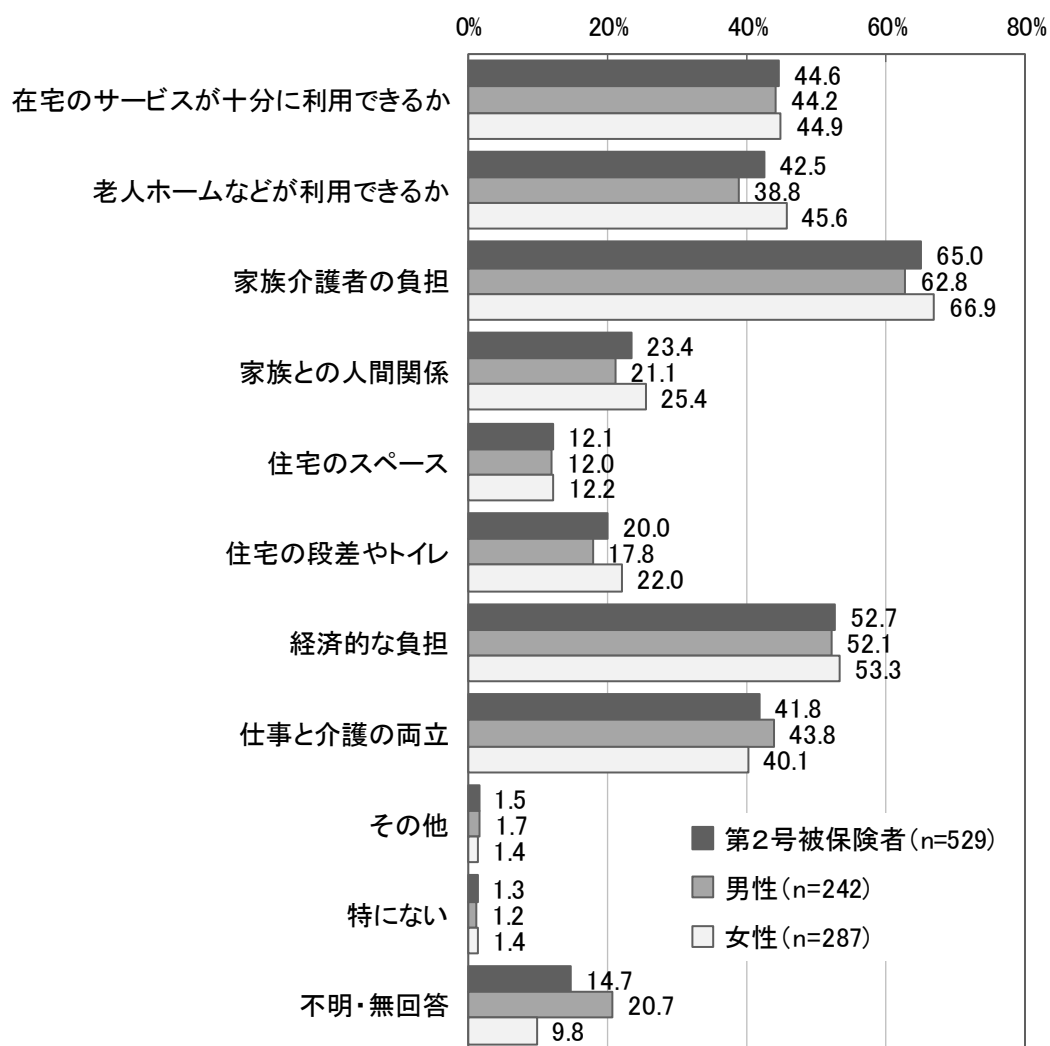


<いる（刈谷市内・刈谷市外）と回答した方のみ>

問11 ご家族を介護するときにどんな不安を感じますか。（複数回答）

家族を介護するときに不安に感じることにについて、「家族介護者の負担」が65.0%と最も高く、次いで「経済的な負担」が52.7%、「在宅のサービスが十分に利用できるか」が44.6%となっています。

性別でみると、男女ともに「家族介護者の負担」がそれぞれ最も高くなっています。また、女性では「仕事と介護の両立」「その他」「特にない」を除いた項目で、男性の値を上回っています。



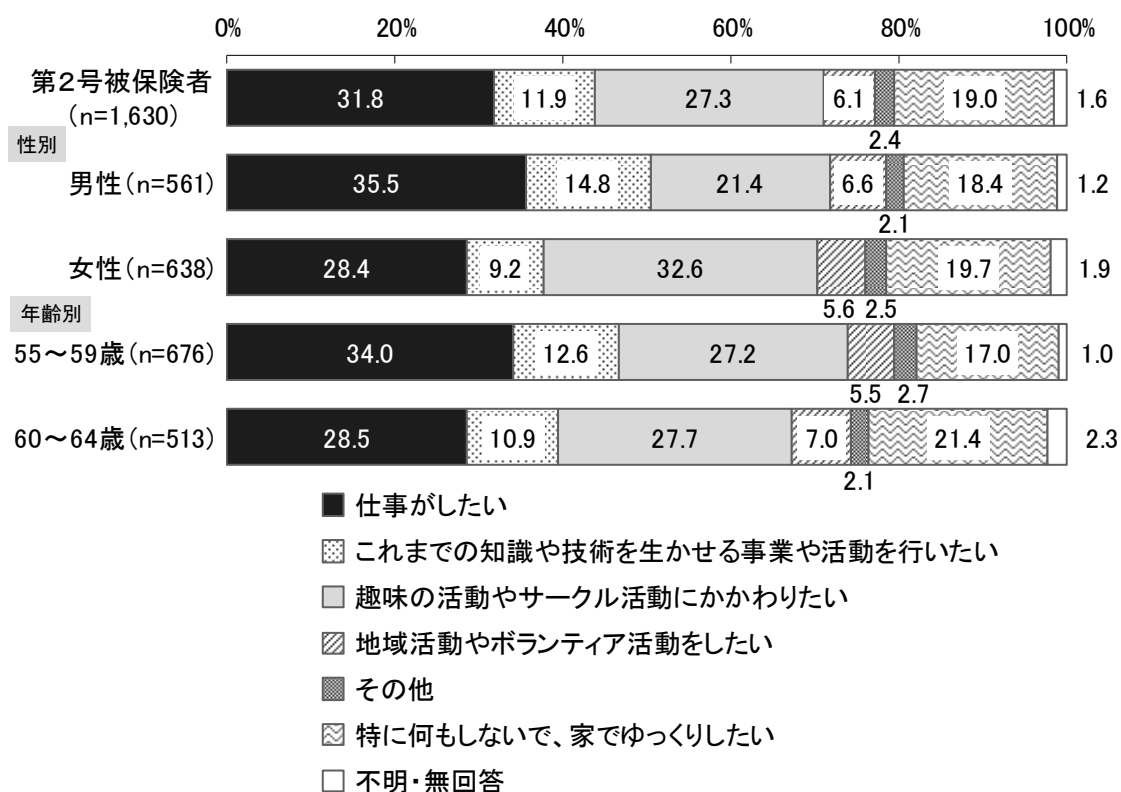
3 社会参加について

問 12 将来、定年退職などで仕事をやめた後や高齢期に入った際に、どのようなことをしたいですか。(単数回答)

退職後や高齢期に入った際にしたいことについて、「仕事がしたい」が31.8%と最も高く、次いで「趣味の活動やサークル活動にかかわりたい」が27.3%、「特に何もしないで、家でゆっくりしたい」が19.0%となっています。

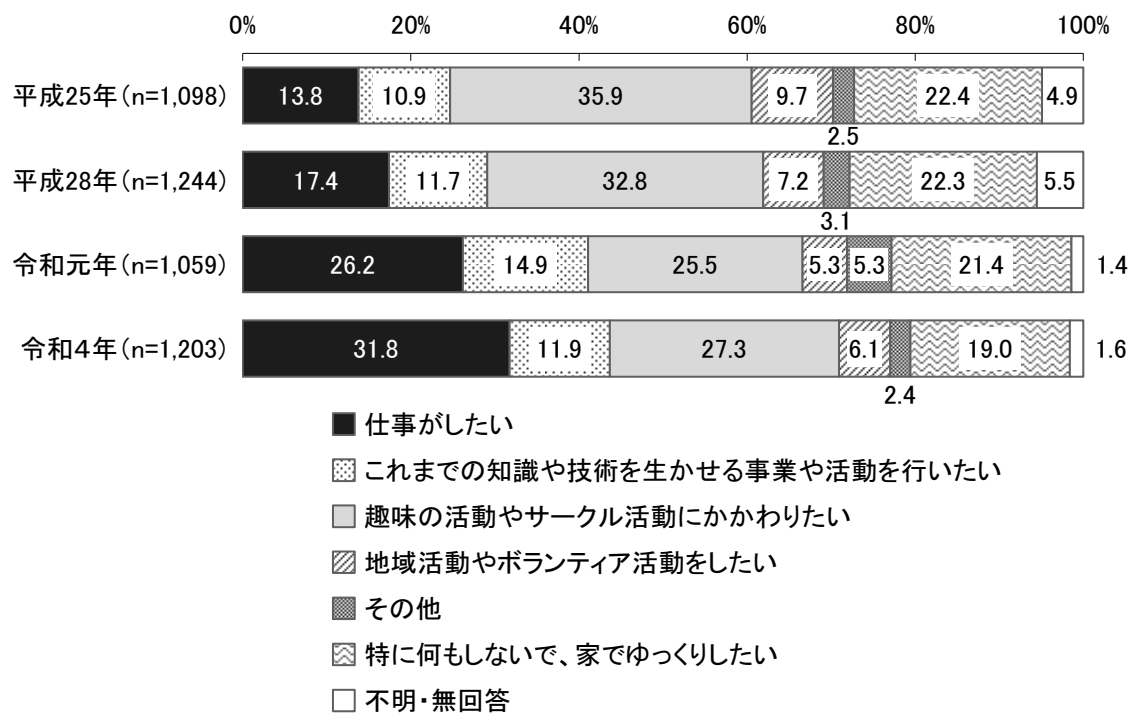
性別でみると、男性では「仕事がしたい」が35.5%と最も高く、次いで「趣味の活動やサークル活動にかかわりたい」が21.4%となっています。女性では「趣味の活動やサークル活動にかかわりたい」が32.6%と最も高く、男性と比べて11.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「仕事がしたい」が55～59歳で34.0%、60～64歳で28.5%と、それぞれ最も高くなっています。



■ 経年変化

経年でみると、平成 25 年以降、「仕事したい」が高くなっています。



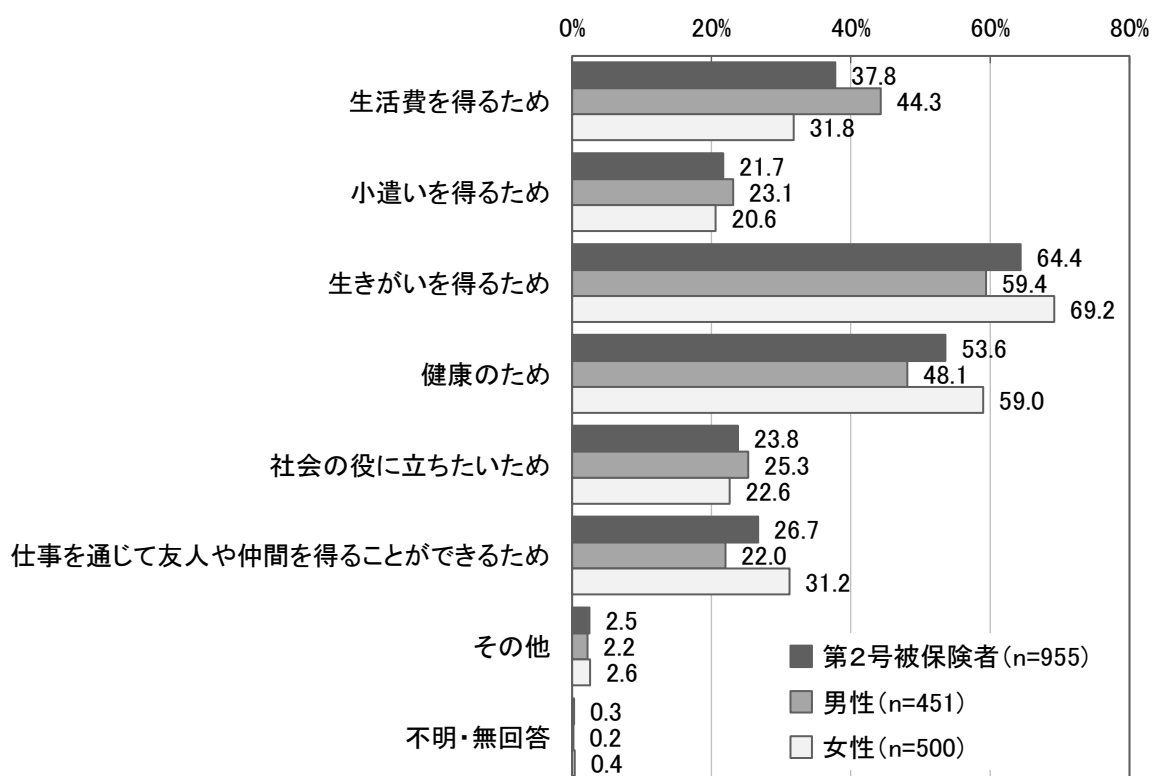
※令和 4 年度調査で「仕事したい」の選択肢は、令和元年度調査までは「新たな職場に勤めたい」でした。

<何らかの活動をしたいと回答した方のみ>

問 13 活動したい理由は何ですか。(複数回答)

活動したい理由について、「生きがいを得るため」が64.4%と最も高く、次いで「健康のため」が53.6%、「生活費を得るため」が37.8%となっています。

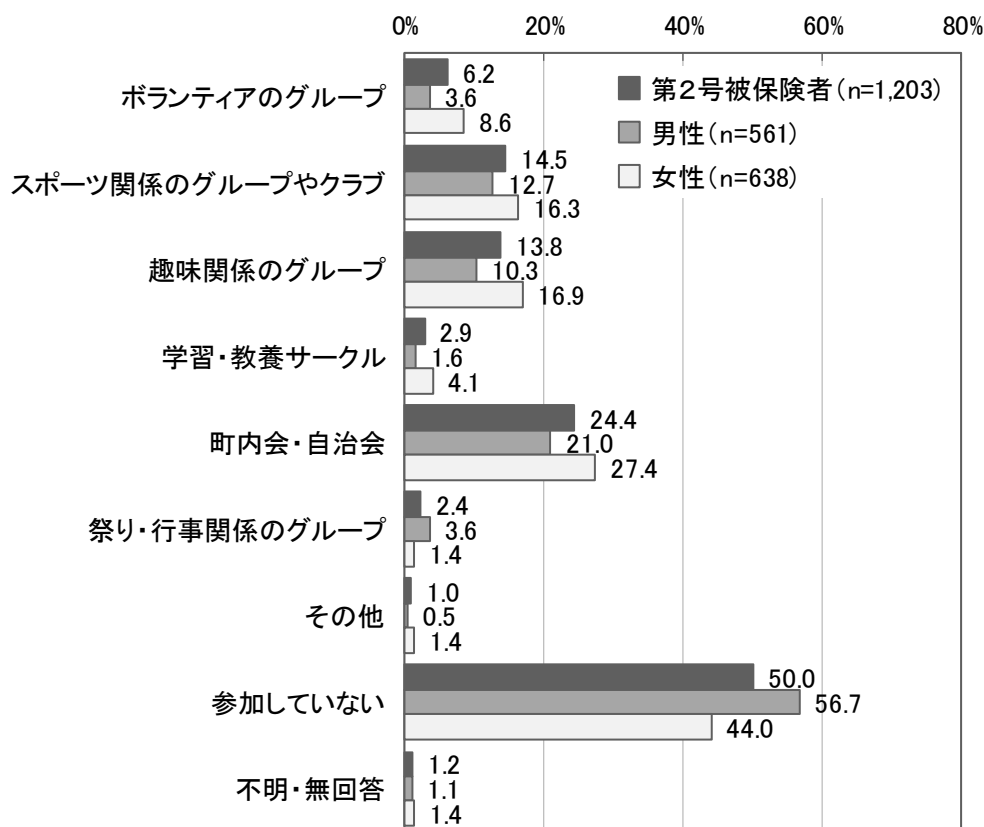
性別でみると、男女ともに「生きがいを得るため」がそれぞれ最も高くなっています。なお、男性では「生活費を得るため」が44.3%と女性と比べて12.5ポイント、女性では「健康のため」が59.0%と男性と比べて10.9ポイント、それぞれ高くなっています。



問14 以下のような会・グループなどに参加していますか。(複数回答)

どのような会・グループに参加しているかについて、「参加していない」が50.0%と最も高く、次いで「町内会・自治会」が24.4%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が14.5%となっています。

性別でみると、男女ともに「参加していない」がそれぞれ最も高くなっています。なお、男性は「参加していない」が56.7%と、女性と比べて12.7ポイント高くなっています。



経年変化

経年でみると、平成28年以降、「参加していない」が4～5割で推移しています。なお、「町内会・自治会」が令和元年までと比べて高くなっています。

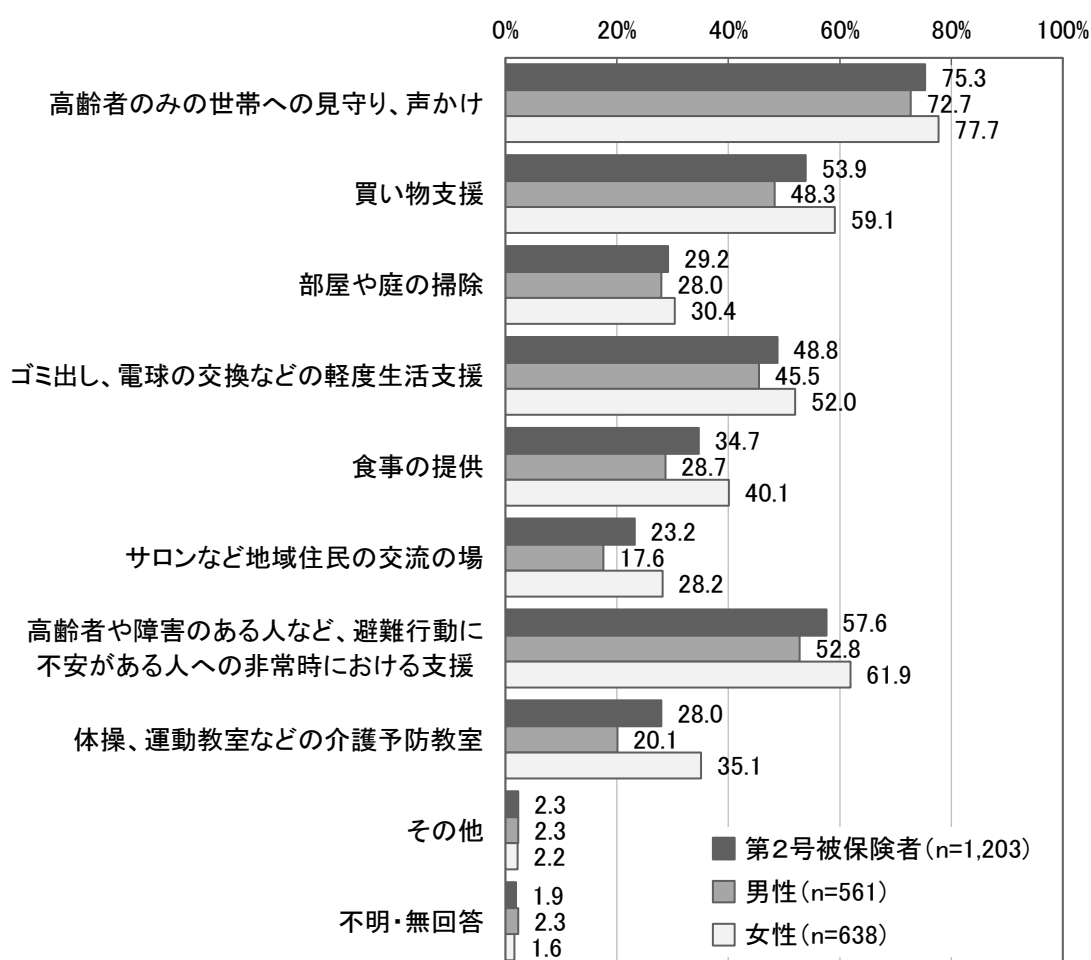
(単位: %)	n=	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	町内会・自治会	祭り・行事関係のグループ	その他	参加していない	不明・無回答
調査年度										
平成28年	1,244	8.3	18.2	17.8	4.9	19.2	5.9	1.4	43.9	6.9
令和元年	1,059	5.9	16.5	15.8	3.4	18.0	2.5	0.9	54.4	2.3
令和4年	1,203	6.2	14.5	13.8	2.9	24.4	2.4	1.0	50.0	1.2

問 15 誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らしていくためには、地域住民同士の助け合い、支え合いの活動が重要となります。そこで、①地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うもの、②自分でできる、あるいはやってみたくと思う支援、のそれぞれについて、あてはまるものをお答えください。

①地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うもの（複数回答）

地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うものについて、「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が75.3%と最も高く、次いで「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」が57.6%、「買い物支援」が53.9%となっています。

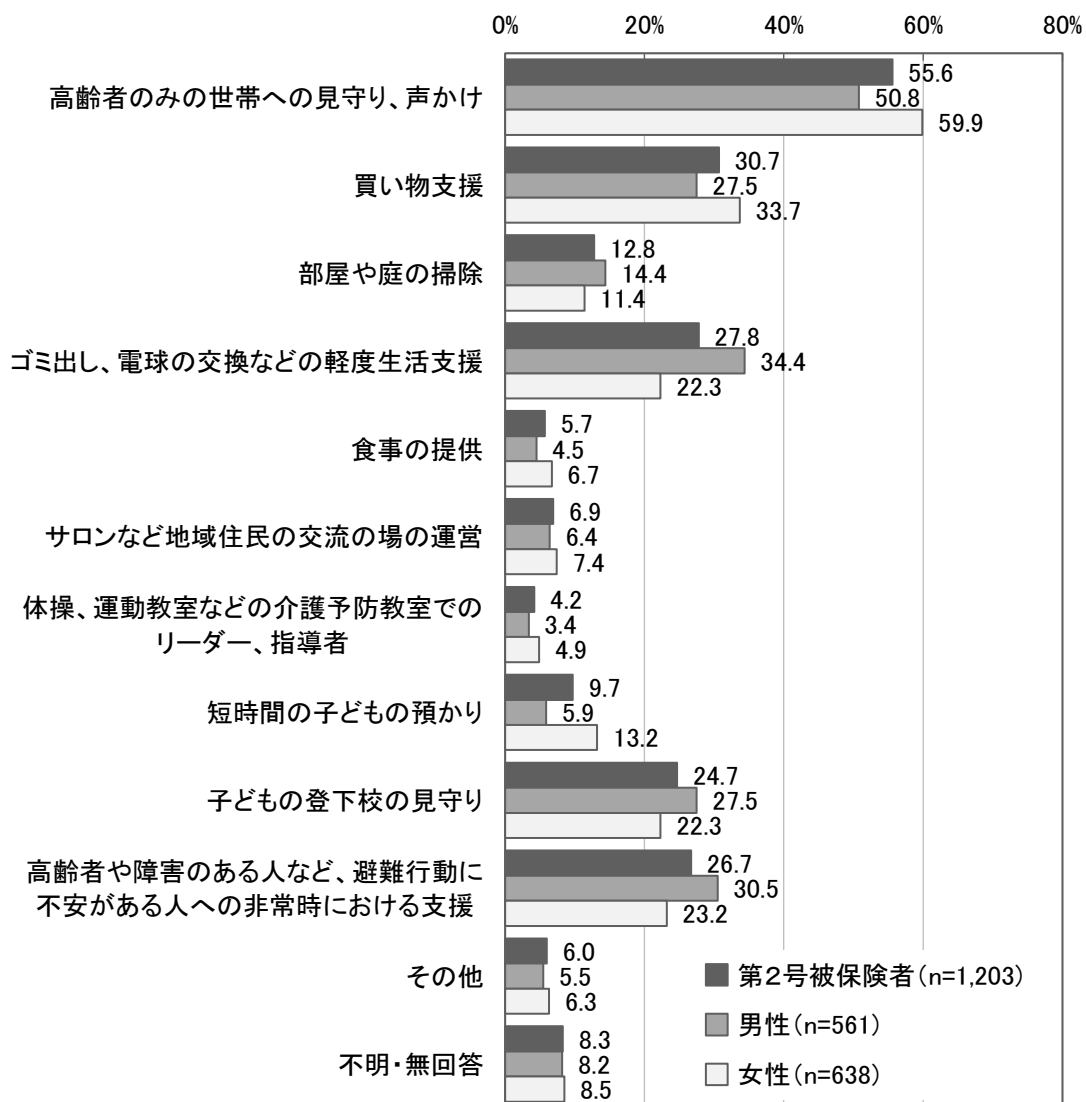
性別でみると、女性で「体操、運動教室などの介護予防教室」「食事の提供」「買い物支援」「サロンなど地域住民の交流の場」が、男性と比べてそれぞれ10ポイント以上高くなっています。



②自分でできる、あるいはやってみたいと思う支援（複数回答）

自分でできる、あるいはやってみたいと思う支援について、「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が 55.6%と最も高く、次いで「買い物支援」が 30.7%、「ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援」が 27.8%となっています。

性別でみると、男性で「ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援」が 34.4%と、女性と比べて 12.1ポイント高くなっています。



4 介護保険について

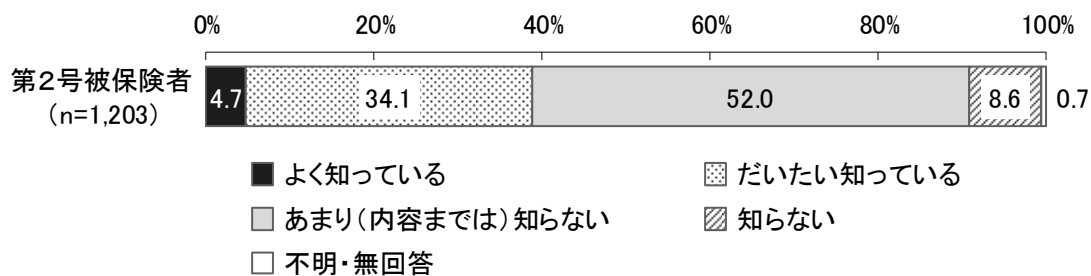
問 16 介護保険制度をご存じですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『知っている』 …「よく知っている」と「だいたい知っている」を合算

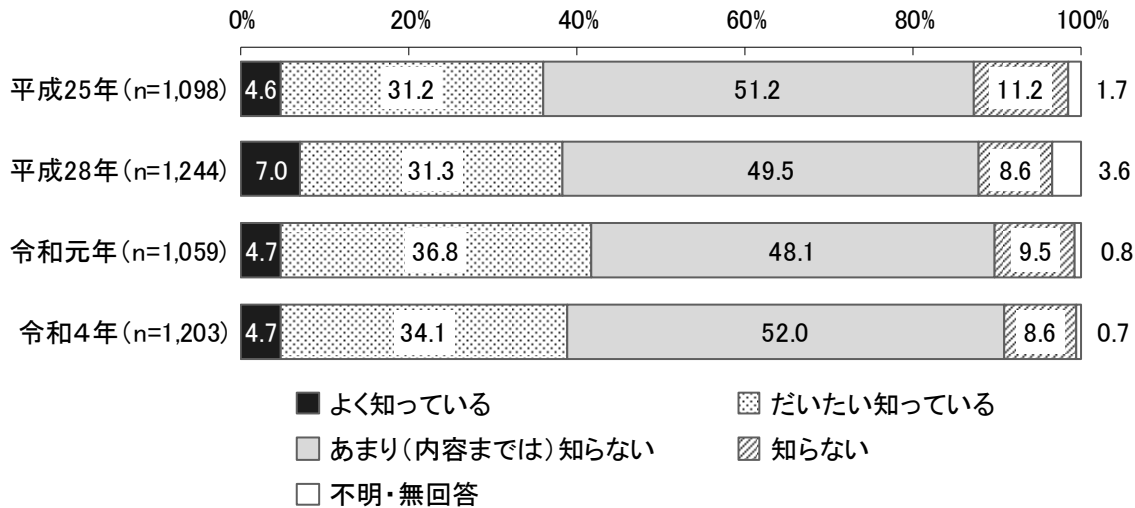
『知らない』 …「あまり(内容までは)知らない」と「知らない」を合算

介護保険制度の認知度について、『知らない』が60.6%、『知っている』が38.8%となっています。



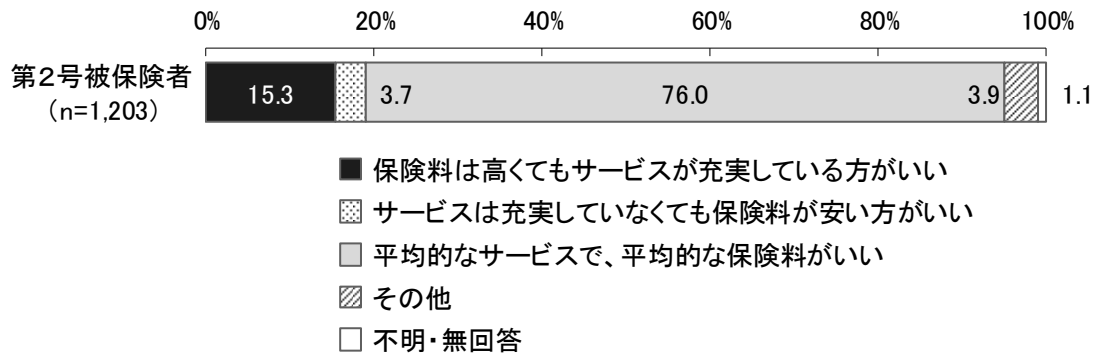
■ 経年変化

経年でみると、平成 25 年以降いずれの項目も増減しながら推移しており、大きな変化はみられません。



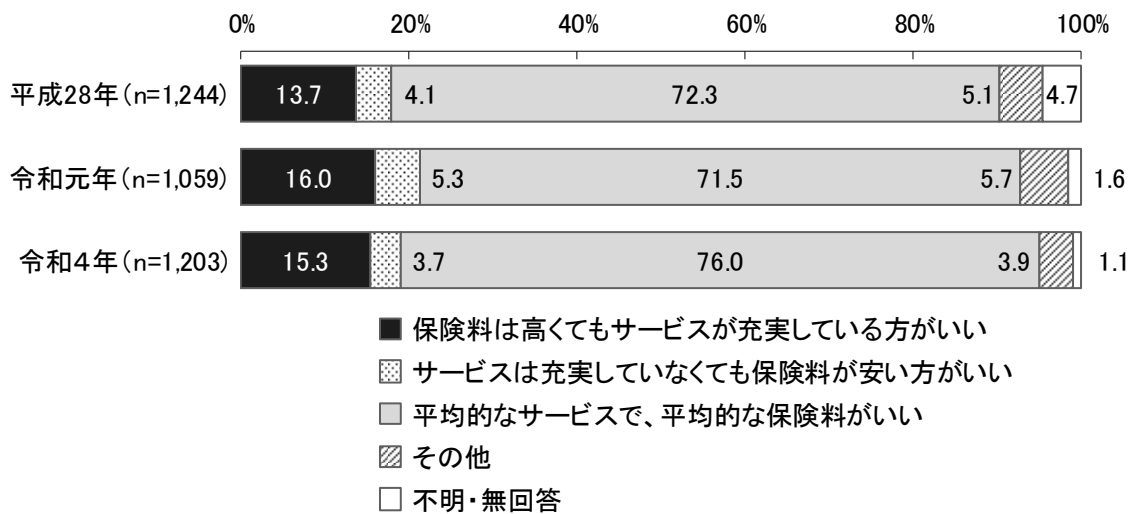
問 17 介護保険サービスの水準と保険料についてどのように考えますか。(単数回答)

介護保険サービスの水準と保険料について、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が76.0%と最も高く、次いで「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が15.3%となっています。



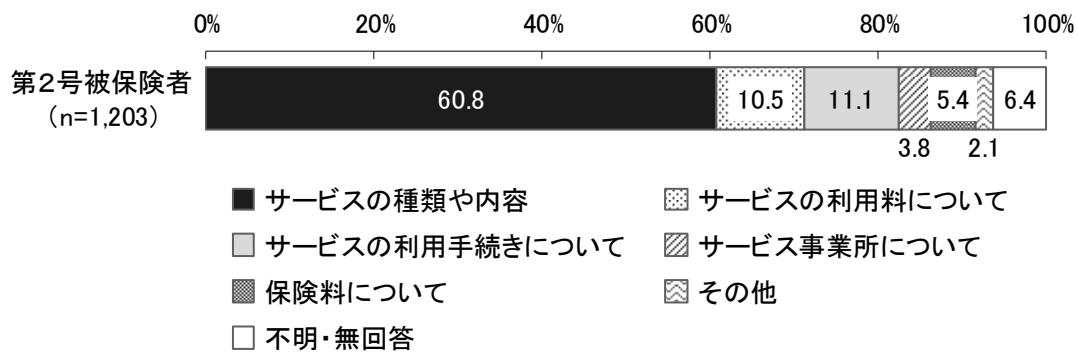
■ 経年変化

経年でみると、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が76.0%と、平成28年以降で最も高くなっています。



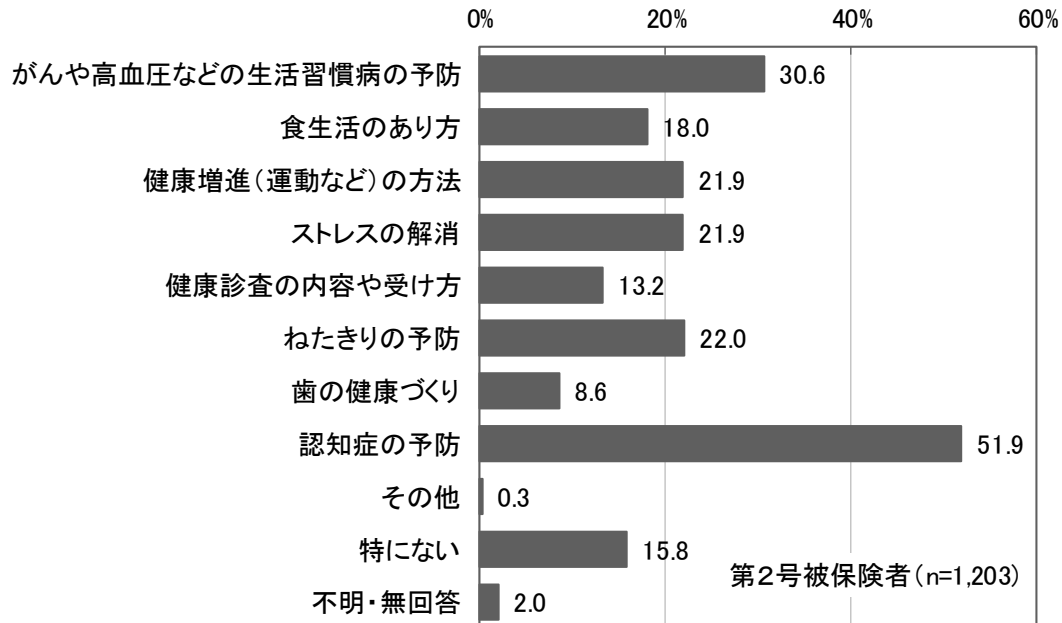
問 18 介護保険について知りたい情報がありますか。(単数回答)

介護保険について知りたい情報について、「サービスの種類や内容」が60.8%と最も高く、次いで「サービスの利用手続きについて」が11.1%、「サービスの利用料について」が10.5%となっています。



問19 健康について、知りたいことがありますか。(複数回答)

健康に関して知りたい情報について、「認知症の予防」が 51.9%と最も高く、次いで「がんや高血圧などの生活習慣病の予防」が 30.6%、「ねたきりの予防」が 22.0%となっています。



経年変化

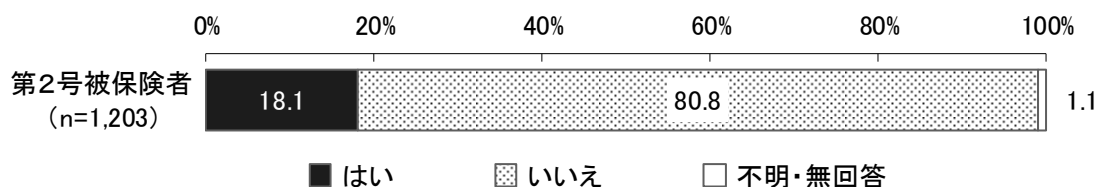
経年でみると、平成 25 年以降、「がんや高血圧などの生活習慣病の予防」が 3 割前後で、「認知症の予防」が 5 割前後で、それぞれ推移しています。

(単位: %)	n=	がんや高血圧などの生活習慣病の予防	食生活のあり方	健康増進(運動など)の方法	ストレスの解消	健康診査の内容や受け方	ねたきりの予防	歯の健康づくり	認知症の予防	その他	特にない	不明・無回答
調査年度												
平成 25 年	1,098	31.7	25.0	28.1	22.7	16.4	19.6	7.3	45.9	0.6	16.4	2.7
平成 28 年	1,244	29.8	21.2	24.6	21.9	11.7	22.1	7.4	49.6	0.3	15.0	5.1
令和元年	1,059	27.0	19.3	22.5	21.3	13.3	23.1	8.0	45.7	1.1	18.2	2.0
令和4年	1,203	30.6	18.0	21.9	21.9	13.2	22.0	8.6	51.9	0.3	15.8	2.0

5 認知症の支援について

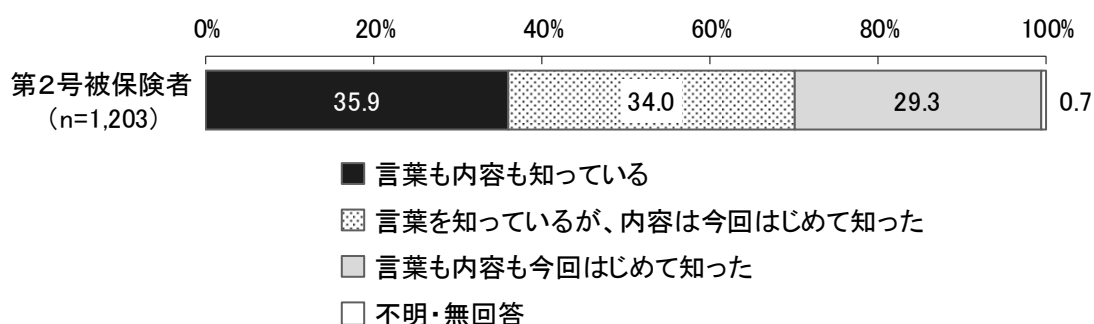
問 20 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(単数回答)

認知症に関する相談窓口を知っているかについて、「いいえ」が80.8%、「はい」が18.1%となっています。



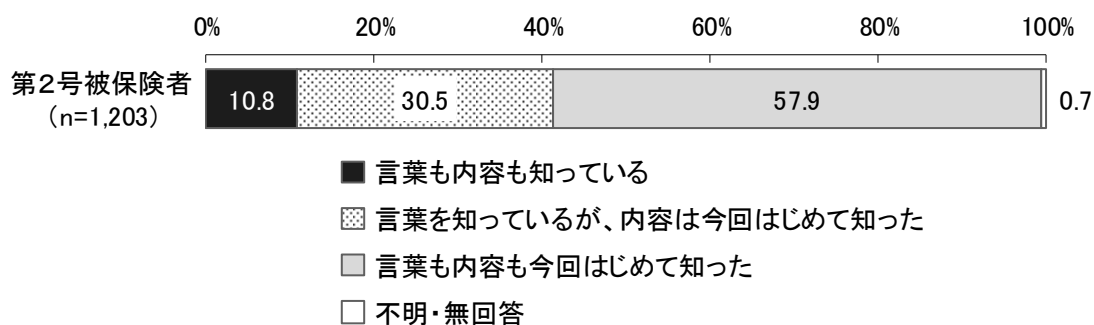
問 21 成年後見制度をご存じですか。(単数回答)

成年後見制度の認知度について、「言葉も内容も知っている」が35.9%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が34.0%、「言葉も内容も今回はじめて知った」が29.3%となっています。



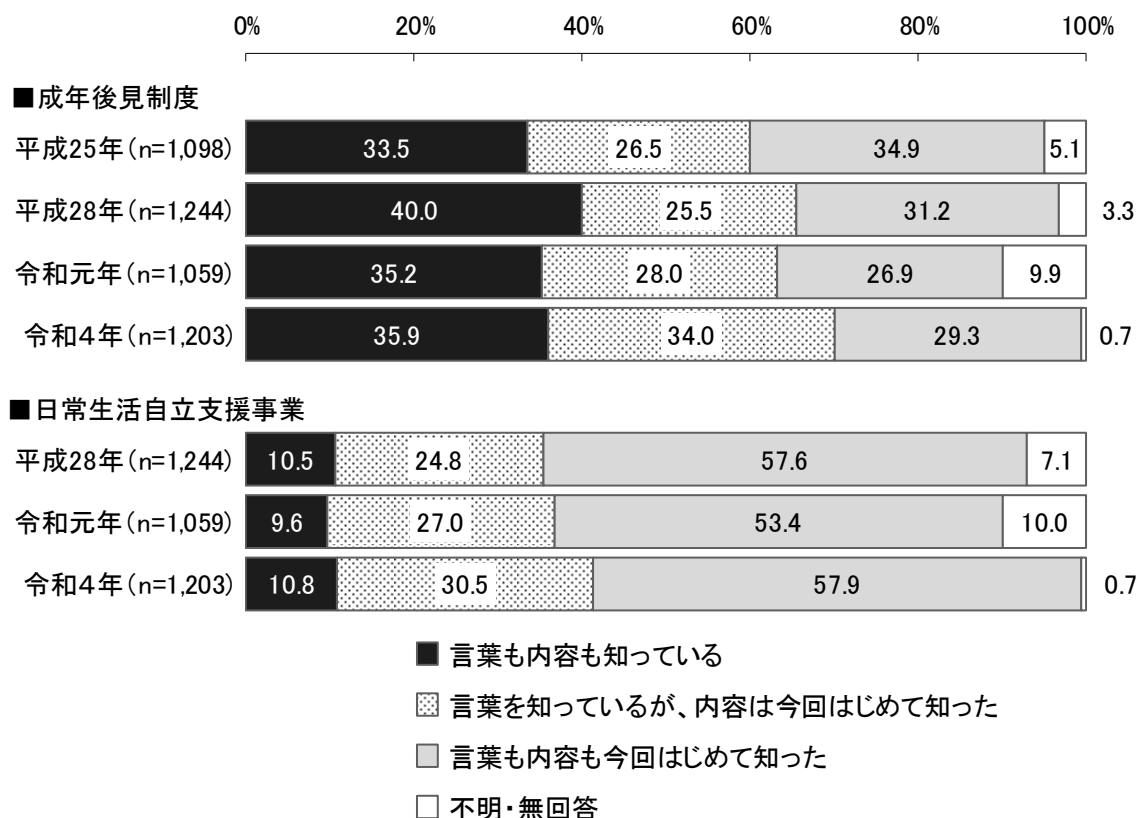
問 22 日常生活自立支援事業をご存じですか。(単数回答)

日常生活自立支援事業の認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が57.9%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が30.5%、「言葉も内容も知っている」が10.8%となっています。



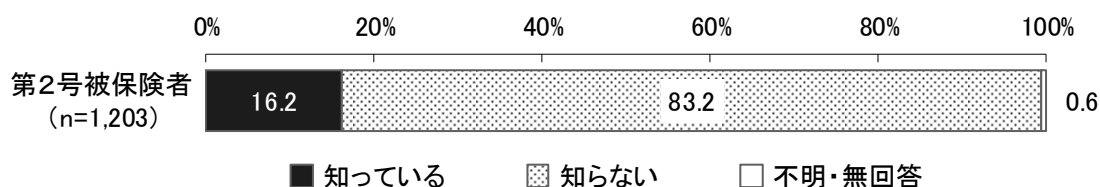
■ 経年変化

経年でみると、成年後見制度は「言葉も内容も知っている」が令和元年以降 35%台となっています。日常生活自立支援事業は、「言葉も内容も知っている」が平成 28 年以降 1 割前後で推移しており、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が年々高くなっています。



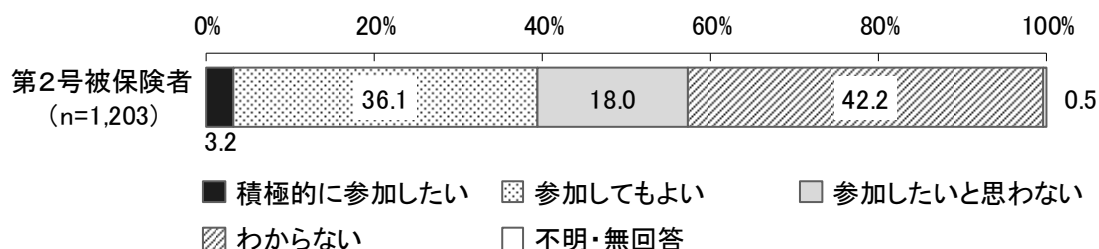
問 23 認知症サポーターをご存じですか。(単数回答)

認知症サポーターの認知度について、「知らない」が 83.2%、「知っている」が 16.2%となっています。



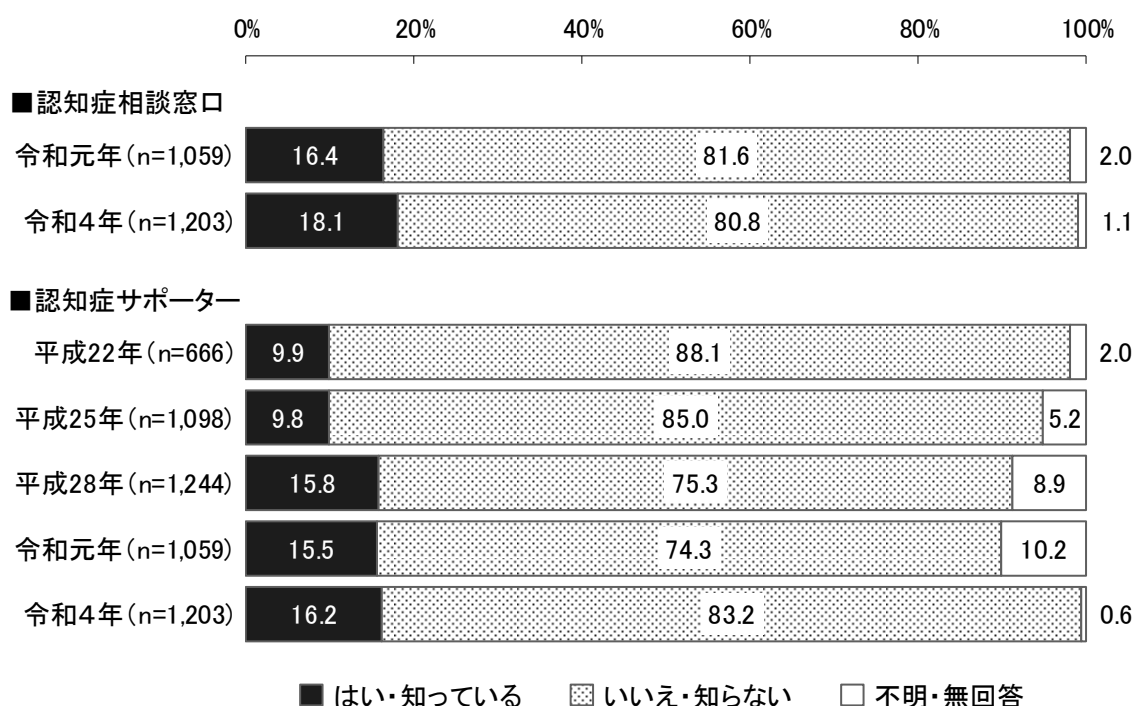
問 24 市が行っている、認知症サポーター養成講座について、今後参加したいと思いますか。 ※過去に参加したこともある方も今後の意向としてお答えください。(単数回答)

認知症サポーター養成講座への参加意向について、「参加してもよい」が36.1%、「積極的に参加したい」が3.2%となっています。



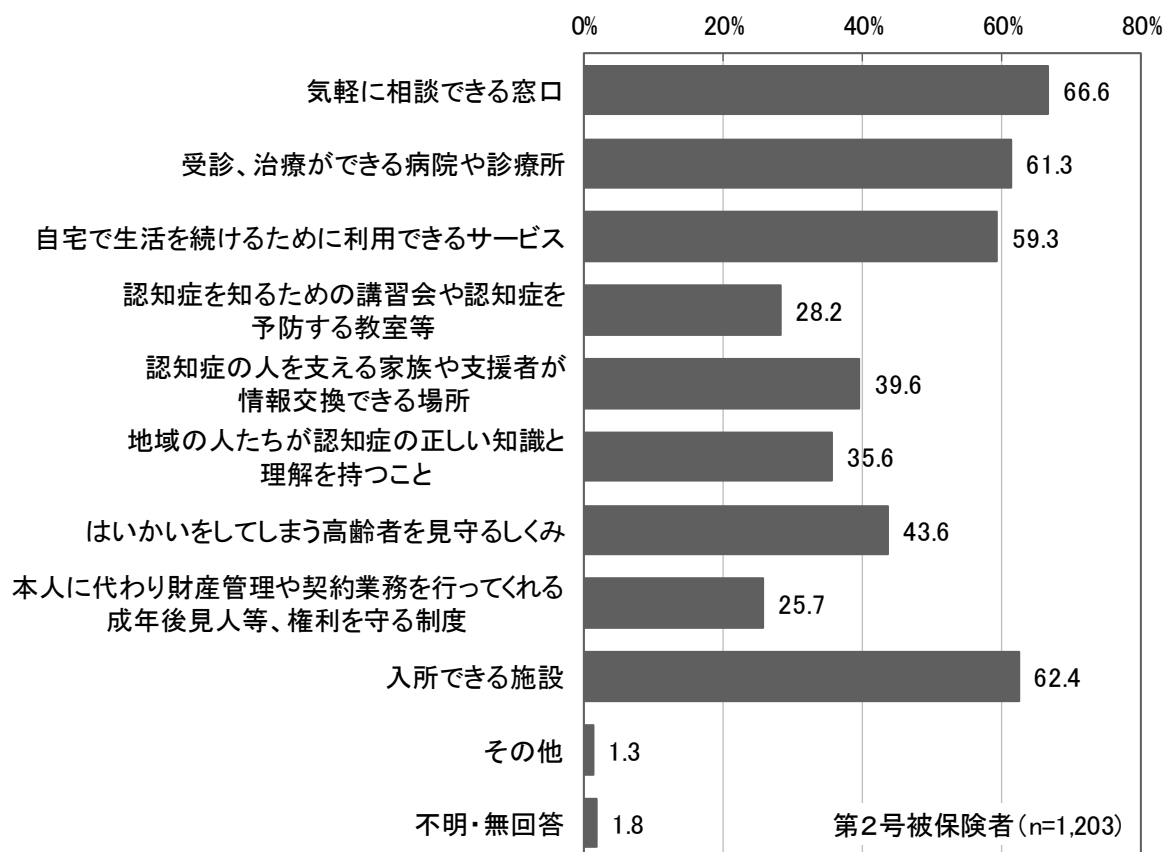
■ 経年変化

経年でみると、認知症相談窓口は「はい（知っている）」が令和元年と比べて高くなっています。認知症サポーターは、「知っている」が平成25年以降高くなっています。



問 25 どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができると思いますか。(複数回答)

どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができると思うかについて、「気軽に相談できる窓口」が66.6%と最も高く、次いで「入所できる施設」が62.4%、「受診、治療ができる病院や診療所」が61.3%となっています。

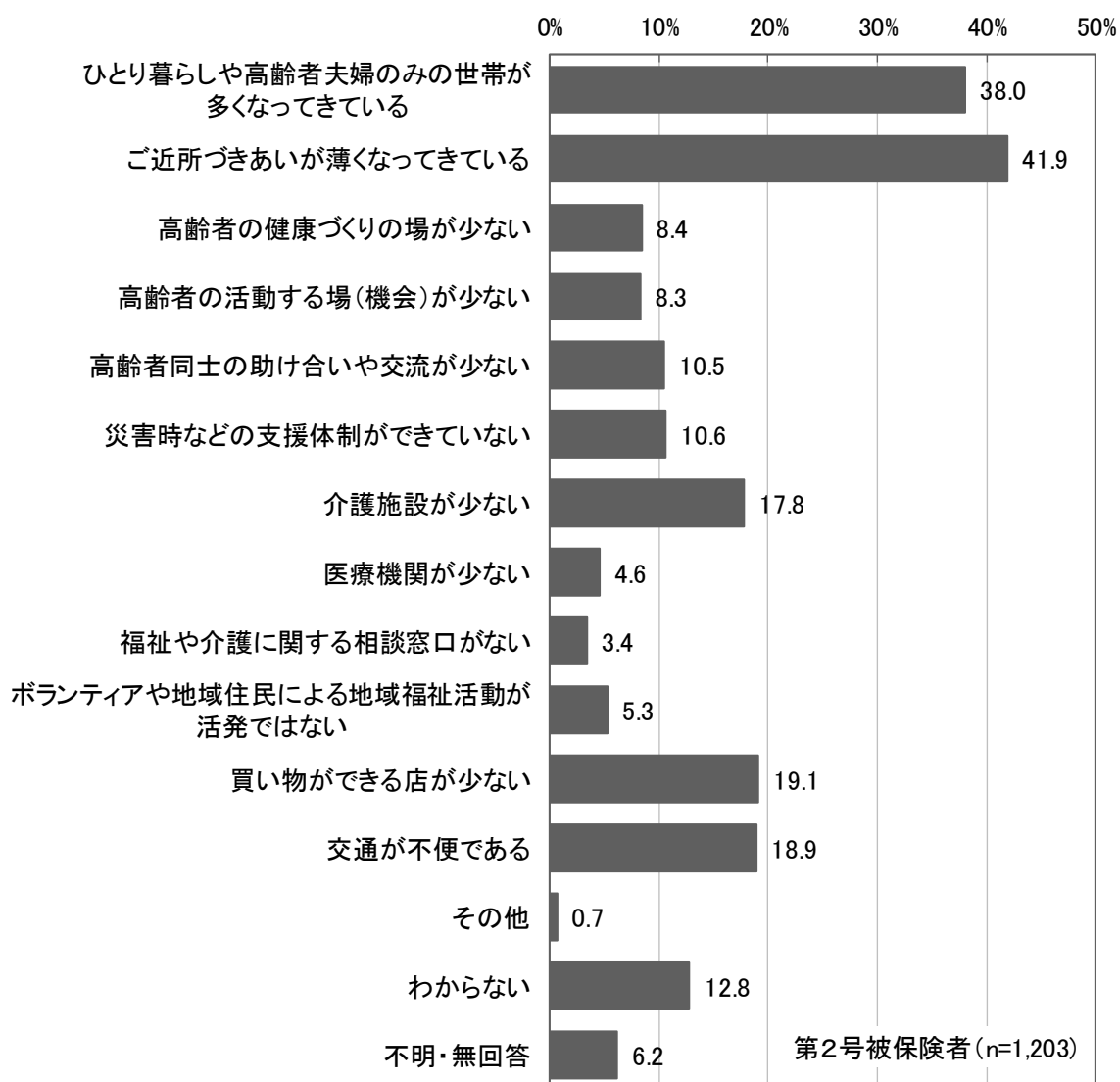


6 高齢期の課題について

問 26 あなたの地域（中学校区程度）における高齢者（高齢化）に関する課題は何だと思いますか。（複数回答）

地域における高齢者に関する課題について、「ご近所づきあいが薄くなってきている」が 41.9%と最も高く、次いで「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が 38.0%、「買い物ができる店が少ない」が 19.1%となっています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区では「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」、その他の中学校区では「ご近所づきあいが薄くなってきている」が、それぞれ最も高くなっています。この他、雁が音、富士松の各中学校区では「買い物ができる店が少ない」が、依佐美中学校区では「交通が不便である」が、それぞれ他の中学校区に比べて高くなっています。



■中学校区別

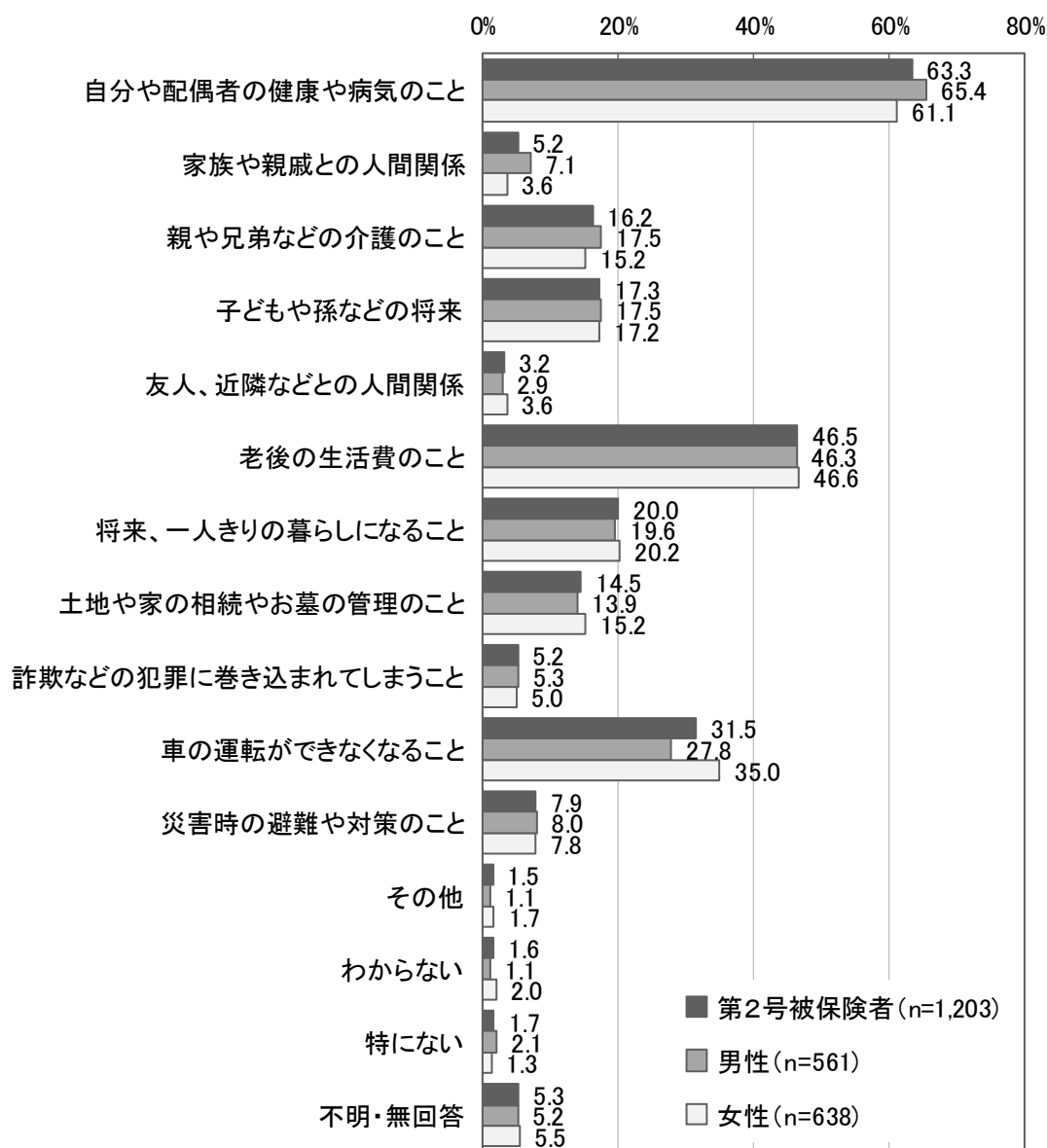
(単位: %)	n=	ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなっている	近所づきあいが薄くなっている	高齢者の健康づくりの場が少ない	高齢者の活動する場(機会)が少ない	高齢者同士の助け合いや交流が少ない	災害時などの支援体制ができていない	介護施設が少ない	医療機関が少ない	福祉や介護に関する相談窓口がない	ボランティアや地域住民による地域福祉活動が活発ではない
中学校区別											
刈谷南	193	40.9	42.5	7.3	10.4	14.0	10.4	15.5	4.7	3.1	4.7
刈谷東	211	40.3	44.1	9.5	8.5	12.3	10.9	23.7	5.7	0.9	5.2
富士松	183	38.8	39.3	9.8	6.0	8.2	7.1	16.4	6.0	3.3	2.7
雁が音	205	35.6	42.9	6.3	5.4	6.8	9.3	16.6	4.9	4.9	4.9
依佐美	186	37.1	34.4	7.5	6.5	8.1	10.8	15.6	1.6	3.2	7.0
朝日	211	36.0	47.9	10.0	13.3	12.8	15.2	17.5	4.3	4.3	7.1

(単位: %)	n=	買い物ができる店が少ない	交通が不便である	その他	わからない	不明・無回答
中学校区別						
刈谷南	193	23.8	11.9	0.5	14.5	3.6
刈谷東	211	13.3	18.0	1.4	11.8	5.2
富士松	183	25.7	22.4	0.0	12.6	8.2
雁が音	205	26.3	22.9	0.5	11.2	6.8
依佐美	186	18.3	24.7	1.6	15.1	5.9
朝日	211	8.5	13.7	0.0	11.4	7.1

問 27 あなたご自身が高齢になった場合、どのようなことが不安ですか。(複数回答)

高齢になった場合に不安なことについて、「自分や配偶者の健康や病気のこと」が 63.3%と最も高く、次いで「老後の生活費のこと」が 46.5%、「車の運転ができなくなること」が 31.5%となっています。

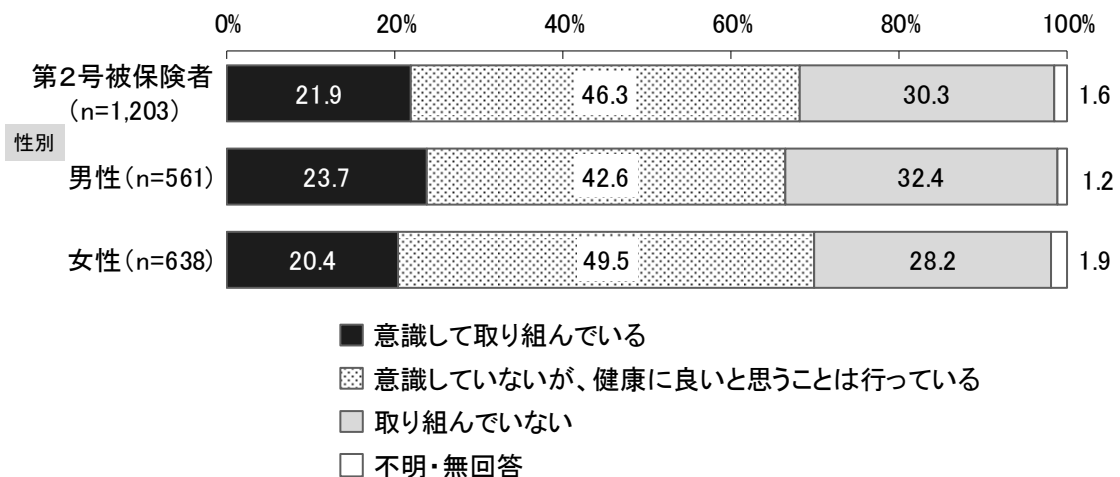
性別でみると、男女ともに「自分や配偶者の健康や病気のこと」がそれぞれ最も高なっています。なお、女性で「車の運転ができなくなること」が 35.0%と、男性と比べてやや高くなっています。



問 28 あなたは、将来、健康に過ごし、介護を受けなくてもいいようにするための健康づくり（以下、このような活動を「健康づくり・介護予防」と言います。）に取り組んでいますか。（単数回答）

介護を受けなくてもいいようにするための健康づくり・介護予防に取り組んでいるかについて、「意識していないが、健康に良いと思うことは行っている」が 46.3%、「取り組んでいない」が 30.3%、「意識して取り組んでいる」が 21.9%となっています。

性別でみると、女性で「意識していないが、健康に良いと思うことは行っている」が 49.5%と、男性と比べてやや高くなっています。

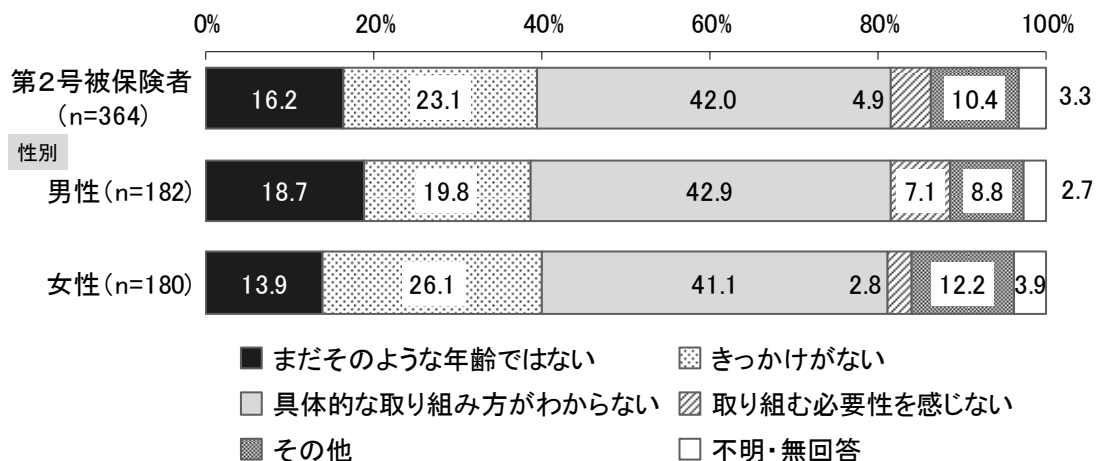


<取り組んでいないと回答した方のみ>

問 29 健康づくり・介護予防に取り組んでいない理由を教えてください。（単数回答）

介護予防に取り組んでいない理由について、「具体的な取り組み方がわからない」が 42.0%と最も高く、次いで「きっかけがない」が 23.1%、「まだそのような年齢ではない」が 16.2%となっています。

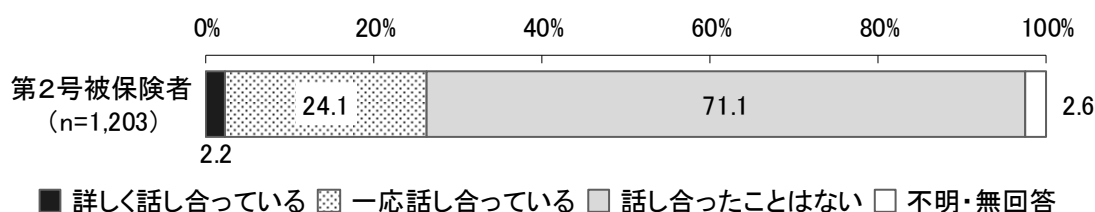
性別でみると、女性で「きっかけがない」が 26.1%と、男性と比べてやや高くなっています。また、男性で「まだそのような年齢ではない」が、女性と比べてやや高くなっています。



7 希望する医療等について

問 30 あなたは、自分の死期が近づいた場合の治療方針等について、ご家族等（内縁関係の方を含みます）や医療介護関係者とどのくらい話し合ったことがありますか。（単数回答）

自分の死期が近づいた場合の治療方針等をご家族等や医療介護関係者とどのくらい話し合っているかについて、「話し合ったことはない」が71.1%、「一応話し合っている」が24.1%、「詳しく話し合っている」が2.2%となっています。

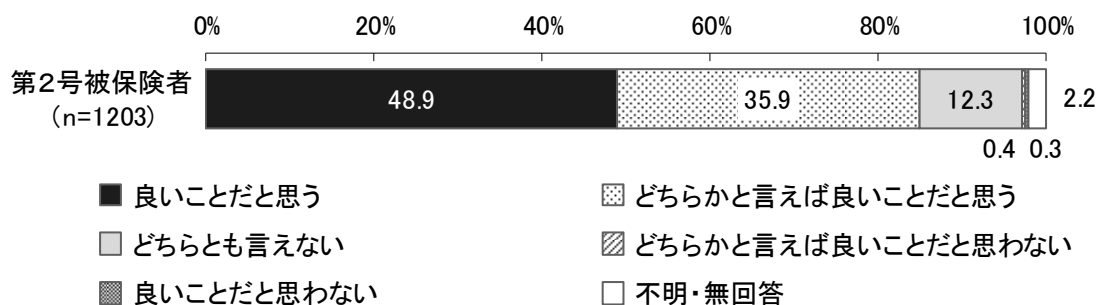


問 31 あなたは、自分が意思決定できなくなった時に備えて、どのような医療・療養・介護を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。（単数回答）

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『良いことだと思う』 … 「良いことだと思う」と「どちらかと言えば良いことだと思う」を合算
 『良いことだと思わない』 … 「どちらかと言えば良いことだと思わない」と「良いことだと思わない」を合算

自分が意思決定できなくなった時に備えて、どのような医療・療養・介護を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについて、『良いことだと思う』が84.8%、「どちらとも言えない」が12.3%、『良いことだと思わない』が0.7%となっています。

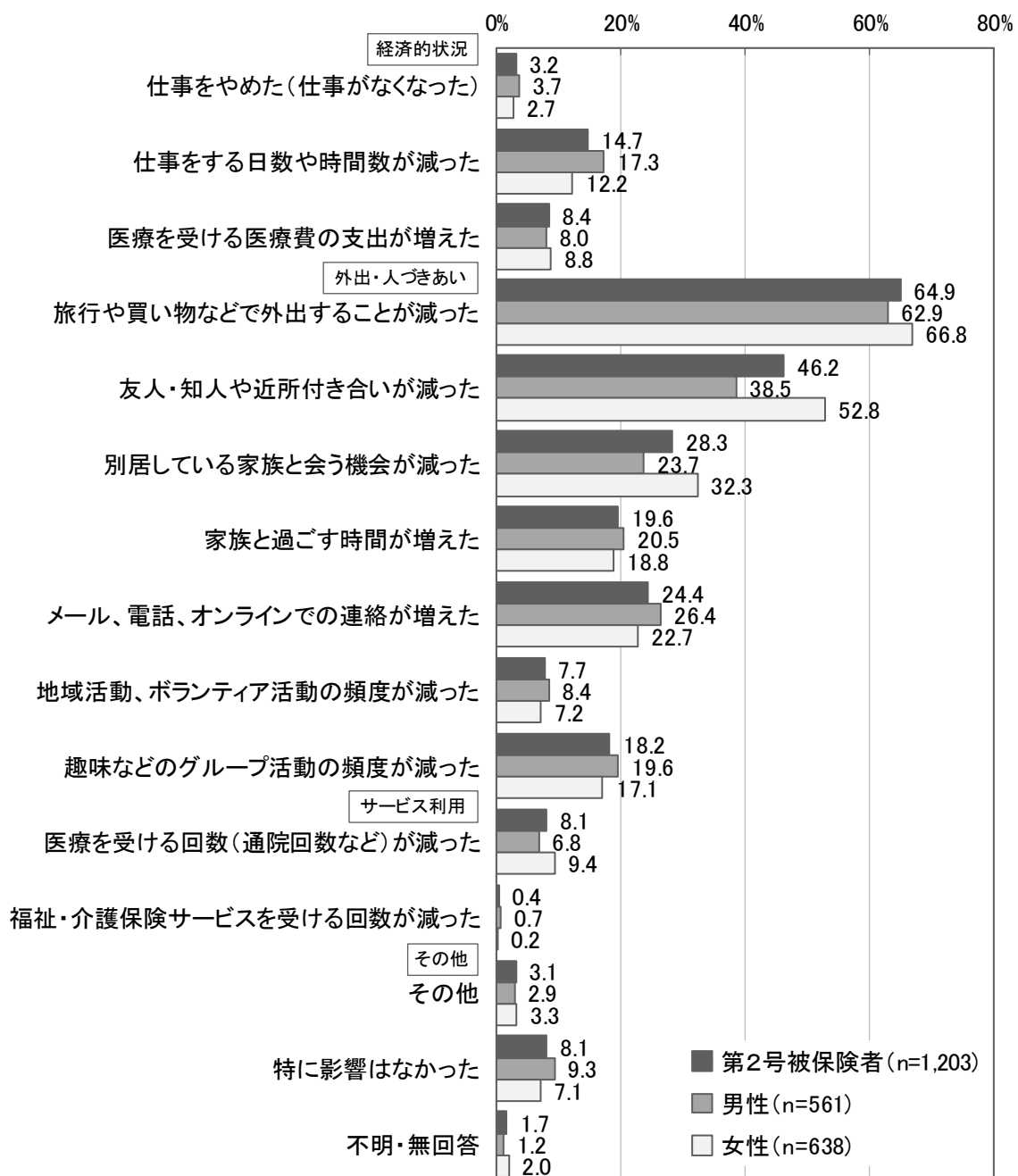


8 その他近年の生活状況について

問 32 新型コロナウイルス感染症が流行して以降、あなたの生活はどう変わりましたか。(複数回答)

新型コロナウイルス感染症が流行して以降、生活はどう変化したかについて、「旅行や買い物などで外出することが減った」が64.9%と最も高く、次いで「友人・知人や近所付き合いが減った」が46.2%、「別居している家族と会う機会が減った」が28.3%と、外出・人づきあいに関する割合が高くなっています。

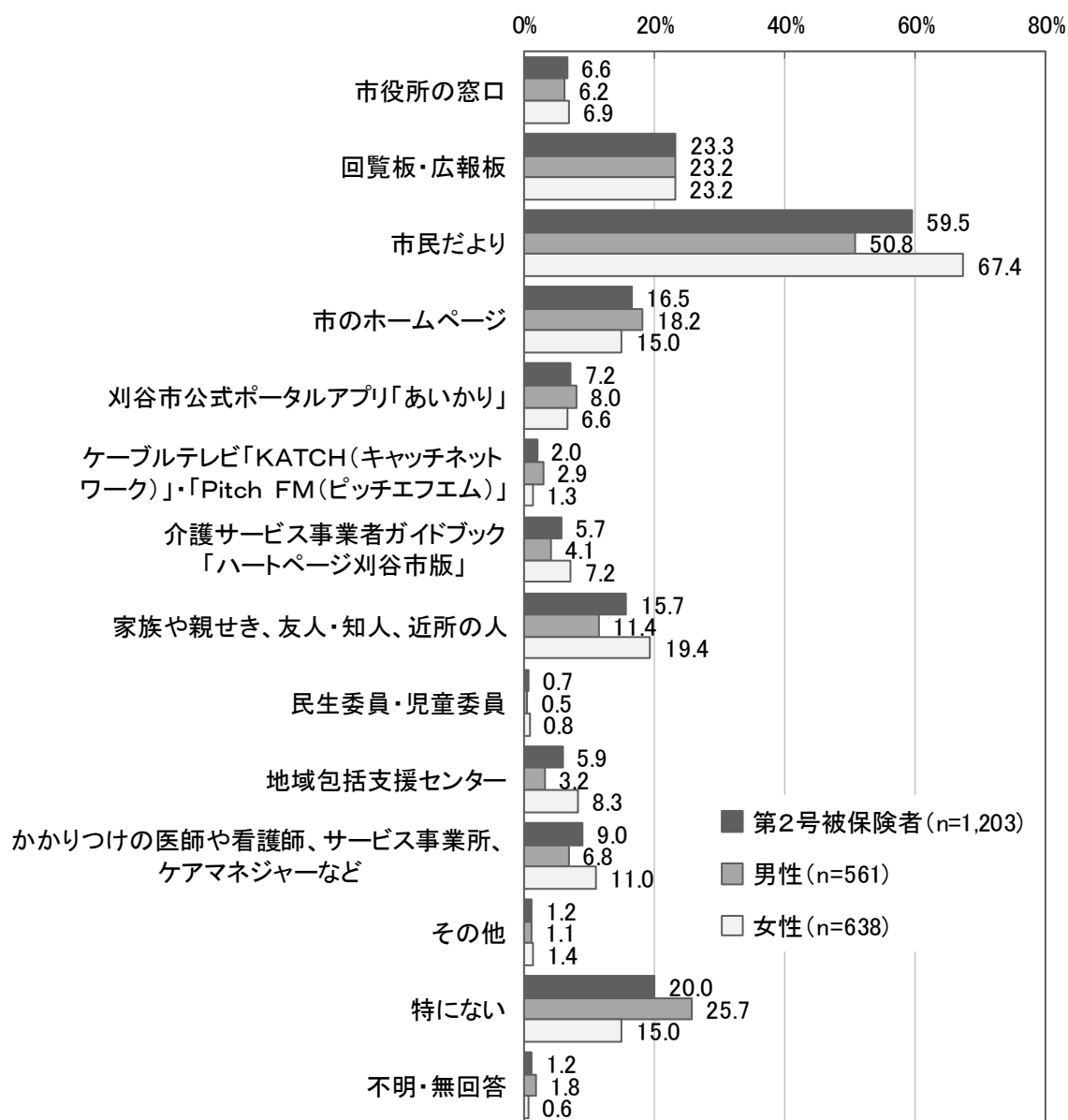
性別でみると、女性で「友人・知人や近所付き合いが減った」が52.8%と、男性と比べて14.3ポイント高くなっています。



問 33 あなたは、市の高齢者福祉や介護に関する情報をどこから入手していますか。
(複数回答)

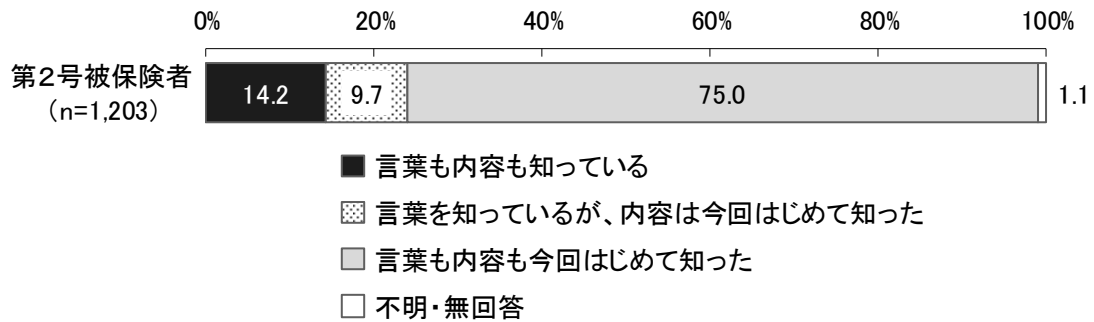
市の高齢者福祉や介護に関する情報の入手先について、「市民だより」が 59.5%と最も高く、次いで「回覧板・広報板」が 23.3%、「特にない」が 20.0%となっています。

性別でみると、女性で「市民だより」が 67.4%と、男性と比べて 16.6 ポイント高くなっています。一方、男性では「特にない」が 25.7%と、女性と比べて 10.7 ポイント高くなっています。



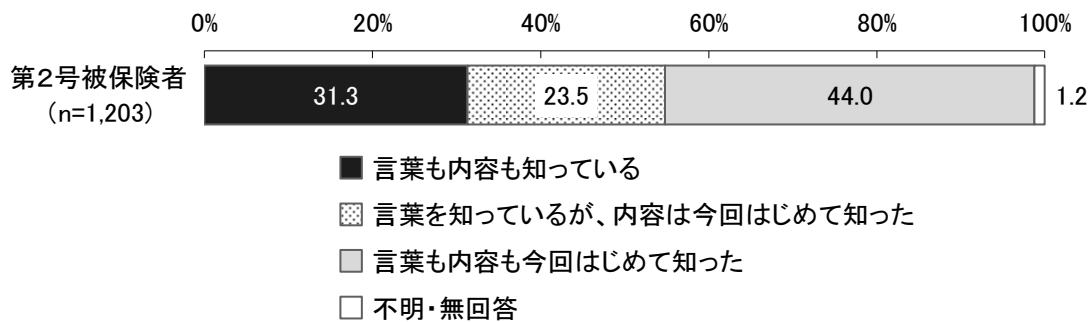
問 34 介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」をご存じですか。(単数回答)

介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」の認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が75.0%、「言葉も内容も知っている」が14.2%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が9.7%となっています。



問 35 地域包括支援センターをご存じですか。(単数回答)

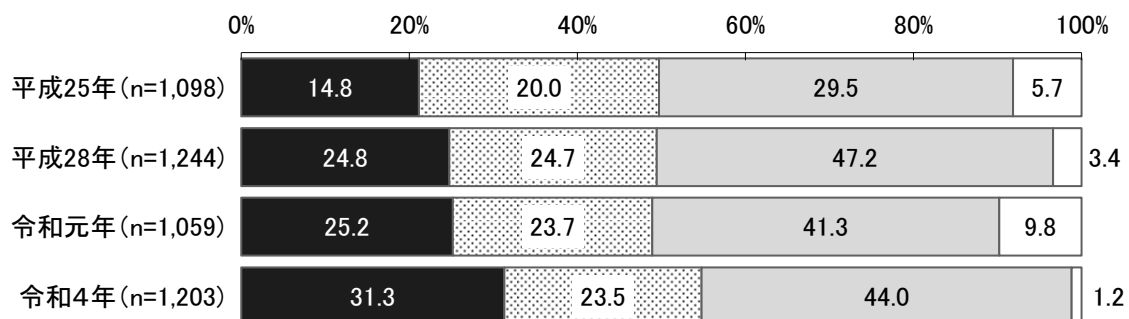
地域包括支援センターの認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が44.0%、「言葉も内容も知っている」が31.3%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が23.5%となっています。



■ 経年変化

経年でみると、平成 25 年以降、「言葉も内容も知っている」が高くなっています。

■ 地域包括支援センター



■ 言葉も内容も知っている

▨ 言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った

■ 言葉も内容も今回はじめて知った

□ 不明・無回答

刈谷市高齢者等実態調査報告書
【前編】

発 行 ： 令和5年3月

発行者 ： 刈谷市

編 集 ： 福祉健康部 長寿課

〒448-8501 刈谷市東陽町1丁目1番地

T E L : (0566) 62-1013

F A X : (0566) 24-2466